

平成26年度
独立行政法人国立女性教育会館
自己点検・評価及び外部評価報告書

平成27年12月

独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会
独立行政法人国立女性教育会館

目 次

1	外部評価について	1
	(1) 外部評価の目的	1
	(2) 外部評価の対象	1
	(3) 外部評価の方法	1
	(4) 審議過程	1
2	評価	1
3	平成26年度事業全体に対する評価・指摘事項等	9
4	事業別評価	
	1. 企業を成長に導く女性活躍促進セミナー	11
	2. 女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修	15
	3. 大学等における男女共同参画推進セミナー	18
	4. 男女共同参画推進フォーラム	21
	5. 大学等における男女共同参画に関する調査研究	24
	6. 女性関連施設に関する調査研究	26
	7. 若年男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査研究	28
	8. 女子大学生キャリア形成セミナー	30
	9. 女性関連施設相談員研修	32
	10. 行政や関係機関と連携した喫緊の課題に対応した研修（女子中高生夏の学校）	34
	11. 教育・学習プログラム実施に関する支援	38
	12. 男女共同参画統計に関する調査研究	40
	13. 調査研究成果の普及	43
	14. 情報資料の収集・整理・提供	46
	15. 女性情報ポータル及びデータベースの整備充実	48
	16. 図書のパッケージ貸出	50
	17. 女性アーカイブ機能の充実	52
	18. 女性情報アーキビスト養成研修（基礎コース）＋（実技コース）	54
	19. 国内の関係機関・団体等との協働事業の実施	57
	20. アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー	60

2 1. 国際協力機構との連携による研修	63
2 2. NWE C 国際シンポジウム	66
2 3. 国際的なネットワークの構築	68
2 4. 利用者への学習支援と利用の拡大	70
2 5. ガバナンス・内部統制の充実	72
2 6. 人件費・管理運営の適正化と保有資産の見直し	75
2 7. 業務運営の改善及び効率化と業務運営の点検・評価	78
2 8. 契約の点検・見直し	81
2 9. 外部資金の導入	83
3 0. 自己収入の拡大	85
3 1. 情報セキュリティ体制の充実	87
5 外部評価の観点	89
6 独立行政法人国立女性教育会館の業務運営に関する計画 (平成 2 6 年度)	90
7 独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会委員一覧	100
8 独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会規程	101
9 自己点検評価調書の記載について	102

参考資料編

(括弧)内は、事業シートのNO

1. (1) ダイバーシティ推進リーダー会議」実施要項	105
2. (1) ダイバーシティ推進リーダー会議」参加者概況	107
3. (1) ダイバーシティ推進リーダー会議」アンケート集計結果	108
4. (1) 「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」開催要項	112
5. (1) 「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」参加者概況	115
6. (1) 「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」アンケート集計結果	116
7. (1) 第2回「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」開催要項	121
8. (1) 第2回「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」アンケート集計結果	123
9. (2) 「女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」実施要項	126
10. (2) 「女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」 参加者概況	131
11. (2) 「女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」 アンケート集計結果	132
12. (3) 「大学等における男女共同参画推進セミナー」開催要項	146
13. (3) 「大学等における男女共同参画推進セミナー」参加者概況	151
14. (3) 「大学等における男女共同参画推進セミナー」アンケート集計結果	152
15. (4) 「男女共同参画推進フォーラム」実施要項	156
16. (4) 「男女共同参画推進フォーラム」参加者概況	161
17. (4) 「男女共同参画推進フォーラム」アンケート集計結果(参加者)	163
18. (4) 「男女共同参画推進フォーラム」アンケート集計結果(ワークショップ運営者)	167
19. (4) 「男女共同参画推進フォーラム」アンケート集計結果(ポスター展示運営者)	168
20. (4) 「男女共同参画推進フォーラム」アンケート集計結果(女性リーダー会議)	169
21. (4) 「男女共同参画推進フォーラム」アンケート集計結果(特別講演)	172
22. (4) 「男女共同参画推進フォーラム」フォローアップアンケート集計結果	175
23. (8) 「女子大学生キャリア形成セミナー」実施要項	179
24. (8) 「女子大学生キャリア形成セミナー」参加者概況	183
25. (8) 「女子大学生キャリア形成セミナー」アンケート集計結果	184
26. (9) 「女性関連施設相談員研修」実施要項	192
27. (9) 「女性関連施設相談員研修」参加者概況	196
28. (9) 「女性関連施設相談員研修」アンケート集計結果	197
29. (10) 「女子中高生夏の学校2014～科学・技術・人との出会い～」実施要項	204
30. (10) 「女子中高生夏の学校2014～科学・技術・人との出会い～」参加者概況	210
31. (10) 「女子中高生夏の学校2014～科学・技術・人との出会い～」アンケート集計結果 (女子中高生用)	211

32. (10) 「女子中高生夏の学校2014～科学・技術・人との出会い～」アンケート集計結果 (教員用)	218
33. (10) 「女子中高生夏の学校2014～科学・技術・人との出会い～」アンケート集計結果 (保護者用)	224
34. (11) 「学習オーガナイザー養成研修」開催要項	230
35. (11) 「埼玉県私立短期大学協会との連携授業」実施要項	234
36. (11) 埼玉大学との連携授業「男女共同参画社会を考える」概要	236
37. (14) 女性教育情報センターの運営	237
38. (15) 女性情報ポータル整備充実	238
39. (18) 「女性アーキビスト養成研修（基礎コース）＋（実技コース）」開催要項	239
40. (18) 「女性アーキビスト養成研修（基礎コース）＋（実技コース）」アンケート集計結果	242
41. (20) 「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」開催要項	245
42. (20) 「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」 アンケート集計結果	247
43. (21) 課題別研修「アジア諸国における人身取引対策協力促進セミナー」実施要項	249
44. (21) 課題別研修「アジア諸国における人身取引対策協力促進セミナー」アンケート集計結果	252
45. (22) 「NWE C国際シンポジウム」開催要項	253
46. (22) 「NWE C国際シンポジウム」アンケート集計結果	255
47. (24) 利用状況	258
48. (24) 延べ利用者数・宿泊室利用者数の推移	259
49. (24) 利用回数別利用状況	260
50. (24) 目的別利用状況	261
51. (24) 利用拡大戦略	262
52. (25) 運営会議規程	263
53. (25) 役員会の開催について	264
54. (25) 運営委員会規定	265
55. (25) 運営委員会名簿（第7期）	266
56. (25) 契約監視委員会規則	267
57. (28) 独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて	268
58. (28) 平成26年度監事監査計画	270

1 外部評価について

(1) 外部評価の目的

外部評価委員会では、NWE Cが実施した業務の実績に関し客観性を持った質の高い評価を行うとともに、評価を踏まえた今後の事業活動の充実及び活動内容の在り方に資する提言を行うことを役割としている。

(2) 外部評価の対象

NWE Cでは、平成23年度から27年度までの第3期中期目標期間において、中期目標・中期計画に「適時適切に外部評価を受け、業務に関する客観的意見も取り入れ、業務の改善を不断に行う」としており、26年度計画においては、「自己点検と連動した外部評価を実施する。」としている。

これを受け、第3期中期目標期間の4年目である平成26事業年度の評価を実施した。

(3) 外部評価の方法

評価方法については、外部評価委員会においてNWE Cから各事業の内容、成果等のヒアリングを実施し、平成19年度に外部評価委員会で作成した外部評価の観点別に評価意見等を取りまとめた。

(4) 審議過程

平成27年度は計2回の委員会を以下のとおり開催。

第1回では、年度計画にある6本の柱毎に評価の対象となっている各事業の実施概要について確認を行い、第2回では、各委員から出た評価について意見交換を行い、総論及び全体的な意見交換を行い、外部評価報告書を取りまとめる予定。

平成27年6月8日（月） 第1回外部評価委員会

- ・平成26事業年度外部評価の進め方
- ・平成26事業年度実施事業の概要説明
- ・「外部評価委員の評価」について
- ・平成26事業年度外部評価報告書総論について

平成27年9月16日（水） 第2回外部評価委員会

- ・6本の柱毎の評価について
- ・平成26事業年度外部評価報告書総論について

2 評価

NWE Cが、その運営も含めて活動の基本理念としているところは、我が国を代表する男女共同参画及び女性教育の機関として、国際的あるいは国内的な立場において、さらには市民社会の構成員として、それぞれのネットワークの結節点としての役割を果たすことにあると考える。具体的には、男女共同参画及び女性教育を推進するという目標の下で、次に掲げる役割を担っている。

- ① 我が国における教育機能の中核としての役割
- ② 我が国における政策研究機能の中核としての役割
- ③ 我が国における情報の収集・蓄積・発信機能の中核としての役割

- ④ 地方公共団体の関係機関はもとより、市民団体や企業等との連携協力をとおり、情報交流や人的交流の結節点（＝場）となる役割
- ⑤ 国際機関や他国の機関とパートナーシップを構築し、国際的なネットワークの中で教育研究活動の充実に貢献する役割

以下の記述は、NWE Cの活動を事業に着目した形で評価を行っている。これらを読めばわかるとおり、NWE Cは、限られた人員・予算にもかかわらず、上記に掲げた役割をきちんと果たしてきており、高い評価に値するものである。いうまでもなく、上記の役割は抽象的・主観的な性格を有してはいるものの、NWE Cは、自らに求められている役割の内容や範囲を着実に拡大あるいは深化させており、NWE Cの活動は、質的にも量的にも充実してきていると考えられるからである。

今後は、我が国特有の文化的事情や社会的背景を踏まえつつ、男女共同参画社会の実現に向けて、さらなる努力を期待するものである。

1 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力向上

●企業、大学、自治体、女性関連施設等の多様なアクターと連携しながら、様々な分野での男女共同参画のリーダー、指導者の資質・能力向上に取り組む等NWE Cの基本姿勢が、個々の事業によく表れている。

●各セミナーはタイムリーな問題を扱い、独自性の高いプログラムとなっている。セミナーの進め方もグループ討論や発表、アクションラーニングの手法を取り込んで、単なる座学で終わることなく、参加者の資質や能力を向上させるのに適した方法であり、参加者の満足度が高い。男女共同参画をテーマとするセミナーについては、男性の参加も促すことが今後必要かもしれない。

調査研究は男女共同参画に関わる重要なポイントに迫り、優れた多くの成果を提出している。それらの成果を多くの人に発信できるように工夫されることをさらに期待したい。

●一つ一つの施策が丁寧かつ高品質で提供されている。特にパネリストに招聘している方々も多様で良い人材をそろえている。活動に協力いただいた方々は、これからの男女共同参画活動での発言力も増していただける方だろうと考え、NWE Cの存在と活動への理解も同時に深めていただけていることを期待したい。

<企業を成長に導く女性活躍促進セミナー>

●「ダイバーシティ推進リーダー会議」、「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」は共に、国の経済成長戦略としての女性の活躍促進を視野に入れた男女共同参画のプログラムに取り組み、アクションラーニング手法を用いた課題解決型の内容などが、参加者から高い評価を得ている。経済産業省など関係府省等との協力関係を構築している点、集客への広報戦略も工夫している点も改善されている。適時性、独創性、発展性、効率性も評価できる。

参加者の地域バランスは空白地域をなくすための更なる改善に努めてほしい。

なお、リピーターの参加者が比較的多い点では、更なる充実した内容が求められることから参加者の期待に沿うように内容を吟味した企画を今後も続けてほしい。

平成25年度の外部評価委員会での意見として、「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」の「成長」が何を意味するかが不明確であり、「企業文化の変革につなぐ女性活躍促進セミナー」の方が良いのではないかとしたが、経済の成長戦略としての「成長」ととどまらないNWE Cならではの視点をテーマにして欲しいことを改めて述べたい。

●「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」の参加者を見ると、ダイバーシティのテ

マでは、平成 26 年度は関東の参加者比率が下がり、近畿が若干増、中国・四国、九州・沖縄からの参加者が出てきているのを見ると、地域間の意識差・浸透度の差が垣間見えるようで興味深い。

＜女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修＞

●「女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」では、女性の活躍促進というテーマに関連して「女性管理職を増やす」と「格差・貧困」という 2 つの異なる視点からの講義を導入することで、現代社会の抱える重要な女性問題の広がりを出る限りとらえようとする視点が明確に示されていることは高く評価できる。

●研修対象者を厳選し、特に地方公共団体コース参加者のほとんどが新規参加者であることは、地方公共団体の人材育成に寄与していると思われる。逆に団体リーダーは新規参加者ではない方が多い点では、新規の参加者を掘り起こす必要があるとも考えられるが、地域バランスが改善されていることは評価できる。

＜大学等における男女共同参画推進セミナー＞

●日本の大学教育における男女共同参画度の低さが、人材育成や知の創造といった「大学の使命の達成」の阻害要因であることを、この研修で認識し、さらに克服するための機会となっていることが伺える。高等教育機関における男女共同参画推進への取組み（進捗度）への反映を見える化するとわかりやすい。ダイバーシティ推進のためにも大学等の役割が期待される時宜にかなった事業である。地域バランスも改善されており評価できる。

＜男女共同参画推進フォーラム＞

●1000 人を超える参加者があり他に類をみないフォーラムであり、多彩で工夫されたプログラムが効果をあげている。引き続き、参加者のネットワーク化へ繋げる方策を進めて欲しい。

●例年 1000 名以上が結集する「男女共同参画推進フォーラム」は、影響力・発信力のある村木厚子厚生労働事務次官の特別講演が実現できたのは大変良かったのではないかとと思う。参加者の男性比率はまだ圧倒的に少ないが、今後のことを考えると、男性の参画をより活性化する仕掛けも考えていければ、男女共同参画ももう一歩前進できるのではと期待している。

＜大学等における男女共同参画に関する調査研究＞

●近年進展が目立つ大学における男女共同参画の推進状況についての本格的な調査を実施した「大学等における男女共同参画に関する調査研究」では、新しくかつ重要な問題意識が取り入れられているだけでなく、単に調査研究に止まらず、大学における男女共同参画の推進に実際に役立つガイドブックの作成まで行われており、実践的役割を重視した NWE の社会教育への取組みのあり方がよく示された事業となっている点も注目される。今後ともさらに現代社会的な重要課題への配慮を十分に行って、できるだけ広い領域から多様な主体との連携協力をめざした事業展開が期待される。

●2 年計画の調査研究成果をガイドブックとしてまとめ、市販刊行したことは評価できる。基本編と実践編との構成で、女性研究者支援のみならず、あらゆる大学で男女共同参画を推進するために活用することを期待したい。ガイドブックの市販刊行による成果の普及についてフォローをしてほしい。

＜女性関連施設に関する調査研究＞

●ナショナルセンターの事業として実現できるものであり、活用してほしい。

2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラムの開発・普及

●ここではNWE Cに期待される最も中心的な役割の一つである女性教育、家庭教育の喫緊の課題に対する学習プログラム開発や普及がこの柱全体のテーマであり、取組み数も多く、内容もいずれも社会の動きを敏感に反映する形で特徴が十分打ち出せている

●改善点として、応募倍率が100%を超えるセミナーについて、定員を増やす対応は検討しなくてよいだろうか。

＜若年男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査研究＞

●「若年男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査研究」では、5年にわたるパネル調査という長期的な取組みを通して男女のキャリア形成の実情を息長く実証的に解明しようという姿勢が非常に積極的で高く評価したい。また調査対象となる企業との協力関係の構築という、そうした長期的継続調査に不可欠の基礎条件も努力してクリアしようとする意欲も顕著にうかがえる。

●若年男女のキャリアに関わる調査やセミナーの実施は、今、まさに必要な取組みである。

●新卒者を5年間追跡するパネル調査に向けて準備を整え、実施する意欲を評価したい。

パネル調査は困難が予想されることから、さらに企画を精査し、進行管理をしていただきたい。

＜女子大学生キャリア形成セミナー＞

●将来、社会や組織を支える女性リーダーを育成し、我が国の男女共同参画の推進を図る事業の趣旨は重要であるが、参加者定員を減らしても参加者が定員に満たない実績から、企画内容及び募集のための広報等について、戦略の練り直しが必要と考えられる。参加者が関東甲信越に偏り、地域バランスについても改善することが求められる。

●「女子大学生キャリア形成セミナー」は、参加した人によっては貴重な体験であったと思われるが、参加人数が少ないのが課題。就職ノウハウに特化しないユニークさと価値をより多くの女子学生に経験してもらえるよう大学との連携強化等を検討してはどうかと思う。特に地方大学生のほうに色々なロールモデル等と身近に接する機会が少ないと考えられるので、宿泊型のメリットを強調した参加者集めに工夫をしてはいいかと思う。「女子中高生夏の学校」の応募者増は、継続することにより過去参加者や関係者の評価・評判とつながりによる成果も大きいのではと思う。「女子大学生キャリア形成セミナー」も、「女子中高生夏の学校」成功の経験を活かして、近い将来にプログラム価値がより高まることを期待したい。

＜女性関連施設相談員研修＞

●「女性関連施設相談員研修」は、毎年、応募倍率を超える参加希望者を集めている。その内容は有用度、満足度ともに非常に高い。

●相談員の育成と業務の質の向上を図る目的の研修は、専門的かつ実践的な研修を実施する機会が質量ともに減っている現状の中で、大変貴重な事業であり、応募者が多いことから研修へのニーズは高いことが裏付けられている。地方自治体が実施する研修との差別化を図り、現場の抱える課題を解決できる内容への更なる充実した研修を継続していただきたい。

＜女子中高生夏の学校＞

●「女子中高生夏の学校」は優れたプログラムにより、多くの参加者を集めており成果を上げている。学生TAを採用することは、身近なロールモデルを紹介することとなり良いアイデアであると思う。

●女子中高生を対象にしたプログラムは先駆的であり、多くの機関の先進的事例となっていることは意義がある。研修対象者の厳選も必要ではあるが、今後のリーダー育成に繋がる人材育成の観点からは、希望者は限りなく受け入れる工夫も欲しいところである。参加

することが楽しい、また参加したいなど参加者の声からも、プログラムの充実が伺える事業であり、地域バランスも改善されており、評価できる。

●「女子中高生夏の学校」は、過去の受講経験者が、サポーター役になって運営がより充実してきているのではと感じている。さらには、受講経験者のネットワーク化や継続支援施策を考え、理系分野での女性リーダー育成と顕在化（ロールモデル化）へつながっていく、あるいはそれを見せていけると、教育成果を関係者がより実感できる体系になっていくのではと感じている。

＜教育・学習プログラム実施に関する支援＞

●「教育・学習プログラムの開発」では、地元埼玉地域の大学、短大との連携体制の構築にこれまで積極的に取り組んできて、その成果が定着していることも目立っているが、特に新規に「学習オーガナイザー養成研修」にも取り組んで、一定の経験を持つ男女共同参画の学習プログラム企画担当者の能力をさらに向上させる方向にも事業内容を拡大していることは、文字通り喫緊の課題への取組み能力の高い現場の人材を増やす意味で大変重要な取組みとして高く評価できる。地域の社会教育の現場を視野に入れて、実践的能力の高い人材の養成をこれからさらに拡大していく方向が、この分野に関しては一層望まれる。

●初年度の取組みである「学習オーガナイザー養成研修」はプログラムのブラッシュアップにより、さらなる期待ができ評価できる。

3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等

●NWE Cの最大の特色である、男女共同参画に関する国内最大規模の資料・情報収集機能と情報発信機能をフルに発揮した取組み内容がこの柱のすべての事業に共通しており、ナショナルセンターとしての役割が特に期待される分野といえる。今年度もその期待に十分応えた事業展開が示されていると評価できよう。

●着実に研究と資料・情報収集が行われている。統計データの更新作業がなされるということなので、ジェンダー統計の普及と利用を促進することが期待される。WEB サイトは、誰でもアクセス可能であるので、ナショナルセンターとしてさらに充実することを期待する。

●調査研究成果、資料等は充実されているので、そろそろホームページの全面改訂を検討されてはいかがでしょうか。

研修予定情報等は、年度の早い時期までに、年間計画等が一覧でわかりやすく公表されていると、いろいろな立場の人が活用しやすくなるのではないかと思います。

＜男女共同参画統計に関する調査研究＞

●「男女共同参画統計に関する調査研究」においては、男女共同参画統計パネルを新たに作成し、館内6ヶ所に展示するなど、統計データに少しでも多く触れられる機会を利用者に提供しようとする積極的な姿勢がうかがえる。

●5年計画での最終年度、これまでの調査研究結果の活用と、今後の男女共同参画統計データをどのように収集・分析・事業への波及についての言及が欲しい。新規配信先を増やし、男女共同参画統計ニュースレターの配信数は目標値に達している。統計データは最新であることが利用に繋がることから、改善の余地があるのではないかと思います。

＜調査研究成果の普及＞

●ガイドブックの市販刊行による成果の普及についてフォローをしてほしい。

＜情報資料の収集・整理・提供＞

- 「男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する情報資料の収集・整理・提供」では、主催事業と連動した展示資料リストを女性情報ポータルWinet上で公開することによって他の男女共同参画センターでのリスト活用を導き出すなど、成果が形を取って現れてきていることも評価したい。
- ダイバーシティ推進に資する資料の収集は時宜にかなっており、公表できるデータベース化に向けて引き続き取り組んでいただきたい。

＜女性情報ポータル及びデータベースの整備充実＞

- 女性情報ポータル“Winet”に加え、「国立女性教育NWE Cリポジトリ」を構築・公開するなど、ユーザビリティの向上に向けた取組みは評価できる。データベースの整備充実には不断の努力をしていただきたい。

＜図書のパッケージ貸出＞

- 「図書のパッケージ貸出」については、国立高等専門学校機構との連携により新たに高専図書館へと利用者の拡大を図ることができたことは、NWE Cならではの機能の一層の活用につながり大いに注目すべき重要な取組みになっているといえよう。
- 第3期中期目標期間数値目標を達成したことは大いに評価できる。平成26年度から国立高等専門学校機構と連携し、より若年層への情報提供をするなど意欲的な事業取組みがされている。併せて大学や女性関連施設、公共図書館等への掘り起こしをし、男女共同参画の推進のための学習支援をさらに深めていただきたい。平成25年度に実施した利用者動向調査のためのシステムの実証実験は、平成26年度の事業との関連付けが記載されていない。

＜女性アーカイブ機能の充実＞

- NWE Cの女性アーカイブはナショナルセンターとして、意義ある事業であり、今後も充実させてほしい。

＜女性情報アーキビスト機能の充実＞

- 専門的な研修プログラムは独創性に富み、中期目標の数値を達成している。事業継続にはマンネリ化を避け、工夫ある内容で参加者を取り込んでいただきたい。参加者の地域バランスについての言及がされていない。

4 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等との連携協力の推進

- 協働での事業実施数は当初予定の7を大きく上回って倍以上の17にも上っており、連携先も官公庁から企業団体、大学関係、NPOと多岐にわたっていることも特徴的である。こうした新しい連携先の開拓によって、これまで以上に新たな講師や参加者の拡大にもつながっていく展望が開けていることも重要な成果である。講師派遣実績も平成26年度は前年度と比べ3件増加している。さらに、事業の効果的運営だけでなく、多彩なアクターとの連携によりNWE Cの知名度アップが期待できることも重要である。今後とも多様な連携先と時宜に合ったテーマを設定して社会的ニーズに応える連携事業を実施し、NWE Cのみならず連携先での男女共同参画の取組み促進につながる展開が一層望まれる。
- 17機関との協働の企画が実施されていた。機関も多様であり、幅広い分野における男女共同参画、女性教育の事業であることがわかる。国内のみならず、国際的な事業もあり、今後、これらの機関との連携が拡大すれば、ナショナルセンターとしての意義が増大すると思う。
- 研修内容や募集の際の広報等に、協働事業は不可欠であることから、今後も改善を続けていただきたい。協働実績の累計件数は増加していることから、共催に向けての働きかけ

をし、実質的な協働事業の構築に取り組んで欲しい。

●国内の関係機関・団体等との協働実績は充実してきており、他団体発信のメルマガ等での NWE C のプログラム案内を目にすることも増えてきたように感じている。各プログラムの品質には信頼が寄せられるものばかりなので、ぜひ今後も他団体等との連携を続け、発信し続けていただきたい。

男女共同参画・女性教育・家庭教育については、首都圏と地方との意識格差は正は今後とも課題なのではと感じている。地方との連携協力や情報発信もぜひ積極的に強化していただくことを期待したい。

5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進

●国際貢献、連携プログラムはそれぞれ興味深く、ネットワークづくりにもつながり成果を上げていると思われる。日本での男女共同参画もそれなりの進展はあると感じているが、海外との比較により学ぶこと、日本ならではの推進方法への理解と意識を深めることは、今後益々有益だろうと考える。国際貢献、連携施策による学びと気づきを、日本国内での施策等へフィードバックしていただけることを期待したい。

国際貢献・連携において様々な日本の女性リーダーが活躍しているので、現役で活躍する彼女達を招聘するなどして、日本在住の女性リーダーおよびリーダー予備軍等に国際的視点を意識してもらうことも検討してみたいと思う。

＜アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー＞

●NWE C のナショナルセンターとしての対外的機能の発揮が最も期待されるのが、この国際貢献・連携協力の推進に関わる分野と言ってよい。今年度も時代の要請に応える適時性の高い事業が揃っているが、とりわけ「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」では、ICT（情報通信技術）というきわめて今日的な観点からの女性のエンパワーメントがテーマとなっており、時代の強い要請に答えようとする前向きの姿勢が高い評価に値しよう。結果として有用度、満足度ともに 100%という高い数値が示されたことが、この事業の意義と成果を明確に表している。

●「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」は ICT（情報通信技術）をテーマとし、独自の新しい領域にアプローチしており、適時性と独創性のあるプログラムを展開している。満足度、有用度も高い。

研修生が参加したいと思うテーマの模索がなされた結果だと思う。

●ナショナルセンターとして、国際貢献や連携協力は重要な事業である。過去 4 年間で 13 か国を網羅し、これまでの研修参加者と人的交流を継続している発展性は評価できる。プログラムの内容については、今後も工夫をして、とても有用であるとの回答率をあげて欲しい。

＜国際協力機構との連携による研修（課題別研修「アジア諸国における人身取引対策協力促進セミナー」）＞

●「国際協力機構との連携による研修」においては 3 年間の計画がこれで終了しているが、これまでのこの事業の取組みばかりでなく、今後もさらに参加国を増やして実施していくことがすでに決定するなど、人身取引問題の分野でアジアにおいてこれから着実に協力体制が築かれる動きの基盤をこの事業が構築したものという意味でも高く評価できよう。

●人身取引に関するセミナーは、研修生の帰国後の取組みに大きな影響を与えており、優れた実績を作っている。

●人身取引は国際間の連携が不可欠であり、ナショナルセンターとして、国を超えたネットワークの強化に資す重要な事業である。

＜NWEC国際シンポジウム＞

●NWEC国際シンポジウムは定員を超える参加者を集めており、テーマの適時性が評価される。

●ナショナルセンターとして、国際貢献や連携協力は重要な事業である。引き続き、現状の3割以上の男性参加も招く内容で、講師やテーマの選定に工夫して欲しい。

＜国際的なネットワークの構築＞

●国際的なネットワークづくりは、ナショナルセンターとしての存在証明であり、様々な手段を用いての構築が図られた。

●ナショナルセンターとして、国際貢献や連携協力は重要な事業であり、国際的なネットワーク構築に積極的に関与していくべきである。試行的に立ち上げた Facebook の検証結果に言及して欲しい。

6 NWEC利用者への男女共同参画及び女性教育に関する理解の促進・利用の促進

●利用者の新規開拓、増加のために、NWECが熱意を持って様々な方向から努力を傾注していることは、これまでの外部評価でも常に各委員が指摘してきた特徴であり、都心から、あるいは地方から遠いという地理的に不利な条件や、利用者側に広がる経済的格差などを考慮すれば、現状においてすでに最大限の経営的努力が行われていることは異論のない所であろう。しかし、その中でも、中高生にまで利用者を拡大する工夫を重ねたり、参加による訪問活動を行ったり、大学生協との連携や企業への広報に努めるなど、さらなる多様な取組みを実践していこうとしている姿勢は大いに評価される。特に若年世代への広報や利用拡大の工夫を積み重ねることは、将来にわたる長期的な利用者層の拡大と定着という観点からも重要であり、今後ともこうした方向での取組みがさらに期待される。

●多様な内容のセミナーの開催、男女共同参画を理解するためのよりよいプログラム作りが利用者の満足度を高めていると思う。施設の利用者を増やすための努力は、十分に行われていると考える。地理的な条件と宿泊型を利用者が好むかが、利用者数に影響を与えている。リピーターを増やすことが、今後の鍵となるのではないかと。

●宿泊率利用率について、様々な努力と工夫を重ねていることは理解できる。交通アクセスの不便さは解消できないことから、宿泊施設があるメリットを活かした利用の拡大はNWECが抱える重い課題でもある。PFI化による運営改善に期待する。

●宿泊室利用率を上げることはなかなか難しいものの、今後の努力継続を期待します。

ホームページの全面改訂やメルマガの発信等での NWEC の活動認知を広げることも検討する必要がある。

3 平成26年度事業全体に対する評価・指摘事項等

以上、上記6つの柱について平成26年度の事業を見てみると、創意工夫を重ねたプログラムが組まれており、いずれも優れた成果を上げている。男女共同参画社会の実現のために必要な学習活動や女性教育はすべての領域をカバーしていることは、高い評価に値するものである。

また、我が国を代表する「ナショナルセンター」としての本来の役割を、理事長のリーダーシップのもと職員全体で認識して事業運営に取り組んでおり、さらに新規事業の積極的な開拓、既存事業の内容充実に向けた創意工夫、効率的な業務運営のための諸々の取り組み、といった各種の努力が、全体にわたって顕著に行われていることがよくわかる。こうした、時代の動きを常に敏感に察知し社会の要請に応えうる新たな事業に果敢にチャレンジしていこうという積極的な姿勢に加え、多くの関係機関との連携協力を進め、効率的な業務運営に努めつつ、こうした機関との連携協力をとおして、男女共同参画社会の実現を多方面に広げていこうとする「ナショナルセンター」としての役割意識は、明確にNWE Cの存在意義を高めるものとなっている。

その一方で、近年NWE Cに課せられた「効率的な施設運営」という課題が、それ自体としてNWE Cにとっての自己目的のようにならないための工夫はとりわけ重要である。限界に近づいている効率化の努力がかえって本来的業務を弱体化させることがないように、様々な関係機関との連携を、事業の内容面でも運営面でも一層進めて、NWE Cが単独にというよりはそうした男女共同参画推進ネットワークの中核的拠点として果たすべき役割について、さらに検討していくことも必要であろう。

なお、男女共同参画に関する情報格差や学習機会の格差は改善されている面もあるが、手放しで喜ぶ状況ではない。NWE Cの存在価値と力量が問われているとも言えるので、一層の情報発信が望まれよう。

また、昨年度の事業の一つに企業の関心を引くテーマのセミナーもあったが、NWE Cがビジネス分野への女性の参画に関して経済界に問題提起をしていく役割を担うことは必要であり、引き続き企業人へのアプローチを強化していくことを期待したい。その際には、単なる労働力として女性の活躍を求めるのではなく、「男女共同参画社会を実現するための女性の活躍」という視点を貫くことが重要である。

4 事業別評価

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (1) 基幹的指導者に対する研修等の実施 年度計画の項目
年度計画の項目 (I-1-(1)①)	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (1) 基幹的指導者に対する研修等の実施 ①企業を成長に導く女性活躍促進セミナー

事業名	企業を成長に導く女性活躍促進セミナー
担当課室	事業課
スタッフ	事業課長(1) 専門職員(1) 係員(1) 客員研究員(3) 計6名

年度実績概要	
1. 趣旨	企業における女性の活躍推進を図り、男女共同参画社会の形成に資するため、企業におけるダイバーシティ（女性の活躍促進）の推進者、管理職、リーダーを対象とした学習の場を提供した。
2. 実施概要	【ダイバーシティ推進リーダー会議】 1日目はリクルートHD、三菱東京UFJ銀行、日立製作所の3社から、「経営戦略」としての「ダイバーシティ戦略」の位置付け、これまでの「両立支援」から「活躍支援」への展開などが女性のポテンシャルを活かすことにつながることで、同時に男性管理職に対する研修の必要性などが報告された。 2日目のディスカッションでは、「アクションラーニング」の手法を用いつつ、現場で課題となっている長時間労働や男性管理職の巻き込み方など解決策について討議した。 【企業を成長に導く女性活躍促進セミナー】 初の経済産業省との共催。1日目のプログラムは、放送大学東京文京学習センター（茗荷谷）で実施。経済産業省経済産業政策局係長の関万里氏の施策説明に続き、「女性が活躍できる職場風土や人材マネジメント」についてイケア・ジャパンとメトロール2社に具体的な事例発表を行った。「多様な人材の活用やフラットな組織」「社員のアイデアの積極的な採用」「男女ともにキャリアと家庭を両立できる支援策」など実効性のある具体的な報告がなされた。 ワークライフバランスの専門家であるパク・スックチャ氏による講演では、日本の現状を踏まえた課題を洗い出し、続くパネルディスカッションでは女性活躍に向けた解決策に迫る白熱した議論が展開された。 2日目はNVECに会場を移し、リーダーシップに実効性のある「アクションラーニング」の手法を用いたグループワークを行い、参加者自身が職場での課題を出し合い、多様な視点からの解決策を探る実践的な研修を行った。 【企業を成長に導く女性活躍促進セミナー（ウーマノミクスセミナー）】 一般社団法人埼玉県経営者協会ウーマノミクス推進委員会との共催並びに経済産業省関東経済産業局の後援による開催とした。日本レーザー社長の近藤宣之氏による基調講演「企業の成長戦略としての女性が活躍できるしくみづくり」では「複数で同じ仕事を分け持つしくみ（ダブルアサインメントとマルチタスク）」や「公正で明確な評価制度の効果」などについてお話しいただいた。パネルディスカッション「一歩踏み出す女性をどのように育てるか」では近藤氏に、実際に起業し女性が活躍できる会社作りを実践している岩崎裕美子氏、自らが女性管理職としてのロールモデルとなって道を切り開いてきた山口和子氏が加わり、体験談も交えながら、「女性だからこそできる女性管理職の在り方」や「長時間労働の是正」「会社は能力や成果に見合った処遇をするべきである」など参加者の参考になるヒントが提示された。
3. 開催日時	【ダイバーシティ推進リーダー会議】 平成26年6月12日（木）～13日（金）（NVEC） 【企業を成長に導く女性活躍促進セミナー】 平成26年10月17日（金）～18日（土）（放送大学東京文京学習センター NVEC） 【企業を成長に導く女性活躍促進セミナー（ウーマノミクスセミナー）】 平成27年3月19日（木）（さいたま市大宮ソニックシティ 市民ホール）
【評価指標】	
○研修内容の分析	
【ダイバーシティ推進リーダー会議】	本会議はダイバーシティの推進リーダーを対象に、少人数による（30名定員）報告者と参加者の距離の近い会議形式の研修とした。企業での女性活躍促進の第一線に立って取り組んでいる参加者ならではの課題を出し合い共有

し、先進企業からの報告を即実践に取り入れられるような会議をねらった。この会議が各企業の推進リーダーのネットワークをつくるプラットフォーム的な存在になるよう、情報交流会やディスカッションでの参加者同士のつながりを重視したプログラムとした。

【企業を成長に導く女性活躍促進セミナー】

本研修では経営トップや管理職から、女性の活躍を促進することが企業の活力を高め、成長に導くことへの理解をダイバーシティインクルージョンの視点から、実践に活かせるような具体例の報告を重視した。また働き方の改革という視点からワークライフバランスの専門家による国際比較データを用いた課題把握を狙って講義をお願いした。参加者が自企業で抱えている問題点についてグループで話し合う技法の一つ「アクションラーニング」手法を実践演習の中から習得する時間を確保し、実際に職場での課題を元に、考えを広げたり深めたりしながら解決策をまとめ上げる体験を取り入れた。

【企業を成長に導く女性活躍促進セミナー（ウーマノミクスセミナー）】

埼玉県が推進するウーマノミクス推進委員会と共催で、企画はNVECが行った。第2回の企業セミナーは中小企業での女性活躍の促進を目的とし、同時に女性が活躍できるしくみや制度を実際に取り組み成果を上げている企業に講師やパネリストを依頼した。また、企業で活躍する女性のロールモデルとなる人選をするなど、女性人材活用の推進者をエンパワーメントすることも狙った。また、内海理事長をコーディネーターとしたとのパネルディスカッションを取り入れ、会場の反応を活かした臨場感のある議論や質問を受けるなど、女性活躍に関する課題や方策について深い議論となるよう工夫した。

○研修対象者の厳選

企業の経営者、役員、管理職、現場で活躍する女性リーダーなど女性人材活用の推進者を対象として限定した。

○参加者の地域バランス

ダイバーシティ推進リーダー会議の参加者は、関東が76.9%、東海と近畿が各7.7%、四国と九州が各3.8%と、関東からの参加は多いものの、特に西日本からの参加者が見られた。

第1回の参加者は、東北の参加者が4.5%、関東・甲信越が86.6%、北陸・東海が4.5%、近畿が4.5%と、昨年に比べて、東北・甲信越・北陸など、より広い範囲から参加者が増加した。

大宮で開催した第2回は、埼玉県経営者協会との共催でもあり、埼玉県内の参加者が多かったが、東京からの参加者も増加した。

実績を裏付けるデータ

1. 参加者の概況

（1）事業実績

※応募倍率は申込者総数（含キャンセル）÷定員である。

	平成24年度		平成25年度			平成26年度		
	第1回	第2回	ダイバーシティ	第1回	第2回	ダイバーシティ	第1回	第2回
参加定員（人）	80	100	30	80	100	30	80	100
参加者数（人）	62	66	35	46	60	26	67	65
申込者数（人）	68	79	35	47	61	29	84	68
応募倍率（%）	85.0	79.0	116.7	58.8	61.0	96.7	105.0	68.0
満足度（%）	97.5	95.8	100.0	96.9	93.7	100.0	95.1	93.7
有用度（%）	97.6	100.0	100.0	100.0	93.7	100.0	100.0	97.9

（2）地域バランス

	平成24年度		平成25年度			平成26年度		
	第1回	第2回	ダイバーシティ	第1回	第2回	ダイバーシティ	第1回	第2回
北海道・東北（%）	—	—	—	—	—	—	4.5	—
関東（%）	87.0	98.5	94.2	89.3	100.0	76.9	82.1	100.0
甲信越（%）	—	1.5	—	—	—	—	4.5	—
北陸・東海（%）	6.5	—	2.9	6.4	—	7.7	4.5	—
近畿（%）	6.5	—	2.9	4.3	—	7.7	4.5	—
中国・四国（%）	—	—	—	—	—	3.8	—	—
九州・沖縄（%）	—	—	—	—	—	3.8	—	—

2. 主な意見・感想等

- ・上司を説得する具体的な行動のヒントを得た。
- ・パネルディスカッションで、さまざまな立場だからこそその意見があり、本当に面白かった。二日目のアクションラーニングが一番楽しみで参加し、今後の実践で使える手法を学べる機会も良かった。
- ・現在実践している企業の考え方を学ぶことができ、たいへん参考になった。働き方の多様性、残業を減らすことが自社にとってまず必要ではないかと考えるきっかけとなった。
- ・情報交換会、会館での交流会、ともにうちとけた雰囲気、良い関係を築くことができた。グループワークもバックグラウンドの異なるメンバーと効果的な話し合いができて良かった。
- ・データから見る女性活躍推進は、多くの切り口のデータをもらうことができ、有益だった。

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性：国の経済成長戦略として、企業における女性の活躍促進が掲げられており、また社会活動におけるダイバーシティ、働き方の改革、仕事と家庭生活の両立への必要性から時宜を得た取組である。 独創性：男女共同参画の視点を正面に据えたプログラムである。NVEC の調査研究の活用やグループワークでの実践の豊かな経験を取り入れている。宿泊施設を活用し、緑豊かな環境で研修者が課題に集中して取り組むことができ交流も深められる点も、NVEC ならではである。 発展性：10月のセミナーでは経済産業省との共催、3月のセミナーでは社団法人埼玉県経営者協会ウーマノミクス推進委員会と共催、経済産業省関東経済産業局の後援で開催するなど関係府省等との協力関係を構築した。HPを見て読売新聞が企業セミナーの開催要項を女性面での掲載を申し込んでくるなど、社会的関心も高まり、メディアとの連携も今後さらに推進の可能性がある。NVEC での「企業における若年層のキャリア形成」の調査研究においても参加者の協力を得ている。 効率性：10月のセミナーでは1日目を東京会場として集客の効率性を高め、放送大学の協力により会場使用料を負担することなく事業を実施できた。また、3月のセミナーでは社団法人埼玉県経営者協会ウーマノミクス推進委員会と共催で開催することにより、講師謝金や会場費用、資料作成等を NVEC が負担することなく事業を実施できた。					

2. 定量的評価

観 点	応募倍率	プログラムの有用度	プログラムの満足度		
判 定	A	A	A		
○応募倍率 ダイバーシティ推進リーダー会議 96.6% 第1回 105% 第2回 65% ○プログラムの有用度（ダイバーシティ推進リーダー会議 100% 10月開催 95.1% 3月開催 97.9%） ○プログラムの満足度（ダイバーシティ推進リーダー会議 100% 10月開催 100% 3月開催 93.6%）					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	女性の活躍を促進する上で、企業分野における人事担当者等の意識啓発は欠かせないとの認識に基づき、昨年度から正規に年度計画に位置づけて実施した事業である。
達成	NVEC としては新領域であるが、経済産業省、経済産業省関東経済産業局及び埼玉県経営者協会と連携して、広報や会場手配、講師交渉などを効果的に進めている。また、男女共同参画の視点に立った女性活躍促進をテーマに絞り、実践的なグループワークを取り入れるなど、NVEC の独自色を出したプログラムの内容を追求しており、参加者からもその点が高く評価された。企業における男女共同参画推進リーダーのネットワークづくりの場として参加者から評価されており、セミナー参加者による交流も行われている。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
第1回の応募倍率が昨年の58.8%から105%と上昇している理由として、1日目を東京会場としたことで都心から参加しやすかったとことが考えられる。第2回は65%ではあるが、昨年より6%上昇しており、1、2回目共に広報を経済産業省のダイバーシティ100選企業や厚生労働省のポジティブアクション認定企業などはもちろん、官公庁でのダイバーシティ推進のニーズから独立行政法人にも広報を広げたところ、これまで以上の応募があった。HPを見て県庁や市役所からの参加も見られ、今後も企業はもちろんであるが、女性活躍推進において進んでいる企業の取組を広く広報できるように、地方自治体にも周知するように努めたい。 リピーターの参加者が比較的多いため、グループワークをこれまで行ってきたアクションラーニングから他の会議手法などの導入なども考えて次年度は企画を進めたい。 3回の会議及びセミナーで、多くの参加者から、このような他社の先進事例を知ることができ、具体的な取組の第一歩につながるような企業向けのセミナーを望んでいたとの声を受け、さらに内容を吟味し、マンネリ化を避けるようなものにしていくように努める。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-1)	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (1) 基幹的指導者に対する研修等の実施
年度計画の項目 (I-1-1) ②)	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (1) 基幹的指導者に対する研修等の実施 ②女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修

事業名	女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修		
担当課室	事業課		
スタッフ	事業課長(1)	専門職員(1)	係員(1) 計3名

年度実績概要	
1. 趣旨	男女共同参画社会の形成に向けた、女性関連施設・地方公共団体・民間団体の役割を認識し、地域の男女共同参画を積極的に推進するリーダーとしてのエンパワーメントと連携・協働関係の構築を支援することを目的とし、必要な知識、マネジメント能力、ネットワーク力を身につけるために、高度で専門的な研修を行う。
2. 実施概要	「女性活躍の推進と男女共同参画」をテーマとし、研修の前半では、関係省庁の施策説明及び講義などから、女性活躍推進に向けた最新の施策や取り組むべき課題などについて理解を深めた。後半のコース別分科会では、女性関連施設等における就業支援の新たな展開、推進計画・体制での庁内連携、地域における人材育成、課題解決に向けた事業展開など、全国の好事例による報告を基にグループワークを行った。加えて、情報交換会等により、参加者相互のネットワークづくりを図った。
3. 開催日時(会場)	平成26年5月21日(水)～23日(金)2泊3日 NWE C
4. 研修内容の分析	初日午前実施したプレ・ワークショップでは男女共同参画のあゆみやジェンダー統計等を解説し、研修の導入に最適であった。今回のテーマである女性の活躍推進に関する講義では「女性管理職を増やす」、そして「格差・貧困」という2つの違う視点からの講義を行うことで、幅のある多角的な内容となった。各省庁による施策説明では、自組織で活用できる国の事業について理解を深めることができた。また、コース別ワークショップは、各コースとも課題に対応するヒントを多く含んだ事例の厳選により、高い評価を得た。本研修の趣旨である、第3次男女共同参画基本計画を実現するための連携・協働関係の構築支援のため、参加者が一同に集う「課題把握のディスカッション」「全体会」は、3者の連携・協働関係を意識した構成とし、情報交換会や自由交流の実施の工夫により、ネットワークの構築に貢献することができた。さらに本研修を各地域でどのように生かすかを計画する「研修成果の活用プラン」により、研修成果を生かす学びのサイクルを構築した。
5. 研修対象者の厳選	全コースにおいて、参加者の決定にあたって実際の業務・活動内容の確認を行う等、基幹的な指導者を厳選した。なお、地方公共団体コース参加者はほとんどが新規参加者であった。
6. 内容評価	全体の有用度 99.2% (非常に有用 64.6%、有用 34.6%) 【100.0% (非常に有用 58.1% 有用 41.9%)】 全体の満足度 93.8% (非常に満足 51.9%、満足 41.9%) 【99.2% (非常に満足 47.5% 満足 51.7%)】

7. 影響評価

研修6か月後に実施したフォローアップ調査では、研修の成果が仕事や活動に役立ったとの回答が98.2%であり、特に「大いに役立っている」との回答が平成25年度の36.8%から平成26年度は44.6%とその割合が増加している。また、研修の成果を普及・活用した方法は「研修内容の報告・説明」81.6%、「具体的な事業の企画・運営への指導・助言」45.6%のほか、「研修資料を活用した勉強会・研修会の開催」と「来年度事業・予算への反映」がともに24.8%であるなど、研修によって得た知識や情報を積極的に活用している。

8. F U調査回収率向上のための取組

アンケート用紙を研修時のアンケートと統合し、質問項目を厳選・簡略化した。回収率は94.0%であった。

9. 参加者の地域バランス

甲信越、近畿、中国・四国の各ブロックからの参加割合が増えたため、参加者の地域バランスが相対的に改善されている。また講師及び事例報告者を各地域ブロックから選出するなど多様な事例を提供した。

実績を裏付けるデータ

1. 参加者の概況

(1) 事業実績

指標	H23	H24	H25	H26
参加者定員（人）	120	120	120	120
参加者数（人）	130	132	163	138
応募倍率（%）	117.5	110.8	149.2	125.0
満足度（%）	90.6	96.0	99.2	93.8
有用度（%）	97.0	98.9	100	99.2
フォローアップ調査（%）	79.4	90.6	93.8	94.0

※応募倍率は申込者総数（含キャンセル）÷定員である。

(2) 地域バランス

(%)

	H23	H24	H25	H26
北海道・東北	11.5	9.1	9.8	12.3
関東	38.4	51.5	51.1	39.9
甲信越	8.5	6.8	4.9	7.3
北陸・東海	13.1	9.9	11.0	10.9
近畿	6.9	6.1	6.1	10.1
中国・四国	7.7	6.8	6.1	9.4
九州・沖縄	13.9	9.8	11.0	10.1
計	100.0	100.0	100.0	100.0

2. アンケート結果

- ・男女共同参画についての視点、考え方を身につけることができた。100.0%
- ・男女共同参画政策に関わる国の施策・動向を理解することができた。95.3%
- ・地域で男女共同参画を推進するための自組織が抱える課題を把握することができた。90.4%

3. 主な意見・感想等

「成長戦略の中の女性活躍推進を多面的に考えながら、今後の事業運営を考えたい」
「豊富なデータを基に日本の現状を把握することができた」
「同じ立場の参加者と意見を交わし、今後の業務への意欲が高まった」

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性：政府の成長戦略である「女性活躍の推進」をテーマに取り上げ、男女共同参画の視点から多角的にとらえた内容としている。 独創性：地域において男女共同参画を推進する主体である女性関連施設・地方公共団体・民間団体の三者が全国規模で一堂に会する研修である。また、これまでに実施した研修や調査研究により把握した各組織・機関の課題を基にプログラムを設定し、NWECが行った調査研究の成果や取組の情報提供など、NWECの独創性を十分に活用した。 発展性：講師及び事例報告者は、各組織・機関にとって有用と思われる事例を各地域ブロックから選定した。また、全国からの参加者との情報交換や交流を支援することで、多様な地域及び主体からなる協働関係を構築するきっかけとなり、発展性のある取組として評価できる。 効率性：女性関連施設管理職コースの運営に関し、特定非営利活動法人全国女性会館協議会との共催により行うことで、NWECと全国女性会館協議会双方の人的ネットワークを活用し、女性関連施設のニーズや先進事例を収集し、企画に役立てたことは効率性向上の取組として評価できる。					

2. 定量的評価

観 点	応募倍率	プログラムの有用度	影響調査		
判 定	A	A	A		
○応募倍率：125.0% 【149.2%】 ○プログラムの有用度 99.2%（非常に有用 64.6%、有用 34.6%）【100%】 ○影響調査：98.2%（大いに役立っている 44.6% 役立っている 53.6%）【97.6%】					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	女性関連施設、地方公共団体、民間団体・女性グループを地域で男女共同参画を推進する主体と位置づけ、その基幹的指導者に対し、高度で専門的な研修と情報交換の場を継続的に提供している。
達成	参加者によるプログラムの満足度及び有用度は90%を超えている。評価が非常に高く、さらに研修で得た成果をそれぞれが現場に持ち帰り、実際に広く活用していることが伺える。以上からプログラムは適切であり、ねらいを十分に達成できたと考えられ、状況は順調である。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
施策説明については、研修のテーマを踏まえ、さらに多様な省庁との連携が必要であると考えられる。また平成26年度は開催時期を例年より1か月ほど早めたところ、団体リーダーコース参加者の割合が減少している。告知の方法を工夫する必要がある。また研修効果を全国的に効果的に広める観点から、研修の内容の動画配信や資料のダウンロードなどができるよう、さらに具体的に進めたい。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために とるべき措置 1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (1) 基幹的指導者に対する研修等の実施
年度計画の項目 (I-1-(1)) ③)	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために とるべき措置 1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (1) 基幹的指導者に対する研修等の実施 ③大学等における男女共同参画推進セミナー

事業名	大学等における男女共同参画推進セミナー
担当課室	事業課
スタッフ	事業課長(1) 専門職員(1) 係員(1) 計3名

年度実績概要	
1. 趣旨	大学・短期大学・高等専門学校における男女共同参画の推進に向け、それに関わる教職員を対象として、専門的、実践的な研修を行う。
2. 実施概要	1泊2日で実施した研修の前半では、大学において男女共同参画の推進に取り組む意義や男女共同参画の視点から大学の経営戦略を考える講義を行った。後半は、3つのテーマに分かれて分科会を実施。分科会では、各校での現状と課題について情報交換するとともに、自校での男女共同参画の推進に役立つ事例発表とグループ討議を行った。最後に、分科会報告として全体会を行い、参加者全体で情報を共有した。
3. 開催日時(会場)	平成26年12月4日(木)～5日(金) 1泊2日 NWE C
4. 実施内容	(1) テーマ・課題の厳選 男女共同参画の視点に立った大学の経営戦略に関する講義や少子化を背景に高等教育機関の生き残りをかけた戦略の視点から女子学生のキャリア形成支援のあり方を考える分科会など、研究者養成型以外の教育中心の大学や私立大学でも興味・関心をもって参加することのできるテーマを設定した。 日本の大学教育における男女共同参画度の低さが、人材育成や知の創造といった「大学の使命の達成」の阻害要因であるという課題に加え、今年度は、大学間競争が高まる中で、教員組織と職員組織の連携・協働の必要性が増す中で、研究者養成だけでなく、理事長・理事、学長・学部長などトップマネジメント人材やこれらを支えるスタッフ人材の発掘・育成には、男女共同参画の視点に立った人材登用が必要であるという課題を新たに取り上げた。
(2) 内容評価	全体の有用度 98.5%(非常に有用 48.5%、有用 50.0%) 【98.6%(非常に有用 56.6% 有用 42.0%)】 全体の満足度 95.4%(非常に満足 46.2%、満足 42.2%) 【97.2%(非常に満足 43.5% 満足 53.7%)】
(3) 参加者の地域バランス	関東・甲信越からの参加者は全体の38%(30名)。残りの約60%は、北海道・東北、北陸・東海、近畿、中国・四国、九州・沖縄地区からバランスよく参加者が集まった。 また、所属別では国公立大学からの参加は40名(51%)であり、残り約4割は、私立大学15名(19%)と高等専門学校18名(22%)からの参加である。

実績を裏付けるデータ

(1) 参加者概況

指標	H23	H24	H25	H26
参加者定員 (人)	80	80	80	80
参加者数 (人)	88	90	87	79
申込者数 (人)	93	94	94	81※
応募倍率 (%)	116.3	117.5	117.5	101.3
満足度 (%)	94.2	92.0	97.2	95.4
有用度 (%)	100.0	98.6	98.6	98.5

※H26 年度はキャンセル2名。申込は81名、参加は79名。応募倍率は申込者数÷定員。

(2) 地域バランス

(%)

	H23	H24	H25	H26
北海道・東北	15.9	13.3	16.1	17.0
関東	35.2	38.9	35.6	35.0
甲信越	5.7	2.2	4.7	3.0
北陸・東海	9.1	13.3	11.5	10.0
近畿	10.2	12.2	10.3	11.0
中国・四国	15.9	6.7	11.5	14.0
九州・沖縄	7.9※	13.3	10.3	10.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0

※H23 年度の「九州・沖縄」には海外からの参加者（1名）も含む

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性		
判 定	A	A	A		
適時性：少子高齢化の進行や大学間競争の高まりを背景に、大学にも経営改革が求められている。このような近年の高等教育機関をとりまく状況をふまえ、男女共同参画の視点に立った大学の経営戦略をテーマにしたプログラムを中心にプログラムを展開したことは、時宜にかなっている。 独創性：高校私立の大学、高等専門学校を対象とし、男女共同参画の視点から組まれた学習プログラムは他に類を見ない。宿泊施設を活用したプログラムは、全国各地から集まった参加者同士のネットワークを広げ、他校の取り組みを通して自校の課題を把握し、解決のヒントにつながる情報を得る機会を提供している。 発展性：各課題に即した講義やテーマ別分科会での各大学等での事例報告やグループ討議などを通して、参加者が自校の課題を把握し、課題解決に向けた実践力を養うことにより、研修終了後、各校での取り組みの発展性を期待することができる。					

2. 定量的評価

観 点	応募倍率	プログラムの有用度			
判 定	A	A			
○応募倍率 101.3% ○プログラムの有用度 98.5% (非常に有用 48.5%、有用 50.0%)					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	今回もアンケートによれば有用度、満足度ともに 100%近い評価を得ることができた。 学内全体への男女共同参画意識の浸透や男女共同参画の推進体制の整備・継続がまだまだ十分とはいえない状況の中で、課題解決に向けて先進的・積極的な取り組みを展開している大学等の事例報告や分科会でのグループ討議、情報交換会などを通して、全体の動向や全国各地の他校の取り組み状況について、宿泊型で参加者同士が寝食を共にしながら、インターネット等ではなく、直接多くの情報を得ることができる本研修の意義は大きい。
達成	今年で5年目の実施となる本研修は、高等教育機関の男女共同参画推進という目的のもと、大学等で男女共同参画を担当している教職員を対象に、各機関の課題に応じた内容の充実を図ってきた。毎年、ニーズに合った企画で参加者からの評価も高く、実施状況は順調である。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
ライフイベントに直面した卒業生支援や社会貢献としての女性の生涯学習支援への大学の貢献、女子高校生に特化した学生募集戦略の工夫等、大学としての「女性」に関する総合的・包括的な戦略づくりへの支援を入れるなどプログラムを充実させ、大学の教務や広報担当者をも惹きつけていくなどの工夫が必要である。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (1) 基幹的指導者に対する研修等の実施
年度計画の項目 (I-1-(1)) (4)	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (1) 基幹的指導者に対する研修等の実施 ④男女共同参画推進フォーラム

事業名	男女共同参画推進フォーラム
担当課室	事業課
スタッフ	事業課長(1) 専門職員(2) 係員(2) 計5名

年度実績概要	
1. 趣旨	男女共同参画を推進する行政担当者、女性団体やNPOのリーダー及び大学や企業において組織内のダイバーシティ、女性の活躍を推進する担当者等が一同に会し、課題の共有と課題解決のための方策を探る研修。組織分野を超え、連携・共同して男女共同参画を推進するためのネットワーク形成も図る。
2. 実施概要	1日目の「女性リーダー会議」では、企業、行政、NPO団体で活躍している女性リーダーをパネリストに迎え、これからの女性リーダーのあり方や女性の活躍を推進していく上での現状、課題などについて分野を超えて議論。2日目の特別講演では、村木厚子厚生労働事務次官に、活力のある社会を創出していく上で、女性の活躍を促進していくことの重要性についてお話いただいた。また、3日間にわたり、2件の会館提供ワークショップ、一般募集をした民間団体、大学、企業等による44件のワークショップと6件のポスター展示を実施。各ワークショップでは、日頃の研究成果や実践活動についての報告、会場の参加者との質疑応答、協議などが行われた。
3. 開催日時(場所)	平成26年8月29日(金)～8月31日(日) 2泊3日 NWE C
4. 実施内容	(1) テーマ:「ひとりひとりの活躍が社会を創る」 男女共同参画社会の実現には、ひとにぎりのトップリーダーの活躍だけではなく、社会を構成しているひとりひとりが、それぞれの持ち場、領域で自分の持っている能力・個性を発揮していくことが求められている、女性の活躍推進は、ごく一部の女性のためだけではないというメッセージをこめた。 (2) 課題の厳選 テーマに沿ったプログラム選定を実施。また、一般募集ワークショップ・ポスター展示の選定については、外部有識者を交えた選定委員会を開催した上で厳選した。 (3) 内容評価(参加者の85%以上からプラス評価を得られたか) 全体については、満足度 94.8% (とてもよかった56.6%、よかった38.2%)。 「女性リーダー会議」については、満足度 94.6% (とてもよかった64.6%、よかった30.0%) 「特別講演」(講師:村木厚子氏)については満足度97.4% (とてもよかった78.8%、よかった18.6%) をそれぞれ得ることができ、3日間にわたり、参加者からは90%以上の満足度を得ることができた。 (4) 影響評価(ワークショップ・ポスター展示運営者に対して実施) ワークショップ運営者: 満足度95.5% (とてもよかった77.3%、よかった18.2%)。 ポスター展示運営者: 満足度83.3% (とてもよかった50.0%、よかった33.3%)。 (5) フォローアップアンケート(2015年2月に実施) 有用度97.9% (非常に役に立った52.1%、役立った45.8%) 回収率は100% (ワークショップ運営団体44件、ポスター展示運営団体6件)。 アンケート用紙送付後も、担当者が積極的に運営団体に働きかけ、回収を促した結果である。 (6) 参加者の地域バランス 1165名の参加者のうち約7割が関東からの参加者。交通費・旅費は関東以外の参加者にとって小さない負担であるが、残り約3割は関東以外の地域から、割合は少ないながらもほぼまんべんなく全国からの参加者を得た。 (7) 全国フォーラムにおける交流機会の充実 全国各地で様々な活動を展開している者たちが、ワークショップやパネル展示をきっかけに情報交換する場である。様々な分野の最近の動向、活発に活動を展開しているグループ、講師などの豊富な情報が行き交った。また、フェアトレード製品や地元の女性起業家、自立を目指す障がい者支援に取り組むNPO団体の製品の販売も実施し、活発な参加者同士の交流を促した。

(8) 大学や企業等からの参加促進状況

参加者全体（1165 名）における「研究者・大学教員」の割合は、37 名（3.2%）、「会社員・企業関係者」は 57 名（4.9%）と全体でみれば少ない割合であるが、お茶の水女子大学、神戸大学、佐賀大学、鳥取大学の関係者によるワークショップや展示が実施され、一般募集のワークショップやポスター展示において、一定の存在感を出すことができた。また、企業に関係するワークショップとしては、ダイバーシティ先進企業の事例に関するワークショップも行われた。

(9) フォローアップアンケート調査結果の研修プログラムへの反映

H25 年度のフォローアップアンケートに寄せられた意見を反映し、H26 年度は、会館提供ワークショップの実施を 2 本に絞り込み、一般募集によるワークショップの実施と重なるコマが少なくなるように工夫した。

実績を裏付けるデータ

1. 参加者の概況

- (1) 参加者 1,165 名（女性 1,007 名 男性 158 名） 定員 1,000 名
 (2) 年代別：10 代 12 名（1.0%）20 代 64 名（5.5%）30 代 79 名（6.8%）40 代 134 名（11.5%）
 50 代 214 名（18.4%）、60 代以上 546 名（46.8%） 無回答 116 名（10.0%）
 (3) 地域別：北海道・東北 73 名（6.6%）関東 800 名（72.0%）甲信越 110 名（9.9%）北陸・東海 48 名（4.3%）
 近畿 36 名（3.2%）中国・四国 18 名（1.6%）九州・沖縄 27 名（2.4%）※無回答 53 名を除く割合

2. アンケート結果

- (1) 全体の満足度 94.8%（とてもよかった 56.6%、よかった 38.2%）
 (2) 「女性リーダー会議」の満足度 94.6%（とてもよかった 64.6%、よかった 30.0%）
 (3) 村木厚子氏による「特別講演」の満足度 97.4%（とてもよかった 78.8%、よかった 18.6%）

3. 主な意見・感想等

アンケートには「全国で取り組んでいる事例を知ることや、特別講演など、とても有意義な時間でした」、「各分野の女性リーダーの情熱あふれる話をたくさん聞くことができ、とても良かったです」などの感想が寄せられた。

事業実績

指標	H23	H24	H25	H26
参加者定員（人）	1,000	1,000	1,000	1,000
参加者数（人）	905	1,035	1,049	1,165
応募倍率（%）	90.5	103.5	104.9	116.5
満足度（%）	89.1	88.8	88.2	94.8
有用度（%）	99.7	98.2	95.0	—
フォローアップ調査（%）	100.0	100.0	95.2	97.9

参加者内訳

指標	H23	H24	H25	H26
参加者数（人）	905	1,035	1,049	1,165
企業	23	54	33	57
大学	72	50	58	37
学生	19	22	28	33

地域バランス

(%)

	H23	H24	H25	H26
北海道・東北	15.0	10.7	10.9	6.6
関東	59.9	64.2	66.9	72.0
甲信越	11.8	11.9	11.3	9.9
北陸・東海	3.3	4.8	3.3	4.3
近畿	4.8	4.5	4.7	3.2
中国・四国	0.9	1.7	1.2	1.6
九州・沖縄	4.3	2.2	1.7	2.4
計	100.0	100.0	100.0	100.0

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性		
判 定	A	A	A		

適時性：「女性の活躍」が政府の成長戦略の柱のひとつに掲げられている中で、「ひとりひとりの活躍が社会を創る」をテーマに設定し、村木厚子厚生労働事務次官をはじめ社会的知名度の高い講師による「特別講演」、「女性リーダー会議」などのプログラムを実施したことは、時宜を得た取組である。

独創性：男女共同参画に取り組む女性団体や研究者、女性センター職員をはじめとして、女性活躍やワークライフバランス、キャリア教育等に興味をもつ行政・企業・大学・学校の関係者など幅広い分野からの1000人を超える関係者が一堂に会する機会であり、平成8年から17年にわたり実施されるこのような事業は他に類を見ない。

発展性：男女共同参画に関する様々な分野・テーマについて、ワークショップやポスター展示、チラシや活動報告など幅広い手法での情報収集・交換が行われた。地域に戻った学習者の活動の幅を広げることが期待される。

2. 定量的評価

観 点	応募倍率	プログラムの満足度	フォローアップアンケートの有用度		
判 定	A	A	A		

○応募倍率：116.5%（定員1000名、応募者1165名）【前年度実績104.9%（定員1000名、応募者1049名）】

○プログラムの満足度：
参加者：94.8%（とてもよかった56.6%、よかった38.2%）
ワークショップ運営者：95.5%（とてもよかった77.3%、よかった18.2%）

○フォローアップアンケートの有用度：97.9%

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	応募倍率、満足度ともに目標を達成できた。政策・方針決定過程への女性の参画がいまだ低い状況にある中で、男女共同参画社会の実現、女性の活躍推進に関する講演やパネルディスカッション、全国から一般募集したワークショップなどの実施を通して、宿泊型で参加者同士が寝食を共にしながら、分野横断的に情報交換やネットワークづくりを図る本研修のねらいを十分達成することができた。
達成	行政、企業、大学、NPOなどで男女共同参画の推進に携わる者、女性団体などを対象に、男女共同参画社会の実現に向けた課題解決に資するプログラムの実施と分野横断的に、連携・協働を推進するためのネットワーク形成を目指して、内容の充実を図ってきた。毎年、ニーズに合った企画は、参加者からの評価も高く、実施状況は順調である。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
2日目の村木厚子氏（厚生労働事務次官）による特別講演は、600席の講堂が満席となり大盛況であった。今後も社会的知名度の高い講師によるプログラムを盛り込むことで、男女共同参画推進の波及効果を高める。 一方、参加者の中心を占める年代層は、50代から60代以上の女性たちである。このような地域で男女共同参画の推進のために地道な活動を積み重ねている参加者たちにとって、男女共同参画推進フォーラムに参加することこそが、日頃の活動の原動力となっていると思われるが、引き続き、企業関係者や大学関係者など新しい層の掘り起こしを続けることと併せて、長年の参加者たちの「フォーラム」への期待に応えるプログラムを今後も提供していく必要がある。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (2) 基幹的指導者に対する研修に資する調査研究の実施、学習プログラム・研修資料の 作成
年度計画の項目 (I-1-(2) ①)	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (2) 基幹的指導者に対する研修に資する調査研究の実施、学習プログラム・研修資料の 作成 ①大学等における男女共同参画に関する調査研究

事業名	大学等における男女共同参画に関する調査研究
担当課室	研究国際室
スタッフ	研究国際室長(1)、研究員(1)、客員研究員(2) 計4名

年度実績概要	
1. 趣旨	大学等の研究機関における女性研究者支援を促進するため、課題を明らかにすることを目的とした調査研究を実施するとともに支援マニュアルを作成する。2年計画の2年次は、国公私立大学の男女共同参画推進機関へ追加的ヒアリング調査を実施し、男女共同参画を推進する大学に役立つガイドブックを作成する。
2. 実施概要	・初年度に引き続き、①女性研究者支援事業に文部科学省の助成金等を得て取り組んでいる国公私立大学、②「男女共同参画推進室」、「キャリアセンター」等を設置して、男女共同参画を推進している大学等の取組みについて、ヒアリング調査を中心に情報を収集した。 ・検討委員会で、ヒアリング結果に基づき、取組内容・組織体制・連携のありかたや課題等を整理した。 ・一般社団法人国立大学協会、NWE Cの主催事業等で中間報告を行うとともに、ガイドブックの構成・内容についてコメントを得た。 ・ガイドブックの構成、盛り込む内容（先進事例や取り組む上での課題・留意点等）について、検討委員会で協議、分担執筆した。同時に、関係機関・団体の関係者にコラム等原稿の執筆を依頼した。 ・NWE C・座長村松泰子編のガイドブックとして成果をまとめ、市販刊行した。
3. 得られた知見	・大学における男女共同を進めるための取組として、○女性研究者を増やすための支援（採用制度、昇進・評価、制度、次世代育成支援（大学院生・大学生対象、中高生対象））、○ワーク・ライフ・バランス支援と環境整備（勤務体制、育児・介護の支援・拡充、情報提供・ネットワーク、男性への支援（育児や介護、意識啓発）、学生に対する男女共同参画の視点に立ったキャリア教育の取組に関する取組事例の具体的内容や工夫・課題等を明らかにした。 ・さらに、推進体制として有効である、大学内の体制・組織作り、大学間のネットワークを活用した事例の具体的プロセスも明らかにした。
4. 成果の活用	NWE Cの大学職員研修、一般社団法人国立大学協会教育・研究委員会男女共同参画小委員会、独立行政法人国立高等専門学校機構の勉強会で調査研究の中間報告を行い、参加者からテーマ及びガイドブックの作成に強い関心や要望が寄せられた。
実績を裏付けるデータ	
成果の活用	平成26年7月2日(水) 一般社団法人国立大学協会教育・研究委員会男女共同参画小委員会 報告題 NWE Cの「大学等における男女共同参画に関する調査研究」 平成26年7月31日(木) 独立行政法人国立高等専門学校機構 教員研修講師 報告題 「男女共同参画統計で見る女性活躍支援の現状と課題」 平成26年12月5日(金) 平成26年度「大学等における男女共同参画推進セミナー」 報告題 大学等における男女共同参画に関する調査研究の報告

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	

適時性：第3次男女共同参画基本計画の中で重点事項とされている「第11分野男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実」「第12分野科学技術・学術分野における男女共同参画」の大学における男女共同参画の推進、女性研究者の活躍推進に合致するテーマとなっている。さらに、大学における男女共同参画の推進、女性研究者の活躍促進は「第4期科学技術基本計画（平成23年）」や「第2次教育振興基本計画」においても重点的な施策として挙げられている。

独創性：従来の「女性研究者支援」の取組に加えて、男女共同参画を進める必要性を、マネジメントや教職員に理解してもらうための「基本編」と、学部生を対象にした男女共同参画視点に立ったキャリア教育や職員も含めたワーク・ライフ・バランスの進め方等について事例で説明する「実践編」から構成されるガイドブックは、研究者養成を目的とする大学のみならず、あらゆる大学が男女共同参画を推進するための実践する参考となる。

発展性：男女共同参画の取組が進んでいない大学は多く、今後広く活用を広げる可能性がある。大学のみならず地域の自治体、団体等との連携についても触れており、発展性が望まれる。

効率性：NWE Cが持つネットワークを活用することによってガイドブック作成執筆作業を効率的に実施することができた。市販することで効率的に普及を図ることができる。

2. 定量的評価

観 点	参考資料作成数				
判 定	A				

学習参考資料として「実践ガイドブック 大学における男女共同参画の推進」を市販刊行

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	大学における男女共同参画を推進するための取組に携わる大学の経営陣や教職員の参考となるガイドブックを作成し、市販した。調査研究の途中経過を国立大学協会の研究委員会や国立高専機構の研修で報告し、評価が得られた。ガイドブックの執筆にあたり文部科学省、国公立大学、民間団体等の幅広い協力を得た。
達成	中期計画では「I 1（2）基幹的指導者に対する研修に資する調査研究の実施、学習プログラム、研修資料の作成」としていくつか調査研究を実施している。本調査研究は平成 25、26 年度の 2 か年で大学において男女共同参画を推進する責務を担う役員、教職員の参考になる実践的ガイドブックを作成しており、中期計画の目標を達成している。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
調査研究の成果としてまとめたガイドブックの利活用を図るため、主催事業等で積極的に広報を行う。調査研究としては、いったん区切りがつくが大学の取組は急速に進んでおり、今後の情報や資料収集等をどのように行っていくかが課題である。女性研究者支援等で助成を受けた大学の男女共同参画・女性研究者支援に係る情報収集（刊行資料等）を女性教育情報センターで引き続き進めるとともに、大学等における男女共同参画推進セミナーの研修の企画にガイドブック及びその作成で得られた知見を役立てることで対応する。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (2) 基幹的指導者に対する研修に資する調査研究の実施、学習プログラム・研修資料の作成
年度計画の項目 (I-1-(2)②)	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (2) 基幹的指導者に対する研修に資する調査研究の実施、学習プログラム・研修資料の作成 ②女性関連施設に関する調査研究

事業名	女性関連施設に関する調査研究
担当課室	研究国際室
スタッフ	研究国際室長(1) 情報課専門職員(1) 事業課専門職員(1) 計3名

年度実績概要	1. 趣旨 女性関連施設の機能の充実・強化を図るため、指定管理、人材育成等新たな課題の実態把握と分析をテーマに5年計画で行う調査研究の4年次として、女性関連施設が取り組む事業や組織形態に関する実態調査を実施し、報告書を作成する。 2. 実施概要 実態調査 「女性関連施設データベース」の更新・新規登録調査を行い、女性／男女共同参画センター、働く婦人の家の取り組む事業や組織形態を把握し、データベースに掲載した。 - 対象施設：全国の女性／男女共同参画センター390施設に配布、回答数293施設（回答率75.1%） 働く婦人の家151施設に配布、回答数95施設（回答率62.9%） - データベース掲載項目 施設概要：運営形態、職員数、施設形態、指定管理者制度導入の有無、指定管理者名称、指定管理期間、開館時間、所有施設等 実施事業：年度、事業分野、事業のねらい、具体的なプログラム・講師名・スケジュール等 3. 成果の活用 (1) 参考資料の作成 平成25年度に実施した「女性関連施設の情報事業に関する調査」をさらに分析し、『NVEC実践研究』第5号に「女性／男女共同参画センターにおける情報事業の活性化に向けて」として掲載し、全国の女性関連施設等に配布するとともにNVECのホームページに掲載し、成果の普及に努めた。 また、同調査を元に、委員が日本女性学習財団刊行の月刊「We learn」に「女性関連施設における情報相談」（2014年8月号、9月号）を執筆し、成果の普及に努めた。 (2) 研修事業への反映 実践研究の内容を元に、全国女性会館協議会と日本女性学習財団共催の研修事業「情報事業担当者支援講座」において講義「女性／男女共同参画センターにおける情報事業の現況－NVEC全国調査より」を行った。調査研究の成果および参考資料は、平成27年度にNVECの主催事業や外部事業への講師派遣等において活用し、さらに積極的に成果普及を行う。 (3) データベースの活用 事業データは、他機関の研修事業における講師や研修プログラムの参考とされている。さらに広報し成果の普及を行う。 実績を裏付けるデータ 女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修「NVEC情報機能について」：有用度90.5%（非常に有用30.2%、有用60.3%） 全国女性会館協議会と日本女性学習財団共催の研修事業「情報事業担当者支援講座」：満足度100%（大変満足47.0%、満足53.0%）
--------	---

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点 判 定	適時性	独創性	発展性	効率性	
	A	A	A	A	
独創性：全国の女性関連施設の実態について調査し、データベースとして公開することはナショナルセンターであるNVECだからこそできることと評価できる。 発展性：事業データは、他機関の研修事業における講師や研修プログラムの参考とされ、地方の男女共同参画事業の推進に役立つものである。 効率性：データの更新はインターネット上で各施設担当者がID、パスワードにより自館のデータを更新できるシステムで行い、効率的に行った。					

2. 定量的評価

観 点 判 定	プログラムの有用度	学習プログラム・ 参考資料作成数			
	A	A			
女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修「NVEC情報機能について」の参加者からの評価は、：有用度90.5%（非常に有用30.2%、有用60.3%）と高い評価を得た。 『NVEC実践研究』第5号に「女性／男女共同参画センターにおける情報事業の活性化に向けて」を作成。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	調査研究結果を『NVEC実践研究』や他機関の刊行物にわかりやすい形で発信したことは評価できる。
達成	調査研究は計画どおり実施されている。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
ナショナルセンターとして、今後も引き続き、地域の男女共同参画拠点である女性関連施設についての調査研究を実施する。調査対象については見直しを行う。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開 発・普及 (1) 喫緊の課題に関する先駆的調査研究の実施
年度計画の項目 (I-2-(1)) ①	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開 発・普及 (1) 喫緊の課題に関する先駆的調査研究の実施 ①若手男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査研究

事業名	若年男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査研究
担当課室	研究国際室
スタッフ	研究国際室長(1)、研究員(2) 計3名

年度実績概要	
1. 趣旨	生涯を見据えた早期からのキャリア形成支援を、男女共同参画の視点に立つて行うための方策を探ることを目的とした調査研究を実施する。平成26年度は、若者を対象とした質問紙調査について検討した。
2. 実施概要	・大学もしくは大学院を卒業後、民間企業の正規職についた男女（新卒者）を5年間追跡する調査の「第一回調査」を平成27年度に実施するため、以下を行った。 (1) 「若年男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査研究」検討委員会を立ち上げ、本委員会を4回開催した（平成26年10月8日、12月15日、平成27年1月26日、3月17日） (2) 上記検討委員会において、関連領域の先行研究及び先行調査をふまえて、調査票を策定した。 (3) 調査票の策定過程において、平成27年2月にプリテスト（①Web アンケート調査：大学もしくは大学院を卒業後、民間企業の正規職につく入社1年目の男女99名対象 ②ヒアリング調査：Web アンケート調査の回答者から4名を選定）を行い、調査項目を精査した。 (4) 本調査研究の説明及び協力依頼のため、平成26年9月に東京商工会議所及び経済産業省を訪問した。 (5) 平成26年10月～平成27年2月に、「若年男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査研究」検討委員会委員から紹介いただいた企業や、第1回「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」参加企業など計7社を訪問し、本調査への協力を依頼した。また平成27年3月には、日本経済団体連合会女性の活躍推進委員会企画部会において、本調査への協力を依頼した。これらの結果、8社の協力を得ることになった（企業への協力依頼は、平成27年度も引き続き実施する）。 (6) 平成27年1月に、初期キャリア形成期の女性の意識及び実態についてより理解を深めるため、就職先が決定した女子大学生を対象とするインタビュー（「内定を持つ女子大学生グループインタビュー」）を3大学（A大学5名、B大学5名、C大学4名）で実施した。主な質問項目は、①就職活動の仕方 ②内定先を就職先として選んだ理由 ③今後の就業についての見通しや希望（やってみたい仕事の内容、管理職志向、結婚・出産と仕事の両立など）である。
3. 得られた知見	「プリテスト」では、すでに入社1年目からキャリアをめぐる意識や実態に男女差があることが明らかにされた。5年間の追跡調査によって、それらの男女差が拡大もしくは縮小するのか、その要因は何であるかを検証することが重要であるといえる。
4. 成果の活用	「若年男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査研究」第4回検討委員会にて、「プリテスト」及び「内定を持つ女子大学生グループインタビュー」の結果を報告した。
実績を裏付けるデータ	・平成26年10月～平成27年2月に計7社を訪問し、本調査への協力を依頼した。 ・平成27年1月に、就職先が決定した女子大学生を対象とするグループインタビューを3大学（計14名）で実施した。 ・平成27年2月にプリテスト（Web アンケート調査及びヒアリング調査）を実施した。

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性：第3次男女共同参画基本計画の中で重要事項とされている「第1分野 政策・方針決定過程への女性の参画の拡大」において、「企業の管理職等における女性の登用の促進」について取り上げられている。そして近年、女性管理職の育成において、入社直後の「初期キャリア期」を対象とする施策の重要性が指摘されていることから、時宜を得た調査研究といえる。 独創性：「初期キャリア期」の男女の意識及び実態については、十分なデータが蓄積されていない。1回限りの調査ではなく、「対象者を固定して、長期にわたり、同じ内容の項目についてたずねる」パネル調査を実施することで、初期キャリア期の意識及び実態における男女差の推移と、それらの男女差が「いつ、なぜ」生じるのか、より正確に把握することを試みる。 発展性：既存の調査研究によって、入社直後の人的資源投資がキャリア形成や就業継続を左右することが示唆されている。そこで本調査研究を通じて、若年男女のキャリア形成を支援する学習プログラム・研修資料の作成に資する知見を得たい。 効率性：「若年男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査研究」検討委員会において集中的に審議を行い、短期間で調査票を精査・策定し、来年度の実査に向けた準備を進めることができた。					

2. 定量的評価

観 点	若年男女のキャリア形成に関する意識把握				
判 定	A				
就職先が決定した女子大学生を対象とするグループインタビューと、大学もしくは大学院を卒業後、民間企業の正規職につく入社1年目の男女を対象とするプリテストを実施した。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	平成27年度に調査を実施するための準備を着実にを行うとともに、就職先が決定した女子大学生を対象とするグループインタビューを実施し、初期キャリア形成期の女性の意識及び実態について理解を深めるためのデータを得た。
達成	平成23・24年度には「地域課題の解決と女性の経済的自立に関する調査研究及びプログラム開発」及び「男性の家庭・地域への参画を促進するための調査研究及びプログラム開発」、平成25年度には「男女共同参画の視点に立った若者のキャリア形成支援に関する調査研究」を実施した。これらの調査研究については、成果をもとに学習プログラムや研修資料を作成済みである。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
最終年である次年度は、調査結果をふまえて報告書を作成する。さらにNVECホームページ上に公開するとともに、会館リポジトリを通じて、研究成果を発信する予定である。NVECが有するネットワークを通じて、全国の企業・大学に研究成果をフィードバックし、NVECが実施する大学や企業を対象とする各種研修プログラムやキャリア教育プログラムの企画・実施にも研究成果を生かす。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-(2))	1 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及(2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施
年度計画の項目 (I-2-(1)②)	1 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及(1) 喫緊の課題に関する先駆的調査研究の実施 ②女子大学生キャリア形成セミナー

事業名	女子大学生キャリア形成セミナー
担当課室	事業課
スタッフ	事業課長(1) 専門職員(1) 係員(1) 客員研究員(1) 計4名

年度実績概要	1. 趣旨 自らのキャリアを模索する女子大学生を対象に、①仕事をもち、自らの人生の選択権をもつことが豊かな人生設計に重要であること(自主自立)、②女性の人生設計に関わる様々な出来事をあらかじめ知っておくこと(ライフ・プランニング)、③キャリアの構築が単に個人の自己実現にとどまらず、よりよい社会づくりにつながること(社会を変える・支える志)の3つを学ぶことを提供することで、将来、社会や組織を支える女性リーダーを育成し、我が国の男女共同参画の推進を図る。 2. 実施概要 「キャリアを考えることは、人生を考えること」を主題に、1泊2日の合宿形式で実施した。講義による現状と課題把握を踏まえ、ロールモデルによるパネルディスカッションから、企業等で働く女性の現状や課題、女性の人生設計に関わる様々な出来事について学ぶとともに、グループワークにより自分自身のキャリアプランを考え、参加者同士で共有した。 3. 開催日時(場所) 平成27年2月21日(土)～2月22日(日) (NWE C) 【評価指標】 ○研修内容の分析<先駆的・参加型・実践的であったか> これまでNWE Cが実施した調査研究の成果やプログラム開発の実績を活用し、「どうしたら就職できるか」といったいわゆるノウハウ型の就活セミナーとは違った人生を俯瞰した長期的視点でプログラムを構成した。最初に、様々な意識調査や諸外国との比較データを元に、我が国における男女共同参画の現状や女性が働く上で直面する課題等について、諸外国との比較を通して考える講義「働く女性を取り巻く環境～国際比較データを通して～」を行った。 次に、多彩な経験をもつ3名のパネリストにより、社会人となってから今日までの歩み、働く上での20歳代の位置付けや過ごし方、キャリアを考える上で大切な視点などについて語るパネルディスカッション「先輩の声を聞く」を行った。夜間には、宿泊施設を活用した1泊2日の研修ならではのプログラムとして、「パネリスト等との交流会」を実施した。これは、パネルディスカッションの質疑応答の時間では聞けなかったことなど、参加者がパネリスト等とより親しく会話することで女性のキャリア形成に関する理解をさらに深めるとともに、参加者同士の情報交換を通じて、お互いのネットワークを広げる機会とするねらいがある。また、講義やパネルディスカッションの内容を踏まえ、参加者が自身のキャリア形成について主体的に考えることを促すための「グループワーク①・②・③」を合計5時間にわたって実施した。「グループワーク①」では、自己紹介を通じた仲間づくりやパネルディスカッションの感想を共有して自分自身の今の気持ち、参加者同士の共通点や課題等を知る機会とした。「グループワーク②」では、今後のキャリアについて自分自身の思いや考えを整理・共有し、意見交換することで自らの視野を広げることをねらいに「ワールド・カフェ」の手法を用いたグループワークを行った。「グループワーク③」では、自分自身のキャリアデザインを行い、参加者同士のキャリアデザインを共有するとともに、その実現に向けて具体的に行動できる方策について検討するため、キャリアシート「私のキャリア大作戦」を作成するとともに、明日からの具体的努力について「明日への第一歩」宣言を参加者一人一人が行った。																												
実績を裏付けるデータ	事業実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>H26</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者定員(人)</td><td>—</td><td>—</td><td>50</td><td>30</td></tr> <tr> <td>参加者数(人)</td><td>—</td><td>—</td><td>10</td><td>19</td></tr> <tr> <td>応募倍率(%)</td><td>—</td><td>—</td><td>24.0</td><td>80.0</td></tr> <tr> <td>満足度(%)</td><td>—</td><td>—</td><td>100.0</td><td>100.0</td></tr> </tbody> </table> 主な意見・感想等 ・同世代の意見、社会人として先輩の方々からの意見がたくさん聞けて考えることが多く、新しい自分に出会えた気がします。 ・今まで社会人になる、ということに対しての恐怖が先にありましたが、チャレンジ精神を忘れずことなく立ち向かいたいと思います。				指標	H23	H24	H25	H26	参加者定員(人)	—	—	50	30	参加者数(人)	—	—	10	19	応募倍率(%)	—	—	24.0	80.0	満足度(%)	—	—	100.0	100.0
指標	H23	H24	H25	H26																									
参加者定員(人)	—	—	50	30																									
参加者数(人)	—	—	10	19																									
応募倍率(%)	—	—	24.0	80.0																									
満足度(%)	—	—	100.0	100.0																									

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性		
判 定	A	A	A		

適時性：働く女性及び担当者レベルでの女性リーダーは増えてきているものの組織において意思決定に関わる女性の割合はきわめて低い状況のもと、働く女性が様々な組織において管理的地位に就き、その意思決定に関わるなどの組織活動に参画できるよう、将来の社会や組織を支える女性リーダーの育成につながるプログラムを実施、提供している。

独創性：就職のための方法や技術を学習するのではなく、就職も含めた長期的な視点で各プログラムを構成している。宿泊を伴う研修の利点を活かし、夜間には参加者と講師等がより親しく会話する交流会を開催することで、女性のキャリア形成に関する理解をさらに深めるとともに、参加者同士のネットワークを広げる機会を設けている。

発展性：これまでNWE Cが実施してきた複合キャリアに関する調査研究、埼玉県私立短期大学協会や埼玉大学と連携して実施した大学生を対象としたキャリア形成プログラムにおいて蓄積した知見をプログラムに盛り込んだ。また、研究国際室でまとめたジェンダー統計も活用している。一方、「定期的な勉強会や企業についてのセミナーもあれば受けてみたい」という意見から、当会館が実施している企業向け研修との連携も視野に入れることが今後考えられる。参加者同士のネットワークづくりも円滑に行われ、今後の横のつながりによる本事業の発展も期待できる。

2. 定量的評価

観 点	応募倍率	プログラムの満足度			
判 定	A	A			

○応募倍率：80.0%

○プログラムの満足度：100.0%

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	これまでNWE Cが実施した調査研究の成果やプログラム開発の実績を活用し、若年層へアプローチする研修である。参加した女子大学生は定員30名のところ応募者24名、当日の参加者19名と定員を満たすことはできなかったが、参加者一人一人の将来やキャリア形成に対する意識は非常に高く、各プログラムに意欲的に取り組む姿が見られた。特にグループワークでは長時間にもかかわらず、積極的かつ活発な話し合いが見られ、将来に対する意思表明を一人一人が具体的に言うことができた。また、参加者同士のネットワークづくりも円滑に行われ、今後の横のつながりによって本事業の発展が期待できる。
達成	

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
リーダーシップ111の協力について、今後も連携をとりつつ、参加経験者が今後の事業展開に参画できるようなしくみを構築する。また、当事業の内容をHP等で広く発信していく。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施
年度計画の項目 (I-2-(2)) ①	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修 ①女性関連施設相談員研修

事業名	女性関連施設相談員研修
担当課室	事業課
スタッフ	事業課長(1) 専門職員(1) 係員(1) 計3名

年度実績概要	
1. 趣旨	女性関連施設の相談員を対象に、複雑・多様化する女性の悩みに適切に対応できる相談員の育成と業務の質の向上を内容とする専門的・実践的な研修を行う。
2. 実施概要	研修の前半では、女性関連施設における相談業務の意義と役割、二次受傷、ストーカの概要と被害防止に関する講義を行った。後半は課題テーマ別の分科会を設け、相談当事者の心理・社会的背景や相談時における対応のポイントを学び、社会と個人との関係から生まれる新たな課題について情報を得た。全体会では、これらの課題を踏まえ、相談事業によるエンパワーメントや機関連携の重要性について課題を共有した。
3. 開催日時(場所)	平成27年2月4日(水)～6日(金) 2泊3日 NWE C
4. 実施内容	(1) 研修内容の分析 当事者の課題別分科会では、配偶者からの暴力被害に対する予防の視点を取り入れるため、若年層に対するデートDV防止啓発について取り上げた。またステップファミリー(子連れ再婚家族)、若年女性の貧困、災害とジェンダーなど、現代的かつ社会的な問題にも関わるテーマを取り上げた。 (2) 研修対象者の厳選 例年、期間半ばで参加申し込みを締め切っていたが、募集開始時期を2段階にしたことにより初回参加者を優先することができ、人数も適正な規模で実施することができた。なお、参加者の所属は公私立の女性関連施設、配偶者暴力相談支援センター、婦人保護施設、自治体(センター機能はないが、実際の相談対応に当たっている)、民間カウンセラーなどであり、多岐にわたる立場からの参加を得た。 (3) 内容評価 全体の有用度 98.7%(非常に有用 67.1% 有用 31.6%) 【99.0%(非常に有用 61.6% 有用 37.4%)】 全体の満足度 96.2%(非常に満足 50.6% 満足 45.6%) 【93.8%(非常に満足 48.4% 満足 45.4%)】

実績を裏付けるデータ

事業実績

指標	H23	H24	H25	H26
参加者定員（人）	120	80	80	80
参加者数（人）	153	100	101	81
応募倍率（％）	180.8	130.0	133.8	106.3
満足度（％）	92.1	95.6	93.8	96.2
有用度（％）	98.5	100.0	99.0	98.7

※H23 年度は内閣府委託事業「配偶者からの暴力被害者支援のための官官・官民連携促進ワークショップ」のうち、「相談員ワークショップ（北海道・東北・関東甲信越ブロック）」と合同開催。

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性		
判 定	A	A	A		
適時性：第3次男女共同参画基本計画第9分野「女性に対するあらゆる暴力の根絶」からの課題であり、かつ女性関連施設における相談件数では大きな割合を占める配偶者等からの暴力被害に関連し、当事者への具体的な支援及び予防啓発に関する分科会を設けた。また近年増加しているストーカー事案に対しても警察の担当者より情報提供を得るなど、参加者の持つ課題意識に応えることができた。 独創性：NWECの機能を活用した情報提供や男女共同参画の視点から相談業務の意義を考える講義を行った。分科会では社会的な課題にも対応し、若年女性の貧困など、現代的なテーマを取り上げた。全国的なネットワークを活用して開催した本事業は、総合的な女性のエンパワメントとしての相談事業を学ぶ機会となり、独創性のある取組として評価できる。 発展性：関係機関との連携の方策と重要性、相談業務における実際の対応を想定した事例検討、技能の向上と相談事業への反映が期待できる点など、発展性のある取組である。					

2. 定量的評価

観 点	応募倍率	プログラムの有用度			
判 定	A	A			
○応募倍率 106.3% ○プログラムの有用度 98.7%					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	3日間のプログラムを通して、複雑・多様化する女性の悩みに対応可能な相談業務の質の向上を図ることができた。相談技術そのものの向上の他、相談業務に役立つ最新情報を提供したことで、男女共同参画の視点からの相談事業に対する理解と今後の支援の展開について機会を提供できた。高度な守秘義務を伴う業務に就く相談員にとって、全国的な規模で同じ立場の者同士が集まり、共に学び語り合える本研修は非常に貴重な機会であると思われる。以上から本プログラムは適切なものであり、ねらいを十分に達成できたと考えられる。したがって、実施状況は順調である。
達成	

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
相談技術の向上、最新情報の提供、参加者同士の情報交換・ネットワーク作りなど、参加者が本研修に求めるニーズは幅広である。また参加者の雇用形態の多くは非常勤であり、2月の研修実施では、本研修で得られた成果が十分に発揮されないまま、その年度末で退職となる場合も多いことが予想される。今後参加者が研修成果を持ち帰って業務に反映させるなどの波及効果をさらに高めるために、実施時期を上半期に変更するなどの工夫が必要である。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開 発・普及 (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施
年度計画の項目 (I-2-(2)②)	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開 発・普及 (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施 ②行政や関係機関と連携した喫緊の課題に対応した研修

事業名	女子中高生夏の学校2014～科学・技術・人との出会い～
担当課室	事業課
スタッフ	事業課長(1) 専門職員(1) 係員(1) 計3名

年度実績概要	
1. 趣旨	女子中高生及び身近な支援者である保護者・教員に科学技術の楽しさと多様な分野で活躍する女性たちの姿に触れる機会を提供し、理系進路選択の魅力を伝える。
2. 実施概要	女子中高生プログラムでは、理系分野で活躍している先輩からのキャリア講演や、実験・実習、各学会・企業等によるポスター展示・キャリア相談、留学生との国際交流などを行った。また、学生企画として、理系大学への進学を想定した際の理系人生を疑似体験する「i future～理系人生を体験しよう～」やクイズ形式で理系分野を学ぶ「サイエンスバトル!」などを行った。 保護者・教員プログラムでは、学会、大学、企業等の研究者・技術者との座談会を開催し、活発に話し合いが行われた。
3. 開催日時(場所)	平成26年8月7日(木)～8月9日(土) (NWE C)
【評価指標】	
○研修内容の分析<先駆的・参加型・実践的であったか>	女子中高生向けプログラムでは、かつて本事業に参加し、その後学生TA(ティーチング・アシスタント)や学生企画委員として参画した経験を持つ女性や理系の職場(日立製作所中央研究所)で活躍する女性によるキャリア講演、16の実験・実習の中から参加者の興味関心に応じて選択するプログラムを行った。また、36の学会、企業等のブース展示を回り、最先端の科学技術に触れるなど、理系への進路について相談する場や、外国人留学生と交流する場を設定した。さらに、二者択一の問題に答えながら理系の道を疑似体験する「i future～理系人生を体験しよう～」や参加者の女子中高生と研究者・技術者、学生TA等との交流をさらに深め、理系進路選択の魅力を伝える「Gate Way」など、学生の企画によるプログラムも取り入れた。閉校式では参加者全員をサイエンスアンバサダーに任命し、学んだことを学校や地域に戻って広める活動を促す予定であったが、当日は台風の接近により、参加者の安全な帰宅を確保するため、予定を繰り上げて終了とした。(なお、学んだことを学校や地域に戻って広める活動の趣旨については参加者に伝えており、手渡す予定だった任命書も後日郵送している。) この事業は、単に講演を聴き、実験・実習をするだけでなく、女子中高生と学生TA、研究者・技術者とのキャリア相談や、天体観望会など、夜遅くまで交流を図ることができ、宿泊施設を活用した2泊3日ならではのプログラムとなっている。また、2泊3日のプログラムで終わるのではなく、参加者が学校、地域に帰って本事業の体験を伝えるアンバサダー活動を実施することにより、参加者以外にも理系進路選択の意義を普及させることや、メンターによる参加者への相談活動、ロールモデル集の作成と配付など、理系進路選択への継続した支援を行っている。宿泊形式、理系の社会人女性による講演や座談会、実験プログラムなど、NWE Cのプログラムは多くの機関の先進的事例となっており、今後も内容を進化させ、継続して実施する。

○研修対象者の厳選

女子中高生の定員 100 名に対して 153 名の応募があった。全員研修の場所である大会議室の座席数や確保できる班付きの学生 T A の人数、研修当日までのキャンセルなどを見越し、参加決定者を 125 名とした。参加決定については、学年、地域バランスを考慮した。また、今年度より参加申込書に書かれた参加にあたっての文章を企画委員が評価し、それを参加決定に反映させている。さらに、同じ学校からの参加は 2 名までとし、できるだけ全国から広範囲の参加が見られるように「参加者のすそ野」を広げる配慮をした。

○内容評価＜参加者の 85 % 以上からプラス評価を得られたか＞

キャリア講演、実験・実習やポスター展示・キャリア相談への参加、学生企画など、2 泊 3 日の合宿プログラムを実施した。期間中は学生 T A が各グループを支援した。参加者の満足度は、女子中高生 98.0% (非常に満足 80.0% 満足 18.0%)、保護者 100.0% (非常に満足 100.0%)、教員 100.0% (非常に満足 62.5% 満足 32.5%) である。プログラムの有用度は、女子中高生 93.7% (非常に有用 62.3% 有用 31.4%)、保護者 96.4% (非常に有用 47.8% 有用 48.6%)、教員 93.1% (非常に有用 35.1% 有用 58.0%) という評価であった。

○影響評価＜回答者の 80 % 以上からプラス評価を得られたか＞

本事業の成果が、参加者にとって実際の進路選択決定にどのような影響を与えているのか、現在高校 3 年生となっている過去の参加者を対象に、その進路先についてアンケート調査を実施した。回答者の 64.1% が進路決定にあたり本事業が影響した、と回答している。また、進路先の学系統は、回答者の 84.6% が理系である。

○フォローアップ調査回収率向上のための取組

2 泊 3 日の合宿研修の成果が実際の学校生活等に役立てられているか等についてのフォローアップ・アンケートを合宿研修実施 6 か月後に行った。調査期間は 2 月 20 日から 3 月 10 日までとした。
(回収率 75.0%)

○フォローアップ調査結果の研修プログラムへの反映

フォローアップ調査の結果については、企画委員に提示し、企画委員会の際にプログラム検討の材料としている。

○同様の事業を行う他機関への影響

本事業は J S T (科学技術振興機構) が行う「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の受託事業である。「宿泊型研修」「キャリア講演」「実験・実習プログラム」「理系進路を選択した女性の先輩との交流」など、J S T の同事業を受託する後発の他機関でも同様のプログラムが見られ、本事業が与える影響は大きい。

○教員を対象としたプログラムの充実

教員対象のプログラムでは、各校種間の教員同士のディスカッションや情報交換等を通じて、それぞれの学校に戻った時にこの経験をどう活かすかについて考える機会となっている。また、理系女子を支援する教員同士のネットワークが構築された。今後、このネットワークの拡大を図りつつ、次年度以降のプログラムを発展させていく。

実績を裏付けるデータ

事業実績

※平成 23 年度は東日本大震災の電力需要対策の実施により N W E C での開催を中止したが、実行委員長、学生企画委員を中心に土木学会を会場に日帰りでのプログラムを実施した。

※平成 26 年度は応募倍率を絞るため、応募者に参加動機等をまとめた作文の添付を申込時に義務づけた。

指標	H23	H24	H25	H26
参加者定員 (人)	－	100	100	100
参加者数 (人)	19	118	129	112
応募倍率 (%)	－	200.0	222.0	153.0
満足度 (%)	－	98.2	98.2	98.0
有用度 (%)	－	91.5	94.2	93.7
フォローアップ調査 (%)	－	51.7	68.2	75.0

参加者内訳

指標	H23	H24	H25	H26
女子中高生（人）	19	118	129	112
中学３年生	7	39	48	42
高校１年生	5	43	43	37
高校２年生	6	31	33	29
高校３年生	1	5	5	4
保護者（人）	－	16	22	18
教員（人）	－	14	18	11

地域バランス

(%)

	H23	H24	H25	H26
北海道・東北	5.3	14.9	11.2	17.0
関東	78.9	34.5	36.1	38.4
甲信越	－	5.4	10.7	3.6
北陸・東海	10.5	10.1	11.2	15.1
近畿	－	12.8	7.7	2.7
中国・四国	－	7.4	9.5	11.6
九州・沖縄	－	14.9	13.6	11.6
その他（海外）	5.3	－	－	－

主な意見・感想等

- ・視野を広げて、いろいろなことにチャレンジして自分の道をしっかり決めていこうと思いました。今度はＴＡになって戻ってきたいです。
- ・いろいろな方々から話を聞いて、やはり自分が本当に一番やりたいことをやるべきだと思いました。また、多くの同世代の理系女子と会うことができたのはとてもよい刺激になりました。
- ・一つの道に絞らず、いろいろな道を考えてみようと思いました。「理系は無理」と思っていた私も少し理系の方も考えようと思います。
- ・女性でも仕事と家庭を両立させながらがんばっている方がいることを知り、私もそんな人になりたいと強く思いました。
- ・元々進路は決まっていたのですが、３日間を通していろいろな職業を知り、進路はたくさんあるのだなと思いました。
- ・まだ文系か理系か決めることができていませんが、参加する前よりは心が楽になりました。たくさんの方々にアドバイスをいただいてとてもうれしかったです。
- ・自分とは得意な分野ややりたいことが違う、同世代の子と出会えてよかった。また、理系女子が社会でどう活躍するか、しているかを知ることができ、将来への不安が少し軽くなりました。
- ・日本各地から来た中高生と話せたことはとても刺激的でした。今回できた新しい友達を大切にして、これから勉強をがんばりたいと思います。

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性：第3次男女共同参画基本計画第12分野の科学技術・学術分野における男女共同参画の推進に資するため、女子中高生の理系進路選択への支援となるよう、キャリア講演、実験・実習やポスター展示・キャリア相談、国際交流、学生企画など充実したプログラムを実施、提供している。 独創性：各プログラムを通じて、全国からの参加者がロールモデルとなる女性研究者・技術者や女子大学生・大学院生と交流することにより、理系の女性によるネットワーク形成の機会を提供した。また、今回の「夏の学校」関係者による本研修独自のロールモデル集を作成し、配付する予定である。 発展性：参加者アンケートにおける「今度はTAとして戻ってきたい」という感想が示すとおり、参加者である女子中高生が理系の大学に進み学生TAとなり、その経験を基に学生企画委員として関わり、さらに女性研究者・技術者や教員等になって企画委員として企画、運営に参画していく、といった活動キャリアを上げていくつながりが生まれており、今後もそれが期待できる。また、宿泊形式、理系の社会人女性による講演や座談会、実験・実習などのプログラムは、近年、他大学等の理系進路選択支援事業にも行われてきており、NWECのプログラムの広がりが見られる。 効率性：独立行政法人科学技術振興機構の委託事業として300万円の外部資金を得て実施した。また、男女共同参画学協会連絡会の後援、36の学会・団体等の協賛により実施した。企画委員や当日スタッフを含めた実行委員は、233人にのぼり、ボランティアとして運営面での協力を得ることにより効率的な運営をしている。					

2. 定量的評価

観 点	応募倍率	プログラムの満足度	プログラムの有用度		
判 定	A	A	A		
○応募倍率：女子中高生 153% 保護者・教員 58% ○プログラムの満足度：女子中高生 98.0% 保護者 100.0% 教員 100.0% ○プログラムの有用度：女子中高生 93.7% 保護者 96.4% 教員 93.1%					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	平成17年度以来、10回目の開催となるが、企画委員をはじめとする人的な部分も含め、過去の研修成果とともに、これまでの継続によるノウハウの積み上げを生かした充実した内容となった。すでに理系を目指すことを決めている女子中高生だけでなく、進路を理系にするか文系にするか迷っている女子中高生にも、実験・実習や学生企画などを通じて理系の進路選択の魅力を伝えられる内容とした結果、そうした参加者からも有用度において高い評価を得ている。また、前回に引き続き関係者によるロールモデル集を作成し、配付する予定だが、今回は39名の執筆者によるものとなり、参加者である女子中高生が理系の大学に進み学生TAとなり、その経験を基に学生企画委員として関わり、さらに女性研究者・技術者や教員等になって企画委員として企画、運営に参画していく、といった活動キャリアを上げていくつながりを充実させるものとなっている。これまでの実施を通じ、プログラムは充実したものとなっており、JSTで同事業を受託する他機関に対しても、理系進路支援の在り方の一つのモデルを示すことに成功している。
達成	

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
プログラムの充実に伴い、事務量も増えている。開催中の事務局の設置、寄附金の取り扱いをはじめとする事務業務の工夫と効率化を進める必要がある。パソコン、プリンターなど必要な事務機器を用意し、事業開催中は研修棟中会議室を事務局化する。また、寄附金の募集等については、企画委員会の中に専門委員会を立ち上げる。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (1) 喫緊の課題に関する先駆的調査研究の実施
年度計画の項目 (I-2-(2) ③)	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修 ③教育・学習プログラム実施に関する支援

事業名	教育・学習プログラム実施に関する支援
担当課室	事業課
スタッフ	調整主幹、情報課長・専門職員、事業課長・専門職員2・客員研究員1・係員 計8名

年度実績概要	
1. 趣旨	大学・学校・企業・官公庁等の管理職・人事担当者等や学生等を対象に効果的な教育・学習を支援するプログラムを開発するとともに、男女共同参画行政や女性関連施設等からの照会に対応し、講師紹介を行う。
2. 概要	
(1) 講師斡旋事業	全国の女性／男女共同参画センターや都道府県・市町村男女共同参画部署の担当者に対する学習支援として、あらかじめ NVEC のホームページ上に提示した講師を依頼に基づき斡旋する。26年度は、87件。
(2) 男女共同参画センターとの共同実施	平成23～24年度に NVEC 主催事業としてプログラムを開発・実施した「複合キャリア形成研修」に基づき、平成25年度には群馬県ぐんま男女共同参画センターと NVEC が共催で「女性のためのハッピーキャリア大研究」を群馬県で実施。平成26年度は、同センターが同事業を自立実施。(NVEC から講師派遣)
(3) 大学と連携した事業実施	① 埼玉大学との連携事業(5年目)(受講学生は前期11名、後期21名、うち男性が11名) ・同様の授業を前後期に実施、2単位、金曜3限、全15回。 ・テーマは「男女共同参画社会の実現を目指して」。全15回授業のうち2回を NVEC が担当。理事長による講義と専門職員による Winet を活用した情報収集についてのパソコン実習。 ② 埼玉県私立短期大学協会との連携授業(5年目)(受講学生は4大学より39名) ・平成26年9月16日(月)～18日(水)(2泊3日) NVEC で実施。前期2単位。 ・テーマは「これからの人生を考えてみよう」。男女共同参画や女性の就労継続の意義などについて、講義、ジェンダー統計、キャリアトーク等を通じて学び、今後の人生設計を組む力量形成を目指した。
(4) 学習オーガナイザー養成研修	平成26年1月14日(水)～16日(金)の2泊3日、NVEC において実施。男女共同参画をテーマとした学習プログラムの企画実績を持つ者を対象とし、知見・技能のブラッシュアップを図る。 「男女共同参加の視点をもったキャリア開発」についての講義、NVEC が開発したプログラムデザインの解説、ジェンダー統計、評価のあり方、グループワークの進め方など、これまで NVEC に蓄積された知見やノウハウを存分に盛り込んだ。北海道から鹿児島まで全国から34名が参加。
(5) 主催事業の一部動画配信	「男女共同参画リーダー研修」「NVEC 国際シンポジウム」など主催事業の基調講演や講義について、一部講師の了解がとれたものについて、ホームページにて動画配信を行い、主催事業に参加できなかった者においても学習できるようにした。
実績を裏付けるデータ	
(1) 埼玉県私立短期大学協会との連携授業	① 参加者概況(国際学院埼玉短期大学、埼玉純真短期大学、埼玉女子短期大学、武蔵丘短期大学) ② アンケート結果 満足度：平成23年度から継続して100%
(2) 学習オーガナイザー養成研修	① 参加者概況(女性センター職員11、女性団体関係者11、行政職員6、大学職員2、その他4) ② アンケート結果 満足度100%(非常に満足84.4%、満足15.6%) 有用度100%(非常に有用84.4%、有用15.6%)

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性：男女共同参画をテーマとした学習に対するニーズが徐々に高まる中、主催事業の実施だけでなく、女性関連施設はもとより、大学なども対象に据え、男女共同参画学習の専門機関として、学習（授業）プログラムに対する指導・助言を行うことは時宜にかなっていると言える。 独創性：男女共同参画に関する Center of centers として、女性関連施設等からの要望をくみ上げ、主として女性関連施設等で研修や講座の企画を行う職員を対象とした知見・技能のブラッシュアップの場を設定したことは NVEC ならではの取り組みである。また、「男女共同参画の視点をもったキャリア開発」の概念や長年にわたり構築してきたプログラムデザインなど NVEC の成果をあますところなく盛り込んだプログラムとなっている。 発展性：NVEC が開発・実施した「複合キャリア形成プログラム」が昨年度の共催実施を経て、26年度は地域の女性センター単独主催で実施された。また、埼玉県私立短期大学協会と連携して開発した、女子大学生を対象としたキャリア学習プログラムの知見を、「女子大学生キャリア形成支援セミナー」に活用するなど、実施主体の広がりや研修成果の活用がみられる。 効率性：試行的に実施した「学習オーガナイザー養成研修」の講師は、1名を除き、NVEC 職員または企画委員で構成されており、開催場所も NVEC であることから、予算上極めて効率的な実施となった。					

2. 定量的評価

観 点	応募倍率	プログラムの満足度			
判 定	A	A			
○学習オーガナイザー養成研修 定員 30 名に対して 34 名の参加。 ○埼玉県私立短期大学協会との連携授業及び学習オーガナイザー養成研修の満足度はともに 100%。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	NVEC がこれまで開発・実施した学習プログラムを活用し、女性関連施設や大学と連携した事業を着実に実施している。連携先からの評価が高いことの証として、平成27年度も継続して連携事業を実施したいとの依頼を受けている。また、埼玉大学や埼玉県私立短期大学協会と実施してきた事業を踏まえて4年制大学の女子大学生を対象としたキャリア形成セミナープログラムを開発するなど、積極的な事業展開を図っている。
達成	

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
動画配信については、コンテンツを地道に積み上げつつ、将来的にはある程度数がそろった段階で、ホームページにおける学習教材としての整理を行う必要がある。 26年度に試行的に実施した「学習オーガナイザー養成研修」については、初年度だったにもかかわらず定員を超える応募が得られ、満足度も高かったが、一方で講義内容の難易度が高いといった感想もあった。専門人材を対象とした研修ではあるが、今後、内容をより砕いて伝えられるよう、プログラムの開発を進めていきたい。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(1))	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (1) 地域の機関で活用しうる男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する基礎的な研究の成果の提供
年度計画の項目 (I-3-(1)) ①	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (1) 地域の機関で活用しうる男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する基礎的な研究の成果の提供 ①男女共同参画統計に関する調査研究

事業名	男女共同参画統計に関する調査研究
担当課室	研究国際室
スタッフ	研究国際室長(1)、研究員(1)、情報課専門職員(1)、客員研究員(1) 計4名

年度実績概要	1. 趣旨 地域の機関で活用しうる男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する基礎的な研究の成果の提供のために、5年計画で男女共同参画統計に関する調査研究を実施している。 本年度は「男女共同参画統計データブック2015」を作成するとともに、ミニ統計集「日本の女性と男性」(2015年)を作成する。また「男女共同参画ニュースレター」を年3回配信する。 2. 実施概要 (1) 「男女共同参画統計データブック 2015」の作成において研究員、客員研究員が分担執筆した。 (2) 「統計リーフレット」の作成 「男女共同参画統計データブック 2015」で収集した最新データをもとにミニ統計集「日本の女性と男性」のデータを更新して統計リーフレット(A4版三つ折り、日本語版・英語版)を作成した。 (3) 「男女共同参画統計ニュースレター」の作成 男女共同参画に関する国内外の動き、自治体の取組、データ解説などを紹介する「男女共同参画統計ニュースレター」を年3回作成し配信した。 (4) 「大学等における男女共同参画に関する調査研究」において、統計データを活用した「データが語る大学の男女共同参画」を作成し、実践ガイドブック「大学における男女共同参画の推進」に掲載した。 (5) NVEC 利用者を対象に、男女共同参画の理解を進めるための男女共同参画統計パネルを作成し、館内6ヶ所に展示した。 3. 成果の活用 NVEC の主催事業で男女共同参画統計データを活用した講義やワークショップを実施した。また、男女共同参画センターや行政機関等で企画されている研修事業等においても講義やワークショップを実施した。 【評価指標】 ○「男女共同参画統計データブック 2015」の刊行 - NVEC の研究員、客員研究員が分担執筆して作成 ○男女共同参画統計を理解するための研修資料の対象別作成実績(該当があれば) - 大学の教職員「データが語る大学の男女共同参画」 NVEC 利用者「男女共同参画統計パネル」 ○「男女共同参画統計ニュースレター」の配信先拡充(年度目標は1,800件)1,801件 ○研修資料等作成の視点(利用者のニーズに沿ったものか) - 調査研究プロジェクトのメンバーを大学関係者としてニーズを把握した。
--------	--

実績を裏付けるデータ

1. 男女共同参画統計ニュースレター配信数
女性関連施設、大学研究所・学会、研究者等
第17号 1,801件
2. 男女共同参画統計データを活用した講義、ワークショップ等
 - (1) 主催事業：女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進セミナー、ダイバーシティ推進リーダー会議、企業を成長に導く女性活躍推進セミナー、学習オーガナイザー養成研修、女子大生キャリアセミナー、埼玉大学・埼玉私立短期大学協会との連携事業
 - (2) その他：国立教育政策研究所（社会教育主事講習）、大田区立男女平等推進センター（女性リーダー養成講座）、JICA（カンボジア国ジェンダー主流化本邦研修）、熊本県男女共同参画地域リーダー研修、北九州市女性リーダー国内研修、埼玉県越谷市大相模中学校校内研修、茨城県結城市職員研修、茨城県筑西市男女共同参画人材育成セミナー

事業実績

指標	H23	H24	H25	H26
男女共同参画統計データブックの作成	○			○
統計リーフレットの作成	○	○	○	○
男女共同参画統計ニュースレターの配信先件数	1,508	1,601	1,696	1,801

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性		
判 定	A	A	A		
適時性：男女共同参画政策を推進する上で男女共同参画の現状をデータで示すことは重要であり、第3次男女共同参画基本計画の第2分野の男女別統計（ジェンダー統計）の充実に対応するものである。またCSWでもジェンダー統計の重要性が増しており、国際的動きにも対応しているといえる。 独創性：男女共同参画統計に関する調査研究はデータを収集してデータブックやリーフレットを作成するだけでなく、統計ニュースレターの刊行や、NWE Cの主催事業や各地で実施されている研修事業の講義やワークショップにデータを活用する、展示パネルの作成など、総合的に事業を展開している。 発展性：今年度は紙媒体の「男女共同参画データブック」「統計ニュースレター」「男女共同参画統計パネル」等を作成したが、今後はNWE Cの男女共同参画統計データベースや政府統計の総合窓口e-Statを活用することによって最新のデータを提供することが可能となる。					

2. 定量的評価

観 点	男女共同参画統計 ニュースレター配 信先				
判 定	A				
「男女共同参画統計ニュースレター」は、NWE C講師、委員等への新規配信先を増やした（1,801 件（前年度 1,696 件））。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定と根拠
A	昨年度はニュースレターの配信は目標値に少し届かなかったが、今年度は目標値に達した。また、データブックを活用した講義やワークショップについては、女性関連施設関係者、行政担当者教員、企業関係者、学生など様々な対象に実施し、男女共同参画統計データの普及に努めた。 中期計画にそって計画的に進めており、ニュースレターの配信数も目標値に達している。
達成	

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
毎年出される統計データも数多くあることから、3 年ごとのデータブックの作成では最新のデータ提供に対応することが難しい。そこで新しいデータを迅速に更新できるホームページ上のデータ提供を検討することが必要である。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (1) 地域の機関で活用しうる男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する基礎的な研究 の成果の提供
年度計画の項目 (I-3-(1)) ②	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (1) 地域の機関で活用しうる男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する基礎的な研究 の成果の提供 ②調査研究成果の普及

事業名	調査研究成果の普及
担当課室	研究国際室、情報課
スタッフ	研究国際室長(1)、研究員(2)、専門職員(1)、情報課専門職員(2) 計6名

年度実績概要	
1. 報告書、冊子等の作成	
(1) 実践ガイドブック 大学における男女共同参画の推進 (株)悠光堂より販売 450部購入、主として国立大学、調査協力大学等に配布 (平成26年度大学等における男女共同参画に関する調査研究)	
(2) NWEC 実践研究 第5号「大学における男女共同参画の推進」 800部印刷、主として女性/男女共同参画センター等に配付 (平成26年度 NWEC 実践研究)	
(3) 2014NWEC リーダーセミナーレポート「デジタル時代におけるジェンダーと ICT」 日本語版・英語版 各300部印刷、主としてリーダーセミナー研修生、推薦者・機関等に配付 (平成26年度アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー)	
(4) 女性研究者支援のためのシステムの構築と政策提言のための研究―日中韓の比較から― 150部印刷、主として連携研究者、研究協力者等に配布 (科学研究費助成事業・基盤研究C ：女性研究者支援のためのシステムの構築と政策提言のための研究―日中韓の比較から―)	
2. 国立女性教育会館リポジトリ・ホームページへの掲載	
(1) 「NWEC 実践研究」第5号を論文単位でリポジトリに掲載	
(2) リーダーセミナーレポートを NWEC ホームページに掲載	
3. NWEC が実施する事業における普及	
(1) 男女共同参画の視点に立った若者のキャリア形成支援に関する調査研究	
① 女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修 (有用度 89.2%)	
(2) 大学等における男女共同参画に関する調査研究	
① 大学等における男女共同参画推進セミナー (有用度 98.5%)	
(3) 男女共同参画統計に関する調査研究	
① ダイバーシティ推進リーダー会議 (情報提供)	
② 企業を成長に導く女性活躍促進セミナー (情報提供)	
③ 女子大学生キャリア形成セミナー (満足度 94.0%)	
4. 会館以外での普及	
(1) 国際ジェンダー学会	
① 外国人女性の困難等への支援に関する調査研究	
② 地域の男女共同参画の取組を核とした移民女性のエンパワーメントと支援に関する研究	
③ 東南アジアにおける男女共同参画政策の比較研究	
(2) 人身取引パネルを館内常設展示するとともに展示パネルを貸出	
実績を裏付けるデータ	
事業実績 (別紙)	

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性：大学等における男女共同参画の推進、若年男女のキャリア形成支援、男女共同参画関連情報の収集・発信等、「第3次男女共同参画基本計画」の各重要分野に焦点をあて調査研究を実施・情報発信したことは、政策的にも適宜にかなったものであるといえる。 独創性：NVECの主催事業にて調査報告を行い、すべてにおいて高い評価を得た。館外においても講演等で報告をし、高い評価を得たことは、来年度以降の調査研究においても役立つものであるといえる。 発展性：各種報告書・レポート等の作成及びホームページや会館リポジトリへの掲載、「男女共同参画と男性」情報サイトの運営・保守など、調査研究成果の普及は、今後の事業展開等において役立つものであると評価できる。 効率性：調査研究の実施、報告書及びガイドブック等の作成にあたっては、外部人材を活用して効率的かつ専門的に行うなど、経済的・時間的効率の向上を図った。					

2. 定量的評価

観 点	調査結果の普及 媒体数				
判 定	A				
事業計画どおりに報告書及びガイドブック等を作成。また、科学研究費補助金においても3年間の研究成果をまとめた報告書を作成した。報告書においては、女性/男女共同参画センター、都道府県の男女共同参画担当課長等に送付するとともに、NVEC ホームページ及び会館リポジトリにダウンロードできる形で掲載をした。さらに、大学における女性研究者支援及び男女共同参画を推進する上で必要な情報や事例をまとめたガイドブックを作成。外部の出版社を通じて市販することで、より広く調査研究成果を普及することに尽力した。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	年度計画どおりに実施されており、当初、会館刊行予定であったガイドブックを、出版社を通じての市販に変更し、より広く調査研究成果を普及した。 また、初めての試みとして、Web によるアンケート調査(プリテスト)を行うなど、今後の調査研究実施において、人的・時間的効率など参考となるものである。
達成	各調査研究において、報告書やガイドブックの作成、Web サイトの開設・運営・保守等、年度計画どおりに実施されており、併せて、NVEC ホームページや会館リポジトリ等によりダウンロードできる形で掲載した。また、主催事業にて調査報告を行い、すべてにおいて高い評価を得るなど、男女共同参画の普及に努めた。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
来年度も継続する調査研究においては、ナショナルセンターとして引き続き女性/男女共同参画センターや自治体等と連携して事業や報告、講義等を行い調査研究成果の普及に努めるとともに、Web サイトを随時更新する。新規の調査研究においては、女性のキャリア支援に関し、放送大学等との連携により教材を作成するなど、教育機関、女性関連施設等が活用しやすい情報の収集・共有・発信にも努める。

(別紙)

事業実績（調査研究成果の普及）

年度	指 標	作成部数
平成二十三年 度	男性の地域活動および男女共同参画に関するアンケート調査 ー全国の女性関連施設との連携協力にもとづく調査ー	1,300
	韓国における女性への起業支援と地域の活性化ー韓国調査報告書ー	1,000
	女性関連施設の指定管理者導入施設に関する調査報告・事例集	1,000
	NWEC国際シンポジウム報告書（日本語）	1,200
	NWEC国際シンポジウム報告書（英語）	1,000
	NWEC実践研究 第2号	800
平成二十四 年度	地域課題の解決と女性の経済的自立に向けて	900
	男女共同参画と男性 男性の家庭・地域参画を進める学習プログラムハンドブック	1,100
	女性関連施設の災害関連事業に関する調査報告・事例集	800
	NWEC国際シンポジウム報告書（日本語）	1,000
	NWEC国際シンポジウム報告書（英語）	650
	NWEC実践研究 第3号	800
	ミニ統計集「日本の女性と男性」（日本語）	3,000
	ミニ統計集「日本の女性と男性」（英語）	1,000
	大学における男女共同参画についてのアンケート調査報告書（科学研究費補助金）	1,000
	女性のキャリア形成に関する実証的・実践的研究ー複合キャリア形成過程とキャリア学習ー報告書（科学研究費補助金）	100
	社会参画と女性のキャリア形成事例集（科学研究費補助金）	800
平成二十五 年度	男女共同参画の視点に立った若者のキャリア形成支援ハンドブック	1,000
	男女共同参画の視点に立った外国人女性の困難等への支援のための参考資料	900
	ミニ統計集「日本の女性と男性」（日本語）	2,000
	ミニ統計集「日本の女性と男性」（英語）	500
	女性関連施設の情報事業に関する調査報告・事例集	1,000
	NWEC国際シンポジウム資料集	250
	NWEC実践研究 第4号	800
	国連婦人の地位委員会(CSW)早わかり	1,000
平成二十六 年度	実践ガイドブック 大学における男女共同参画の推進	450
	2014NWECリーダーセミナーレポート（日本語）	300
	2014NWECリーダーセミナーレポート（英語）	200
	NWEC国際シンポジウム資料集	200
	NWEC実践研究 第5号	800
	第59回 国連婦人の地位委員会(CSW)早わかり	1,500
	女性研究者支援のためのシステムの構築と政策提言のための研究ー日中韓の比較からー報告書	150

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために とるべき措置 3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (2) 全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等の提供
年度計画の項目 (I-3-(2)) ①	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために とるべき措置 3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (2) 全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等の提供 ① 情報資料の収集・整理・提供 (大学・企業関係資料の充実)

事業名	情報資料の収集・整理・提供 (大学・企業関係資料の充実)
担当課室	情報課
スタッフ	専門職員 (2) 係長 (1) 係員 (4) 計7名

年度実績概要	1. 趣旨 男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書館として、広域的、専門的な資料・情報を収集し、多様な手段で広く一般に提供することにより、男女共同参画社会の推進を図る。 2. 実施概要 男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書館として、地域レベルでは収集困難な広域的、専門的な資料・情報の収集を図った。更に、収集した資料を個人向け及び団体向けに館外貸出した他、レファレンス・サービス、文献複写サービス、情報研修プログラムの実施等により広く利用に供し、男女共同参画のための情報提供を行った。 3. 成果 【収集資料】 「収集資料統計」参照。平成26年度は、特に中央省庁、企業、大学等の女性活躍やダイバーシティ推進に資する資料の収集を継続して行い受け入れた。また大学の刊行する男女共同参画に関するニューズレター等も全国を網羅するよう努めた。これらは、女性教育情報センターに受け入れ、広く一般の利用に供している。 【利用状況】 「利用状況統計」参照。データベースやリポジトリの充実により、直接的なレファレンスや文献複写サービスは利用が減少傾向にあるが、パッケージ貸出等で毎年1万冊以上の利用がされている (平成26年度末の図書累計冊数約13万冊中)。 【学習支援】 図書資料の展示を年に4回行った。主催事業と連動した展示である「女性と仕事の現在」や「女性と映画」等を実施すると同時に、資料リストを女性情報ポータルWinet上で公開し、男女共同参画の推進のための学習・教育を支援した。 更に、埼玉大学との連携授業「男女共同参画社会を考える」や、埼玉県私立短期大学協会との連携事業「平成26年度女子大学生のためのキャリア形成講座」を実施し、その中で、統計を用いた講義、女性教育情報センターを利用した情報検索の実習等を担当したことにより、レポート作成のための資料情報の収集選択スキルアップの支援を行った。			
実績を裏付けるデータ	年度詳細は別紙参照			
事業実績				
指標	H23	H24	H25	H26
収集資料統計				
・図書資料	3,953	2,358	3,894	2,357
・新聞切り抜き	19,501	19,478	22,225	22,657
資料等利用者数 (人)	8,185	7,379	8,051	9,384
貸出資料総数 (冊)	11,886	9,550	11,109	10,579
文献複写サービス件数 (件)	928	850	829	764

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点 判 定	適時性	独創性	発展性	効率性	
	A	A	A	A	

適時性：大学と連携して授業を実施したことは、より若年層への男女共同参画の知識を普及するという時宜に合わせた事業として評価できる。

独創性：「新聞切り抜き」は、NWE0設立当初から全国・地方紙（50紙）より女性関連記事を収集し、更にタイトル等を独自にデータベース化して公開しており、専門性に優れたコレクション構築として高く評価できる。

発展性：高等専門学校図書館へ図書パッケージ貸出サービスを開始したことは、より若年層へ男女共同参画の知識・情報を提供し、男女共同参画社会を幅広い年代で推進するという発展性が評価できる。

効率性：大学の男女共同参画担当部署が発行する資料の収集・展示は、各自治体の男女共同参画部署が発行する資料の収集・展示とあわせて、特定の地域や機関で網羅できない資料をナショナルセンターとして集中的に収集しており、効率性が評価できる。

2. 定量的評価

観 点 判 定	資料・情報の収集数				
	A				

収集資料は、図書・行政資料は新規に2,357冊を受け入れ、累積が約12万9千冊、新聞切り抜きは22,657件増加し、累積約38万7千件に達し、パッケージ貸出等で、資料の利用も着実に図られていることは、定量的に評価できる。

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	地域レベルでは収集困難な広域的・専門的な国内外の資料・情報の収集、提供に着実に取り組んでいる。
達成	資料の収集は着実に取り組まれており、リポジトリの充実により文献複写サービスの利用は減少しているが、パッケージ貸出等で資料の利活用が図られている。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
企業の女性活躍やダイバーシティ担当部署が発行する資料の収集は、内部資料等が多く困難なため、ダイバーシティ推進に資する資料全般を重点的に収集することとし、中央省庁・高等教育機関・研究機関・地方自治体等、収集の対象を広げ、目配りをしたい。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (2) 全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等の提供
年度計画の項目 (I-3-(2)) ②	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (2) 全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等の提供 ②女性情報ポータル及びデータベースの整備充実

事業名	女性情報ポータル及びデータベースの整備充実
担当課室	情報課
スタッフ	専門職員(2) 係長(1) 係員(4) 計7名

年度実績概要				
1. 趣旨 「女性情報ポータル“Winet”(Women's information network, ウィネット)」は、女性の現状と課題を伝え、女性の地位向上と男女共同参画社会の形成を目指した情報の総合窓口である。次の3要素で構成され、日々、データやコンテンツを継続的に整備充実することにより、政策担当者、研究・学習者、団体・グループ関係者、メディア関係者等ユーザのニーズに、迅速・的確に応えるアクセス手段を提供している。 ・女性情報ナビゲーション(リンク集。インターネット上の有用な資源への道案内) ・NWEC作成のデータベース ・女性情報CASS(NWEC作成のデータベース、及び他の関連機関のデータベースの横断検索) 2. 実施概要 女性情報ポータル“Winet”の組織的なデータ更新、充実を図るとともに、利便性の高いポータルサイトを目指す。今年度はコンテンツの随時追加・修正等を行うとともに、女性情報ナビゲーションのトップ画面をリニューアルし、関係府省の情報を追加、「国立女性教育会館リポジトリ」を構築・公開するなど、ユーザビリティの向上と提供情報の充実を図った。 ○データベース化件数：637,770件(36,066件増) ○アクセス件数：361,721件(5,585件減) 3. 成果 第3期中期計画期間中の目標値である、アクセス件数30万件、データベース化件数60万件は平成25年度に既に達成しているが、平成26年度もアクセス件数は年度目標の30万件を上回った。 (1)「女性情報ナビゲーション」 リンク1,119件(追加71件、修正41件、削除17件) トップ画面をリニューアルし、分野「最新情報」に、関係府省現時点の事業や調査研究へのリンクを追加した。 (2)「文献情報データベース」 総件数567,409件(26,567増) 新規に受け入れた図書、雑誌、地方行政資料、和雑誌記事、新聞記事等のデータを登録した。 (3)「国立女性教育会館リポジトリ」 これまでは、埼玉県内の大学等の地域共同リポジトリ「SUCRA(さくら)」にNWEC作成資料や「日本女性のミニコミ」を掲載し、発信してきたが、国立情報学研究所のJAIRO Cloudを利用し、NWEC独自のリポジトリを公開した。総件数6,687件。 (4)「女性情報レファレンス事例集」累計280事例(16事例増) (5)「女性関連施設データベース」のデータ登録・更新を、Webシステムを活用して、全国の各施設職員が直接行った。登録数 施設概要614件(内、Web登録の施設は179館)、実施事業(情報・相談以外) 32,395件(内、平成26年度開催の事業は305件)、情報事業369件、相談事業316件。 (6)「女性と男性に関する統計データベース」は更新された統計について、最新の数値を反映した。また『男女共同参画統計ニュースレター』(男女共同参画の推進に向けた統計の活用に関する調査研究により作成)のバックナンバーと英語目次をホームページに掲載した。				
実績を裏付けるデータ				
平成26年度の詳細は別紙参照				
事業実績				
指標	H23	H24	H25	H26
データベース化件数	545,671	573,394	601,634	637,770
アクセス件数	273,456	285,985	367,306	361,721

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性：女性情報ナビゲーションの分野「最新情報」に、関係府省現時点の事業や調査研究へのリンクを追加したことは情報提供の適時性を高めている。 独創性：「文献情報データベース」において、女性情報シソーラスに基づく件名の付与することにより、パッケージ貸出等で資料の選定に詳細な検索が可能となっていることは、独自性、高度専門性として評価できる。 発展性：「男女共同参画人材情報データベース」「女性関連施設データベース」の提供は、他機関の研修事業における講師や研修プログラムの参考とされ、地方の男女共同参画事業の推進に役立つものである。 効率性：「女性情報レファレンス事例集」は、全国の女性関連施設の情報専門職をサポートメンバーに作成しており、他機関と連携して効率化を図っている。					

2. 定量的評価

観 点	データベース化件数	アクセス件数			
判 定	A	A			
○データベース化件数：637,770件（36,066件増） ○アクセス件数：361,721件（5,585件減） ○女性関連施設相談員研修「相談事業に役立つ国立女性教育会館の情報機能」：有用度98.7%（非常に有用29.1%、有用69.6%） ○大学等における男女共同参画推進セミナー「大学等における男女共同参画関連情報」：有用度87.0%（非常に有用17.4%、有用69.6%）					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	平成26年度のアクセス件数は、中期計画期間中の目標30万件を上回り、情報更新の一層の見える化、情報発信力の拡充を図った成果が出ている。データベース化件数も637,770件と目標値60万件以上を達成した。
達成	アクセス件数もデータベース化件数も中期計画の目標値を達成した。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
ポータルコンテンツの一つ「女性情報ナビゲーション」は平成18年4月に公開して以来、リンク先の追加、修正、削除（サイトがなくなった場合）は行ってきたが、全般的な見直しは行っていない状態であった。平成26年度はトップページのリニューアルを行った。次年度はサブカテゴリ、リンク先の見直しを行い、最新の情報が幅広く入手できるよう内容の充実を図り、わかりやすく整理して提供する。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (2) 全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等の提供
年度計画の項目 (I-3-(2)) ③	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (2) 全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等の提供 ③図書のパッケージ貸出

事業名	図書のパッケージ貸出
担当課室	情報課
スタッフ	情報課長(1) 係長(1) 係員(4) 計6名

年度実績概要				
1. 趣旨	各施設における男女共同参画を推進するため、テーマ毎にパッケージ化した図書の館外への貸出しを実施する。合わせて、高校生、大学生を対象として女性教育情報センターにて選書ツアーを実施し、学生が直接選書した図書を団体向けに貸出しする。			
2. 実施概要	平成22年6月よりサービスを開始した図書のパッケージ貸出サービスは、大学、女性関連施設、公共図書館等の機関を対象に、NVEC女性教育情報センターの蔵書から「男女共同参画」や「女性のライフプラン」「家族問題」など、男女共同参画社会の形成を目指した女性・家族・家庭に関する様々なテーマに合致する図書を、原則100冊のパッケージにまとめ、3か月から1年程度、申込機関に貸し出すサービスである。平成26年度から国立高等専門学校機構と連携し、機構が全国の高専図書館へ希望の照会をかけ取り纏め、NVECが取り纏め結果に沿って図書を貸出しする形で、新しく高等専門学校図書館への貸出しを開始した。			
3. 成果	平成26年度までの累計利用機関数は66機関であり、第3期中期目標期間数値目標(20機関以上)を達成した。 平成26年度は34機関の利用があり、77回、7,339冊と、貸出機関、貸出回数は前年度(31機関、75回、7,989冊)より増加した。特に、平成26年度は高等専門学校図書館への貸出を系統的に開始し、大学生や社会人のみならず、より若年層への男女共同参画のための情報や知識の提供を実現した。平成26年度に貸出しを実施した高等専門学校図書館は以下のとおり。 ・群馬工業高等専門学校(平成26年10月～平成27年3月) 50冊 ・長岡工業高等専門学校(平成26年10月～平成27年3月) 50冊 また、山口県山陽小野田市では、市内の大学図書館、高校図書館、公共図書館を巡回展示し貸出しする地域連携パッケージを実施し、計7機関に対して図書の貸出しを実施することにより、地域に対して集中的・網羅的に知識の提供を実現した。 更に、川越市立川越高等学校と連携し、生徒によるNVEC図書選書ツアー・プログラムを実施した。川越市立川越高等学校の生徒と職員が女性教育情報センターに来館し、情報課専門職員による資料検索のレクチャーを行った後、興味のあるテーマの図書を検索した。その後、図書のタイトルを見ながら書棚の間を巡ることで、文化祭で展示したい図書候補を選書し、パッケージ図書として川越市立川越高等学校へ貸出した。図書には、生徒が推薦コメントを作成し、川越市立川越高等学校の文化祭で展示した。			
実績を裏付けるデータ	サービス開始からの利用機関・貸出件数・貸出冊数 利用機関(新規・継続)			
事業実績				
指標	H23	H24	H25	H26
パッケージ貸出件数	55	64	75	77
パッケージ冊数	8,438	6,506	7,989	7,339

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点 判 定	適時性	独創性	発展性	効率性	
	A	A	A	A	

適時性：独立行政法人国立高等専門学校機構と連携し、全国の高等専門学校へNVECの広報及び図書の貸出しを定期的に実施することは、より若年層への男女共同参画の知識の普及を図るという適時性に叶い、高く評価できる。
独創性：専門図書館である女性教育情報センターの蔵書構成を活かして、機関・目的・対象別に男女共同参画社会形成のための知識と情報を提供する「図書のパッケージ貸出サービス」は高度に専門的であり、評価できる。
発展性：大学図書館、高校図書館、公共図書館と、館種を超えた図書館へ貸し出す地域連携パッケージは、地域の連携ネットワークへ発展する可能性があり、高く評価できる。さらに、図書選書ツアー・プログラムは高校の授業との連携や、高校図書館の利用への結びつけ等今後の幅広い連携につながる可能性があり評価できる。
効率性：学習支援、事業支援として様々なテーマの図書をパッケージ化して機関に貸し出すサービスは、全国の図書館等を拠点として一定期間図書を貸し出すことにより男女共同参画の知識の普及を図っているため、効率性が高く評価できる。

2. 定量的評価

観 点 判 定	連携機関数	貸出数			
	S	A			

平成25年度に引き続き利用機関を確実に拡大し、累計66機関への貸出しを実施した。平成26年度は34機関に対して年間77回、延べ7,339冊の資料を貸出しし、年度目標4機関以上を大幅に上回る実績をあげ、第3期中期目標期間数値目標（累計20機関以上）を達成した。

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	図書パッケージ貸出サービスでは、利用機関の大幅な拡大を実現し、男女共同参画の推進のための学習支援に貢献した。
達成	また、遠隔地への図書の貸出しを通じて、女性教育情報センターが収集した専門的な資料を全国で活用できる図書サービスの拡大、館種を超えた図書館の連携ネットワークへの発展性が高く評価できる。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
図書パッケージ貸出業務の効率化と、今後の利用機関の拡大へ対応するため、利用機関と連携して業務の定型化を一層進める。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(3))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (3) 女性アーカイブ機能の充実
年度計画の項目 (I-3-(3)) ①	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (3) 女性アーカイブ機能の充実 ①女性アーカイブ機能の充実

事業名	女性アーカイブ機能の充実
担当課室	情報課
スタッフ	情報課長(1) 専門職員(2) 計3名

年度実績概要	1. 趣旨 女性に関する過去の歴史的事実および現在の状況を検証し、現代の問題へのアプローチを可能とするため、歴史的価値・研究資料的価値を有する女性関係史・資料の収集・整理・保存および提供・公開を行い、男女共同参画の推進に関する啓発、学習・研究支援等に資する。 2. 概要 女性アーカイブセンターにおいて、女性関係史・資料を収集・整理・保存し、閲覧・展示・データベース等によって提供・公開する。NVECのもつ全国の女性関連施設とのネットワークを活かして東日本大震災に関する史・資料のアーカイブ化を進め、国立国会図書館が運営するポータルサイトと連携させる。また、企画展示を他機関と連携して実施する。 3. 成果 順調に事業を推進し、今年度の数値目標を達成することができた(【評価指標】参照)。 女性の視点からの災害復興支援活動記録を収集・保存する「NVEC災害復興支援女性アーカイブ(http://w-archive.nvec.jp/saigai)」にデータを提供しているNPO法人と、平成27年3月の第3回国連防災世界会議において一般向けイベント「フォトボイスとアーカイブ」を共催した。 また、展示用パネルおよび資料について他機関より利用の申し込みがあり、貸出を行った。 【評価指標】 ○資料の収集・デジタル化(年度目標1千点以上) 新規受入1,081点 資料選定委員会の助言に基づいて、資料の新規受入を行い、「女性デジタルアーカイブシステム(http://w-archive.nvec.jp/)」を通じて、全ての目録データと一部の画像データをインターネット上に公開した。 ○展示室利用(平成26年度までの累積目標3万8千件以上) 累計40,774件 所蔵展示および企画展示を実施し、8,044件の入場者数を記録した。 ○企画展示における他機関との連携状況(期間中に5機関以上) 7機関の企業・団体等および個人6名から資料提供等の協力を得た。また連携企画として、日本の女性映画監督によるトーク付き上映会を2回実施した。			
実績を裏付けるデータ	事業実績			
指標	H23	H24	H25	H26
デジタル化した史・資料点数(点)	1,068	1,256	1,079	1,081
展示室への入室件数(件)	11,276	10,658	10,796	8,044
企画展における連携機関数(機関)	7	7	5	7

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	独創性	発展性	効率性		
判 定	A	A	A		
独創性：全国の女性関連施設と連携して「女性デジタルアーカイブシステム」を独自に構築し、収集した資料の目録情報と一部の画像をインターネットで公開している点に高度専門性がある。また、「NWEC 災害復興支援女性アーカイブ」は、女性の視点を災害復興支援記録に活かすという独自性を持っている。 発展性：企画展示においては、「女性と映画との関わり」というテーマのもと、連動企画等によって多角的に情報を提供できた。また、展示用パネル・資料の貸出により、貸出先機関の事業に寄与している。 効率性：「NWEC 災害復興支援女性アーカイブ」は、女性関連施設がデータ登録を自ら行う一方、システム構築用経費を負担せず済み、労力と費用の両面で相互に効率的な仕組である。アーカイブ資料の一部は科研費の配分を得て登録作業を行っており、NWEC の予算負担減に貢献している。 また、展示用パネル・資料の貸出によって、相手館は最小の労力で展示事業ができ、NWEC も事業の成果を広めることができるため、効率性において高く評価できる。					

2. 定量的評価

観 点	収集数	デジタル化数	他機関との連携数	展示室入場者数	
判 定	A	A	A	A	
○資料の収集・デジタル化数：平成 26 年度 1,081 点（延べ 4,484 点） ○連携機関数：7 機関 ○展示室入場者数：平成 26 年度 8,044 件（H23 年度からの累計 40,774 件）					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	各取組を順調に進め、今年度の数値目標を達成することができた。中期計画期間中の目標値に向けて、展示室入場者数も昨年度より若干増加させることができた。また、展示、インターネットによる公開、パネル等の貸出しといった様々な形で女性アーカイブを活用し、他機関と連携しながら事業の展開を図っている。
達成	女性に関する史・資料を H23 年度から約 4,500 件収集し、中期目標期間中に 5,000 件以上収集するとの目標を達成しつつある。収集した史・資料のインターネットによる提供も継続中である。 展示室への入室件数も、H23 年度からの累計が約 4 万件となり、中期目標である累計 5 万件以上に近づいている。女性アーカイブの企画展を 5 機関以上と連携して実施する目標は毎年達成している。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
引き続き NWEC の持つネットワークを活かして各機関と自発的に交渉し、「女性デジタルアーカイブシステム」と「NWEC 災害復興支援女性アーカイブ」の参加機関を増やし、公開する資料を充実させていく。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(3))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (3) 女性アーカイブ機能の充実
年度計画の項目 (I-3-(3)) ②	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (3) 女性アーカイブ機能の充実 ②女性情報アーキビスト養成研修

事業名	女性情報アーキビスト養成研修（基礎コース）＋（実技コース）
担当課室	情報課
スタッフ	情報課長（１）専門職員（２） 計３名

年度実績概要	1. 趣旨 女性に関する原資料（女性アーカイブ）の具体的な保存技術や整理方法を体系的に学ぶ最初の一步として実務者を対象に基礎情報を提供する。また、関係者相互に情報交換を行い、ネットワークづくりを進める。基礎コース修了者向けには実習を取り入れたより実践的なプログラムを提供する。 2. 実施概要 「基礎コース」の修了者を対象に、実務に必要な基本的な技術を学ぶためのより実践的な「実技コース」を実施した。「基礎コース」では、全国の女性関連施設での女性アーカイブ構築や連携状況に着目し、事例紹介を取り入れた。「実技コース」は、紙資料修復に関する実技実習のほか、資料展示の手法について学ぶプログラムを、実際の展示室を活用したワークショップ形式で行った。 3. 開催日時（場所） 平成26年12月10日（水）～12月12日（金）（会場：NVEC） 「基礎コース」：平成26年12月10日（水）～12月11日（木）1泊2日 「実技コース」：平成26年12月11日（木）～12月12日（金）1泊2日 【評価指標】 ○女性アーカイブ実務者への学習支援状況（年度目標20名以上） 「女性情報アーキビスト養成研修（基礎コース）＋（実技コース）」を実施し、「基礎コース」に27名、「実技コース」に10名の参加を得た。 ○アーカイブ実務者同士のネットワーク構築支援 「女性情報アーキビスト養成研修（基礎コース）」において情報交換会を実施した。実施にあたっては全員が自身の所属機関や担当業務等を紹介する時間を設け、場の提供のみにとどまらず、それぞれの立場や仕事状況などについて相互理解を深められるよう配慮した。また、希望者にはNVECメールマガジンの登録を行い、女性アーカイブセンターを含むNVEC実施事業に関する案内を開始した。過去の修了者間では、有志が集まりNVECフォーラムに参加するなどの交流が続いている。																												
実績を裏付けるデータ	事業実績 参加者数（基礎コース） <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>H26</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者定員（人）</td><td>30</td><td>30</td><td>30</td><td>30</td></tr> <tr> <td>参加者数（人）</td><td>40</td><td>32</td><td>34</td><td>27</td></tr> <tr> <td>満足度（％）</td><td>93.9</td><td>93.1</td><td>95.7</td><td>100.0</td></tr> <tr> <td>有用度（％）</td><td>97.2</td><td>97.4</td><td>98.6</td><td>98.7</td></tr> </tbody> </table>				指標	H23	H24	H25	H26	参加者定員（人）	30	30	30	30	参加者数（人）	40	32	34	27	満足度（％）	93.9	93.1	95.7	100.0	有用度（％）	97.2	97.4	98.6	98.7
指標	H23	H24	H25	H26																									
参加者定員（人）	30	30	30	30																									
参加者数（人）	40	32	34	27																									
満足度（％）	93.9	93.1	95.7	100.0																									
有用度（％）	97.2	97.4	98.6	98.7																									

参加者数（実技コース）

指標	H23	H24	H25	H26
参加者定員（人）	－	10	10	10
参加者数（人）	－	18	11	10
満足度（％）	－	100.0	100.0	100.0
有用度（％）	－	100.0	100.0	100.0

H26年度の感想・意見等（自由記述より一部抜粋）

① 基礎コース

- ・アーカイブの概要や必要性がよく理解でき、今後に役立つ講義だった。（女性アーカイブ概論）
- ・実例や苦労話など具体的な説明で大変参考になった。もっと聞きたかった。（アーカイブの実践）

② 実技コース

- ・実際に自分たちで案を出し合うことができたので、先生のお話を体験したことにより自分の中で深く落とし込むことができたと感じた。（アーカイブ展示の手法）
- ・実際に修復ができ、内容も濃く、非常にためになった。（紙資料修復の実践）

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性		
判 定	A	A	A		
適時性：女性アーカイブの構築・運営に役立つ基礎的かつ実践的な情報を提供しており、ナショナルセンターとして全国的に女性アーカイブ構築の推進を支援する取り組みとして評価できる。 独創性：女性アーカイブに主眼を置いた専門的な研修プログラムは他に例を見ないものであり、ユニークである点が評価できる。 発展性：研修修了者を講師に招いた実践報告を行い、研修で得たことを活用してその成果を還元する、という形で事業が発展している。また、参加者間および講師とのネットワークが広がることにより、新たな事業展開につながる可能性がある。					

2. 定量的評価

観 点	応募倍率	プログラムの有用度			
判 定	A	A			
○応募倍率 「基礎コース」：0.90 倍= 90%（募集定員 30 名、応募者 27 名） 「実技コース」：1.00 倍=100%（募集定員 10 名、応募者 10 名） ○有用度 「基礎コース」：98.7%（非常に有用 75.8% 概ね有用 22.9%） 「実技コース」：100.0%（非常に有用 72.2% 概ね有用 27.8%）					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定と根拠
A	参加者アンケートでは、「基礎コース」「実技コース」ともに全体の満足度・有用度が95%以上となり、研修内容を高く評価された。質疑応答も活発に行われ、女性アーカイブ担当者が現場で活かせる基礎的な知識を得、疑問を解決するための機会を提供できた。また、過去の研修参加者1名を講師に招いてアーカイブ実践の報告を行ったことは、事業の新しい展開として評価できる。
達成	4年間で延べ172名が参加し、「中期目標期間中に女性アーカイブの基本知識を伝える学習の場を100名以上に提供する」という目的はすでに達成した。また、実務者同士の情報交換の場を提供することでネットワークづくりを推進する役割も果たした。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
参加者にとってより魅力的な研修となるよう、プログラムの内容や全体の流れを見直して改善を図る。基本となる内容を維持しながらも、新しいテーマを取り入れる可能性を探り、更に洗練したプログラムを目指す。あわせて、広報の範囲や手法をより拡張して本研修の周知に努める。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-4-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の室の向上に関する目標を達成するためにと るべき措置 4 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等との連携協力の推進 (1) 国内の関係機関・団体等との協働事業の実施
年度計画の項目 (I-4-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の室の向上に関する目標を達成するためにと るべき措置 4 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等との連携協力の推進 (1) 国内の関係機関・団体等との協働事業の実施

事業名	国内の関係機関・団体等との協働事業の実施
担当課室	全課室
スタッフ	理事長、理事、全職員 計23名

年度実績概要	
1 趣旨	女性関連施設、女性団体、民間団体、企業、大学等と男女共同参画・家庭教育情報に関する情報交換を行うとともに、7以上の機関等と協働で事業を実施し、連携効果による多様な企画や講師の活用を図る。 また、全国の関係機関・団体からの依頼に基づき、積極的に講師を派遣する。
2 全国の関係機関との協働実績について【17機関（実数）（共催8、受託2、後援7）】	(1) 共催機関数：8 ①<u>経済産業省</u>（企業を成長に導く女性活躍促進セミナー） ②<u>一般社団法人埼玉県経営者協会</u>（企業を成長に導く女性活躍促進セミナー（ウーマノミクスセミナー）） ③<u>NPO法人全国女性会館協議会</u>（女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修） ④<u>埼玉大学、埼玉県私立短期大学協会</u>（大学生を対象とした男女共同参画の視点に立った複合的キャリア教育の推進） ⑤<u>日本学術会議「科学と社会委員会 科学力増進分科会」「科学者委員会 男女共同参画分科会」</u>（女子中高生夏の学校2014～科学・技術・人との出会い～） ⑥<u>リーダーシップ111</u>（女子大学生キャリア形成セミナー） ⑦<u>NPO法人フォトボイス・プロジェクト</u>（第3回国連防災世界会議での一般向けイベント「フォトボイスとアーカイブ」） (2) 受託機関数：2 ①<u>独立行政法人科学技術振興機構（JST）</u>（女子中高生夏の学校2014～科学・技術・人との出会い～） ②<u>独立行政法人国際協力機構（JICA）</u>（課題別研修「アジア諸国における人身取引対策協力促進セミナー」） (3) 後援機関数：7 ①<u>経済産業省関東経済産業局</u>（企業を成長に導く女性活躍促進セミナー（ウーマノミクスセミナー）） ②<u>男女共同参画学協会連絡会</u>（女子中高生夏の学校2014～科学・技術・人との出会い～） ③<u>一般社団法人国立大学協会、一般社団法人公立大学協会、日本私立大学団体連合会、日本私立短期大学協会、独立行政法人国立高等専門学校機構</u>（大学等における男女共同参画推進セミナー） (4) 上記の他、 ①「女性関連施設に関する調査」を全国384箇所の女性／男女共同参画センターの協力により実施。 ②「大学等における男女共同参画に関する調査研究」の中間報告を<u>国立大学協会教育・研究委員会男女共同参画小委員会、国立高専機構の勉強会</u>において実施。 ③「女子中高生夏の学校2014」では、36の<u>学会・団体</u>の協力を得た。 ④女性教育情報センターは、図書パッケージ貸出サービスとして<u>大学、高校、女性関連施設等34機関</u>へ貸出しを実施。平成26年度は高等専門学校図書館への貸出しも開始した。また、山口県山陽小野田市では、市内の大学図書館、高校図書館、公共図書館を巡回展示し貸出する地域連携パッケージを実施し、計7機関に対して図書の貸出を実施することにより、地域に対して集中的・網羅的に知識の提供を実現した。 更に、<u>川越市立川越高等学校</u>と連携し、生徒による図書選書ツアー・プログラムを実施した。

- ⑤人身取引啓発パネル『「人身取引」と「女性に対する暴力」をなくすために』を、1. 小牧市まなび創造館 DV 防止週間パネル展、2. 国際ソロプチミスト広島の啓発活動、3. 川越市立川越高校、4. 国際ソロプチミスト東下関を通じて、下関市内の私立高校3校等に貸出し。また、国際ソロプチミスト新居浜みなみを通じて、新居浜市内の公立高校7校にパネル展示用リーフレットを提供した。

3 連携の内容と効果について

- (1) NPO法人全国女性会館協議会との連携においては、互いの知見やネットワークの蓄積を持ち寄りプログラム企画会議を重ねることで、より質の高い研修内容を企画することができた。
- (2) 埼玉県私立短期大学協会との連携においては、短期大学生を対象としたキャリアプランニング研修について協会から寄せられたリクエストにきめ細かく対応することで、実践的なプログラムの開発を進めることができた。
- (3) 埼玉大学との連携で大学における授業の中に NVEC の講義を設けることができ、若年層、特に男子学生に対するアプローチについて知見を深めることができた。
- (4) 女性アーカイブ企画展においては、7 機関の企業・団体等から資料提供等の協力を得た。
- (5) 埼玉県経営者協会からのアプローチにより、埼玉県が実施するウーマノミクス推進委員会の第6回を NVEC が企画・実施。講師謝金や会場（大宮ソニックシティ）借上費用、資料印刷等の経費や事務は協会の負担であったため、NVEC はプログラム企画に専念することができた。
- (6) 平成21年度から実施した国際協力機構（JICA）の受託事業「国別研修タイ」の実績により、平成24年度から26年度までの3年間、アジア諸国を対象とした「地域別（課題別）研修」を NVEC で実施。平成27年度からはアセアン諸国を対象とした「課題別研修」を受託することとなり、今まで以上の連携効果が見込まれる。

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
協働実績(累計件数)	15	30	48	65
協働実績件数	15	15	18	17
内訳 共催件数	13	12	12	8
受託件数	2	2	2	2
後援件数	0	2	4	7

注) 平成24年度については、受託及び後援に同一機関が含まれる。

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	

適時性：あらゆる分野での女性の活躍促進が叫ばれる中で、長年連携を続けている全国の女性関連施設だけでなく、経済分野として経済産業省や経営者協会、学術分野・理工系分野として、大学・短大や日本学術会議「科学と社会委員会 科学力増進分科会」「科学者委員会 男女共同参画分科会」、国・公・私立の大学協会、高専機構との連携等、さまざまな分野の機関を巻き込んだ事業の実施は、研修内容の充実や幅広い参加者の確保が可能となり、時宜にかなった事業展開となっている。

独創性：「女性教育」「男女共同参画の視点に立ったキャリア教育の推進」「女性活用」などをテーマにした研修や授業を、女性センターのみならず、大学、企業、国際分野へと広げて実施していく中で、学会、大学、経営者協会をはじめとする当該分野の専門機関と連携し、参加体験型の学習形態を中心とした事業展開はNVECならではのものである。

発展性：「女子大生キャリア形成セミナー」において「リーダーシップ111」、企業セミナーにおいて経済産業省、経済産業省関東経済産業局と連携しており、このようなネットワークから新たな講師や参加者を呼び込みに繋がる可能性がある。また、大学との連携事業は開発したプログラムを他大学の利用に展開させる可能性をもつ。これまでの実績が評価され、24年度からの3年間JICA受託事業を継続できたことも、連携関係の確実な構築が進んでいる証と言える。

効率性：連携機関による実施経費分担や人的支援、参加者募集による広報への協力等により、経費や人的労力の節減ができたと同時に、連携機関のメンバーに、NVECの事業展開や男女共同参画・女性の活躍促進への理解を進めることができた。

2. 定量的評価

観 点	提携数	講師等派遣数			
判 定	A	A			

○提携数：17機関（共催8，受託2，後援7）
○講師等派遣実績：平成25年度15件 → 平成26年度18件

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	平成26年度は、女性関連施設、女性団体だけでなく、省庁や独立行政法人、大学、学術機関、団体等、さまざまな分野の機関・団体と連携を行い、目標の7機関を上回る17機関と連携ができ、十分目標を達成している。 また、平成23年度からの連携機関の累計も65機関となり、十分に当初の目的を達成している。
達成	

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
連携の実施は、NVECの事業の充実をもたすだけでなく、連携先及び関係者の男女共同参画の取組の促進につながることから、引き続き、あらゆる機会を捉えて拡大していく。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-5-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (1) 男女共同参画及び女性教育に関する国際協力・連携に資する研修の実施
年度計画の項目 (I-5-(1)) ①	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (1) 男女共同参画及び女性教育に関する国際協力・連携に資する研修の実施 ①アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー

事業名	アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー
担当課室	研究国際室
スタッフ	係長(1)、専門職員(1)、派遣社員(1) 計3名

年度実績概要	
1. 趣旨	「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」は、開途上国において男女共同参画の政策策定・政策提言を行う立場にある女性行政・教育担当者、NGOのリーダーを対象に、女性の能力開発を目的としている集団研修である。平成26年度のリーダーセミナーでは、「ICT（情報通信技術）が拓く女性のエンパワーメント」をテーマとして設定し研修を行う。
2. 実施概要	本研修では、日本国内の関連機関の視察や専門家による講義に加え、研修生同士がテーマに関する好事例を学び合うことを目指したカリキュラム構成としている。
3. 開催日時（場所）	平成26年9月29日（月）～10月3日（金）（受入期間 9月28日（日）～10月4日（土）） NVEC、NTTコミュニケーションズ、川越女子高等学校他
【評価指標】	
○アジア太平洋地域における拠点としての取組み	研修生には、出身国（5か国）における男女共同参画政策と、ICTを活用した女性の社会参画の好事例をテーマとしたポスターを事前に提出するよう義務づけた。研修生が作成したポスターは日本語に翻訳、パネルに加工した。パネルは研修終了後も女性教育情報センター前に展示し、国内外からの会館利用者への情報提供などに活用している。
○研修の内容評価（参加者の90%以上からプラス評価を得られたか）	研修の有用度と満足度はともに100%であった。特に企業におけるテレワークの取組み（NTTコミュニケーションズ）と、メディアとジェンダーに関する研究者との意見交換の評価が高かった。
○研修成果の活用調査に基づく研修内容の見直し状況	平成25年度は実践事例報告が、遠方であることと多忙を理由に数名の講師に断られたため講師への依頼が研修開始間際となった。平成26年度は前年より早めに講師交渉を開始したため、円滑に講師を決定することができた。
○参加対象国は過去4年間（平成23年から平成26年）で13か国を網羅した。平成27年度はこれまで参加がなかったミャンマーからの招へいを検討している。	
実績を裏付けるデータ	
1. 参加者の概況 9名	
2. 国籍	カンボジア、インド、ベトナム、フィリピン（各2名）、タイ（1名）
3. アンケート結果	研修の有用度 100%（「非常に有用」56%） 研修の満足度 100%（「非常に満足」89%）
4. 2014NVECリーダーセミナーレポート	デジタル時代におけるジェンダーとICT 日本語 300部、英語 300部

事業実績				
指標	H23	H24	H25	H26
参加者定員（人）	10	10	10	10
参加者数（人）	11	9	9	9
満足度（％）	100	100	100	100
有用度（％）	100	100	100	100
参加国実績（人）				
国名	H23	H24	H25	H26
バングラデシュ	2	—	—	—
カンボジア	1	2	2	2
中国	2	—	—	—
インド	1	—	—	2
インドネシア	1	—	—	—
韓国	1	1	—	—
ネパール	1	—	—	—
パキスタン	1	—	—	—
スリランカ	1	—	—	—
フィリピン	—	2	1	2
タイ	—	2	2	1
ベトナム	—	2	2	2
モンゴル	—	—	2	—

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性：ICTの普及とともに、女性の社会参画に貢献するプラスの側面のみならず、サイバー空間における女性に対する暴力などマイナスの側面が、研修生の参加国においても広く共有されている。本研修のプログラム構成は研修期間中に各国のICTとジェンダーに関する政策や具体的な取組みを学ぶことに主眼をおいた。専門家による講義と関係機関の視察からは、メディアの意思決定部門で活躍する女性の少なさやインターネットを通じた人身取引の事例など日本がかかえる課題について学習し、活発な意見交換をおこなうことができた。 独創性：研修カリキュラムは、NWECCがこれまで築いてきた人的ネットワークを活かし、企業や女性関連施設NPO法人、研究者、学校関係者に講義や視察を依頼し、限られた日程でテーマについて学ぶことができるよう配慮した。 発展性：研修生がNWECC滞在中に行ったカントリー・レポートの報告と議論を基に国別報告をまとめ、2014NWECCリーダーセミナーレポートとして日本語と英語で刊行した。レポートはホームページ上でダウンロード可能な形式で公表し、研修成果の普及につとめている。また英語版レポートは、研修生の所属組織のホームページにもリンクを貼り、公開している。 効率性：日英両言語での研修の企画、講師との調整、実施は専門職員と研究国際係長、派遣社員の3名体制で行い、講義資料の準備、謝金の支払いの手続き等、全て円滑に行うことができた。					

2. 定量的評価

観 点	プログラムの有用度	参加国数			
判 定	A	A			
100%の研修参加者が有用と回答した。特に、教材（とても有用78%）、研修の運営（非常に効率的90%）に関する評価が高かった。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	年度計画どおりに実施されている。アンケートでは満足度、有用度ともに90%以上となっており、研修生のニーズに合致した研修となった。質疑応答も活発に行われ、研修生がICTとジェンダーに関する各国の取組みに関する知識を得る機会を提供できた。 これまでの研修参加者とはフェイス・ブックや国連婦人の地位委員会等で情報交換をするとともに、東南アジア諸国の男女共同参画政策に関する調査研究の協力を得るなど人的交流を継続している。
達成	

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
研修最終日の評価会では、研修生より「日本政府の男女共同参画政策についての講義を望む」との意見があり、次年度以降は検討していきたい。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-5-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (1) 男女共同参画及び女性教育に関する国際協力・連携に資する研修の実施
年度計画の項目 (I-5-(1)) ②	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (1) 男女共同参画及び女性教育に関する国際協力・連携に資する研修の実施 ②国際協力機構との連携による研修

事業名	課題別研修「アジア諸国における人身取引対策協力促進セミナー」
担当課室	研究国際室
スタッフ	研究員(1)、係長(1) 計2名

年度実績概要	
1. 趣旨	独立行政法人国際協力機構(JICA)がアジア太平洋地域において実施する「人身取引被害者保護・自立支援促進プロジェクト」のカウンターパート及び近隣地域の人身取引対策に携わる関係者を対象としたワークショップ型研修。3年計画の第3年次。 人身取引撲滅と被害者保護は一国のみで対応できる課題ではなく、国境を越えた広域的課題として対応するためにも、アジア地域におけるネットワーク形成が重要である。参加者が日本を含め、互いの国の人身取引対策に関する取組みについて相互理解を深め、特に予防、被害者の保護と自立支援に携わる関係機関の役割や協力体制等について把握し、機関の機能強化や連携、国を越えたネットワークの強化に資する方策を検討することを目的として実施した。
2. 実施概要	①参加者 カンボジア、ベトナム、フィリピン、ラオス、ミャンマーの人身取引対策の予防と保護の分野に携わる中央・地方政府機関職員(司法・法執行・入管、ソーシャルワーカー等)。 ②研修内容 ・これまで行ってきた国別研修の経験と成果を踏まえ、①日本・参加国における人身取引予防・被害者保護・帰還・社会復帰の一連のプロセス及び関連機関の関係の把握、グッドプラクティスや課題の共有 ・アジア地域における人身取引対策のネットワーク強化に向けて各国の状況やアプローチの理解と、改善策やネットワーク強化に資する方策の検討を行うための発表と討議 ・日本の人身取引対策の全体像及び男女共同参画視点の女性に対する暴力に対する取組の理解を図るために、行政や民間の関係機関の視察と意見交換の時間を十分にとった。 ・幅広い関係者(①関係省庁等、②国際機関、③県警察、④地方自治体の女性相談所等、⑤民間団体等)を講師・見学先として、意見交換・講義を行った。
3. 開催日時	平成26年10月21日(月)～10月31日(金)(5か国12名：女性8名、男性4名)
開催場所	NWEC、JICA、婦人相談所、女性関連施設、社会福祉協議会、民間団体等
【評価指標】	○アジア太平洋地域における拠点としての取組 研修については委託元及び研修生から高い評価を得ている。また、研修生は、帰国後に自国及びメコン地域で関係者を集めた成果発表会で研修成果を報告しており、NWECが日本で実施した研修成果が各国に広がっている。研修最終日には駐日各国大使館から参加があり、情報を交換の貴重な場であり今後もぜひ参加したいとのフィードバックを得た。

実績を裏付けるデータ

1. 参加者の概況 5か国12名（女性8名、男性4名）（各国政府が選定・推薦しJICAとNVECで選定）

2. アンケート結果 有用度91.7%（とても有用33.3%、有用58.3%）

事業実績

指標	H23	H24	H25	H26
参加者数（人）	14	24	15	12
有用度（%）	100.0	100.0	93.0	91.7

注）H23, H24（一部）は、母語による国別研修、H23～H25 は保護関係者中心、H26 は司法執行関係中心

参加国実績

（人、カッコ内は女性（内数））

国名	H23	H24	H25	H26
タイ	14 (9)	10 (5)	2 (1)	－ (－)
ベトナム	－	3 (1)	3 (2)	1 (1)
ミャンマー	－	5 (5)	5 (3)	5 (4)
フィリピン	－	2 (2)	1 (－)	2 (2)
カンボジア	－	2 (1)	2 (2)	2 (－)
ラオス	－	2 (1)	2 (2)	2 (1)
計	14 (9)	24 (15)	15 (10)	12 (8)

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性：人身取引問題は、地球規模の課題であると同時にアジア太平洋地域は女性や女児の被害が多く、政策的に重要な課題である。グローバル化に伴い移住労働者に関する関心やニーズも高く、適時性が高い。 独創性：人身取引の問題解決のために、受入国と送出国の間で多分野連携協働をテーマに行われる複数か国を対象としたワークショップ型の研修は、他に同様の例はなく独創的である。 発展性：これまで行った課題別研修の評価が高く、平成27年度から新たに3年間の予定で、参加国を変えて研修を行う予定になっており、今後のさらなる発展が望める。日本での研修を契機に、日本で講師を務めた省庁団体関係者がメコンでの研修講師として招聘されている。 効率性：NWECの国際研修実施経験で培ったノウハウや調査研究の知見と女性関連施設・団体等とのネットワークを活かして企画したプログラムである。NWECの研修宿泊施設を利用し、委託管理収入も得ており効率性が高い。					

2. 定量的評価

観 点	プログラムの有用度				
判 定	A				
(終了者アンケートにおける回答) 研修参加者の全体の有用度 91.7% (とても有用 33.3%、有用 58.3%)					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定の理由
A	人身取引の分野における国際研修の実施は、途上国に対する国際貢献と同時に、研修生間の国を越えた相互理解を深めた。国内の行政や女性相談関係者、民間団体が、国際的な課題について認識を深め、国内外のネットワークを深める役割も果たした。研修生からは帰国後に自国で役立つ知識や情報を得たとともに、日本の男女共同参画施策及び女性に対する暴力に対する活動を学ぶ貴重な機会になったと高く評価された。
達成	人身取引の分野で、途上国の女性の置かれている立場に着目して、被害の防止や女性被害者の保護とエンパワーメントの観点で、参加5か国の連携を目的にワークショップという参加型・実践的研修を実施したことや、NWECの調査研究や国際・国内研修の成果を活用したことで本研修の充実を図ったことは、地球規模の課題を取り上げ国際貢献、連携協力を推進するという中期計画の目的に合致している。また、平成27年度以降も新たな参加国を増やして実施することが既に決定している。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
集団研修では、共通語である英語力の水準が一定程度以上あることが不可欠である。国によって人身取引を巡る状況が大きく異なり、法執行や保護など担当分野が異なる研修生一人ひとりの研修ニーズが異なる。異なる背景の参加者の研修効果を高め、活発な意見交換を図るために、意見交換のありかたや視察先の選定、幅広い人身取引関係問題で何をテーマに取り上げるかなど、研修の企画・運営を引き続き工夫していく必要がある。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-5-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (1) 男女共同参画及び女性教育に関する国際協力・連携に資する研修の実施
年度計画の項目 (I-5-(1)) ③	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (1) 男女共同参画及び女性教育に関する国際協力・連携に資する研修の実施 ③NWE C国際シンポジウム

事業名	NWE C国際シンポジウム
担当課室	研究国際室
スタッフ	係長(1)、専門職員(1)、派遣社員(1) 計3名

年度実績概要	1. 趣旨 本事業の目的は女性の人権、女性の能力開発、人材育成等地球規模の課題をテーマに海外専門家を招へいし、アジア太平洋地域の課題分析を行い、海外の研究者や行政関係者、女性団体等指導者との交流を深めるとともにネットワークづくりを進めることである。 2. 実施概要 行政職員、在日大使館職員、女性関連施設職員、大学院生、援助関係者等を対象として、「ダイバーシティ推進と女性のリーダーシップ」をテーマとした国際シンポジウムを実施した。 3. 開催日時（場所） 平成26年11月21日（金）13：30～17：00（霞が関ナレッジスクエア） 【評価指標】 ○アジア太平洋地域における拠点としての取組み (1) 女性教育のナショナルセンターとしての人的ネットワークを活用して、国内外から専門家を招へいし、シンポジウムのテーマについて課題を共有し、解決のための方策について議論することを目指した。 (2) アジア太平洋地域における男女平等政策について、参加者と海外の専門家が意見交換を行うことができる場を設定した。 ○シンポジウムの内容評価 (1) 第Ⅰ部基調講演では、男女間の賃金格差を是正するためのニュージーランド人権委員会の取組について講演を行った。第Ⅱ部パネルディスカッションでは、ワーク・ライフ・バランス実現のための政策課題や、日本社会の構造変化がもたらした男性の変容について議論を行った。 (2) 基調講演とパネルディスカッションの資料は事前に日英二か国語の資料集を作成し、シンポジウム参加者に配付したほか、NWE Cのホームページ上でもダウンロード可能な形式で公表している。また基調講演の動画も配信している。																												
実績を裏付けるデータ	1. 参加者概況 56名（定員 50名） 2. アンケート結果 有用度 第Ⅰ部基調講演 91%（「非常に有用」57%、「有用」34%） 有用度 第Ⅱ部パネルディスカッション 83%（「非常に有用」57%、「有用」25%） 満足度 88%（「非常に満足」57%、「満足」31%） 事業実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th><th>H26</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者定員（人）</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>50</td></tr> <tr> <td>参加者数（人）</td><td>130</td><td>80</td><td>114</td><td>56</td></tr> <tr> <td>満足度（%）</td><td>100</td><td>100</td><td>97</td><td>88</td></tr> <tr> <td>有用度（%）</td><td>96</td><td>99</td><td>87</td><td>87</td></tr> </tbody> </table>				指標	H23	H24	H25	H26	参加者定員（人）	100	100	100	50	参加者数（人）	130	80	114	56	満足度（%）	100	100	97	88	有用度（%）	96	99	87	87
指標	H23	H24	H25	H26																									
参加者定員（人）	100	100	100	50																									
参加者数（人）	130	80	114	56																									
満足度（%）	100	100	97	88																									
有用度（%）	96	99	87	87																									

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	

適時性：日本政府は「女性が輝く社会」を核とした政策のもと、女性がその能力を最大限発揮できる環境整備を進めている。女性の社会進出を確かなものとするためには、就労の場におけるダイバーシティ（多様性に基づく人材登用）の推進が不可欠である。平成26年度は「ダイバーシティ推進と女性のリーダーシップ」をテーマに設定し議論を喚起した。

独創性：男女共同参画の先進国であるニュージーランドの事例を提示するとともに、これまであまり論じられてこなかった男性の視点から日本の社会や家族の変容についてジェンダー分析を行った。

発展性：国際シンポジウムでの議論をより広く普及させるため、今年度より基調講演に日本語字幕をつけ動画配信をNWECホームページ上で開始した。

効率性：シンポジウムの企画、講師との調整、実施は専門職員と研究国際係長、派遣社員の三名体制で行い講義資料の準備、謝金の支払いの手続き等、全て円滑に行うことができた。また、当日配布資料を事前に資料集として冊子に印刷しシンポジウム終了後も、参加者が学習・普及啓発活動のために活用できるよう留意した。

2. 定量的評価

観 点	応募倍率	プログラムの有用度	プログラムの満足度		
判 定	A	A	A		

○応募倍率 定員 50 名、応募者 56 名

○有用度 第Ⅰ部基調講演 91%（「非常に有用」57%、「有用」34%）

○有用度 第Ⅱ部パネルディスカッション 83%（「非常に有用」57%、「有用」25%）

○満足度 88%（「非常に満足」57%、「満足」31%）

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	年度計画どおりに実施されている。社会の中で女性が十分に能力を発揮することができることを目指して、「女性が輝く社会」政策が進められている。本事業を通じて、ニュージーランドと日本における男女平等を推進するための最新の情報を学ぶ場を設けた。
達成	過去4年間、災害復興とジェンダー、男性にとっての男女共同参画など、地球規模の課題をテーマとして国際シンポジウムを実施した。男女共同参画の推進に係る先進的な取組に関する議論を深める場を提供することは、中期計画の目的に合致している。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
参加者からは「企業における女性リーダーの具体的な事例をききたかった」との意見も寄せられた。次年度以降は、テーマや対象とする層に応じて、講演者ならびに会場等を選定することにより、事業内容の一層の充実を図る。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-5-(3))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (3) 国際的なネットワークの構築
年度計画の項目 (I-5-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (2) 国際的なネットワークの構築

事業名	国際的なネットワークの構築
担当課室	研究国際室
スタッフ	研究国際室長(1)、研究員(2)、専門職員(1)、係長(1) 計5名

年度実績概要	
1. 海外の協定締結機関等との関係 (1) 韓国両性平等教育振興院 (KIGEPE, Korean Institute for Gender Equality Promotion and Education) 平成 18 年 4 月 26 日、交流及び協力に関する協定を締結 (2) 韓国女性政策研究院 (KWDI, Korean Women's Development Institute) 平成 18 年 9 月 28 日、研究交流及び協力に関する協定を締結 平成 26 年 8 月 19 日、同院ヤン・エギョン前女性親和政策戦略委員長が来館、会館職員と交流・意見交換を行う。 (3) フィリピン大学機構 (University of the Philippines System) 平成 21 年 3 月 11 日、学術協力に関する協定を締結 (4) 延辺大学女性研究中心 (中華人民共和国吉林省) 平成 21 年 5 月 12 日、研究交流及び協力に関する協定を締結 (5) カンボジア王国女性省 (Ministry of Women's Affairs of Kingdom of Cambodia) 平成 22 年 4 月 6 日、交流と協力に関する協定を締結 平成 26 年 9 月、アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナーに同省職員が参加。 平成 27 年 1 月 20 日～29 日、研究国際室研究員及び専門職員が「東南アジアにおける男女平等政策に関する比較研究」(科学研究費補助金)の現地調査に訪問し、パピー女性省大臣や研究員と意見交換を行う。 2. 国際的なネットワークの構築 平成 26 年 6 月 15 日～18 日、研究国際室研究員及び事業課専門職員が「女性研究者支援のためのシステムの構築と政策提言のための研究-日中韓の比較から-」(科学研究費補助金)の中国調査で、清華大学、北京大学、中華女子学院、中華全国婦女連合会を訪問し、交流・意見交換を行う。調査の成果を「NWEC 実践研究」第 5 号に掲載。 平成 26 年 9 月 29 日～10 月 3 日、NWEC 国際研修「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」を開催。カンボジア、インド、フィリピン、タイ、ベトナムから 9 名が参加。 平成 26 年 11 月 21 日、「NWEC 国際シンポジウム」を開催。基調講演者としジュディ・マクレガー氏(ニュージーランド)を招聘。基調講演動画を NWEC ホームページより配信。 平成 26 年 10 月 20 日～10 月 31 日、国際協力機構(JICA)課題別研修「アジア諸国における人身取引対策協力促進セミナー」を開催。ミャンマー、ベトナム、フィリピン、カンボジア、ラオスから 12 名が参加。 平成 27 年 2 月 16 日、日仏大学会館長 マリー・クレール レット フランスストラスブール大学教授が来館し、フランスの女性研究者事情等に関する講話および会館職員と交流・意見交換を行った。 平成 27 年 3 月 9 日～20 日、Commission on the Status of Women(CSW: 第 59 回 国連女性の地位委員会)に日本政府代表団の一員として、研究国際室研究員および専門職員、事業課専門職員の 3 名が参加(ニューヨーク)。	

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	

適時性：協定締結機関とは、国際研修や調査研究を通じての交流が引き続き行われており、NWEC がアジア太平洋地域との連携を強化していくためにも適切なものである。また、研修修生とは、調査研究・科学研究費補助金事業での海外調査の実施や CSW において、更にネットワークの構築を図った。

独創性：平成 23 年度から日本政府代表団の一員として参加をしている CSW について、「男女共同参画推進フォーラム」にて報告。また、平成 25 年度に作成した「国連婦人の地位委員会 (CSW) 早わかり」の改訂版として「第 59 回国連婦人の地位委員会 (CSW) 早わかり」(リーフレット)を作成。

発展性：協定締結機関からの国際研修参加をはじめ、海外 3 機関以上へ調査研究・科学研究費補助金事業で訪問するなど、来年度以降の調査研究や事業を展開していくためにも適切なものである。

効率性：国際協力機構から外部資金を得ることにより、管理経費の削減に努めるなど、効率的に事業を実施している。

2. 定量的評価

観 点	協力関係機関数				
判 定	A				

女性教育情報センター前での国際研修使用パネルの展示や NWEC ホームページのみならず、Facebook 上でのシンポジウム参加募集、実施報告掲載など、研修前後から交流を深めるとともに、海外機関からの来館者に対し、これまで実施した調査研究の成果を報告、講義、情報提供等により広く普及した。

平成 26 年 8 月に協定先である韓国女性政策研究院 (KWDI) から来館、平成 27 年 1 月にカンボジア王国女性省を現地調査のため訪問、協定先以外でも、平成 26 年 6 月に北京大学をはじめ中国の 4 機関を現地調査のため訪問、平成 27 年 3 月には国連婦人の地位委員会 (CSW) に参加するなど、来年度以降の調査研究及び事業実施に向け準備を進めている。

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定と根拠
A	年度計画どおりに実施されており、さらには、これまでの調査研究・事業の成果を活かし、リーフレットを作成、国際研修や NWEC 国際シンポジウムの募集・実施報告を、試行的に立ち上げた Facebook で行うとともに、会館ホームページで NWEC 国際シンポジウム基調講演を動画配信するなど、情報発信およびネットワークの構築を図るとともに、NWEC の取組みを国内外に広く普及させた。
達成	協定締結機関とは、活発な人的交流、調査研究、情報・研修事業を通じた相互の情報交換・支援が行われた。協定先である KWDI からの来館、カンボジア王国女性省への訪問や CSW に参加するなど、来年度以降の調査研究及び事業実施に向け、準備を進めている。 また、独立行政法人国際協力機構 (JICA) のアジア太平洋地域 5 か国を対象とした研修事業を受託し、途上国の男女共同参画を通じた支援にも大きく貢献している。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
来年度以降も、今までに構築してきた海外機関との協力体制を強化しつつ、アジア太平洋地域における男女共同参画及び女性教育の人材育成のための拠点としての役割を果たすとともに、国際研修修生等とのつながりを一層強めるため、メール配信、情報交換を定期的に行うなど、NWEC を中心としたネットワーク構築を図り、NWEC ホームページ及び Facebook 等で研修成果を国内外に普及させる。 また、交流実績が無かった協定先についても、調査研究及び科学研究費補助金事業での連携を検討中である。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-6- (1)(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 6 会館利用者への男女共同参画及び女性教育に関する理解の促進・利用の促進 (1) 利用者への学習支援 (2) 利用の拡大
年度計画の項目 (I-6- (1)(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 6 会館利用者への男女共同参画及び女性教育に関する理解の促進・利用の促進 (1) 利用者への学習支援 (2) 利用の拡大

事業名	利用者への学習支援と利用の拡大
担当課室	事業課
スタッフ	全職員

年度実績概要	
1. 利用者への学習支援	
(1) 研修プログラム作成支援の実績	NWEC を利用する自治体・団体・グループが企画・実施する研修等のプログラムについて、NWEC 職員等が学習相談・利用相談を受け、研修プログラム作成を支援した。
(2) 利用者アンケートの結果の反映	利用者から寄せられた意見をもとに検討を行い、利用団体の対象とニーズに沿ったテーマ・内容での情報提供を行った。
2. 利用の拡大	
(1) 利用拡大戦略に基づく取組	中学校及び高等学校の利用を呼び込むため、近隣の文化施設も活用した総合的学習の時間など、宿泊型校外学習における利用を促す資料を作成し、いわゆる勉強合宿や部活動による利用を促すため、埼玉県及び千葉県の教育委員会・校長会等で説明・資料配付を実施した。結果、千葉県の中学校からの陸上部や剣道部などの合宿利用を呼び込むことができた。また27年度には千葉県の中学校の合唱部の利用申し込みがあり、口コミでの広がりが感じられる。
(2) 会館 0B による訪問活動	利用を呼び込むために実際に訪問して PR することは有効であるが、限られた人員・時間内で職員が取り組むことは困難である。そのため、平成 26 年度より利用拡大活動を集中的にすすめるため、会館 0B の協力を得て、大学の理事や事務局長を訪問し、大学の行事やゼミ等での利用案内やチラシの学内配布を依頼した。また埼玉県の商工会議所連合会や農業組合を訪問し、加盟する組織に利用を呼びかけるとともに地元企業を訪問した。
(3) 大学・企業等の利用促進	大学生協との連携により、各大学の生協を通じて申し込みができるようにした。また、企業向け関係情報誌「人材教育」への広告の掲載を行うとともに、男女共同参画に関する各種セミナーにおいてチラシの配布を行った。
(4) 宿泊室利用率の実績（期間目標 55%）	平成 26 年度は 37.8%となり、平成 25 年度より 2.5 ポイント減少した。大規模団体の利用が減少した分、小規模・中規模団体を受け入れることで利用団体数は増えたものの、全体の利用人数増には追いつかなかった。

実績を裏付けるデータ

事業実績				
指標	H23	H24	H25	H26
宿泊室利用率（％）	31.8	33.8	40.3	37.8
延べ利用者数(人)	114,101	122,074	126,837	117,558
利用団体数（団体）	3,040	2,795	2,818	2,896
情報提供回数（回）	529	531	505	559
講義回数(回)	21	14	20	21
利用拡大の取組				
・チラシの配付件数（延べ数）	—	—	4740	275
・訪問活動件数	23	—	15	26
・広告記事掲載件数	—	—	—	—

※H26 チラシ配布件数内訳
教育委員会・校長会等 6 件
大学（東上線沿線）図書館 52 件
ウォーキング協会及びサイクリング協会都道府県支部 83 件
各種セミナー等 134 件

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性		
判 定	A	A	A		
適時性：大学・企業への訪問活動において、施設の利用案内だけではなく、実際のサンプルプランを盛り込んだチラシを作成、対象別に適宜配布、関係雑誌への広告掲載など、いずれも時宜を得た取り組みとして評価できる。 独創性：NWE Cを利用する団体・グループ等が企画・実施する研修等のプログラムへの学習支援については、主催事業で培った知識・経験を活かし、利用者のニーズに合わせた内容を提供している点は、NWE Cならではの独創性として評価できる。 発展性：理事長をはじめ職員による講演依頼を積極的に受け入れるなど、人的ネットワークを活用し効率的な広報に努めている。また26年度より参与職を設け、利用拡大のための活動を集中的に進める人事を配置した。					

2. 定量的評価

観 点	研修プログラム 作成支援の実績数	大学・企業の利用数	宿泊室利用率		
判 定	A	A	B		
○研修プログラム作成支援の実績数 4件 ○大学・企業の利用数 315件（うち大学122件、企業193件）【244件（うち大学81件 企業163件）】 ○宿泊室利用率 37.8%【40.3%】					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
B	利用者数は減少しているものの、施設に対する満足度・有用度は依然高い評価を得ている。また、訪問活動により企業や商工会などに対する誘致活動を積極的に行ったことで、NWE Cの主催事業への参加などにもつながった。
順調	第3次中期目標期間の最終年度である27年度は、民間企業がそのノウハウを生かし運営に当たるPFI事業の開始を予定しており、成果に期待したい。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
宿泊・日帰り共に小規模・中規模団体の利用は増加したが、大規模団体の減を埋めるに至らなかったといえる。平成27年7月からのPFI実施後も、これまでの人的ネットワークや資源を活用し、引き続き管理委託者と協力し、展開をする必要がある。

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅱ－１－(１))	Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 １ 適切な法人運営体制の充実 (１) ガバナンス・内部統制の充実
年度計画の項目 (Ⅱ－１－(１))	Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 １ 適切な法人運営体制の充実 (１) ガバナンス・内部統制の充実

事業名	ガバナンス・内部統制の充実
担当課室	総務課
スタッフ	理事長、理事、全職員

年度実績概要	
○原則として毎週、係長以上が参加する運営会議を開催し、理事長のリーダーシップのもと、NVEC が担う役割やリスク等の課題について職員全員が情報を共有する。 ○職員の業務遂行に関する資質・能力の向上を目的とした研修を実施する。 ○リスク低減に向けた規程等についての見直しを行い、職員全員に周知徹底する。	
１．理事長のリーダーシップについて (１) 理事長のリーダーシップの確保と効率的業務を目的として運営会議を毎週開催している。運営会議には、理事長、理事、各課室長及び各課室連絡担当係長（職員の過半数）が出席、理事長が各部署から業務報告や懸案事項の報告を受け、解決のための指示を直接伝達している。対応結果は、再度同会議で報告され、確実なPDCAサイクルが機能している。 (２) 年４回理事長が招集・実施する役員会では、理事、監事及び各課室長が出席し、NVEC の業務運営や評価に関する重要事項を審議している。 (３) 理事長を補佐する組織としては、組織が小規模なため総務課が担うが、全課室に対して直接指示が下ることも多い。 平成 26 年 12 月 26 日に文部科学省がまとめた「国立女性教育会館における政策実施機能を強化するための関係府省と連携しての運営・組織体制の在り方について」において、政策実施機能を強化するため、今後、関係府省と実施事業における連携強化及び各組織・機関と相互にリンクするとともに、NVEC のホームページをリニューアルし、情報の一元化・発信等を行うよう示された。これを受けて、NVEC ではホームページ改訂の方針を検討するプロジェクトチームを立ち上げ、検討を行った。	
２．リスク管理体制の整備について (１) 上記運営会議においては、予算の執行状況をはじめ、年度計画の実施状況や新たに発生した事案等について、理事長、理事に対し迅速な報告がなされている。報告案件については、理事長、理事のチェックのもと、リスクの把握、分析、対応検討が速やかに実施され、対応結果の報告が確実に実施されるという体制が整っている。 (２) リスクの一つである宿泊室利用率の向上については、毎週実施している運営会議において隔週で状況報告を行い、その都度、理事長、理事より対応について指示があるとともに、出席メンバーが状況と対応策について情報を共有している。 (３) 事業の企画・実施に係るリスクや課題については、理事長、理事、各課室長、各事業担当者等が出席する「研修・調査研究事業検討会」や「自己点検評価委員会」を通じて把握するとともに、以降の事業実施に活かせるよう対応策の検討・共有を図っている。 (４) 平成 26 年 6 月の独立行政法人通則法の改正に伴い、国立女性教育会館業務方法書の改定に向けて、内容の見直しを行った。	
３．コンプライアンス体制の整備について 平成 20 年度に整備された以下の倫理行動規程にいて、理事長を補佐する組織としては、組織が小規模なため総務課が担うが、全課室に対して直接指示が下ることも多い。運営会議や役員会・監事監査・内部監査の際や職員研修を通じて、周知徹底を図っている。 ・独立行政法人国立女性教育会館における研究活動に係る行動規範 ・独立行政法人国立女性教育会館における研究活動上の不正行為に関する基本方針 ・独立行政法人国立女性教育会館研究費不正使用防止推進委員会設置要項 ・独立行政法人国立女性教育会館職員倫理規程	

4. 監事監査

「監事監査規程」に基づき、2名の監事による監査を実施。平成26年度は「監事監査計画」に基づき、四半期毎に計4回の定期監査（業務及び会計を対象）を実施した。監査結果は理事長に報告され、いずれも是正改善を必要とする事項は無かった。

5. 年度計画の着実な実施について

「研修・調査研究事業検討会」や「自己点検評価委員会」の開催、利用拡大戦略を策定するなど、全課室横断的な取り組みを計画的に実施するとともに、毎週の運営会議における各課室からの事業実施状況の報告により、年度計画の着実な実施に努めた。

6. 法人のミッションの周知

役員に対しては役員会等において、職員に対しては館内研修や運営会議等の場所において周知しているが、組織が小規模なため、理事長の方針が迅速且つ直接役職員に伝えられる機会が多い。また、事業の企画段階では「研修・調査研究事業検討会」、実施後は「自己点検評価委員会」の際に、再確認がなされている。

自己点検評価調査書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	

2. 定量的評価

観 点	役員会実施回数	監事監査実施回数	運営委員会実施回数	運営会議実施回数	
判 定	A	A	A	A	
○役員会規程に基づき、予定されていた4回の役員会を開催した。 ○監事監査計画に基づき、予定されていた4回の監査を実施した。 ○運営委員会規程に基づき、予定されていた2回の運営委員会を開催した。 ○運営会議規程に基づき、原則として毎週火曜日、理事長、理事、課室長、各課連絡担当係長を構成員とする運営会議を開催した。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	法人のリスクを常に意識し、週一度開催される運営会議で理事長に対し状況を報告、その都度対応についての指示を仰いだ。「研修事業の定員充足」や「宿泊室利用率」などのリスクについて、定員割れや利用の減少が予想される場合は、各課室が有するネットワークを最大限に活用した広報を重ねて行うなど全館体制で対応した。その他の課題についても、常にNWECの今後の在り方について職員が課題と改革に向かう意識を共有しながら、新たな事業展開の方向性を探る視点から対応にあたった。
達成	また、役員会、監事監査を定期的に開催し、NWECの現状と課題について適切に報告し、助言を得るとともに、得られた助言を速やかに業務に反映している。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
小規模組織であることから理事長のリーダーシップが存分に発揮できる利点を活かし、今後も職員が一丸となって、時代の要請に的確に応じた業務展開を推進していく。

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅱ－２－(１))	Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 人件費・管理運営の適正化 (１) 人件費・管理運営の適正化
年度計画の項目 (Ⅱ－２－(１))	Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するために執るべき措置 2 人件費・管理運営の適正化 (１) 人件費・管理運営の適正化 (２) 保有資産の見直し

事業名	人件費・管理運営の適正化と保有資産の見直し
担当課室	総務課
スタッフ	総務課長(１)、総務課専門官(１)、人事・企画係長(１)、会計・給与係長(１) 専門職員(１)、係員(１) 計6名

年度実績概要	
政府の給与改善を踏まえ、引き続き人件費削減を図るとともに、業務運営の見直しと自己収入等の増加に向けた努力を不断に行い、中期目標期間中に、一般管理費については平成22年度比15%以上、その他の事業費(外部資金で実施する事業及び利用の増加による支出増等を除く)については平成22年度比5%以上を削減する。	
1. 人件費・管理運営の適正化 引き続き、理事が事務局長を兼任し、人件費削減を図った。 また、国家公務員の給与の臨時特例法に準拠し、役職員給与も同様に対応した(平成24年4月～26年3月)。 (１) 一般管理費効率化 平成26年度 79,849千円 22年度比88%(中期計画期間中の目標値:85%) (２) 業務経費効率化 平成26年度 393,484千円 22年度比87%(中期計画期間中の目標値:95%) (３) 人件費削減状況 平成26年度 174,673,629千円 23年度比94.8% (※中期計画期間中の目標値は、22年度の基準金額に対する割合)	
2. 給与水準の適正化と結果の公表 役職員の報酬・給与等と職員給与については、その実績値と、国家公務員及び他法人の給与水準との年額の比較をHPにおいて情報公開している。 ラスパイレース指数は、事務職が国家公務員比83.8、研究職が国家公務員比66.4となっており、国家公務員と比較して低い水準にある。	
3. 保有財産の見直し 平成23年度に埼玉県から借り受けているNVECの敷地面積を見直し、敷地の一部返却(草原運動場、テニスコート3面の廃止)による土地借料削減を図った。 平成25年度に作成した「(仮称)国立女性教育会館公共施設等運営事業実施方針」に基づき、平成26年12月には、公共施設等運営権を有する者の募集及び選定を行い、平成27年7月からPFI導入の導入予定。	
4. 重要な財産の処分 平成23年12月の役員会で廃止を決定した温水プールの処分を進めているが、電気室が隣接する体育館と一体となっていることや、建物の取り壊しに多額の経費がかかることが課題となっている。当面は安全面に注意しつつ、建物を維持する。	
5. 諸手当、法定外福利厚生費 (１) 「国と異なる諸手当」及び「法人独自の諸手当」の支給はない。 (２) 法定外福利厚生費については、医療・健康にかかる費用などを支出。 (３) 健康保険組合の保険料に関する労使負担割合については、職員については国家公務員共済組合の割合に準じている。また、有期雇用職員については、全国健康保険協会の健康保険料率に従っている。	

実績を裏付けるデータ				
＜経費削減割合＞				
	H 2 3	H 2 4	H 2 5	H 2 6
一般管理費削減割合（％）	△ 1 8 %	△ 1 2 %	△ 4 . 5 %	△ 1 2 %
業務経費削減割合（％）	△ 1 3 %	△ 7 %	△ 1 2 . 9 %	△ 1 3 %

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	独創性	発展性	効率性		
判 定	A	A	A		

独創性：施設の有効活用について、PFIによる管理運営化に着手。
 発展性：施設の運営を民間業者に委託するPFIの導入により、より積極的な施設の有効活用が期待できる。
 効率性：超過勤務の縮減に向けて、各課室長による職員の労働時間管理を更に徹底した。

2. 定量的評価

観 点	一般管理効率化	業務経費効率化	人件費削減状況	ラスパイレス指数	
判 定	B	A	A	A	

1. 効率化率（財務諸表及び決算報告書により記載）
 （1）一般管理費効率化 平成26年度 88%（中期計画期間中の目標値：85%）
 （2）業務経費効率化 平成26年度 87%（中期計画期間中の目標値：95%）
 （3）人件費削減状況 平成26年度 94.8%
 2. ラスパイレス指数：事務職 83.8、研究職 66.4【25年度：事務職 81.1、研究職 67.4】

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	業務経費効率化は、すでに目標値を達成しており、一般管理費もほぼ目標値に近い値となっている。また、給与水準も、国家公務員と比較して低い水準を保っている。 施設運営を民間業者に委託するPFIの導入についても、平成27年度実施に向け企業選定を行うなど着実に準備をすすめており、今後の施設の有効活用に期待が持てる。
達成	

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
人件費、一般管理費、業務経費の削減については、限界にきており、これ以上の削減はナショナルセンターとしての本来業務の質の確保に影響することから、自己収入の拡大や外部機関との連携による人的・経費的負担の削減を戦略的に進めていくことが必要である。 また、施設のPFIの導入について、平成27年度に実現できるよう作業を進めていく。

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅱ-3- (1)(2)、4-(1)	Ⅱ 業務運営の効率化に関する事項 3 業務運営の改善及び効率化 (1) 業務運営の改善 (2) 人材育成、多様な人材の活用 4 業務運営の点検・評価 (1) 自己点検・評価等による業務の改善
年度計画の項目 (Ⅱ-3- (1)(2)、4-(1)	Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 業務運営の改善及び効率化 (1) 業務運営の改善 (2) 人材育成、多様な人材の活用 4 業務運営の点検・評価 (1) 自己点検・評価等による業務の改善

事業名	業務運営の改善及び効率化と業務運営の点検・評価
担当課室	総務課
スタッフ	3. 業務運営の改善・効率化：総務課長、専門官、人事・企画係長、会計・給与係長、 専門職員 3 計 7 名 4. 業務運営の点検・評価：全館職員

年度実績概要

- 業務運営の改善及び効率化
- (1) 業務運営の改善：効果・効率的な業務運営を行う観点から、事務・事業の見直し、検証を定期的に運営会議で行い業務運営に反映させる。積極的に事務事業の外部委託を進め、必要に応じ組織の再編等を行う。
- (2) 人材育成、多様な人材の活用：職員の資質・業務遂行能力の向上に資するため研修を実施する。外部人材の活用による組織の活性化について、引き続き検討を行う。
- 業務運営の点検・評価
- (1) 自己点検・評価等による業務の改善：自己点検・評価委員会による評価を実施する。その際、各事業間の有機的連携を重視した自己点検・評価を行う。自己点検・評価と連動した外部評価を実施する。評価結果を HP で公表する。
1. 業務運営の改善
- 原則として毎週火曜日に理事長、理事、各課室長、各課室係長の出席のもと開催される運営会議において、不断の業務見直しを図っている。また、課室横断的なメンバーから構成されるプロジェクトチーム「研修・調査研究事業検討会」において事業内容の検討及び振り返りを行った。
2. 人材育成、多様な人材の活用
- (1) 職員研修の計画的実施
- 職員の資質、能力の向上を図るため、人事異動及び職員採用時の新任職員研修を 7 月に実施した他、全職員を対象としたホスピタリティ研修や男女共同参画に関する研修、情報セキュリティ研修（平成 27 年 3 月）をそれぞれ実施した。
- また、会館、青少年教育振興機構、特別支援教育総合研究所、教員研修センターの 4 法人合同で実施された「新規採用職員研修」「ビジネススキル研修」「独立行政法人制度（法律、評価、会計等）研修」や職員の業務能力の向上のため、人事・個人情報保護・文書管理・内部統制・評価関係の研修を中心に、省庁等の外部関連機関などで実施される研修にも積極的に参加した。（37 件）
- (2) 人事に関する計画
- 文部科学省、国立大学、都道府県教育委員会と人事交流を実施し、組織活性化を図っている。特別有期職員 1 名と国立大学法人等職員採用試験合格者から 1 名の合計 2 名を常勤職員として採用した。また、新分野の開拓のため、企業関係に詳しい客員研究員を 3 名継続して導入している。
- (3) 職場環境の整備・充実に係る取組
- インフルエンザ予防接種の受診など文部科学省共済組合による厚生経費を適切に活用し、職員の健康管理の支援等、職場環境の保持に努めた。
- (4) 危機管理体制等の整備・充実に係る取組
- 平成 27 年 3 月 2 日（月）、利用者のある平日昼間の地震とそれに伴う火災発生、消火、避難誘導の訓練及び心肺蘇生の訓練を実施。

訓練には、比企広域消防本部の消防職員立会いのもと、会館全職員及び施設委託管理業者が参加し非常時に必要な行動を確認した。

(5) 外部委託の活用

施設管理、保守、消費税申告書類作成、アンケート集計や主催事業時のバス運行など事業実施に伴い派生する業務等について可能な限り外部委託を活用している。また、施設の効率的な運用を図り、職員の業務は事業の企画・実施などの専門的分野に特化するという意図から、施設運営をPFI化するため、平成26年12月業者の選定を行った。

(6) 職員評価の取組状況とそのフィードバック状況

職員評価については、従来より勤務評定を適切に行っている。

3. 自己点検・評価

各事業担当者が事業成果を「業務実績報告書」と「自己点検評価調書」で構成されるA4用紙1シートにまとめた。また、計5回実施された自己点検評価委員会（理事長、理事、課室長が出席）では、課題の検討を効率化するために、上記報告書・調書とは別に作成した「課題検討シート」に基づく議論を行い組織内で成果と課題を共有した。7月上旬に評価報告書を文部科学省に提出した。

4. 外部評価委員会

- (1) 平成26年6月と9月に外部評価委員会を実施。11月に評価報告書を作成し、ホームページで公開した。
- (2) 第3期中期計画に記載された事業のうち、平成25年度に実施された31項目の事業について評価を行った。その実績については、平成25年度計画にあげられた目標はほとんど達成されており、新規事業の積極的な開拓、効率的な業務運営のための取組みといった各般の努力が各所にわたって顕著に認められ、それぞれ質の高いサービスが提供されているとしている。一方、「NWE Cの活動や情報をより有益に活用してもらうために、何よりもまず、認知度を上げることに力を入れていくことが大切であり、NWE C自体のもつブランド性をもっと活用できないか」との指摘がなされている。

実績を裏付けるデータ

- 1. 常勤職員の数 平成26年度22名（役員を除く） 【平成25年度 23名】
- 2. 職員採用数 2名
- 3. 職員研修回数 館内4回、館外37回

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性		
判 定	A	A	A		
独創性：運営会議や自己点検評価委員会は、職員の半数以上の出席のもと開催される。小規模組織の利点を活かし、現場（係長）からトップ（理事長）までの情報共有の下、業務改善や事業検証がなされる。 適時性・発展性：26年度は職員の資質向上を図るため、積極的に外部組織への研修への参加を推進するとともに、館内においても「新任職員研修」のほか、「ホスピタリティ」「男女共同参画」「情報セキュリティ」などをテーマとする館内研修を実施した。人事を中心に、個人情報保護・文書管理・評価・監査等の研修に職員が参加したことは、今後の内部統制やコンプライアンスの充実につながることを期待される。					

2. 定量的評価

観 点	職員研修開催数 (館内4回、館外 53回)	人事交流数	常勤職員の増減数 (1名減)		
判 定	A	A	A		
○国の機関、都道府県、大学等との人事交流 【転入】 4名（信州大学（1）、文化庁（1）、千葉県（1）、東京大学（1）） 【転出】 3名（東京大学（1）、一橋大学（1）、埼玉県（1）、					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	
A	トップダウン、ボトムアップの迅速さ、職員全体の情報共有が可能であることなどの小規模組織の利点をしっかりと活用しながら、自己点検評価、外部評価を経て、着実にPDCAサイクルを回し、業務改善を図っている。
達成	職員の資質向上のため、定期的な人事交流や積極的な研修参加も実施している。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
平成26年度は、人的パワーと業務の質の確保の必要から、特別有期職員1名と国立大学法人等職員採用試験合格者から1名の合計2名を常勤職員として採用した。ミッション遂行のために必要な人的パワーの確保と各職員の資質向上を目指し、今後は採用した職員の育成に努める。

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅳ－(1))	Ⅳ 財務内容の改善に関する事項 (1) 契約の点検・見直し
年度計画の項目 (Ⅳ－(1))	Ⅳ 財務内容の改善に関する事項 (1) 契約の点検・見直し

事業名	契約の点検・見直し
事業概要	引き続き、入札可能な契約案件については一般競争入札を実施する。一者応札となった契約については、公告期間、入札参加条件、仕様書の見直し等の改善を行い、一者応札の削減を図るとともに、契約監視委員会等による定期的な契約点検を実施する。
担当課室	総務課
スタッフ	総務課長(1)、会計・給与係長(1)、専門職員(1)、会計・給与係(1)

計4名

年度実績概要	
1 契約の競争性、透明性の確保	
(1) 契約に係る規程類の整備及び運用状況	・文部科学省所管独立行政法人の少額随意契約に係る基準額を平成19年度より国と同基準とし、一般競争入札の範囲を拡大している。
(2) 契約の執行体制、審査体制	・各課室からの要望や仕様書を総務課会計・給与係でとりまとめ、一般競争入札が必要な案件では入札を執行して契約を締結している。入札金額に満たない物品・役務・工事等の発注に対しては、過去の契約単価を調査し、複数の業者から見積書を徴収するなどして、安価な契約の締結に努めている。
(3) 契約監視委員会を平成26年9月と平成27年2月の2回開催し、随意契約、一者応札等について報告を行い、審査を受けた。指摘された事項として、公共施設等運営事業等に係るアドバイザー業務について、一者応札になったことについて、シンクタンク等もっと幅広くに参加企業を探す方法等を検討すべきと指摘された。	
2 契約実施状況	
(1) 随意契約の見直し状況	・「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」(平成21年11月17日閣議決定)に基づき、外部有識者2名を含む契約監視委員会を設置(平成22年11月30日)し、入札・契約の適切な実施についてチェック体制の強化を図った。 ・引き続き入札可能なものについては全て入札を実施し、製本印刷業務等、複数の業務をなるべく一括して入札を行うなど効率的に実施した結果、前年度より7件少ない15件となった。平成26年度随意契約の実績は、入札不可能な水道料金、土地借料、郵便料金(信書)3件と不落随意契約のPFIに係るアドバイザー業務、国際セミナー招へい業務の2件。
(2) 一者応札について	・一者応札の削減に向け、引き続き「充分な公告期間の確保、入札条件の緩和」等の努力を行った結果、平成26年度は1件のみとなった。
(3) 再委託は、無し。	
(4) 関連法人は、無し。	
実績を裏付けるデータ	
1 入札実績	：17件【25年度 22件】
2 随意契約状況	：5件(水道料金：埼玉県水道局、土地借料：埼玉)、郵便料金(信書)：日本郵便、PFIアドバイザー業務委託：日本総研、国際セミナーの招へい業務：日本旅行)【25年度 3件】
3 一者応札状況	：1件(事務用電子計算機システム一式)【25年度 7件】
4 一者応札の原因分析	・「事務用電子計算機システム一式」の入札説明会には8社が参加したが、仕様の条件を満たせない、納期が間に合わない等の理由により7社が辞退したため。

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	効率性			
判 定	A	A			
適時性：少額随意契約に係る基準額の国への準拠や「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」（平成21年11月17日閣議決定）に基づく契約監視委員会の設置等、適切な処置がなされている。 効率性：一者応札の削減に向け、引き続き十分な公告期間の確保、入札条件の緩和など、契約業務を効率的に実施した。事柄の性格上、定められた手続きの適切な適用に尽力した。					

2. 定量的評価

観 点	随意契約数	一者応札数	契約監視委員会開催数		
判 定	A	A	A		
○随意契約数 26年度5件【25年度3件】 ○一者応札数 26年度1件【25年度7件】 ○契約監視委員会開催数 契約監視委員会規則に基づき、26年9月と27年2月の2回実施。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	整備された規程に基づく契約が執行されており、透明性も確保されている。契約監視委員会も確実に開催されている。
達成	随意契約は、随意契約とすることが不可能な水道料金、土地料金、郵便料金（信書）の3件と不落随意契約のPFIアドバイザー業務委託、国際研修招へい業務委託の2件に限られていることに加え、低価格物品等の調達等においても、複数業者からの見積り徴収を徹底しており、契約に関する競争性も確保されていると言える。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
引き続き、適正な契約の実施に努め、NVEC ホームページ等を用いた積極的な情報公開により公平性・透明性の確保を図る。

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅳ－(2))	Ⅳ 財務内容の改善に関する事項 (3) 自己収入の拡大
年度計画の項目 (Ⅳ－(2))	Ⅳ 財務内容の改善に関する事項 (2) 外部資金の導入

事業名	外部資金の導入
担当課室	全課室
スタッフ	理事長、理事、全職員 計 26 名

年度実績概要	
科学研究費補助金等の申請や国・民間企業等からの受託事業等の積極的な受け入れを行い、外部資金を確保する。 1. 受託事業経費 平成 26 年度は 2 機関から合計 4,925 千円の事業を受託。 【平成 25 年度実績：2 件、5,131 千円】 2. 科学研究費補助金 平成 26 年度は 3 件、合計 4,200 千円を獲得。 【平成 25 年度実績：5 件、8,226 千円】 3. 寄附金収入 平成 26 年度は目的寄附金など 19 件、合計 794 千円の収入。 【平成 25 年度実績：14 件、833 千円】	
実績を裏付けるデータ	
1. 受託事業経費	
(1) 女子中高生夏の学校 2014 (独立行政法人科学技術振興機構 JST)	2,961 千円
(2) 課題別研修 (独立行政法人国際協力機構 JICA)	1,964 千円
2. 科学研究費補助金	
(1) 東南アジアにおける男女共同参画の政策の比較研究	1,100 千円
(2) 女性研究者支援のためのシステムの構築と政策提言のための研究	800 千円
(3) 女性デジタルアーカイブシステムデータベース	2,300 千円
3. 寄附金収入	
(1) 女性アーカイブ寄附金 2 件	110 千円
(2) 科学・技術分野の女性人材育成支援事業支援寄附金 11 件	570 千円
(3) 女性教育振興寄附金 6 件	114 千円

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性		
判 定	A	A	A		
適時性：独立行政法人の運営費交付金が確実に削減されていく中で、受託や科研費を活用しながらの事業運営を図ることは時宜に適っている。 独創性：男女共同参画推進や女性のエンパワーメントというテーマで資金獲得を進めているのはNVECならではの成果である。 発展性：科学研究費補助金の獲得により実施される研究成果が、研修プログラムの開発にも活用されており、NVECの事業運営形態を活かした発展的な取組であると言える。					

2. 定量的評価

観 点	受託事業経費	科研費獲得額	寄附金収入額		
判 定	A	B	A		
1. 受託事業経費 4,925 千円 2. 科学研究費補助金獲得額 4,200 千円 3. 寄附金収入額 794 千円					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	昨年度に引き続き外部資金を獲得するため、受託事業や科学研究費補助金の申請を行うとともに、寄付金を得るため広く広報を行った結果、9,958 千円の資金を獲得することができた。
達成	

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
引き続き、外部資金導入を促進するが、特に受託事業については、収入額と事業実施にかかる経費のバランスを測りつつ、人件費をはじめとする事実上の持ち出しがないかどうかを見極めながら決定していく。

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅳ－(3))	Ⅳ 財務内容の改善に関する事項 (3) 自己収入の拡大
年度計画の項目 (Ⅳ－(3))	Ⅳ 財務内容の改善に関する事項 (3) 自己収入の拡大

事業名	自己収入の拡大
担当課室	全課室
スタッフ	理事長、理事、全職員 計 26 名

年度実績概要	
○積極的な広報活動や新たな利用者層の開拓、寄附金の拡大など自主的な取り組みのほか、受益者の負担を適正なものとする観点から、情報センターのデータベース利用に一部受益者負担を導入すること等により、自己収入を拡大する。	
1. 積極的な広報活動	
利用拡大のため、企業向け雑誌「人材教育」の社員研修特集号や、千葉県経営者協会の会報に施設利用に関する広告を掲載した。また、NVEC 及び内閣府・文部科学省、嵐山町の広報誌、メールマガジン等を通して、主催事業の参加者募集をはじめ、女性アーカイブセンターの企画展示等、NVEC の取組について積極的に広報を行った。また、内閣府や文部科学省が実施する全国的な会議や研修・イベント等の際に、利用案内チラシ・パンフレットや NVEC 概要チラシ等の配布を積極的に行った。	
また、男女共同参画推進フォーラムの開催について、新聞に参加者募集記事を掲載した。	
2. 自己収入増加に向けた取組状況	
(1) 会館OBが大学や商工会議所連合会や農業組合、地元企業を訪問し利用を呼びかけた。	
(2) 積極的な外部資金の導入を進め、受託事業2件、科学研究費補助金3件、寄附金19件を獲得した。	
3. 情報センターのデータベース利用に対する一部受益者負担の導入	
検討の結果、女性教育情報センターにおいて、端末を使用してのデータベースを利用する者を対象に、利用料（複写料を含む。）を徴収することとし、平成27年6月から導入予定。	
実績を裏付けるデータ	
自己収入の実績	
(1) 受託事業収入	4,925 千円 【前年度 5,131 千円】
(2) 科学研究費補助金収入	4,200 千円 【前年度 8,226 千円】
(3) 寄附金収入	794 千円 【前年度 833 千円】
(4) 研修施設使用料金収入	106,682 千円 【前年度 111,440 千円】
(5) その他事業収入（科学研究費補助金間接経費、文献複写料、職員講演料等）	1,926 千円 【前年度 1,314 千円】

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	発展性	効率性		
判 定	A	A	A		
適時性・発展性：女性の活躍促進が求められている中で、NVEC が企業向け研修を実施すると同時に、企業向け雑誌に施設の広告や理事長の女性リーダー育成に関するレポートの掲載、訪問活動等を通じて企業へ利用の呼びかけを行ったことは、時宜にかなっており、今後の企業の利用が期待できる。 効率性：職員の数に限られているため、利用拡大のための活動には限界があったが、会館OBの協力を得て大学・企業等の訪問が実施できた。					

2. 定量的評価

観 点	研修施設使用収入	研修参加料収入	映画等撮影収入		
判 定	A	A	A		
1. 研修施設使用収入 111,440 千円 【前年度 93,411 千円】 2. ドラマ等撮影収入 362,600 千円 【前年度 — 千円】					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	新聞・雑誌に限らず、広報を兼ねて、利用が入っていない施設をドラマ撮影に提供することにより、自己収入の拡大を図るなど、様々な手段や・媒体を活用して積極的に広報活動を行うとともに、外部資金の獲得も図られている。
達成	

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
平成 27 年度から施設運営の PFI 化することから、PFI 業者と連携してより一層 NVEC の広報に努める外、積極的な外部資金の獲得が求められる。

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅷ-4・5)	Ⅷ その他主務省令で定める業務運営に関する事項 4 施設・設備の計画的整備、快適な環境構築 5 情報セキュリティ体制の充実
年度計画の項目 (Ⅷ-1))	Ⅷ その他主務省令で定める業務運営に関する事項 (1) 情報セキュリティ体制の充実

事業名	施設・設備の計画的整備、快適な環境構築及び情報セキュリティ体制の充実
担当課室	総務課
スタッフ	総務課長、会計・給与係長、専門職員(2)、係員 計5名

年度実績概要	
1. 計画	(1) 長期的視野に立った保守・管理を行うとともに、利用者が安全で快適に利用できる環境を提供するため、必要な施設・設備の改修等を計画的に進める。 (2) 施設の有効活用のための工夫に努めるべく、個々の施設の有用性についての検証を行い、具体的措置を講ずる。 (3) 情報の安全管理を徹底するため、セキュリティポリシーの見直しを定期的に行うとともに、職員研修を実施する。 2. 施設・設備の計画的整備、快適な環境構築 (1) 安全で快適な環境を提供するための計画的改修 ・敷地内の煉瓦敷きの歩道の改修 ・講堂前駐車場に二重駐車防止のための駐車禁止ラインの設置 ・茶室の竹垣の扉を更新 ・研修棟中会議室のスクリーンの更新 ・敷地内の樹木の剪定や枯れた木の伐採 (2) 施設の有効活用のための取組 ・地元菅谷小学校のマラソン大会の会場として敷地の利用を承諾するとともに、同校生徒の美術作品の展示をロビーで実施した。 2. 情報セキュリティ体制の充実 (1) セキュリティポリシーの見直し状況 セキュリティポリシーに基づく実施手順について、現実に即しているか検討を行い、情報を守るためにクラウドシステムによるメールサービスを平成27年1月から導入した。 (2) 職員研修の実施 セキュリティポリシーに関する職員研修を実施し、身近なセキュリティ対策について周知を図った。また、平成27年3月13日開催の文部科学省所管独立行政法人情報セキュリティ担当者会議を契機にCSIRT構築・運用支援業務協力体制について検討を始めた。
実績を裏付けるデータ	
1. 施設に対する利用者の評価	NWECを利用する団体及び個人に対し、退館時に提出する「利用者カード」により、施設等に対する評価を調査した結果、「非常に快適だった」「快適だった」で示される満足度が合計98.4%であった。 【前年度実績 98.6%】
2. 情報セキュリティ研修	サイバーセキュリティ月間の平成27年2月1日から3月18日の間及び最終日に、身近なセキュリティについて研修を実施した。

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	発展性	効率性		
判 定	A	A	A		
適時性：クラウドシステムによるメールサービスの導入を始め、新任職員研修や定期的な研修及び機会あるごとに情報セキュリティに関する注意喚起によって職員のセキュリティに関する関心を高めることができています。 効率性：情報セキュリティ研修は、Eメールで研修資料を職員全員に配信し、各職員の都合のよい時間に学べる研修と職員が集まって映像やシートによる自己診断等を行う参加型の研修の2種類を実施することで、効率よく研修を実施することができた。					

2. 定量的評価

観 点	利用者の満足度	セキュリティポリシー研修の実施	セキュリティに関するトラブル件数		
判 定	A	A	A		
○「利用者カード」による設備等についての満足度 98.4%【前年度実績 98.6%】 ○ 年度計画に記載されるセキュリティポリシーに関する研修を確実に実施した。（平成27年3月18日） ○ 不正アクセス、ウイルス・不正プログラム感染等により、利用者に被害を与えることがなかった。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	コンピューターに対応した研修室のスクリーンの入れ替えや設置場所の変更、敷地内の歩道や駐車場の改修、定期的な樹木の剪定・伐採等を行うなど、きめ細かな利用者の利便性及び安全・安心に配慮した施設・設備の改善を実施している。
達成	セキュリティポリシーについても、見直しを通して更に充実したシステム構築を実施し、決められた研修を確実に実施している。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
情報セキュリティに関する人材が不足しているため、今後計画的・定期的な職員研修の充実によって人材育成を図っていく。

5. 外部評価の観点

◆ 評価の基本： ナショナルセンターとしての役割
男女共同参画推進の中核機関
公共性を実現する機関

評価の観点	評価する際に手がかりとなる事項の例
独自性・先駆性を有する事業を企画実施しているか 〔独自性・先駆性〕	・ 先行事例の有無 ・ 事業内容（プログラム・方法・対象者など）の分析
新たな社会的課題の解決に向けて積極的に取り組んでいるか 〔現代的課題性〕	・ 事業内容（プログラム・方法・対象者など）の分析
事業内容がよい事例として全国に広まっているか 〔モデル性〕	・ 他機関の事業内容の分析 ・ 事業内容に対する事業参加者の意見 ・ 事業内容に対する専門家（研究者、実践者）の意見
事業内容が日本を代表するものとして国際社会において一定の役割を果たしているか 〔国際性〕	・ 他国における同種の機関との関係 ・ 国内における代替可能な機関の有無 ・ 海外の専門家の評価
事業の成果が国や地方公共団体における政策の企画実施に役立っているか 〔政策性〕	・ 国や地方公共団体の政策担当者の意見 ・ 事業内容に対する専門家（研究者、実践者）の意見
事業内容が高度な専門性をもつものとして地域の関係機関の活動により影響を与えているか 〔高度専門性〕	・ 事業実施後における地域の関係機関の活動内容 ・ 事業内容に対する専門家（特に地域の研究者や実践者）の意見
事業の成果が参加者以外にも波及しているか 〔波及性・普及性〕	・ 事業参加者が中心となっていく講習会等の有無 ・ 事業に関連する分野における団体の数及びそれらの事業内容
会館のもつ内部資源を有効に活用しているか 〔内部資源の有効活用〕	・ 内部資源の把握とそれらに着目した事業内容の分析
関係する機関や団体のネットワークの形成を促しているか 〔ネットワークの促進〕	・ ネットワーク形成に関する専門家（研究者や実践者）の意見
様々なレベルで関係者の交流を促しているか 〔交流の促進〕	・ 交流事業の内容（プログラム・方法・対象者など）分析 ・ 交流事業参加者の事業後のフォローアップ
事業成果を他の事業に活用しているか 〔事業成果の有効活用〕	・ 事業の成果の把握とそれらに着目した事業内容の分析
最小の投入で最大の効果を上げるという点から事業の企画実施に創意工夫を行っているか 〔効率性〕	・ 事業内容（プログラム・方法・対象者など）の分析
宿泊施設を有意義に活用しているか 〔施設の有効活用〕	・ 宿泊に関わる事業に参加した者や関係者の意見
評価の結果を積極的に改善に結びつけているか 〔評価結果の有効活用〕	・ 評価結果の把握とそれらに着目した事業計画の分析

6. 独立行政法人国立女性教育会館の業務運営に関する計画（平成26年度）

平成26年3月31日

文部科学大臣へ届け出

独立行政法人通則法（平成十一年法律第百三号）第三十一条の規程により、独立行政法人国立女性教育会館中期計画（平成23年3月31日文部科学省大臣認可）に基づき、平成26年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上

（1）基幹的指導者に対する研修等の実施

①企業を成長に導く女性活躍促進セミナー

- ・企業における人材活用の推進者、管理職、チームリーダー等を対象に、企業内の男女共同参画及び女性の活躍を促進するための実践的なセミナーを実施する。
- ・研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。

②女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修

- ・全国の女性関連施設の管理職、男女共同参画行政責任者、女性団体のリーダー等を対象に、地域の男女共同参画を積極的に推進するリーダーとして必要な専門的知識、マネジメント能力、ネットワークの活用等を内容とする高度で専門的、実践的な研修を実施する。
- ・研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。
- ・研修事後に実施するフォローアップ調査の回収率を高めるとともに、研修成果の活用について、回答者の80%以上からプラス評価を得る。
- ・参加者の地域的なバランスを促進するため、計画的な取組を行う。

③大学等における男女共同参画推進セミナー

- ・大学、短期大学、高等専門学校における意思決定組織に所属する教職員、男女共同参画推進部局の責任者等を対象に、男女共同参画意識の学内への浸透方法、女性研究者支援、女性リーダーの養成方策、男女共同参画社会の実現に向けた女子学生キャリア形成支援を内容とする高度で専門的、実践的な研修を実施する。
- ・研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。

④男女共同参画推進フォーラム

- ・行政・企業・大学・NPO等の組織における男女共同参画推進担当者、女性団体、女性／男女共同参画センター職員、その他男女共同参画に関心のある者を対象に、男女共同参画のための意識変革、女性活躍促進、女性のキャリア形成支援、ワーク・ライフ・バランス等の課題解決に資するための研修を実施するとともに、分野横断的に、連携・協働を推進するためのネットワーク形成を図る。
- ・研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。

(2) 基幹的指導者に対する研修に資する調査研究の実施、学習プログラム、研修資料の作成

①大学等における男女共同参画に関する調査研究

- ・大学等の研究機関における女性研究者支援を促進するため、課題を明らかにすることを目的とした調査研究を実施するとともに、ガイドブックを作成する。
- ・2年計画で行う調査研究の2年次として、1年次に実施した国公立大学の男女共同参画推進機関へのヒアリング調査をもとにガイドブックを作成する。

②女性関連施設に関する調査研究

- ・女性関連施設の機能の充実・強化を図るため、人材育成、災害復興時における男女共同参画の視点等、新たな課題の実態把握と分析をテーマに5年計画で行う調査研究の4年次として、全国の女性関連施設が取り組む事業や組織形態に関する実態調査を実施し、報告書を作成する。
- ・作成した資料を用いた研修について、事後に実施するフォローアップ調査の充実を図り、研修の成果を的確に把握することにより、研修内容を見直す。

2. 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラムの開発・普及

(1) 喫緊の課題に関する先駆的調査研究の実施

①若手男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査研究

- ・生涯を見据えた早期からのキャリア形成支援を、男女共同参画の視点に立って行うための方策を探ることを目的とした調査研究を実施する。
- ・2年計画で行う調査研究の1年次として、若者を対象とした調査の方法について検討する。

②女子大生キャリア形成セミナー

- ・大学等におけるキャリア教育の充実に資するよう、学生を対象としたキャリア教育プログラムを開発し、大学等と連携して実施する。

(2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修

①女性関連施設相談員研修

- ・女性のエンパワーメント支援を目指し、複雑・多様化する女性の悩みに適切に対応できる相談業務の質の向上を図るため、女性に対する暴力や女性の貧困など、喫緊の課題解決に必要な知識・技能習得のための、専門的・実践的な研修を行う。
- ・研修実施にあたり、参加者の85%以上からのプラス評価を得る。

②行政や関係機関と連携した喫緊の課題に対応した研修

- ・社会が抱える様々な喫緊の課題を解決するために、行政や関係機関等が実施する研修について、これまで会館が実施してきた研修の経験や女性教育、男女共同参画等に関する専門的知識を活かし、連携して実施する。
- ・平成26年度は、科学技術振興機構の委託を受け、女子中高生に理系進路選択の魅力を伝えることを目的として「女子中高生夏の学校2014～科学・技術・人との出会い～」を実施する。研修実施にあたり、参加者の85%以上からのプラス評価を得

る。

③教育・学習プログラム実施に関する支援

- ・研修プログラムの内容や調査研究の成果を、ホームページなどを通じて広く公開し、男女共同参画に関する事業を実施する関係機関等の参考に資する。
 - ・男女共同参画をテーマとした研修等を実施する女性センターへの支援として、講師幹旋などのサービスを一部地域を対象に試行的に実施する。
- また、男女共同参画人材情報データベースの掲載情報を充実させる。

3. 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等

(1) 地域の機関で活用しうる男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する基礎的な研究の成果の提供

①男女共同参画統計に関する調査研究

- ・平成23年度に作成した『男女共同参画統計データブック2012』のデータを更新するとともに新たな課題に対応するデータを収集し、『男女共同参画統計データブック2015』を作成する。
- ・統計調査の成果等を提供する「男女共同参画統計ニュースレター」の配信先を1,800件まで拡充する。

②調査研究成果の普及

- ・基幹的指導者の資質・能力の向上及び喫緊の課題をテーマとして実施した調査研究の成果について、ホームページやリポジトリ等を通じて普及する。

(2) 全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等の提供

①情報資料の収集・整理・提供（大学・企業関係資料の充実）

- ・男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書について、地域レベルでは収拾困難な広域的、専門的な資料を収集するとともに、レファレンスサービス、文献複写サービス、図書資料の展示などによる情報提供を行う。
- ・引き続き大学の男女共同参画推進部署が発行する資料の収集に力を入れるとともに、企業の男女共同参画推進部署が発行する資料の収集を開始する。
- ・研修受講者への学習支援を強化するため、研修テーマに沿った資料リストを女性情報ポータル（W i n e t）に掲載するなど情報提供を充実させる。

②女性情報ポータル及びデータベースの整備充実

- ・女性ポータルのアクセスについて、年間30万件以上を達成する。

③図書のパッケージ貸出

- ・各施設における男女共同参画事業を支援するため、テーマ毎にパッケージ化した図書の貸出を引き続き実施するとともに、新たに高等専門学校への貸出を開始する。

(3) 女性アーカイブ機能の充実

①女性アーカイブ機能の充実

- ・歴史的価値、研究資料的価値を有する女性関連史・資料を1千点以上収集・整理し、女性アーカイブシステム及び女性デジタルアーカイブシステム、展示を通じて利用に供するとともに、インターネットを通じて広く一般に公開する。
- ・災害復興支援に各地の女性センターが果たした実績（活動記録）を女性アーカイブとして残し、公開する事業「災害復興支援女性アーカイブの構築」を、女性センター等と連携・協力して引き続き行う。
- ・展示室への入室について、累計3万8千人以上を達成する。
- ・女性アーカイブの企画展を他機関と連携して実施する。

②女性情報アーキビスト養成研修

- ・女性アーカイブの保存技術や整理方法を体系的に学ぶ最初の一步として、実務者30名以上を対象に基礎情報を提供する「女性情報アーキビスト養成研修（基礎コース）」を実施する。

また、実務者同士の情報交換の場を提供することでネットワークづくりを推進する。

- ・基礎コースの修了生10名を対象に、女性アーカイブの保存や整理に必要とされる基本的実技を学ぶ「女性情報アーキビスト養成研修（実技コース）」を実施する。

4. 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等との連携協力の推進

(1) 国内の関係機関・団体等との協働事業の実施

- ・女性関連施設、女性団体、民間団体、企業、大学等と男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する情報交換を行うとともに、7以上の機関等と協働で事業を実施し、連携効果による多様な企画や講師の活用を図る。
- ・全国の関係機関・団体からの依頼に基づき、職員や客員講師を派遣する。

(2) 交流機会の提供による会館を中心としたネットワークの構築

①男女共同参画推進フォーラム【再掲】

- ・行政・企業・大学・NPO等の組織における男女共同参画推進担当者、女性団体、女性／男女共同参画センター職員、その他男女共同参画に関心のある者を対象に、男女共同参画のための意識変革、女性活躍促進、女性のキャリア形成支援、ワーク・ライフ・バランス等の課題解決に資するための研修を実施するとともに、分野横断的に、連携・協働を推進するためのネットワーク形成を図る。
- ・研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。

5. 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進

(1) 男女共同参画及び女性教育に関する国際協力、連携に資する研修の実施

①アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー

- ・開発途上国等において男女共同参画の政策策定ならびに政策提言を行う立場にある女性行政・教育担当者及びNGOのリーダーを対象に、女性の能力開発に係る喫緊の課題をテーマとした参加型の実践的なセミナーを行う。
- ・研修実施にあたり、参加者の90%以上からプラス評価を得る。
- ・研修修了生等による出身国での成果の活用についての調査を行い、同調査の結果等を

踏まえ、研修の効果的な実施の観点から、研修内容等の見直しを行う。

②国際協力機構との連携による研修

国際協力機構が実施する開発途上国の行政職員等を対象とした研修について、男女共同参画、女性教育に関する専門的な観点から連携して実施する。

③NWE C国際シンポジウム

- ・女性の人権やエンパワーメントに係る地球規模の課題をテーマに海外の専門家を招へいするNWE C国際シンポジウムを開催し、地球規模の課題分析を行い、海外の研究者や行政関係者・女性団体等指導者との交流を深めるとともに、意見交換を行う。
- ・研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。

(2) 国際的なネットワークの構築

- ・研修修了生等に対し、研修終了後の定期的なメール送信や議論の呼びかけを通じネットワーク構築を図る。
- ・研修成果について、「男女共同参画推進フォーラム」におけるパネル展示や英文報告書の会館ホームページへの掲載等の方法により国内外に普及する。

6. 会館利用者への男女共同参画及び女性教育に関する理解の促進・利用の促進

(1) 利用者への学習支援

- ・施設を利用する団体・グループ・個人が企画・実施する研修等のプログラムについての学習相談を受け、研修プログラム作成を支援する。
- ・会館が有する専門性を活かして男女共同参画や女性教育に関する学習機会を提供する。
- ・インターネットで提供する学習教材について、試験的に提供を開始する。

(2) 利用の拡大

利用拡大戦略（年度）を作成し、企業・大学向けのサンプルプランの作成・提案を行うなど大学・企業等からの利用を促進する。

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 適切な法人運営体制の充実

(1) ガバナンス・内部統制の充実

- ・原則として毎週、係長以上が参加する運営会議を開催し、理事長のリーダーシップのもと、会館が担う役割やリスク等の課題について職員全員が情報を共有する。
- ・職員の業務遂行に関する資質・能力の向上を目的とした研修を実施する。
- ・リスク低減に向けた規程等についての見直しを行い、職員全員に周知徹底する。
- ・会館の業務の有効性・効率性、法令の遵守、財務会計の透明性等の観点から職員全員を対象としたモニタリングを実施するとともに、結果については役職員に周知し、必要に応じて組織運営の改善に反映させる。

2 人件費・管理運営の適正化

(1) 人件費・管理運営の適正化

- ・政府における総人件費削減の取組を踏まえた見直しを行う。

- ・関係機関・団体との連携による経費等の削減に努める。
- ・関係機関・団体との人事交流や客員研究員等外部人材の活用など、多様な人材を確保することにより、組織を活性化する。

(2) 保有資産の見直し

- ・保有資産について、運営会議等において見直しの検討を行い、外部評価委員会等において検証する。

3 業務運営の改善

(1) 業務運営の改善

- ・効果的・効率的な業務運営を行う観点から、事務・事業の見直し、検証を定期的に運営会議で行い、業務運営に反映させる。
- ・施設の管理運営については、P F I 化を含む外部委託する等、事務事業の効率化を検討するとともに、必要に応じて組織の再編等を行う。

(2) 人材育成、多様な人材の活用

- ・職員の資質・業務遂行能力の向上に資するため研修を実施する。
- ・外部人材の活用による組織の活性化について、引き続き検討を行う。

4 業務運営の点検・評価

(1) 自己点検・評価等による業務の改善

- ・自己点検・評価委員会による評価を実施する。その際、各事業間の有機的連携を重視した自己点検・評価を行う。
- ・自己点検と連動した外部評価を実施する。
- ・評価結果をホームページで公表する。

III 予算・収支計画及び資金計画

収入面に関しては、実績を勘案しつつ、外部資金等を積極的に導入することにより、計画的な運営を行う。また、管理業務の効率化を進める観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算により運営する。

- 1 予算（人件費の見積もりを含む。）
別紙1のとおり
- 2 収支計画
別紙2のとおり
- 3 資金計画
別紙3のとおり

IV 財務内容の改善に関する事項

(1) 契約の点検・見直し

- ・引き続き、入札可能な契約案件については一般競争入札を実施する。
- ・一者応札となった契約については、公告期間、入札参加条件、仕様書の見直し等の改善を行い、可能な限り一者応札の削減を図るとともに、契約監視委員会等による定期

的な契約点検を実施する。

(2) 外部資金の導入

科学研究費補助金等の申請や国・民間企業等からの受託事業等の積極的な受入れを行い、外部資金を確保する。

(3) 自己収入の拡大

- ・宿泊室利用率の向上等により、自己収入の拡大を図る。
- ・会館の活動について、広報実施計画（年度）を策定し、会館の利用促進を図る。

V 短期借入金の限度額

短期借入金の限度額は1億4千万円。短期借入金が想定されるのは、運営費交付金の受入に遅延が生じた場合である。

VI 余剰金の使途

会館の決算において、余剰金が生じたときは、研修事業、情報事業、調査研究事業及び交流事業の充実に充てる。

VII その他主務省令で定める業務運営に関する事項

(1) 情報セキュリティ体制の充実

セキュリティポリシーに関する職員研修を実施する。

(以上)

平成26年度予算

(単位:百万円)

区 別	金 額
収入	
運営費交付金	522
施設整備費補助金	—
入場料等収入	126
受託収入	5
計	653
支出	
業務経費	363
うち研修関係経費	255
うち調査・研究関係経費	26
うち情報関係経費	82
施設整備費	—
受託経費	5
一般管理費	285
計	653

[人件費の見積り]

平成26年度は189百万円を支出する。

但し、上記の額は、役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当、超過勤務手当、休職者給与及び国際機関派遣職員給与に相当する範囲の費用である。

平成26年度収支計画

(単位:百万円)

区 別	金 額
費用の部	
経常費用	653
業務費	368
一般管理費	278
減価償却費	7
財務費用	
臨時損失	
収益の部	
運営費交付金収益	515
入場料等収入	126
受託収入	5
施設費収益	—
寄附金収益	
資産見返運営費交付金戻入	7
資産見返物品受贈額戻入	
純利益	
目的積立金取崩額	
総利益	

[注記]

当該法人における退職手当については、独立行政法人国立女性教育会館役員退職手当規程及び独立行政法人国立女性教育会館職員退職手当規程に基づいて支給することとし、毎事業年度に想定される全額を運営費交付金に加算する。

平成26年度資金計画

(単位:百万円)

区 別	金 額
資金支出	
業務活動による支出	650
投資活動による支出	3
次期中期目標の期間への繰越金	-
資金収入	
業務活動による収入	
運営費交付金による収入	522
入場料等収入	126
受託収入	5
投資活動による収入	
施設費による収入	-
前期中期目標の期間よりの繰越金	-

7. 平成27年度 国立女性教育会館外部評価委員会委員名簿

犬塚 協太（静岡県立大学国際関係学部国際関係学科教授、
静岡県立大学男女共同参画推進センター長）

斎藤 悦子（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科准教授）

○笹井 宏益（国立教育政策研究所生涯学習政策研究部長）

夏目 智子（全国地域婦人団体連絡協議会幹事）

萩原 貴子（株式会社グリーンハウス執行役員）

（○委員長、五十音順）

8. 独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会規程

（設置）

第1条 独立行政法人国立女性教育会館（以下「会館」という。）に、独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（役割）

第2条 委員会は、会館が実施した業務の実績に関し客観性を持った質の高い評価を行うと共に、評価を踏まえた今後の事業活動の充実及び活動内容の在り方に資する提言を行う。

（委員）

第3条 委員会は、会館の業務に関し識見を有するもののうちから、理事長が委嘱する8名以内の委員で構成する。

（委嘱期間）

第4条 前条に規定する委員の委嘱期間は2年とし、再任を妨げない。

2 委員に欠員を生じた場合の補欠委員の委嘱期間は、前任者の残任期間とする。

（委員長及び副委員長）

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、第3条の委員のうちから、委員の互選により選出する。

3 委員長は、委員会を召集し、その議長となる。

4 委員長に事故があるときは、副委員長が、その職務を代理する。

（関係者の出席）

第6条 委員会は、必要があるときは関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

（庶務）

第7条 委員会に関する事務は、総務課において処理する。

（雑則）

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は別に定める。

附 則

1 この規則は平成18年2月10日から施行する。

2 この規程の施行後、最初及び委員長が置かれていないときに召集される委員会の会議は、第5条第3項の規定にかかわらず、理事長が召集する。

9. 自己点検評価調書の記載について

1. 定性的評価の観点について

○各業務区分に応じた定性的評価の観点については、基本的な考え方は記のとおり。特段の事情がある場合などで、このほかの観点を使用する事が適当と思われるときは、任意に観点を設ける事も可能です。

適時性：喫緊の課題を踏まえたプログラムの実施や男女共同参画基本法等の政策との関連点等、時宜に合わせてその事業を実施することが、男女共同参画の推進等に資することを示すもの。

独創性：独自の視点による調査研究や先進的なプログラムの作成等、「国立女性教育会館ならではの」高い専門性等を示すもの。

発展性：会館で作成されたプログラム等をモデルとした地方の活動事例、研修やフォーラムをきっかけに拡大した女性関連団体等のネットワーク等、会館が提供した情報等で男女共同参画の展開に資するもの。

効率性：事業をより円滑に実施するための取組等を示すもの。

評価の観点	適時性	独創性	発展性	効率性
観点の考え方	・ 政策性 ・ 必要性 ・ 国際性 ・ 緊急性 ・ ナショナルセンターとしての対応	・ 独自性 ・ 新規性 ・ 先駆性 ・ 高度専門性	・ 影響性 ・ 汎用性 ・ 応用性 ・ 多様性 ・ 将来性 ・ モデル性	・ 時間的投資 ・ 人的投資 ・ 設備的投資 ・ 内部資源の活用 ・ 施設の有効活用 ・ 他機関との連携

○定性的評価の基準

(S：極めて顕著な成果が認められる)

A：十分に成果が認められる

B：概ね成果が認められる

C：一部成果が認められる

D：成果が認められない

2. 定量的評価の観点について

定量的評価の観点については、原則として、中期計画、年度計画に数値的目標が掲げられているとおり、文部科学省独立行政法人評価委員会の指標を準用し設定した。なお、それ以外の定量的評価の指標については、他の指標との整合性等を考慮し独自に作成した。

事業区分	評価観点	評価基準				
		S	A	B	C	D
研修事業	プログラムの有用度		85%以上	84～70%	69～60%	59%以下
	影響評価		80%以上	79～70%	69～60%	59%以下
調査研究事業	プログラムの有用度		85%以上	84～70%	69～60%	59%以下
	影響評価		80%以上	79～70%	69～60%	59%以下
	男女共同参画統計ニュースレターの配信先		1,800件以上	1,600～1,799件	1,599件以下	
情報事業 (※)	図書のパッケージ貸出実施状況		4機関以上	3機関	2機関	1機関
	データベース化件数		580,000件以上	540,000～579,999件	539,999件以下	
	アクセス件数		300,000件以上	270,000～299,999件	269,999件以下	
	女性アーカイブの基本知識を伝える学習の場の提供		20名以上	18～19名	17名以下	
	資料収集数		1,000点以上	900～999点	899点以下	
	アーカイブ展示室への入室件数		38,000件以上	24,300～37,999件	24,299件以下	
理解・利用の促進	宿泊利用率		55%以上	45%以上	45%未満 42.5%以上	42.5%未満
	利用者の満足度		80%以上	70～79%	60～69%	60%未満
連携協力	共催・受託等機関数		7機関以上	6機関	5機関	4機関以下
国際関係	アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナーの有用度		90%以上	89～70%	69～60%	59%以下
	シンポジウムの有用度		85%以上	84～70%	69～60%	59%以下
	影響評価		80%以上	79～70%	69～60%	59%以下
	連携機関数		2機関以上	1機関	—	—
業務の効率化 (平成22年度の基準金額に対する割合)	一般管理費効率化		85%以下	—	—	85%以上
	業務経費効率化		95%以下	—	—	85%以上
外部資金の導入	外部資金の導入件数		5件	4件	3件	2件以下

※ 「図書のパッケージ貸出実施状況」はセンターの運営、「データベース化件数」、「アクセス件数」はポータルの充実、「女性アーカイブの基本知識を伝える学習の場の提供」、「資料収集数」はアーカイブの構築に限る

3. 総合評価の判定基準の考え方

各観点評価の結果を基に、総合的判定を行うが、考え方は次のとおりとする。

S = 5 点、A = 4 点、B = 3 点、C = 2 点、D = 1 点

<例>

4つの観点で評価し、Aが3つ、Bが1つの場合

$((4 \text{ 点} \times 3) + (3 \text{ 点} \times 1)) \div 4 = 3.75 \div 4 \rightarrow \text{総合評価 A}$

※S評価については、文部科学省等からその根拠について詳細な確認を求められる傾向にあります。

判定結果をSとする場合、「評価の観点」に応じた明確な理由を「理由欄」に記述してください。

4. 中期計画の実施状況に関する判定の考え方

判定に使用する用語は、次のとおりとする。

- A 達成 : 計画以上の成果が達成されている
- B 順調 : 計画通り実施されており、当該年度計画を95～100%達成
- C ほぼ順調 : ほぼ計画通り実施されており、当該年度計画の達成率は80～94%
- D 一部要注意 : 一部計画の実施に支障があり、当該年度計画の達成率は50～79%
- E 要注意 : 計画の実施に注意が必要であり、当該年度計画の達成率は49%以下

参考資料



平成26年度「ダイバーシティ推進リーダー会議」実施要項

1. 主 催
独立行政法人 国立女性教育会館（NWE C）
2. 会 場
国立女性教育会館
3. 期 日
平成26年6月12日（木）～6月13日（金） 1泊2日
4. 参 加 者
企業におけるダイバーシティ（女性の活躍促進）の推進リーダー
5. 定 員 30名
6. 日 程

		12:30	13:00	13:05		15:30	16:00		18:00	18:30	20:00
6/12 (木)			受 付	開 会	事例発表 パネルディスカッション		休 憩	ディスカッション1		移 動	※ 情報交流会

	9:00	10:00	10:10		12:00	13:00		14:50	15:00	
6/13 (金)	情報 提供	休 憩	ディスカッション2		昼 食	ディスカッション3	開 会			

※「情報交流会」は、希望者のみの有料プログラムになります。

7. 内 容

第1日 6月12日（木）

- (1) 開会 【中会議室】 13:00～13:05
主催者あいさつ 国立女性教育会館理事長 内海 房子

- (2) 事例発表 及び パネルディスカッション

【中会議室】 13:05～15:30

○企業における女性活躍促進の事例をもとに、女性の活躍を促進するための課題や、ダイバーシティの推進により、組織がどのように変わるかについて議論します。

報告者

株式会社リクルートホールディングス
ソーシャルエンタープライズ推進室 室長 花形 照美

株式会社三菱東京UFJ銀行
人事部 ダイバーシティ推進室 室長 高橋 浩子

株式会社日立製作所
人財統括本部 ダイバーシティ推進センター 部長代理 神宮 純緒

～ 休憩～

※休憩時にウィメンズショップ・パッチワークの協力により、有機栽培コーヒーをご提供します（200 円）。パッチワークはフェアトレードを扱う女性起業ショップです。

(3) ディスカッション1 【110 研修室】 16:00～18:00

○グループに分かれて、参加者同士の自己紹介を通し、企業におけるダイバーシティ推進の背景や問題意識を共有するためのディスカッションを行います。

※情報交流会（有料 3,000 円） 18:30～20:00

○立食パーティー形式の交流会を行います。他企業からの出席者の方との情報交換・ネットワーク作りを行います。

第2日 6月13日（金）

(4) NWEC からの情報提供 【中会議室】 9:00～10:00

○女性の活躍と男女共同参画について、統計データを用いながら我が国の実情を解説します。

講師：国立女性教育会館研究国際室長

中野 洋恵

(5) ディスカッション2 【110 研修室】 10:10～12:00

○ダイバーシティ推進リーダーがリーダーシップをとる際に必要となるコミュニケーション能力を高めるための手法の一つであるアクションラーニングを体験します。

(6) ディスカッション3 【110 研修室】 13:00～14:50

○アクションラーニングを通じて、企業においてダイバーシティを推進する際に課題となる問題とその解決策について、参加者の多様な視点からの問いかけに基づきながらのディスカッションを行います。

(7) 閉会・アンケート記入 【110 研修室】 14:50～15:00

8. その他

・期間中、職員が撮影した写真を、事業記録や広報のために使用することがあります。あらかじめご了承ください。

平成26年度「ダイバーシティ推進リーダー会議」参加者概況 H.26.6.12現在

定員：30
 申込者 29
 キャンセル 3
 参加者：26
 応募倍率：96.7%

1. 性別

	合 計
女 性	24
男 性	2
合 計	26

2. 年代

	女 性	男 性	合 計
20代	—	—	—
30代	5	1	6
40代	9	9	18
50代	4	4	8
60代以上	2	2	4
無回答			
合 計	20	16	36

3. 12日事例発表・パネルディスカッション～ディスカッション1

	女 性	男 性	合 計
参加	24	2	26
不参加			
合 計	24	2	26

4. 12日情報交流(オプション)

	女 性	男 性	合 計
参加	18	1	19
不参加			
合 計	18	1	19

5. 13日ディスカッション2

	女 性	男 性	合 計
参加	16	1	17
不参加			
合 計	16	1	17

6. 13日ディスカッション3

	女 性	男 性	合 計
参加	15	1	16
不参加			
合 計	15	1	16

※地域ブロック別参加者内訳

	女 性	男 性	合 計	割合%
北海道・東北	—	—	—	—
関東	18	2	20	76.9
甲信越	—	—	—	—
北陸・東海	2	—	2	7.7
近畿	2	—	2	7.7
中国・四国	1	—	1	3.8
九州・沖縄	1	—	1	3.8
合 計	24	2	26	100.0

8. 都道府県別

※政令指定都市(カッコ内)は都道府県の内数に含む

	女 性	男 性	合 計
北海道・東北	北海道	—	—
	(札幌市)	—	—
	青森県	—	—
	岩手県	—	—
	宮城県	—	—
	(仙台市)	—	—
	秋田県	—	—
	山形県	—	—
関東	福島県	—	—
	茨城県	—	—
	栃木県	—	—
	群馬県	—	—
	埼玉県	—	—
	(さいたま市)	1	1
	千葉県	—	1
	(千葉市)	—	—
	東京都	16	1
	神奈川県	1	—
甲信越	(横浜市)	—	—
	(川崎市)	—	—
	(相模原市)	—	—
	山梨県	—	—
	新潟県	—	—
	(新潟市)	—	—
	長野県	—	—
北陸・東海	富山県	—	—
	石川県	—	—
	福井県	—	—
	岐阜県	1	—
	静岡県	—	—
	(静岡市)	—	—
	(浜松市)	—	—
	愛知県	1	—
	(名古屋市)	—	—
	三重県	—	—
近畿	滋賀県	—	—
	京都府	—	—
	(京都市)	—	—
	大阪府	2	—
	(大阪市)	—	—
	(堺市)	—	—
	兵庫県	—	—
	(神戸市)	—	—
	奈良県	—	—
	和歌山県	—	—
中国・四国	鳥取県	—	—
	島根県	—	—
	岡山県	—	—
	(岡山市)	—	—
	広島県	—	—
	(広島市)	—	—
	山口県	—	—
	徳島県	—	—
	香川県	—	—
	愛媛県	1	—
九州・沖縄	高知県	—	—
	福岡県	1	—
	(北九州市)	—	—
	(福岡市)	—	—
	佐賀県	—	—
	長崎県	—	—
	熊本県	—	—
	(熊本市)	—	—
	大分県	—	—
	宮崎県	—	—
	鹿児島県	—	—
	沖縄県	—	—
合 計	24	2	26

平成26年度「ダイバーシティ推進リーダー会議」 アンケート集計結果

H.26.6.30

参加者	26 名	
アンケート回答数	24 件	女性:23 男性:1
アンケート回答率	92.3 %	

本研修に関する意見・感想

1. 本研修に参加された理由は何ですか。

- ・急遽上司のピンチヒッターの参加ではありましたが、昨年参加してためになったので(内容、人脈)。(積極的に代理を申し出てみました)
- ・ご案内を社長が受け取り、指示があり参加しました。
- ・ダイバーシティ担当として自社課題解決に向けて他社の方の状況を聞きたく、また、ダイバーシティの担当者のネットワーク作り
- ・専任組織ができたばかりで他社の方々がどういった課題、意識、取り組みをされているか情報収集したいため。
- ・ダイバーシティ推進に向けた情報収集
- ・他社の取り組み等の情報の取得。ネットワーク作り。
- ・ダイバーシティの意識はあるが取り組みがなかった。他社の事例より学びを得るため参加しました。
- ・ご参加の皆さまの情報交換、ネットワーキング
- ・労働者数が減少していく中で私たちのような3K会社が雇用を確保することは重要課題です。そんな中で、男性も女性も長く働いていただけるような会社組織作りの知識がほしいと思い参加しました。
- ・ダイバーシティ推進について世の中の動向を知りたかった。
- ・女性活躍推進に向けた各企業の取り組みを課題について情報交換しながら今後に活かしたいと思い参加させていただきました。
- ・ダイバーシティに関する他社との情報交換。リーダーとしての自身の能力向上。
- ・女性活躍推進に対する社会的認知が急激に高まり、活動が加速するとともに、各社で次のステージへ変化してきており、当社でも変化の兆しがある。先進企業の事例を伺うことで社内取り組みの参考にしたいため。
- ・パネラーのお三方の話を直接聞かせていただくことで、「こんな立派な女性もいる、活躍している」を体感し、励みにしたいと思って参加。
- ・女性の管理職・役員登用の推進の一助として経営的視点での決算書の見方のスキルを身につけることの有効性があるかどうかを伺いたかった。
- ・各社様の事例とパネルディスカッションでの情報を弊社施策の参考にしたいため。
- ・前任者へのご案内に従い伺いました。2014年4月よりダイバーシティを担当することになり情報収集をしたいと思いました。
- ・中光さんにお話を伺い、社長もぜひ参加しなさいとの事で参加させていただきました。
- ・課題解決のヒント。ネットワーク作り。
- ・現在のダイバーシティの現状を勉強したいと思い参加しました。
- ・さまざまな企業の方の体験や悩みを共有したくて参加しました。
- ・2014年4月より、ダイバーシティ推進室長になり、他社の取り組み内容や自らの勉強のため。
- ・各社のダイバーシティ推進の取り組みを聞いて、今後の施策展開に役立てるため。
- ・ダイバーシティ100選定企業へのご案内をいただいたため。

2. 「ダイバーシティ(女性の活躍促進)推進」に関する問題意識の変化についてお尋ねします。

①本研修参加前の問題意識をご記入ください。

- ・日常業務の中で、もやもやとした課題を考えていました。
- ・具体的な女性活用とは何か、という漠然とした疑問で参加させていただきました。入ってくる生の情報が少ないため、それを解消するきっかけになればと思いました。
- ・女性の意識、女性の地位の低さ
- ・上司と女性本人のキャリア形成に対する意識改革
- ・本気で会社が取り組むために必要なことは何か？頭では理解していても、今の課題、これからどうありたいかを考える必要がある。
- ・自分自身が人事部門でないこともあり問題として考えてはいなかった。
- ・専従部門が無い中、業務と仕事と並行しつつ進められるのが疑問であった。また他社の社内共有の現状について知りたかった。
- ・少ないリソースでどこに注力して結果をだしていくか、他社さんとの交流の中でヒントを得たいと考えておりました。
- ・女性の活躍促進について他社の取り組みには全く知識がなかったこと。育休などの取得促進について全く手が付いていなかったこと。「そもそも必要なのか?」「何が問題なのか」と思っていたこと。
- ・大企業では進んでいるが、中小企業では進んでいない。
- ・企業側が提供する施策や新しい取り組みを進めていくにあたり、何が有効なのか、どのような方法が実効性あるものとなるか。
- ・現場の人間としてダイバーシティに関する理想と現実のギャップを感じてはいたが、「非常に大きく、解決困難な問題」という漠然とした問題意識
- ・女性の経営層を輩出するための議題。育児支援ではなく“両立支援”とする育児者の仕事に対する意識付け。
- ・産休・育休・時短等の支援制度の充実が大切であり、まだ不十分なのではと思っていた。辞めずに働き続けるための支援。

- ・下記につき改善策を検討したかった。育休後に復職しても仕事と育児の両立ができず退職される女子社員をなくしたい。復職後、子供の発熱で休んだり早退したり、に悩んでいる女子社員の悩みを解消させたい。
- ・短時間勤務者のキャリア形成。サイレントマジョリティへの対応。女活の言語化(どういうメッセージを出すと全員に腹落ちするのか。)
- ・「女性の」活躍促進を進めていくための方策のヒントがほしい。
- ・育児休暇や時間短縮などの制度はあるが、有効活用されていない。(時短が取りづらい)。管理職登用について(会社では推進するが、女性本人の意識改革ができていない。多くの女性が、キャリア形成できていない。(将来について考えていない)。男性社員のダイバーシティ推進について、腹落ちされていない人が目立つ。
- ・経営トップ層、管理職層、女性自身、それぞれの意識改革が必要であるが、どのように推進すればよいか。
- ・ダイバーシティ推進専任部署リーダーとしてダイバーシティが企業の成長を実現することをどのように見える化するか、長期的視点を持って推進し続けるためには、どうすればいいか。

②本研修参加後の問題意識をご記入ください。

- ・事業と直結した女性活躍推進をどう行うか、というところを深めていきたい。
- ・現在、全国でダイバーシティや女性活用が推進されていく中で、会社として女性社員の活用、ケアに対してどう向き合っていくか。目の前の事柄も大切ですが、世間の大きな流れもきちんととらえていけたらと思います。
- ・能力主義について全社員への再認識。女性だけでなく、能力、成果という点が問題だと発見することができました。
- ・長時間労働の是正を含めた男女の働き方変革
- ・これからは、両立支援ではなく、活躍支援なのだとということを実感しました。本気で取り組むためにも、今の課題、これからどうありたいかを考える必要もある。
- ・データの的にも企業成長のために取り組んでいかなければいけない課題として認識した。
- ・経営計画や日常のマネジメントとすべて関連づいていることに気が付き、また自社の現状は強みの部分も持ち合わせている。少しずつ取り組んでいきたいと考えている。
- ・やるべきことが明確になり、アクションにつなげていきたいと考えております。ダイバーシティ推進に奇策はなく、実直に取り組んでいかねばと改めて実感しました。
- ・他社の(しかも大企業！)皆様方ご苦労が良くわかりました。また、思考力の高さ、知識の豊富など良い刺激となり、勉強不足を痛感しました。
- ・会社を持ち帰り少しずつ女性の活躍促進を行いたい。
- ・パネルディスカッションや同業の方と情報交換をしていくうちにヒントを得ることができました。両立支援⇒活躍支援への取り組みを課題としていきます。
- ・ダイバーシティ実現のため、小さな1歩でも、実行していく必要性を感じた。今回の研修による気づきを会社を持ち帰り実務や施策に反映実施できるような「行動」をとりたいと思う。
- ・“両立支援”の本当の意味とそれに必要な施策
- ・女性が経営の意思決定や判断に参画する、経営幹部になっていくには、を自分自身に対し問題として意識することができた。
- ・活躍促進のフェーズになっている。経営者の意識が重要。
- ・プロジェクトは内容と魂・信念の両方が必要と感じました。
- ・まずは、今抱えている問題を整理し、会社の問題提起をする。改善案を検討し、事例を参考に制度を作る。
- ・課別課題への問題意識変化というよりも普段接点がないような方々とのセッションを経て、女性のリーダーも多様性があり、それを知ったこと。課題のヒントを得ることができて、進めそうな勇気をもらった。
- ・大きな流れは同じだと感じました。ここ10年ですごく変わると思います。うれしい限りです。
- ・女性だけでなく男性も含め、固定的役割意識から脱却し、能力を発揮できるマネジメントへの変革が必要と感じた。
- ・両立支援と活躍支援について、育児休暇や時間短縮など復職に向け、いかにキャリア中断が短く復職することが大事と感じた。若いうちのキャリア形成の大事さ。外国籍社員の活用。障害者雇用の活用。中高年社員の活用。
- ・各社、いろいろな取り組みをされており成果を上げておられるが、活動を継続する中で必ず踊り場があることが理解できた。どの段階でもその時の課題をどう乗り越えていくかを考えることが重要で、現在のレベルにあわせた適切な施策を進めていく必要がある。
- ・パネルディスカッション3社の方の具体的な取り組みの話をついて、成果を定量化・定性化してPDCAをまわしている点が大変参考になりました。他では聞けない本音のお話などを伺うことができ、当社グループでも加速的にダイバーシティ推進を行っていききたいという思いをあらたにしました。

3. この研修の内容は、あなたの考えを深めたり今後の事業を行う際に役立てたりする上でどの程度有用でしたか。

(※は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	16	69.6	—	—	16	66.7	16	69.6
有用であった	6	26.1	1	100.0	7	29.2	7	30.4
あまり有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	1	4.3	—	—	1	4.1		
合計	23	100.0	1	100.0	24	100.0	23	100.0

＜意見・感想等＞

「非常に有用であった」理由

- ・1日目の事例の中で当社でも出来るヒントを得られた。2日目のグループディスカッションで問題提起し、いろいろな考え方を知ることができた。
- ・異業種、全国の企業様方の取組、考え方を知ることができました。
- ・今まで長い間、答えが出なかったことを、みんなで考えるという時間を取って考えることができ、短時間にもかかわらず答えを出せたことが驚きでした。今後も自社で時間を作り実行していきたいと思います。
- ・私自身があまり前向きになれていなかったダイバーシティ推進(女性を優遇することによる弊害などを懸念)について、視野が広がりシンプルにもっと意志決定に女性がいた方がよいと思えるようになりました。
- ・質問の仕方は勉強になりました。部下の意見の引き出しに苦労しているので実践したいと思います。
- ・参加型のプログラムが大半であったこと、交流会の場で担当者の悩みを含めて本音で知ることができたこと。
- ・会議の効率的な進め方、女性活躍についての具体策をたてるための情報確保など。
- ・新しい施策や企画の打ち出し方や納得感を得るための表し方等がとても参考になりました。男性の会議の進め方や答えの出し方を情報交換していく中でヒントを得られ、今後の参考とさせていただきます。
- ・2-②で述べた、問題意識の変化がもたらされたため。
- ・企業が働きやすい環境を提供すること、社員に最大限の能力発揮による事業への貢献を求めるのは両輪という話に納得。
- ・パネルディスカッション、事例紹介の内容が非常に有用であった。現状が具体的にわかって、参加者の方々と情報交換、アクションプランニング。
- ・同じ意識レベルの多くの女性と話や意見交換できたこと、パネリストのみなさんのお話もとても参考になりました。内海さんとお話しできたことも大変刺激になり、私の財産になりました。

「有用であった」理由

- ・今後取り組むべきアクションが明らかになった。
- ・他社様の取組を知ることができた。
- ・ケーススタディがとてもよかった。皆様とのディスカッションがとても参考になりました。
- ・ネットワークが広がる。前提の異なる人たちとの意見交換で自分の思考のくせや枠が客観的にみえる。

4. この研修全体の満足度は、いかがでしたか。

(※は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	合計	%	※	※%
非常に満足した	18	78.3	—	—	18	75.0	18	78.3
満足した	4	17.4	1	100.0	5	20.8	5	21.7
少し物足りなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
物足りなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	1	4.3	—	—	1	4.2		
合計	23	100.0	1	100.0	24	100.0	23	100.0

＜意見・感想等＞

「非常に満足した」理由

- ・今後の施策に活かしていけそうなヒントをたくさんもらったので。
- ・全体としてとても満足。多くの方との出会い考えを聞いたことが大変有用でした。
- ・全員の意識が高くさらにそれを高め合うことができた。
- ・いろいろな企業の方が集まり、お話することで、皆さんがんばっている姿を見て、また明日からがんばろうと思えました。課題の共有ができてアドバイスをいただけたことも良かったです。
- ・新聞等で読んでいる活動を実践していっている方々のご縁ができて大満足です。今後ともよろしくお願いいたします。
- ・同じD&I推進者のネットワークを形成できてよかったです。今後このご縁を大切にしていきたいと思います。課題の共有を行うと共に、どのように進めていくと良いのか、学ぶことができました。
- ・他社とのコミュニケーションによる気づきがあり、自社を客観的に見直すきっかけとなりました。
- ・3社それぞれに特徴も違う中で参考になる話をうかがえた。
- ・今回、海外の方、名古屋、大阪、福岡など遠方からいらっしゃる方と埼玉のここ嵐山で会えることができて、人のつながりを大変面白く興味深く思う。
- ・ディスカッションは考えることが多く普段の発想と違うことが発想できたり自分の思いつかないような意見もきけたので大変ためになりました。
- ・ほぼ同じ課題、目的を持った人たちが参加しているので、グループワークなど大変やりやすかった。講師、スタッフ、施設全て良かったと思います。引間さんのファシリテートがすばしかったです。
- ・現在、J-Winや経団連女性活躍推進部会や21世紀職業財団など各種団体で情報交換など行う機会はあるが、当該研修は1泊2日でじっくりと議論ができる点がとても良いと思いました。

「満足した」

- ・ALは2セッションでしたが、できれば全員が問題提起ができればよかったです。
- ・ネットワークができました。
- ・ディスカッションが結論まで達したこと。

5. 今後、このような企業向け研修でどのようなテーマ・内容・方法が取り上げられていたら、参加したいと思われますか。

- ・他社で行われている女性を対象とした研修の体験が(ダイジェスト版)できたらいいなと思いました。(選抜、育休前、復職時など)
- ・ぜひ、参加したいと思います。また、他の人も連れてきたいと思います。
- ・議論すべきテーマがあらかじめ提示され、各企業の参加者がそのテーマに対する自社の実情取組を準備し話し合う場があれば参加したいです。(一般的な施策紹介より、踏み込んだ深い議論がしたい)
- ・女性リーダー育成
- ・テーマ:女性マネージャー向けの研修
- ・社内の情報共有、社内の研修の運営方法
- ・若手女性社員へのキャリア支援の他社様での具体例をもっと知りたい。初日のディスカッションに事例発表を行ってくれた神宮さんが参加してくださりました。大手の役職者の方と直接お話しできて良かったです。
- ・女性活躍推進「女性管理職登用にに向けた具体的な取組」育成策、登用に関する好事例紹介
- ・機会があればぜひ参加したいと思います。
- ・第2フェーズ。ダイバーシティの波や風が来ているとのことで、これから5年～10年でどんな成果が出てくるのか、施策がとられたか、中間報告を含め各企業さん日本全体のレポートなど。
- ・是非参加し、Updateしていきたい。
- ・両立支援→施策の失敗例、成功例
- ・社員の意識改革、女性の人生後半の生き方について
- ・テーマはダイバーシティ推進、本人の意識改革など。業種バラバラのディスカッションは普段経験できないので、人脈作りも合わせて今後に生かせると思う一方で、課題課題解決の深堀には業種別のセッションもあっていいと思います。

6. 国立女性教育会館の事業や施設等について

- ・大変有意義に使わせていただきました。
- ・安いにもかかわらずとても満足です。また来たいと思います。
- ・自然の中のとても恵まれた施設でした。社外での勉強会をやっていますので、今度利用したいと思います。貴重な機会をありがとうございました。
- ・初めて伺いました。自然が豊かで落ち着きました。たくさんの資料があるので少し早めに到着するよう段取りすべきでした。
- ・緑が多く静かでとても落ち着ける施設でした。
- ・今回は研修料が無料とのことで上司が参加の許可をしてくれました。また、このような研修に参加したいです。「女性リーダー育成」のような研修を行ってほしいです。
- ・スタッフが皆とても親切丁寧で気持ちが良いです。
- ・素晴らしい。
- ・緑が多く静かでとても環境がよいと思いました。社員研修やコミュニケーションの場として利用したいと思いました。
- ・都会からの参加でしたので、1.5時間でしたが遠方の方は羽田や東京駅までも遠いのでアクセスの良いところできると良いと思います。ですが、この施設と環境は、大変素晴らしく感動いたしました。夕食も満足です。

II 参加者自身について

◆性別

	人数	%
女 性	25	96.2
男 性	1	3.8
合 計	26	100.0

◆年代

	女性	%	男性	%	合計	%
20代	—	—	—	—	—	—
30代	5	21.7	1	100.0	6	25.0
40代	10	43.5	—	—	10	41.7
50代	6	26.1	—	—	6	25.0
60代	2	8.7	—	—	2	8.3
無回答	—	—	—	—	—	—
合計	23	100.0	1	100.0	24	100.0

平成26年度「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」開催要項

1. 趣 旨

本セミナーは、企業における女性の活躍推進を図り、男女共同参画社会の形成に資するため、企業におけるダイバーシティ（女性の活躍促進）の推進者、管理職、リーダーを対象に実施します。

事例発表、講演およびパネルディスカッションでは、ダイバーシティ推進企業の経営者や人事部門の責任者、そしてワークライフバランスの専門家の方々を講師に迎え、女性の活躍促進のためには、どのような職場の風土改革やマネジメントが必要なのかを考えていきます。続いて情報交流会において参加者同士による情報交換やネットワークづくりの場を提供します。

そして、グループワークでは参加者の直面する疑問や課題に向き合い解決の方向を探ります。

2. 主 催 独立行政法人 国立女性教育会館（NWE C）

3. 共 催 経済産業省

4. 会 場

1 日目（10 月 17 日） 放送大学東京文京学習センター

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1

TEL:03-5395-8688

2 日目（10 月 18 日） 国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728

TEL:0493-62-6724

ホームページ URL:<http://www.nwec.jp/>

5. 期 日

平成26年10月17日（金）～10月18日（土） 1泊2日（※）

（※）初日のみの参加も可能です。

6. 参 加 者

企業におけるダイバーシティ（女性の活躍促進）の推進者、管理職及びリーダー

7. 定 員 80名

8. 日 程

	12:00	13:00	13:30	15:15	15:30	17:00	18:30	20:30
10/17 (金)		受付	開 会	事例発表 講 演		パネル ディス カッション	※情報 交流会	バスにて 移動

	9:00	10:00	10:15	12:00	13:00	14:45	15:00
10/18 (土)	情報 提供		グループワーク 1	昼 食	グループワーク 2	閉 会	

※「情報交流会」は、希望者のみで、有料のプログラムになります。

9. 内 容

第1日 10月17日(金)

【東京茗荷谷会場】

(1) 開会行事 13:00～13:30

主催者あいさつ 内海 房子 国立女性教育会館理事長
施策説明 経済産業省

(2) ダイバーシティ先進企業からの事例発表 13:30～14:30

ダイバーシティ先進企業の取組を伺います。女性の活躍を促進する職場風土や人材マネジメントのヒントを探ります。

講 師：泉川 玲香 イケア・ジャパン株式会社 取締役人事本部長
講 師：松橋 卓司 株式会社メトロール 代表取締役社長

(3) 講演「職場の風土改革に必要なマネジメントとは」 14:30～15:15

女性の活躍促進を実施している企業からの事例を踏まえて、女性の活躍を促進するための課題や、女性の活躍を創出していく上で、何が求められているかについてお話いただきます。

講 師：パク・スックチャ アパショナータ Inc. 代表
ワークライフバランスコンサルタント

(4) パネルディスカッション「女性が活躍できる企業のあり方とは」 15:30～16:45

パネリスト：泉川 玲香 イケア・ジャパン株式会社 取締役人事本部長
パネリスト：松橋 卓司 株式会社メトロール 代表取締役社長
コメンテーター：パク・スックチャ アパショナータ Inc. 代表
ワークライフバランスコンサルタント

(5) 1日目閉会行事（1日目のみ参加者アンケート記入及び回収） 16:45～17:00

(6) 情報交流会（希望者のみ） 17:00～18:30

全国からの参加者と交流し、参加者同士の情報ネットワークづくりを行います。

*2日目参加者は専用バスにて国立女性教育会館へ移動。

第2日 10月18日(土)

【嵐山会場】

(7) NWE Cからの情報提供 9:00～10:00

統計データを用いた国際比較を通じて、女性の活躍と男女共同参画の推進をわかりやすく解説します。

講 師：中野 洋恵 国立女性教育会館研究国際室長

(8) グループワーク 1 10:15～12:00
グループに分かれて、参加者同士の背景や問題意識を共有し、講演やパネルディスカッションで得たことの相互理解を深めていきます。

(9) グループワーク 2 13:00～14:45
引き続き、グループごとにアクションラーニングに基づいたディスカッションを行い、話し合ったことを発表して全員で共有します。

(10) 閉会 14:45～15:00
アンケートの記入及び回収
閉会のあいさつ 櫻田 今日子 国立女性教育会館事業課長

10. 申込方法等について

(1) 方 法
別紙「参加申込書」に必要事項をご記入の上を下記メールアドレスまでお申し込みください。
メールアドレス progdiv@nwec.jp

※開催要項、参加申込書の電子データをご希望の方は、国立女性教育会館ホームページよりダウンロードしてください。(http://www.nwec.jp/)

(2) 申込期限 平成26年10月16日(木)

(3) 参加のお知らせ
ご本人宛にメールによりお知らせします。連絡が来ない場合は、お手数ですが事業課(電話:0493-62-6724)までお問い合わせください。

11. 所要経費

(1) 受講料 無料

(2) 情報交流会費 3,000円(希望者のみ)

※1日目のプログラム終了後、夕食を兼ねた情報交流会を立食形式で行います。

※情報交流会終了後、貸切バスにて国立女性教育会館までご案内します。

(3) 宿泊費 開催期間中は1泊2,670円(後泊も2,670円)

(4) 食 事 カフェテリア形式の食堂を備えておりますので、ご利用ください。
(1食 700円～1,000円程度)

12. その他

職員が撮影した写真を、事業記録や広報のために使用することがあります。あらかじめご了承ください。

平成26年度「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」参加者概況

平成27年9月25日現在

定員：80

申込者 84

キャンセル 17

参加者：67

応募倍率：105.0%

1. 性別

	合 計
女 性	53
男 性	14
合 計	67

3. 17日講演・パネルディスカッション

	女 性	男 性	合 計
参加	53	14	67
不参加	—	—	—
合 計	53	14	67

4. 17日情報交流会(オプション)

	女 性	男 性	合 計
参加	28	7	35
不参加	—	—	—
合 計	28	7	35

5. 18日情報提供

	女 性	男 性	合 計
参加	17	3	20
不参加	—	—	—
合 計	17	3	20

6. 18日グループワーク 1

	女 性	男 性	合 計
参加	17	3	20
不参加	—	—	—
合 計	17	3	20

6. 18日グループワーク 2

	女 性	男 性	合 計
参加	17	3	20
不参加	—	—	—
合 計	17	3	20

※地域ブロック別参加者内訳

	女 性	男 性	合 計	割合%
北海道・東北	2	1	3	4.5
関東	43	12	55	82.1
甲信越	2	1	3	4.5
北陸・東海	3	—	3	4.5
近畿	3	—	3	4.5
中国・四国	—	—	—	—
九州・沖縄	—	—	—	—
合 計	53	14	67	100.0

8. 都道府県別

※政令指定都市(カッコ内)は都道府県の内数に含む

	女 性	男 性	合 計
北海道・東北	北海道	—	—
	(札幌市)	(—)	(—)
	青森県	1	—
	岩手県	—	—
	宮城県	—	1
	(仙台市)	(—)	1
	秋田県	—	—
	山形県	—	—
	福島県	1	—
	合 計	—	—
関東	茨城県	—	—
	栃木県	—	—
	群馬県	—	—
	埼玉県	7	1
	(さいたま市)	2	(—)
	千葉県	2	—
	(千葉市)	1	(—)
	東京都	32	9
	神奈川県	2	2
	(横浜市)	(—)	1
甲信越	(川崎市)	1	(—)
	(相模原市)	(—)	(—)
	山梨県	1	—
	新潟県	1	1
	(新潟市)	1	1
	長野県	—	—
北陸・東海	富山県	—	—
	石川県	1	—
	福井県	—	—
	岐阜県	—	—
	静岡県	1	—
	(静岡市)	(—)	(—)
	(浜松市)	1	(—)
	愛知県	1	—
	(名古屋市)	(—)	(—)
	三重県	—	—
近畿	滋賀県	—	—
	京都府	—	—
	(京都市)	(—)	(—)
	大阪府	1	—
	(大阪市)	1	(—)
	(堺市)	(—)	(—)
	兵庫県	2	—
	(神戸市)	1	(—)
	奈良県	—	—
	和歌山県	—	—
中国・四国	鳥取県	—	—
	島根県	—	—
	岡山県	—	—
	(岡山市)	(—)	(—)
	広島県	—	—
	(広島市)	(—)	(—)
	山口県	—	—
	徳島県	—	—
	香川県	—	—
	愛媛県	—	—
九州・沖縄	高知県	—	—
	福岡県	—	—
	(北九州市)	(—)	(—)
	(福岡市)	(—)	(—)
	佐賀県	—	—
	長崎県	—	—
	熊本県	—	—
	(熊本市)	(—)	(—)
	大分県	—	—
	宮崎県	—	—
合 計	鹿儿岛県	—	—
	沖縄県	—	—
合 計	53	14	67

平成26年度「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」

アンケート集計結果

参加者	67	名			
アンケート回答数	62	件	女性: 51	男性: 11	不明: 0
アンケート回答率	92.5	%			

1. 事例発表・講演・パネルディスカッションについてご意見をお聞かせください。

- ・メトロールの事例は、女性がイキイキと働く姿がイメージできた。
- ・日本の世界の中での位置について、日本的考え方について知ることができた。今回は女性についての話だったが、人間として人間らしく生きるために企業は何を提供し、個人は何を求めるのか、ビジネスと人のバランスについて考えていきたいと思った。
- ・事例発表の時間が短すぎたことが残念だった。イケア様の取り組みをもう少し聞きたかった。
- ・それぞれの発表がユニークでたいへん有意義だった。泉川さんとパクさんのお話はもっと聞いていたいと思った。30分は短いと思った。
- ・国の政策や各国の取り組みの大まかな流れは分かり易かった。ただ、30分～45分という時間の制約の為にプレゼンがとても早く理解するのがたいへんだった。細かな施策が知りたかった。
- ・パクさんの話がたいへん興味深かった。両立支援制度のあり方、女性の家庭での役割を考え直すことで、男性も女性も、より活躍できる組織作りに繋がることを強く感じた。
- ・貴重な時間を持てたと感謝する。女性の意識と環境(男性を含む)を変えることがどれだけ大切かを痛感した。中光さんに挨拶できて良かった。内海理事長にも連絡したい。
- ・講義の内容について、すべてのパワーポイントの資料が欲しかった。見えにくいのと早い説明で聞き取れないところがあり、非常に残念だった。
- ・パクさんの講演がとても参考になった。海外と日本の違いも踏まえ、当社でも女性活躍推進の参考としたい。
- ・パク氏の話は、もっともだと思う。詳しく話を聞きたいと感じた。
- ・必ずしも自社の状況に当てはまることばかりではないが、いろいろな事例を聞くことはとても勉強になった。ダイバーシティ＝女性の問題ばかりではないと理解しているが、女性自身の意識も男性に頼っている、甘えている・・という部分もあり、男性も女性も意識改革が必要だと感じた。
- ・事例発表は、色合いの異なる2社だったので、各々のカラーの違いを見て取ることができ良かったと思う。講演では、今当に我が社が直面している問題(育児休職と時短勤務)に触れていただいたので、たいへん参考になった。
- ・事例発表の時間は短く感じ、もう少し詳しく聞きたかった。パネルディスカッションでは、いろいろな考え方を聞くことができて参考になった。「受容・インクルージョン」という言葉、その大切さを実感でき良かった。
- ・他社の事例が実際に聞けて勉強になった。政府の取り組みの話ももう少し聞きたかった。
- ・外資、中小(incl.ベンチャー)ではなく、ある規模(上場企業)の実態を知りたいと思った。また、夫婦世帯中心の話ばかりではなく、独身者におけるWLBについても企業の取り組みや考え方を知りたいと思った。
- ・パク氏の講演は、とても分かり易く今後の参考になった。特に「家庭責任の果たし方」は参考になり、やはり「新しい働き方」を考えないといけないと思った。男性の意識改革・男性の育児休業を推進していくことが必要だと思った。パネルディスカッションは、刺激的な話でとても楽しく聞くことができた。
- ・堅い職場環境で働いているので、柔軟な働き方についてのお話はとても興味深かった。
- ・貴重な話を聞くことができ勉強になった。異なる視点や考え方、ダイバーシティの意味を知ることができ、次のヒントにしようと思った。
- ・イケアとパクさんの話がたいへん役立った(業務に直接有効なものだったので)。パネルディスカッションがとても楽しかった。いろいろと考える良い時間となった(仕事でもプライベートでも)。
- ・すべてとても参考になった。イケアの「人の力を信じています」の言葉は、対人業務の当法人にもあてはまると思う。メトロールのIT革命と営業の話、パク氏の男女共に家庭責任を果たし自立すること、男性の働き方を変えることの大切さを私も感じた。パネルディスカッションがとても良かった。
- ・3名の講演者の話はどれもとても参考になった。特に、ダイバーシティを推進していく上で、長時間(過重)労働は、当社にとっても重要課題であるので、とても参考になった。パネルディスカッションも、話が上手で、楽しく聞くことができた。
- ・外資系企業・中堅企業の事例が新鮮で良かった。自社には真似のできない事例がたくさんあり、ダイバーシティの深さを知った。パク氏の話は、とすれば甘さに転じる女性活躍に厳しさを与えるものであった。
- ・事例発表の2社の話がたいへんおもしろかった。それぞれの講師が同じ理念・考え方を持っているかと思ったら、パネルディスカッションでそれぞれの意見の違いがあって、聞き応えがあった。
- ・泉川氏：一番大切な場所・存在が家であったり家庭であったり、普段当たり前すぎて気づかないことを再確認した。オフィス(仕事)が一番大切な場所になってしまっているのではないかと疑問に、男性の帰宅時間が海外に比べて遅く、女性がどうあるべきかも重要だが、男性の働き方も重要なのではないかと気づかされた。もっと話を聞きたい気持ちになった。
- ・松橋氏：3か月に一度の社内ビアパーティ、日帰り旅行等女性社員の家庭のことも考えて配慮することはすごい。
- ・泉川氏：イケアのワークライフバランス・福利厚生・有給休暇を様々なライフステージに応じたワークライフバランスを考え構築していることが理解できた。また、多様な人材の活用と長期的な平等な関係を構築し、人材を第一に考えた企業方針に賛同した。
- ・松橋氏：製造業の中で女性比率が高く、女性社員が活躍されていることが理解できた。Facebookでのコミュニティの立ち上げは、若い社員でないとできないと思った。楽しく働ける会社の雰囲気を感じた。

- ・ 三人ともそれぞれの経験知からの話で、全て面白く勉強になった。グローバルダイバシティというもろもろの流れもなるほど
- ・ 講演は非常に参考になった。ただ、腹落ち不十分で、次の話題になり残念だった。内容は分かり易く良かった。
- ・ 仕事は楽しいものだ、楽しくないともったいないと感じた。
- ・ 全てにバランスの良いパワフルな内容で、素晴らしかった。
- ・ 経営者の立場、人事部の立場での意見が聞けて興味深かった。
- ・ 各企業の取り組み、どのような想いを持って取り組んできたか、女性活躍促進のキーワード、他国との違い等たいへん貴重な情報、私見をいただき感謝する。
- ・ 経営者、人事の立場での意見、また自身の価値観、個性のある見解がとても新しく参考になった。実際に取り組んだ経験は、目から鱗だった。今後社内での女性活躍推進を行うにあたり、是非参考にしたい。
- ・ 自ら楽しむことは、人をinclusionする上で重要だと思った。採用・教育・女性活躍推進する上で今一度肝に銘じたいと思う。非常に感銘を受けたセミナーだった。
- ・ どの方の話もテンポ良く、それぞれの立場が明確に出ていて、さまざまな考え方に触れることができたし、それを比較することもでき、とても面白かった。
- ・ 素晴らしいプログラムだった。質疑含めもう少し時間が必要だと思った。
- ・ 刺激的、それでいて得るものの多い素晴らしい内容だった。企業風土の違いが強く感じられた。
- ・ 泉川氏のように自分もロールモデルになろうと思った。松橋氏との意見交換も良かった。松橋氏からは経営者としての考え方を聴くことができた。
- ・ パク氏他講演良かった。
- ・ たいへん興味深い話が聞けた。
- ・ 奇しくも本日、内閣府のHPIに女性管理職の登用目標値がアップされた。当法人は、15%を目標にしており、本日のセミナーにより、より実現出来るようにと思ったところ。
- ・ 事例発表は、非常に刺激になった。時間がもう少し長くても良かった気がする。
- ・ 講師の方の熱い話に引き込まれ素晴らしい時間だった。30分という短時間だったので、もう少し時間を延長していただければと思った。
- ・ 泉川氏の話をもっと聞きたかった。苦労したところ、新たな試みなどヒントになることがもっと聞ける時間(60~90分とか)をとってほしかった。
- ・ 各社特徴のある会社だったので参考になった。イケアには、もっと人事制度の部分を聞きたかった。
- ・ パネルディスカッションで、さまざまな立場だからこその意見があり、本当に面白かった。二日目を一番楽しみにしていた。今後の実践で使える手法を学べる機会も良かった。
- ・ 仕事について改めて考える機会をいただいた。楽しさを伝えていくことがまず必要と気づいた。また、仕事を楽しいと言う素敵な女性の話を知りたい。
- ・ 三人三様の個性が発揮され、たいへん面白かった。
- ・ 鋭い意見の方が多くて、面白かった。
- ・ たいへん参考になった。会社に帰り、すぐに実行に移したい内容ばかりだった。
- ・ 飾らない本音ベースのディスカッションがたいへん良かった。自分自身の中に絶対的な価値を見出し、信念をもつことの大切さを実感した。
- ・ イケアの事例について、取り組みをもっと詳しく教えてほしかった。パク氏の話は、データを使い、説得力のある内容だと思った。中小企業へ女性活躍を推進すべく、早速実務に役立てようと思った。
- ・ 現在実践している企業の考え方を学ぶことができ、たいへん参考になった。働き方の多様性、残業を減らすことが自社にとってまず必要ではないかと考えるきっかけとなった。実際の現場レベルでどうなのかかわかればより良いと思った。
- ・ イケアの思いや風土はすごくよく理解できたが、具体的な取り組み(制度・施策)等は、スライドを飛ばしすぎで残念だった。その風土をどう作り、維持しておくか興味がある。
- ・ 事例発表は「理想」として有為だったが、「間を埋めて進むブリッジ」が感じられないので、そのために泥臭く進んでいる優良企業の声も知りたかった。
- ・ イケアのチェンジマネジメントについて詳しく話を聞きたかった(組織の風土改革を担う者として勉強してみたいと思った次第)。「男性をもっと家庭に」取り組んでいるところであるが、まだまだ旧態依然とした「男は会社、女は家庭も会社も」の意識が根強いと感じている。社会全体のムーヴメントを期待している。
- ・ 泉川氏と松橋氏の話の中から、いくつもの重要なキーワードを見つけることができた。女性のためだけではなく、企業としての意識改革がポイントだと思った。仕事も人生も楽しむことが、とても大切と改めて思った。
- ・ 普段聞けない話を聞けて良かった。
- ・ 問題に対しての考え方、どう動く楽しく仕事ができるかを考えることができる内容だった。
- ・ 普段他社の取り組みの話を知る機会が少ないので、とても参考になった。
- ・ パク氏の話はデータに基づいて分かり易かった。パネルの両社からどんな考えでやっているか伝わってきたが、具体的に何をやっているのかがもう少し知りたかった。グローバルな企業は風土が出来上がっているから、具体的な取り組みが不要ということでしょうか？とも思った。
- ・ 楽しんで聞くことができた。時間が足りないくらいだった。

2. その他プログラムについてご意見をお聞かせください。

- ・ パネルディスカッションの中で、パネラーの方々のウィットに富んだ話が、とても楽しかった。
- ・ 充実したセミナーなので、全行程出席出来ず残念だった。これからも貴会館の活動に注目して参加できたらと思った。24時間しかないので、どう使うか考える！！
- ・ その他が参加出来ず残念だった。
- ・ 質問した人も全員女性で、女性は意識が高いと思う。

- ・イケアとメトロールの話が、30分というのは短いと感じた。もっと聞きたかった。
- ・18時までには帰るというプランはとても良いと思った。当社でも社内イベントの参加率が上がるように、このような時間の提案をしてみたいと思った。また、仕事は楽しくということが大切だと思った。
 パク氏：長期育休・時短＝妻（女性）が家事を全てできる時間が作れてしまうという視点になるほどと思った。また、夫（男性）の長時間労働、遅い帰宅時間に対しても理解してしまうことになるだという考えに、とても共感できた。男性の家庭責任の重要性・自立が女性活躍の鍵になってくるのだと思った。
- ・関氏：日本の就労環境において、女性の社会進出は進んでいると思っていたが、国際的に見ると女性の役員・管理職比率は先進国の中で最低水準であり、男女の平等が図られていないことがわかった。その中で女性活躍推進に向けた経済産業省の取り組み（ダイバーシティ経営企業100選、なでしこ銘柄）が理解できた。
- ・講演とパネルディスカッションの内容・時間ともに満足した。育休・時短等の国際比較も新鮮だった。
- ・パク氏の話が楽しかった。海外での日本の位置・環境の違いなど。
- ・各講師の参考資料（文献・図書）リストがあると良い。
- ・現実的に何をすべきか、お三方の話を聞いたことで、多くのヒントをもらえたと思う。
- ・おひとりずつの講演は、まだまだききたかったが、シンプルなメッセージで分かり易かった。楽しかった！
- ・アクションラーニングの体験も良かった。質問することの重要性和考えが拡大していくことを実感した。
- ・2日目冒頭のデータが参考になった。一番楽しみにしていたアクションラーニングは、社内の研修でもとりいれたい内容だった。
- ・発表・講演・パネルディスカッションどれも満足でしたが、一番満足したことは、今回多くの女性の方と話すことができたこと。多くの気づきを得られ、パワーをもらった。
- ・興味深く参加できた。
- ・お三方の発表されたパワポを紙でいただきました。
- ・アクションラーニングを体験し、社内でもミーティングに活かしたい。
- ・情報交流会、会館での交流会、ともにうちとけた雰囲気、良い関係を築くことができた。グループワークもバックグラウンドの異なるメンバーと効果的な話し合いができ、良かった。
- ・全て充実した内容で非常にためになった。次回も是非参加したい。
- ・アクションラーニングについて、皆と一緒に自分のこととして考えてくれることが心強かった。その中で気づき、発見があった。質問は難しかった。相手に気づいてもらうにはどう投げかけるか考えながらということは、難しい一方で、コミュニケーションにとって重要なことと思った。
- ・事例発表についても、簡単なレジュメがあるとありがたい。パネルディスカッションの内容は、有意義だった。（用意していない回答が本音を聞けるので新鮮）。翌日のワークショップは、冒頭の情報提供が前日と重なるため1時間は要らないと思う。
- ・このセミナーに参加でき、数字としての資料と実際に取り組んでいる企業の方の話が聞けたのがとても良かった。是非もっと広い男性役員の方々の意識を変えるきっかけにしてほしいと思った。
- ・グループワークを通じて、それぞれの会社の規模・組織体制が異なっても共通の課題・問題点があり、参考となることばかりだった。
- ・ディスカッションも楽しく、参考になった。グループワークについて、いろいろな企業の方と意見交換できて、たいへん有意義だった。また、今後いろいろな会社の一般女性のための意識向上セミナーのような企画があれば、たいへん有意義だと思う。
- ・データから見る女性活躍推進は、多くの切り口のデータをもらうことができ、有益だった。アクションラーニングは、多様な意見が出て、他社からのアドバイス・考え方がとてもためになった。
- ・アクションラーニングについて、皆と一緒に自分のこととして考えてくれることが心強かった。その中で気づき、発見があった。質問は難しかった。相手に気づいてもらうにはどう投げかけるか考えながらということは、難しい一方で、コミュニケーションにとって重要なことと思った。
- ・アクションラーニングについて、どんなの？と思っていたが、体験できてあ～これね！と理解できた。

3. 本日のセミナーは、あなたにとって有用でしたか。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	30	58.8	3	27.3	—	—	33	53.2	54.1	100.0
有用であった	20	39.2	8	72.7	—	—	28	45.2	45.9	
あまり有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
無回答	1	2.0	—	—	—	—	1	1.6		
合計	51	100.0	11	100.0	—	—	62	100.0	100.0	100.0

「非常に有用であった」理由

- ・実際に企業で制度運用・設計している人の話だったので、これからの自社での実施施策を考える上でたいへんためになった。
- ・自分の働き方について再考してみようと思った。
- ・上司より「経営への説得資料（女性管理職の必要性について）」を作るように言われ、勉強中のため非常にありがたかった。
- ・推進者自身が楽しむ「見える化」「情報発信」「男性の家事責任」等参考になる内容がたくさんあった。
- ・ダイバーシティ先進企業からの事例発表とてもためになった。
- ・国の施策から企業の事例等様々なことが聞けたこと。
- ・企業の女性活用の事例が参考になった。（株）メトロールでは、社内行事も子育て中の女性に配慮している。参加率の向上に繋がっていると思った。

- ・ 泉川氏、松橋氏、パク氏それぞれのアプローチがまさにダイバーシティで勉強になった。
- ・ 上記と同じ。
- ・ 現在会社で取り組もうと考えていることが、討議にあったため参考となった。
- ・ 斬新なアイデアが非常に多かった。
- ・ アクションラーニングが「気づき」を得ることができた。
- ・ 全て充実した内容で非常にためになった。次回も是非参加したい。
- ・ 新しい気づきもあったし、考えていたこと、感じていたことの強化もされた。
- ・ 異なる分野の方からの意見は、視点を変える物事の見方を得る大きなきっかけになったと思う。
- ・ アクションラーニングで問題提示者になったので。
- ・ 女性活躍を推進する上での視点「成果を出す。両立とキャリア開発をセットで支援する。見える化する。ロールモデルを出す等」等について考えを深めることができたため。
- ・ 広い意味でのダイバーシティの意味や意義がよくわかった。社内での取り組みの基の考え方を共有できそう。
- ・ 職場風土の改革、職員の意識改革に役立てたい。
- ・ 明日から行動に移して具体的に頑張ろうと思った。
- ・ トップの考えを常に伝える、見せる、社員の能力を信じる、これにつけると感じた。
- ・ 皆の話を聞き、課題を絞り込み、落とし込んで見つめる。すると、自分の中に答えがあることに気づかされた。
- ・ ヒントを得られる。励まし合える。
- ・ おおむね同じ課題を持つが、価値観や観点が違う方が多く、非常に今後の参考になった。
- ・ 女性の考え・思いを聞くことができたから。普段あまり経験できないことができた。

「有用であった」理由

- ・ 現状の国や大企業の取り組みをすることができたから。
- ・ パク氏のアイデア、泉川氏のポジティブシンキング
- ・ ただ産育休時短などの会社制度を充実させればいいだけじゃないとの再確認となったため。
- ・ 人の声を聞いて改善に活かすこと、ぜひ実践していきたい。あとは自ら楽しむことを心がけていきたい。
- ・ ダイバーシティには風土が大事だとよくわかった。それがあまりない企業(女性活躍に対する積極性)は、かなり難しいと感じた。
- ・ 話は興味深かったが、業界的に取り入れることが難しい部分もあると感じた。
- ・ 女性が疲れない配慮、心を大切に、生産効率ありきじゃないというのが心に残った。
- ・ 自らの考えの検証。
- ・ ダイバーシティに取り組み始めまだ日が浅いので、短時間で多くのことを学ぶことができ、有用だった。
- ・ 大企業の中で何が出来るか という部分について、考えるヒントを与えてもらったため。
- ・ 泉川氏の「制度ではなく心」など多くのフレーズが耳に残った。これを念頭におき今後の業務に繋げていきたいと思う。
- ・ アクションラーニングは社内でもやってみたいと思った。
- ・ フラットな組織が柔軟性を産み出して創造性が高められていく実例がわかったこと
- ・ 一部企業と国とは、制度面が異なることを考慮しながらも、施策がイメージできたため。

4. このセミナー全体の満足度は、いかがでしたか。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に満足した	31	60.7	5	45.5	—	—	36	58.1	59.0	95.1
満足した	16	31.4	6	54.5	—	—	22	35.5	36.1	
少し物足りなかった	3	5.9	—	—	—	—	3	4.8	4.9	4.9
物足りなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
無回答	1	2.0	—	—	—	—	1	1.6		
合計	51	100.0	11	100.0	—	—	62	100.0	100.0	100.0

「非常に満足した」理由

- ・ 内容がとてもよかった。とても参考になった。
- ・ ダイバーシティ先進企業からの事例発表はとても参考になった。
- ・ 他企業の話は、自分の気付かなかったことと違う見方、切り口で参考になった。
- ・ 個性のあるパネリストの方たちから各々違った視点での意見を聞いたのが何より良かったと思う。
- ・ パネルディスカッションがとても活発な見が出て、とても参考になった。
- ・ 新しい切り口、互いに異なる切り口での様々な話が聞けた部分。
- ・ 女性活躍について納得のいく説明があったため。
- ・ 女性教育会館の職員は、とても意識が高く、パワーを沢山得た気がする。
- ・ ダイバーシティ経営企業の見習うべき点をしっかり見聞きし理解することができた。最も興味のあったALの良さを体験できた。質問、しっかり聞くことは結構疲れた。当初見えなかったものがはっきり見えた。
- ・ 目から鱗のことが多く、得るものが多かったため。
- ・ たくさんの方と交流ができ、たくさん気づきを得ることができた。
- ・ 皆が発言できる皆で考える、行動に移すいいセミナーだった。

- ・ 全くはじめて出会った方々と問題解決に繋がるということは異業種であることも含め、良い経験だった。
- ・ 多くの、出会いたかった方たちと、一度に、出会えた気がする。
- ・ へこんだ気持ちが又頑張ろうという気持ちに変わった。
- ・ マイノリティになり、周囲に融和していくアクション自体が非常に「自助」精神、「共創」精神を培えるものだった。
- ・ 宿泊を伴っての研修であり、人脈を広げることもできた。楽しかった。

「満足した」理由

- ・ 講演会は勿論だが、パネルディスカッションでざっくばらんな意見を聞くことができ楽しく学ぶことができた。
- ・ 時間が足りないほど内容が濃く、もっと聞きたかった。
- ・ パネルディスカッションで様々な視点から様々な意見が出てきて良かったと思った。(それぞれの思いが伝わってくる熱いディスカッションだったと思う。)
- ・ 一部企業と国とでは制度面が異なることを考慮しながらも施策がイメージできたため。

「少し物足りなかった」理由

- ・ 知識は得られたが、まだ消化できないため。
- ・ 発表の時間が短かった。

5. あなた自身についてお聞かせ下さい

◆性別

	人数	%
女 性	51	82.2
男 性	11	17.8
不 明	—	—
合 計	62	100.0

◆年代

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%
20代	4	7.8	1	9.1	—	—	5	8.1
30代	17	33.3	5	45.4	—	—	22	35.5
40代	14	27.5	3	27.3	—	—	17	27.4
50代	14	27.5	2	18.2	—	—	16	25.8
60代	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	2	3.9	—	—	—	—	2	3.2
合計	51	100.0	11	100.0	—	—	62	100.0

◆このセミナーをどのように知りましたか(複数回答)

	女性	%(51名中)	男性	%(11名中)	不明	%(0名中)	合計	%(62名中)
nwecのホームページ	5	9.3	—	—	—	—	4	6.5
nwecのメールマガジン	9	16.7	2	18.2	—	—	10	16.1
nwecからのダイレクトメール(郵送)	9	16.7	4	36.3	—	—	13	21.0
nwecからのダイレクトメール(Eメール)	5	9.3	—	—	—	—	5	8.1
又エックニュース	2	3.7	—	—	—	—	2	3.2
他のメディア媒体から	10	18.4	3	27.3	—	—	13	21.0
その他	11	20.3	1	9.1	—	—	11	17.6
無回答	3	5.6	1	9.1	—	—	4	6.5
合計	54	100.0	11	100.0	—	—	62	100.0

他のメディア媒体から(具体的に)

- ・ 内閣府の冊子
- ・ 東京経営者協会のメルマガより
- ・ 石倉洋子氏ブログ
- ・ 新聞(読売)
- ・ 東京経営者協会のメルマガより
- ・ メルマガ
- ・ 「共同参画」冊子から
- ・ 共同参画をみて
- ・ パワーアップ通信(日本生産性本部メルマガ)
- ・ いしかわ女性基金のお知らせ

その他(具体的に)

- ・ 知人からのすすめ
- ・ ダイバーシティ推進PJメンバーより
- ・ 組合役員の友人より
- ・ ダイバーシティリーダー会議参加者からの紹介
- ・ 職場の案内
- ・ 社内からの紹介
- ・ 関係者からの紹介
- ・ 上司からの指示
- ・ 中光専門職員の紹介

平成26年度 第2回「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」開催要項

1. 趣 旨

本セミナーは、埼玉県経営者協会が実施するウーマノミクス推進委員会と連携し、企業における女性の活躍推進を図り、男女共同参画社会の形成に資するため、主として埼玉県経営者協会加盟企業の経営者、役員、管理職、現場で活躍する女性リーダーなどを対象に実施します。

今回は「女性に一步踏み出させる企業の在り方とは」をテーマに、女性社員の活躍を推進してきた企業の経営者による事例を踏まえた講演と、自らも一步踏み出してきた女性経営者や管理職の方々によるパネルディスカッションにより、企業の成長戦略としての女性活躍促進についての具体的なヒントを提供します。

2. 主 催

独立行政法人 国立女性教育会館（NWE C）

3. 共 催

一般社団法人 埼玉県経営者協会ウーマノミクス推進委員会

4. 後 援

経済産業省 関東経済産業局

5. 会 場

大宮ソニックシティビル4階 市民ホール403・404

〒330-8669 さいたま市大宮区桜木町1-7-5

<http://www.sonic-city.or.jp/>

6. 期 日

平成27年3月19日（木） 13時30分～16時30分

7. 参 加 者

企業におけるダイバーシティ（女性の活躍促進）の推進者、管理職及びリーダー

8. 定 員

100名

9. 参 加 費

無料

10. 日 程

	13:00	13:30	13:40	14:40	14:50	16:20	16:30
3/19 (木)		受付	開会	基調講演	休憩	パネル ディスカッション	閉会・ アンケート 記入

11. 内 容

(1) 開会 13:30～13:40

(2) 基調講演 13:40～14:40

「企業の成長戦略としての女性が活躍できるしくみづくり」をテーマに、女性の活躍促進の取組について講演していただきます。

講師 近藤 宣之 株式会社日本レーザー 代表取締役社長

(3) パネルディスカッション 14:50～16:20

「一歩踏み出す女性をどのように育てるか」をテーマに、先進的な取組をされている企業の事例も交えながら、女性の活躍を促進するための課題や、女性の活躍を創出していく上でキーワードとなるものについてディスカッションしていただきます。

パネリスト 岩崎 裕美子 株式会社ランクアップ代表取締役社長

山口 和子 埼玉縣信用金庫 南古谷支店長

近藤 宣之 株式会社日本レーザー 代表取締役社長

コーディネーター 内海 房子 独立行政法人国立女性教育会館 理事長

※近藤氏には講演から引き続き、パネリストとしてご登壇いただきます。

(4) 閉会・アンケート記入 16:20～16:30

12. 申込方法・期限等

(1) 申込方法

添付のちらし裏面の申込書に必要事項を記入し、下記あて先までFAXにてお申し込みください。

あて先 一般社団法人埼玉県経営者協会

FAX番号 048-641-0924

(2) 申込期限

平成27年3月13日(金)(必着)

※先着順に受け付けます。期間内でも定員に達した場合は申込の受付を締め切らせていただきますので、ご了承ください。

13. そ の 他

研修中、職員が撮影した写真を事業記録や広報のために使用することがあります。あらかじめご了承ください。

平成26年度第2回「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」

アンケート集計結果（最終） H27.3.23

参加者 62 名
 アンケート回答数 47 件 (女性:33 男性:9 不明:5)
 アンケート回答率 75.8 % (昨年度:69.6%)

1. 本日のセミナーは、あなたにとって有用でしたか。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
非常に有用であった	21	63.7	6	66.7	2	40.0	29	61.7	97.9
有用であった	11	33.3	3	33.3	3	60.0	17	36.2	
あまり有用でなかった	1	3.0	-	-	-	-	1	2.1	2.1
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	
合計	33	100.0	9	100.0	5	100.0	47	100.0	100.0

【昨年度】

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
非常に有用であった	5	33.3	5	50.0	4	57.1	14	43.7	93.7
有用であった	10	66.7	5	50.0	1	14.3	16	50.0	
あまり有用でなかった	-	-	-	-	2	28.6	2	6.3	6.3
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	
合計	15	100.0	10	100.0	7	100.0	32	100.0	100.0

「非常に有用であった」理由

- ・女性を活躍させるために①ワーク・ライフのバランスをみる②長時間労働の見直し③チャンスを与える“具体的にどうする”はとても大変ですが、これからのために話し合いに活用させます。
- ・人材育成の仕事をしていますので、今後に活かせる考え方やkey wordを学ぶことができました。一生を通じてのワークライフバランス、企業として社員が成長しないと評価されない文化づくり、ダブルアサインメン、こつこつと取り組むと見ている人がいる、会社にとって都合のいい女
- ・本日のセミナーでパネリストの方々の話を聞いて、私の一歩が踏み出す勇気をもらえました。
- ・何のために働くのか？女性としてどう生きるのか？などなど、参考となるお話を聞くことができ、有意義でした。
- ・長時間労働にならない風土にしていきたいと思います。
- ・日本レーザー近藤社長のメッセージ・企業破綻の共通理由「不振の原因を外部環境のせい」から「女性活躍が進まないのは女性自身にある。活躍する気がなければだめ」が響きました。
- ・会社の研修等で活用したいと思った。
- ・実践されている経営者の方、一歩踏み出した方のお話で、具体的かつ納得性があった。
- ・誠実に仕事に取り組み、成長し続けることの大切さを感じました。そして、そうしたいと思います。
- ・大変共感できる内容でした。※成長のための“ヒューマノミックス”の重要性、TOPのリーダーシップ、企業風土。
- ・とても興味深いお話ばかりでした！

「有用であった」理由

- ・3人のパネリストの方のそれぞれの意見から、今後取り組んでいく方向性がなんとなく見えた。
- ・人を大切に。人材育成の考え方
- ・ワークライフバランスを人生に置き換えることは、私も同様に考えているので嬉しくあり、全くその通りという思いがあり納得した。お話全体の中で素晴らしい社長の考えの元、社員の方々も幸せだと思いました。
- ・全ては自分自身で変えられる。自分をみがきチャレンジをしてゆきたいと思います。
- ・今後の仕事に対する気づきがあった。
- ・福祉企業で仕事をしているので、(女性中心)というところを考えると有用であった。
- ・民間企業の女性活用方法が参考になりました。
- ・女性として仕事をする、産休をとって出産することの女性の心理状態や立場上の問題などがよく分かった。
- ・埼玉縣信用金庫の支店長の話は興味深かった。

- ・ 以前から課題と感じているところ(男性の家事・育児参画問題)が、女性活躍が推進されない一番のネックだが、男性社会に不都合なことが改革されないのだと改めて思ったので。

2. 本日のセミナー全体の満足度は、いかがでしたか。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
非常に満足した	22	66.7	5	55.6	2	40.0	29	61.7	93.6
満足した	10	30.3	4	44.4	1	20.0	15	31.9	
少し物足りなかった	1	3.0	-	-	2	40.0	3	6.4	6.4
物足りなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	
合計	33	100.0	9	100.0	5	100.0	47	100.0	100.0

【昨年度】

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
非常に満足であった	5	33.3	4	40.0	3	42.9	12	37.5	93.7
満足であった	10	66.7	5	50.0	3	42.9	18	56.2	
あまり満足でなかった	-	-	1	10.0	1	14.2	2	6.3	6.3
満足ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	
合計	15	100.0	10	100.0	7	100.0	32	100.0	100.0

「非常に有用であった」理由

- ・ パネルディスカッションおもしろかったです。実際にどうだった、こうした、こうなったが身近に感じられ、とても分かりやすかったです。
- ・ 来年も是非お願いします。
- ・ 経験談の話を聞けたのでとても参考になりました。
- ・ パネリストの皆様のお話に共感する点がとても多く、また参考になりました。
- ・ 山口支店長のご講話にとっても親近感を持ちました。同じ金融機関として、共感する部分が多く、大変参考になりました。
- ・ 個人としての姿勢や取組、企業組織としての取組・工夫など、生々しい事例を伺えて参考になりました。最後のエールも心に染みしました。
- ・ いろいろな考えを聞くことができた。
- ・ 有用度の理由と同じ。活用できる内容が多い。
- ・ 今年の仕事の方向性のヒントになりました。
- ・ 素晴らしいキャリアになるまでの道のりは、私たちにとても身近なことの連続だと言うことが分かり、勇気や希望が持てました。
- ・ 日本レーザー、ランクアップ、埼玉の3名様全てのお話がとても面白く、聞き入ってしまいました。こうした素敵な方・企業がもっと増えたらと思うし、生の声を聞けてよかったです。

「満足した」理由

- ・ 話がとにかくおもしろかった。
- ・ 経験話を聞かせていただいたので、共感する部分が多々ございました。まず、意識改革から始め、行動します。
- ・ パネルディスカッションでは有意義なお話を聞かせて頂きました。長時間労働のお話は興味深く思いました。また、女性が一歩踏み出せるように、上司が力添えする必要性を感じました。そして女性自身が自分の力で踏み出すことも大切だと思いました。
- ・ 日本の社会はとすれば女性蔑視(チャンスを作さないなど)多い中、女性に対して前向きな、また仕事ができる人には報酬と昇進が比例している話がうらやましいと感じた。
- ・ (株)日本レーザーの企業5針が分かりためになりました。
- ・ いろいろな立場の視点から、女性活躍の施策やきっかけづくりの事例を紹介され、参考になった。
- ・ 本来、経営者自身が自らこのセミナーに参加する流れが必要では？そのための活動をより展開すべきと感じました。

「少し物足りなかった」理由

- ・ パネラーの社長の話は参考にならなかった。立派すぎて素直に聞けない。
- ・ 女性活躍推進に反対する人は、以前に比べて少ないと感じる一方、男性の育休や男性がもっと家事・育児に参画してくれないと女性は活躍できない、思いっきり働けないという話になると、男性も企業も引いてしまう…この問題をどう乗り越えるのか聞きたかった。

3. 今後、このセミナーで取り上げてほしいテーマ・内容・方法等について、自由にお書きください。

- ・長時間労働を減らす、なくすために具体的にどんなことをしたらよいか。
- ・障害者雇用について。
- ・近藤社長の話も刺激になった。パネリストの方の実体験に基づく話で、すごくよかった。
- ・育児・介護と仕事。
- ・本日は得るものが多く、時間が短く感じました。ありがとうございました。
- ・具体的なお話を聞きたいので、パネルディスカッションの時間を長く設けてほしいと思いました。
- ・女性も役員・管理職を増やしていく具体的事例の話。
- ・男性上司、経営者の参加意欲、意識改革につながる企画(結局、その層を動かせないと変わらないので)
- ・ライフ・ワークバランスをうまく活用している方たちやよい事例などを紹介してほしい。
- ・女性活躍の様々な具体例を紹介してほしい。
- ・いろんな女性の働き方(出産後、フルタイムでもいいし、パート・派遣でもいい)という働き方の幅広い選択について、何か事例とか入れて頂けると嬉しいです。女性活躍はフルタイムで戻ることだけが幸せではないと思うので...
- ・女性が活躍することを応援するために男性ができること。
- ・資料の文字が読めないところがいくつもあったので、参加者全員にメール配信をしてほしいです。大宮は遠いので、会場は都内でお願ひしたいです。(せめて、川口とか...)

5. あなた自身についてお聞かせください

◆性別

	人数	%
女 性	33	70.3
男 性	9	19.1
不 明	5	10.6
合 計	47	100.0

◆年代

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%
20代	3	9.1	-	-	-	-	3	6.4
30代	6	18.2	-	-	-	-	6	12.8
40代	12	36.4	2	22.2	-	-	14	29.8
50代	11	33.3	4	44.5	1	20.0	16	34.0
60代	-	-	3	33.3	-	-	3	6.4
無回答	1	3.0	-	-	4	80.0	5	10.6
合計	33	100.0	9	100.0	5	100.0	47	100.0

◆このセミナーをどのように知りましたか(複数回答)

	女性	% (33名中)	男性	% (9名中)	不明	% (5名中)	合計	% (47名中)
埼玉県経営者協会のお知らせ	8	24.2	2	22.2	1	20.0	11	23.4
nwecのホームページ	9	27.3	1	11.1	-	-	10	21.3
nwecからのダイレクトメール(Eメール)	8	24.2	1	11.1	1	20.0	10	21.3
nwecからのダイレクトメール(郵送)	1	3.0	1	11.1	-	-	2	4.3
新聞	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	4	12.1	1	11.1	-	-	5	10.6
無回答	6	18.2	-	-	3	60.0	9	19.1

その他(具体的に)

- ・チラシ
- ・会社人事からの紹介
- ・セミナー
- ・関東経産局HP
- ・内海様からのご案内
- ・商工会議所

平成26年度

「女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」
実施要項

1. 本年度テーマ 『女性活躍の推進と男女共同参画』

今、「女性活躍の促進」は、経済成長の側面から注目されていますが、男女共同参画の目指すところは一人ひとりが尊重され、男女があらゆる分野に参画することができる社会です。

しかし、我が国の女性の地位をめぐる現状は国際的に低い水準にとどまっていることなど、男女共同参画の推進を考える上での課題があります。

今年の研修では、地域における男女共同参画社会の推進に関わる基幹的指導者（リーダー）を対象に、「女性活躍の促進」を踏まえ、男女共同参画社会実現の方策を考えます。

2. 本研修のねらい

- (1) 男女共同参画の視点を持ち、実態把握・課題分析を行い、実践に結びつけます。
- (2) 男女共同参画の中核となるリーダーの、関係力・連携力の向上を図ります。
- (3) 実践事例を重視し、課題解決につなげます。
- (4) 研修の成果を地域に持ち帰って実践し、振り返り、さらなる事業や活動へ活かします。

3. 主 催

独立行政法人国立女性教育会館

4. 共 催

NPO 法人全国女性会館協議会（女性関連施設管理職コースにおける共催）

5. 参 加 者

- (1) 女性関連施設管理職コース：50名
公私立女性会館・女性センター、男女共同参画センター等、男女共同参画社会の形成に向けた拠点としての施設の管理職
- (2) 地方公共団体職員コース：35名
都道府県・市区町村の男女共同参画推進責任者
- (3) 団体リーダーコース：35名
地域で男女共同参画を推進する団体等のリーダー

6. 日 程

	11:00	11:50	12:45	13:15	13:40	15:15	15:55	17:10	19:00	20:30
5/21 (水)		プレ・ワークショップ	受付	開会	報告	調査研究の報告	討議	夕食	情報交換会	
5/22 (木)	8:30	9:00	10:45	11:55	13:20		17:10	17:40	19:00	20:30
	報告	講演	講義	昼食	コース別ワークショップⅠ		情報提供	夕食	自由交流	
5/23 (金)	9:00	11:45	12:40							
	コース別ワークショップⅡ	全体会	閉会							

7. 内 容

第1日 5月21日(水)

(※希望者のみ参加)

11:00~11:50

プレ・ワークショップ「女性活躍の推進と男女共同参画」

主に初任者を対象として、日本における男女共同参画推進の歴史的背景など基礎知識を学びます。

講 師：千装 将志 国立女性教育会館事業課専門職員

(1) 開会

13:15~13:30

- | | | |
|----------|-------|--------------|
| ①主催者あいさつ | 内海 房子 | 国立女性教育会館理事長 |
| ②共催者あいさつ | 桜井 陽子 | 全国女性会館協議会理事長 |

(2) プログラムの趣旨説明

13:30~13:35

引間 紀江 国立女性教育会館事業課専門職員

(3) 報告「男女共同参画社会形成に向けた今日の政策課題」

13:40~15:00

★男女共同参画や女性活躍の促進に向けた施策についての説明と今後の方向性について理解を深めます。

講 師：湯澤 麻起子 内閣府男女共同参画局推進課課長補佐

講 師：藤江 陽子 文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課課長

講 師：河村 のり子 厚生労働省雇用均等・児童家庭局雇用均等政策課課長補佐

(4) 報告「男女共同参画の視点に立った若者のキャリア形成支援」

15:15~15:45

★国立女性教育会館で実施した調査研究の成果をもとに、報告します。

講 師：飯島 絵理 国立女性教育会館研究国際室客員研究員

渡辺 美穂 国立女性教育会館研究国際室研究員

(5) 討議「課題把握のためのディスカッション」

15:55~17:10

★地域で女性の活躍を推進するための取り組みについて、それぞれの立場から課題を把握し、明確化・共有化を図ります。

＜女性関連施設管理職コース＞

報告者：松下 光恵 特定非営利活動法人男女共同参画フォーラムしずおか
副代表理事

＜地方公共団体職員コース＞

報告者：寺本 恵子 松江市市民部男女共同参画課課長

＜団体リーダーコース＞

報告者：吉田 秀子 特定非営利活動法人働きたいおんたちのネットワーク
理事長

コーディネーター：西山 恵美子 国立女性教育会館客員研究員

(6) 情報交換会(※希望者のみ参加:有料1,000円) 19:00~20:30

★全国からの参加者と交流し、今後の活動に役立てます。

第2日 5月22日(木)

(※希望者のみ参加)

(7) 報告 「第58回CSW(国連婦人の地位委員会) 参加報告」 8:30~8:55

★3月にニューヨークの国連本部で開催された、第58回CSWでの議論や採択文書について報告します。

講師：越智 方美
島田 悦子

国立女性教育会館研究国際室専門職員
国立女性教育会館総務課専門官

(8) 講演 「経済における女性活躍の促進

～女性関連施設等に期待すること～ 9:00~10:30

★現在進められている国の「女性活躍の促進」の全体像について知り、各地域で女性の活躍・男女共同参画を推進するための方策について考えます。

講師：岩田 喜美枝 公益財団法人21世紀職業財団会長

(9) 講義「女性の活躍を進めるために

～家事労働ハラスメントの視点から 10:45~11:55

★「家事労働と仕事の両立」や「非正規雇用増大」などの諸課題にどう向かい合い、施策や事業、研修に結びつけるか。女性の活躍をすすめるためのヒントを得ます。

講師：竹信 三恵子 和光大学現代人間学部現代社会学科教授

(10) コース別ワークショップⅠ

「男女共同参画の視点に立った女性活躍推進の課題と方策」 13:20~17:00

★グループワーク等を行い、女性の活躍推進における課題を把握し、方策を探ります。

<女性関連施設管理職コース>

テーマ「“女性の活躍促進”下における女性関連施設の就業支援の新たな展開1」

○“女性の活躍促進”に関する国からの施策情報を読み解き、男女共同参画の推進を使命としてきた女性関連施設における就業支援事業の新たな展開を探ります。

発題者：瀬山 紀子 埼玉県男女共同参画推進センター事業コーディネータ

発題者：納米 恵美子 公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会事業本部長

発題者：松下 光恵 特定非営利活動法人男女共同参画フォーラムしずおか
副代表理事

発題者：村山 由香里 福岡県男女共同参画センター館長

ファシリテーター：小山内 世喜子 青森県男女共同参画センター副館長

ファシリテーター：坂田 静香 大田区立男女平等推進センター所長

<地方公共団体職員コース>

テーマ：「女性の活躍を推進するために」

○推進計画や推進体制での庁内連携や、政策・方針決定過程への女性の参画の拡大、女性リーダー育成等を紹介し、女性活躍の推進を考えます。

報告者：寺本 恵子 松江市市民部男女共同参画課課長

報告者：草間 康晴 長野県県民文化部人権・男女共同参画課企画幹兼課長補佐兼
男女共同参画係長

ファシリテーター：荒巻 千枝子 千葉県環境生活部県民生活・文化課副主幹

＜団体リーダーコース＞

テーマ：「地域ニーズに沿った事業展開」

○生活困難を抱える女性の自立支援、起業や就労支援・新たな雇用創出に取り組む事例報告から、課題を把握し、ニーズに沿った事業展開を考えます。

報告者：田中 美幸 NPOおきなわ共育ファンド

報告者：吉田 秀子 特定非営利活動法人働きたいおんたちのネットワーク理事長

ファシリテーター：森野 和子 株式会社ライフキャリアデザイン・アソシエーツ
代表取締役

（＊希望者のみ参加）

（11）情報提供「NWE C情報機能について」

17:10～17:40

説 明：森 未知 国立女性教育会館情報課専門職員

（12）自由交流（＊希望者のみ参加）

19:00～20:30

★参加者がテーマごとに有志で集い、情報交換や交流を行います。

第3日 5月23日（金）

（13）コース別ワークショップⅡ

「男女共同参画の視点で課題を解決する事業」

9:00～11:30

★男女共同参画の視点で課題を解決する事業のあり方について、コース別に検討しヒントを得ます。

＜女性関連施設管理職コース＞

テーマ「“女性の活躍促進”下における女性関連施設の就業支援の新たな展開2」

○ワークショップⅠで話し合われた方向性をもとに、具体的な事業構築につなげます。

ファシリテーター：小山内 世喜子 青森県男女共同参画センター副館長

ファシリテーター：坂田 静香 大田区立男女平等推進センター所長

＜地方公共団体職員コース＞

テーマ：「地域課題を解決する事業とは」

報告者：安富 憲一 姫路市男女共同参画推進課係長

ファシリテーター：荒巻 千枝子 千葉県環境生活部県民生活・文化課副主幹

＜団体リーダーコース＞

テーマ：「地域課題を解決する事業とは」

報告者：星野 直子 NPO法人Cosmos代表

ファシリテーター：森野 和子 株式会社ライフキャリアデザイン・アソシエーツ
代表取締役

(14) 全体会「地域で男女共同参画を推進するために」

11:45～12:35

★各コースワークショップで話し合われた報告を元に、男女共同参画を推進について、連携・協働の視点から討議を行います。

報告者：小山内 世喜子 青森県男女共同参画センター副館長

報告者：荒巻 千枝子 千葉県環境生活部県民生活・文化課副主幹

報告者：森野 和子 株式会社ライフキャリアデザイン・アソシエイツ代表取締役

コーディネーター：西山 恵美子 国立女性教育会館客員研究員

(15) ふりかえり

12:35～12:38

★アンケート記入

(16) 閉会 閉会あいさつ 櫻田 今日子 国立女性教育会館事業課長

12:40

8. 研修成果の活用プラン

研修の受付当日、アンケートと共に「研修成果の活用プラン」を配付いたします。
研修後の成果活用をお考えの上ご参加ください。

9. その他

- (1) 5月21日（水）と23日（金）に、国立女性教育会館と東武東上線武蔵嵐山駅間で無料送迎バスを運行いたしますのでご利用ください。
- (2) 期間中、職員が撮影した写真を、事業記録や広報のために使用することがあります。
あらかじめご了承ください。
- (3) 研修期間中、参加者の所属する施設や団体、地方公共団体等のパンフレットやチラシなどを自由に交換する情報交換コーナーを設置します。お持ちになった資料を各自で所定の場所に並べ、参加者の方が資料を自由にお持ち帰りできます。

平成26年度「女性関連施設・地方公共団体職員・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」参加者概況

2015年9月25日 現在

1. 性別

	参加者			
	女性関連施設管理職	地方公共団体職員	団体リーダー	総計
	計	計	計	
女性	49	35	31	115
男性	15	6	2	23
計	64	41	33	138

定員 120 名
 申込者数 150 名
 キャンセル 12 名
 参加者数 138 名
 応募倍率 125.0 %

2. 年代別

	女性関連施設管理職		地方公共団体職員		団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
20代	3	-	3	-	-	-	6	-	6
30代	3	1	6	-	1	-	10	1	11
40代	11	5	11	3	4	-	26	8	34
50代	15	4	14	3	10	-	39	7	46
60代	6	5	1	-	8	-	15	5	20
70代以上	2	-	-	-	3	2	5	2	7
無回答	9	-	-	-	5	-	14	-	14
計	49	15	35	6	31	2	115	23	138

3. 勤務形態

	女性関連施設管理職		地方公共団体職員		団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
常勤 (専任)	31	11	27	6	5	1	63	18	81
(兼任)	5	1	7	-	-	-	12	1	13
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-
非常勤 (専任)	2	1	-	-	4	1	6	2	8
(兼任)	2	-	1	-	1	-	4	-	4
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-
嘱託 (専任)	3	1	-	-	-	-	3	1	4
(兼任)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-	1	-	1	-	1
無回答	6	1	-	-	20	-	26	1	27
計	49	15	35	6	31	2	115	23	138

4. 施設区分(女性関連施設管理職コースのみ)

	女	男	計
(1)公立Ⅰ：管理運営者が教育委員会	-	1	1
(2)公立Ⅰ：管理運営者が男女共同参画担当部課	14	4	18
(3)公立Ⅱ：指定管理者を導入 ①運営者が財団法人、社団法人、任意団体等	14	7	21
②管理運営者が企業	4	-	4
③管理運営者がNPOなど	9	1	10
(4)私立	2	-	2
(5)その他	6	2	8
(6)無回答	-	-	-
計	49	15	64

その他の内容

5. プレワークショップへの参加

	女性関連施設管理職		地方公共団体職員		団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
基礎知識	18	7	27	4	10	-	55	11	66

6. 情報提供「NVEC情報機能について」

	女性関連施設管理職		地方公共団体職員		団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
情報提供	28	12	25	6	21	-	74	18	92

7. 会館の利用歴(複数回答)

	女性関連施設管理職		地方公共団体職員		団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
会館が主催する男女共同参画に携わるリーダー向け研修に参加したことがある	14	2	2	-	15	1	31	3	34
会館が主催する本事業以外の事業に参加したことがある	18	1	5	-	13	-	36	1	37
会館を利用し、事業を実施したことがある	2	-	1	1	5	-	8	1	9
会館で実施された、他の機関・団体で実施した事業に参加したことがある	4	1	4	2	7	-	15	3	18

8. 地域ブロック別参加者内訳

	女性	男性	合計	割合%
北海道・東北	13	4	17	12.3
関東・甲信越	57	8	65	47.2
北陸・東海	11	4	15	10.9
近畿	11	3	14	10.1
中国・四国	12	1	13	9.4
九州・沖縄	12	2	14	10.1
合計	115	23	138	100.0

9. 地域別 ※政令指定都市(カッコ内)は都道府県の内数に含む

	女性関連施設管理職		地方公共団体職員		団体リーダー		総数		
	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	計
北海道	1	-	3	-	1	-	5	-	5
(札幌市)	1	-	-	-	-	-	1	-	1
青森県	1	-	-	-	-	-	1	-	1
岩手県	2	-	-	-	1	-	3	-	3
宮城県	1	1	1	-	-	-	2	1	3
(仙台市)	1	1	1	-	-	-	2	1	3
秋田県	1	-	-	-	-	-	1	-	1
山形県	-	1	-	-	-	-	-	1	1
福島県	-	2	1	-	-	-	1	2	3
茨城県	-	-	5	-	2	-	7	-	7
栃木県	1	-	3	-	-	-	4	-	4
群馬県	1	-	2	-	-	-	3	-	3
埼玉県	1	-	-	-	9	2	10	2	12
(さいたま市)	-	-	-	-	2	1	2	1	3
千葉県	1	2	3	-	2	-	6	2	8
(千葉市)	1	1	2	-	-	-	3	1	4
東京都	14	1	-	-	3	-	17	1	18
神奈川県	2	-	2	-	-	-	4	-	4
(横浜市)	1	-	1	-	-	-	2	-	2
(川崎市)	1	-	-	-	-	-	1	-	1
(相模原市)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	1	-	-	-	-	-	1	1
新潟県	1	-	2	2	1	-	4	2	6
(新潟市)	1	-	1	1	-	-	2	1	3
長野県	2	-	-	1	-	-	2	1	3
富山県	-	1	1	-	-	-	1	1	2
石川県	-	-	-	-	1	-	1	-	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	1	-	-	-	1	1
静岡県	1	1	-	1	-	-	1	2	3
(静岡市)	-	-	-	1	-	-	-	1	1
(浜松市)	1	1	-	-	-	-	1	1	2
愛知県	2	-	2	-	1	-	5	-	5
(名古屋市)	1	-	-	-	-	-	1	-	1
三重県	1	-	-	-	1	-	2	-	2
滋賀県	1	-	1	-	-	-	2	-	2
京都府	-	1	-	-	-	-	-	1	1
(京都市)	-	1	-	-	-	-	-	1	1
大阪府	4	2	-	-	1	-	5	2	7
(大阪市)	2	-	-	-	-	-	2	-	2
(堺市)	-	1	-	-	-	-	-	1	1
兵庫県	1	-	1	-	1	-	3	-	3
(神戸市)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	1	-	1	-	1
鳥取県	-	-	1	-	-	-	1	-	1
島根県	-	-	1	-	-	-	1	-	1
岡山県	-	1	1	-	1	-	2	1	3
(岡山市)	-	1	-	-	-	-	-	1	1
広島県	2	-	-	-	-	-	2	-	2
(広島市)	2	-	-	-	-	-	2	-	2
山口県	-	-	2	-	1	-	3	-	3
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	1	-	1	-	-	-	2	-	2
高知県	1	-	-	-	-	-	1	-	1
福岡県	4	-	-	-	3	-	7	-	7
(北九州市)	2	-	-	-	-	-	2	-	2
(福岡市)	1	-	-	-	3	-	4	-	4
佐賀県	-	1	-	-	-	-	-	1	1
長崎県	-	-	1	-	-	-	1	-	1
熊本県	2	-	1	1	1	-	4	1	5
(熊本市)	1	-	-	-	1	-	2	-	2
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	49	15	35	6	31	2	115	23	138

平成26年度「女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」
アンケート最終集計結果

H26.11.11

対象数 134名

回収数 134件

回収率 100.0%

1. この研修の内容は、あなたの考えを深めたり、今後の事業を行う際に役立てたりするうえで、どの程度有用でしたか。

(1)各プログラム等について

【21日 プレ・ワークショップ「女性活躍の推進と男女共同参画」(希望者のみ)】

※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	合計	%	※合計	※%
非常に有用であった	11	9.8	1	4.5	12	8.9	12	20.0
有用であった	33	29.5	9	41.0	42	31.4	42	70.0
あまり有用でなかった	4	3.6	1	4.5	5	3.7	5	8.3
有用でなかった	1	0.9	-	-	1	0.7	1	1.7
不参加	49	43.7	6	27.3	55	41.1		
無回答	14	12.5	5	22.7	19	14.2		
合計	112	100.0	22	100.0	134	100.0	60	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%	※合計	※%
非常に有用であった	4	6.6	7	17.1	1	3.1	12	8.9	12	20.0
有用であった	17	27.9	18	43.9	7	21.9	42	31.4	42	70.0
あまり有用でなかった	1	1.6	3	7.3	1	3.1	5	3.7	5	8.3
有用でなかった	1	1.6	-	-	-	-	1	0.7	1	1.7
不参加	23	37.7	11	26.8	21	65.6	55	41.1		
無回答	15	24.6	2	4.9	2	6.3	19	14.2		
合計	61	100.0	41	100.0	32	100.0	134	100.0	60	100.0

＜非常に有用であった理由＞

- ・ 基本的知識の再確認ができた。
- ・ 男女共同参画を初めて担当する者にとっては、歴史的背景もお話ししていただき、とても分かりやすかった。
- ・ カラーパンフのデータは自分の市の事業推進時に参考にできるものが多くよかった。

＜有用であった理由＞

- ・ 男女共同参画推進の歴史的背景などを改めて認識できた。
- ・ 次の各省庁説明を聞く前に基本的事項を伺うことができて良かったと思う。
- ・ 4月からの新米だ。今年度後期に予定している「男女共同参画とは」の講演に役立つ。
- ・ 日本や世界の動きについてや、当会館の説明等、分かりやすくてよかった。
- ・ 内閣府の資料がどのように入手できるのか、自分たちの会での学習に使えたらと思った。

【21日 報告「男女共同参画社会形成に向けた今日の政策課題」】

※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	合計	%	※合計	※%
非常に有用であった	34	30.4	8	36.4	42	31.4	42	33.9
有用であった	65	58.0	13	59.1	78	58.3	78	62.9
あまり有用でなかった	2	1.8	1	4.5	3	2.2	3	2.4
有用でなかった	1	0.9	-	-	1	0.7	1	0.8
不参加	9	8.0	-	-	9	6.7		
無回答	1	0.9	-	-	1	0.7		
合計	112	100.0	22	100.0	134	100.0	124	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%	※合計	※%
非常に有用であった	19	31.1	11	26.8	12	37.5	42	31.4	42	33.9
有用であった	36	59.0	27	65.9	15	46.9	78	58.3	78	62.9
あまり有用でなかった	2	3.3	1	2.4	-	-	3	2.2	3	2.4
有用でなかった	-	-	-	-	1	3.1	1	0.7	1	0.8
不参加	3	4.9	2	4.9	4	12.5	9	6.7		
無回答	1	1.6	-	-	-	-	1	0.7		
合計	61	100.0	41	100.0	32	100.0	134	100.0	124	100.0

＜非常に有用であった理由＞

- ・ 国の最新の動きをデータで分かりやすく説明していただいた。
- ・ 内閣府・文科省・厚労省の各々が男女共同参画についていかに方策を講じようとしているか分かり興味深かった。
- ・ 厚生労働省の方の統計・その分析が参考になった。経済産業省の方のお話が聞きたかった。
- ・ たくさんの情報・最新の支援事業だったが、もっとじっくり聞きたかった。
- ・ 今年度、第3次男女共同参画基本計画改訂作業中であり、どのように取り入れていくのか非常に悩んでいる。企業への訪問、市レベルでどこまでできるかは分からないが考えてみたいと思う。
- ・ それぞれ女性としてのキャリアは尊敬するところだ。

＜有用であった理由＞

- ・ 内閣府、文科省、厚労省が揃い、一度に説明を聞けたのはよかった。
- ・ 国の施策について伺うことができたので参考になったが、第一線で取り組んでいるセンターにとっては、もう少し具体的に現実的なお話を伺えたらよかったと思う。
- ・ 指定管理を受けているセンターなので、事業の円滑な遂行に目がいきがち。国、県等の施策の全体像が少し見えたのは有り難かった。
- ・ 3省庁の考え方が伺えて、女性が輝く施策についてマスコミ(以外に出ない)の情報を考察して参りたい。
- ・ 地域等で情勢等伝えるのに、データの使い方なども参考になった。
- ・ 経済産業省のお話も聞きたかった。

【21日 報告「男女共同参画の視点に立った若者のキャリア形成支援」】 ※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	合計	%	※合計	※%
非常に有用であった	24	21.4	4	18.2	28	20.9	28	22.8
有用であった	66	59.0	15	68.2	81	60.4	81	65.8
あまり有用でなかった	10	8.9	2	9.1	12	9.0	12	9.8
有用でなかった	1	0.9	1	4.5	2	1.5	2	1.6
不参加	9	8.0	—	—	9	6.7		
無回答	2	1.8	—	—	2	1.5		
合計	112	100.0	22	100.0	134	100.0	123	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%	※合計	※%
非常に有用であった	13	21.3	6	14.6	9	28.1	28	20.9	28	22.8
有用であった	38	62.3	26	63.5	17	53.2	81	60.4	81	65.8
あまり有用でなかった	6	9.8	4	9.8	2	6.2	12	9.0	12	9.8
有用でなかった	—	—	1	2.4	1	3.1	2	1.5	2	1.6
不参加	3	4.9	3	7.3	3	9.4	9	6.7		
無回答	1	1.6	1	2.4	—	—	2	1.5		
合計	61	100.0	41	100.0	32	100.0	134	100.0	123	100.0

＜非常に有用であった理由＞

- ・ 調査の研究をハンドブックにまとめてくださっていたので、研修終了後に活用させていただくことが楽しみだ。
- ・ 男女共同参画の視点を入れて若者へ啓発していくのは本当に大変なところだ。他機関の取組も見習っていきたい。
- ・ NWECCの調査研究の成果を聞き、若者のキャリア形成支援の必要性を感じた。
- ・ データの裏にある課題や実情を聞き、理解が深まった。資料が有効に使われ理解できた。
- ・ 企業の取り組みなどよく分かり参考になったが、地域活動への結びつきは難しい。
- ・ 教育委員会との連携が難しい。首長部局に移管されるところも出てきており、先手を打つ新しいアプローチが必要と考える。

＜有用であった理由＞

- ・ 具体的取組の事例の市町村の方の話が直接聞きたかった。
- ・ 当センターでも調査研究事業は行っており、その結果は次の施策に役立つものとなってほしいものだと思っている。本報告書を活用させていただこうと思う。
- ・ 事前に冊子を読んでいた方がもっと理解できたと思う。
- ・ 若者への支援がまだまだ足りない実状が理解できた。
- ・ ハンドブックを精読する必要はあるが、当センターでの取組が遅れている分野であり、入門書として期待できる。
- ・ 若者のキャリア支援と貧困対策を男女共同参画の視点で考える上で大変参考になった。

- ・男女共同参画について、高校生対象のプログラムを作成予定だ。いただいた資料を活用させていただく。
- ・どのような事業から取り組みばよいか分からないので、ハンドブックは参考になる。もう少し時間をいただいで、詳しい説明があればよかったと思う。

【21日 討議「課題整理のためのディスカッション」】

※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	合計	%	※合計	※%
非常に有用であった	50	44.6	8	36.4	58	43.3	58	47.5
有用であった	48	42.8	12	54.5	60	44.7	60	49.2
あまり有用でなかった	2	17.9	2	9.1	4	3.0	4	3.3
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
不参加	8	7.1	-	-	8	6.0		
無回答	4	3.6	-	-	4	3.0		
合計	112	100.0	22	100.0	134	100.0	122	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%	※合計	※%
非常に有用であった	24	39.3	20	48.8	14	43.7	58	43.3	58	47.5
有用であった	31	50.9	16	39.0	13	40.6	60	44.7	60	49.2
あまり有用でなかった	2	3.3	2	4.9	-	-	4	3.0	4	3.3
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不参加	3	4.9	2	4.9	3	9.4	8	6.0		
無回答	1	1.6	1	2.4	2	6.3	4	3.0		
合計	61	100.0	41	100.0	32	100.0	134	100.0	122	100.0

＜非常に有用であった理由＞

- ・それぞれの立場で、第一級で活躍している方々の言葉で語られる課題は重みがあると思った。
- ・必要とされるセンターの在り方をいつも考えているので、3人の報告はそれぞれに参考になった。
- ・それぞれの立場からの課題が示され参考になった。自分の自治体でも課題の洗い出しが必要だと感じた。
- ・一人ひとりへの眼差しが必要ということ。しかし、それを可能にするのはネットワーク同士のネットワークなど、参考になった。個人レベル、社会レベル、内と外のいろんな局面での課題が見えた。
- ・それぞれの取組があまりにも素晴らしく、うらやましい限りだ。果たして、自分はどこまでやれるのか不安になってしまった。女性センターの在り方を改めて考えさせられた。利用させていただいているが、お互いに協力し合って、もっと利用価値を高めなければと思った。

＜有用であった理由＞

- ・3者からの課題提起は構成としては非常にわかりやすかった。ただ、時間の関係もあるが、ディスカッションという割にはキャッチボールが少なく、深まりに欠けてという印象。
- ・それぞれの立場での取組がわかった。立場からのアプローチの仕方を聞いてよかった。ただ、どこに居ても根源にあるものとのつながりの重要性は同じだと思った。
- ・パネリストそれぞれの組織の活動を知ることができ、有意義だった。
- ・担当者の熱意が感じられ、行政も団体もつながりたいと思った。
- ・前回参加(2007年)から相変わらず「課題」にがっかり。私たちの活動は成果が出ないのが・・・。

【21日 情報交換会(希望者のみ)】

※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	合計	%	※合計	※%
非常に有用であった	37	33.0	7	31.8	44	32.8	44	45.4
有用であった	42	37.5	10	45.5	52	38.9	52	53.6
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
有用でなかった	1	0.9	-	-	1	0.7	1	1.0
不参加	21	18.8	2	9.1	23	17.2		
無回答	11	9.8	3	13.6	14	10.4		
合計	112	100.0	22	100.0	134	100.0	97	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%	※合計	※%
非常に有用であった	20	32.8	12	29.3	12	37.5	44	32.8	44	45.4
有用であった	27	44.3	18	43.9	7	21.9	52	38.9	52	53.6
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用でなかった	1	1.6	-	-	-	-	1	0.7	1	1.0
不参加	6	9.8	6	14.6	11	34.4	23	17.2		
無回答	7	11.5	5	12.2	2	6.2	14	10.4		
合計	61	100.0	41	100.0	32	100.0	134	100.0	97	100.0

＜非常に有用であった理由＞

- ・ 普段話す機会のない遠方のセンターの方と顔を見ながら話すことができた。
- ・ 全国各地の男女共同参画に取り組んでいる人とのネットワークが広がった。
- ・ 日頃、当センター事業の手薄と感じている部分で意見交換してみた。非常に参考になり、やる気が出てきた。
- ・ 県や市町村だけではなく、参画センターや団体の方とも話ができて、特に団体の方の熱意を感じる事ができた。
- ・ 全国から様々な参加者と交流できる良い機会となった。
- ・ 有意義な交流会だった。たくさんの方と出会う機会はNWECでしかできない重要なプログラムだ。

＜有用であった理由＞

- ・ 人数が多かったので仕方なかったと思うが、名簿とお顔を一致させたかった。
- ・ 人が多く、たくさんの方との情報交換はできなかったが、逆に一つの県の方とじっくり課題を話し合うことができた。
- ・ いろいろな方とお話が聞けて自分だけでない皆同じような悩みが聞けてよかった。
- ・ ヌエック研修の真骨頂！！いろいろな方と交流できた。
- ・ 全国の様々な立場での様々な取組に触れることができ、情報や思いを共有できた。

【22日 報告「第58回CSW(国連婦人の地位委員会)参加報告」(希望者のみ)】

※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	合計	%	※合計	※%
非常に有用であった	19	17.0	2	9.1	21	15.7	21	28.8
有用であった	38	33.9	7	31.8	45	33.6	45	61.6
あまり有用でなかった	4	3.6	3	13.6	7	5.2	7	9.6
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
不参加	38	33.9	4	18.2	42	31.3		
無回答	13	11.6	6	27.3	19	14.2		
合計	112	100.0	22	100.0	134	100.0	73	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%	※合計	※%
非常に有用であった	5	8.2	7	17.1	9	28.1	21	15.7	21	28.8
有用であった	21	34.4	17	41.5	7	21.9	45	33.6	45	61.6
あまり有用でなかった	3	4.9	3	7.3	1	3.1	7	5.2	7	9.6
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不参加	18	29.5	11	26.8	13	40.6	42	31.3		
無回答	14	23.0	3	7.3	2	6.3	19	14.2		
合計	61	100.0	41	100.0	32	100.0	134	100.0	73	100.0

＜非常に有用であった理由＞

- ・ 国際的な会議の動向を知り、視野が広がる思いだった。
- ・ 全員参加にした方がよいのではないか。
- ・ 被災地での女性への配慮問題が広がっていない中、CSWで取り上げられたことは画期的でよかった。
- ・ 1つの分科会にしてより深める内容にしてもいいと思う。NWECフォーラムで実施されるのも1つの方法だ。
- ・ CSWの様子が伝わった。ThinkとGlobally.ActLocallyを実感でき、よい機会だった。

＜有用であった理由＞

- ・ 第一線の現場にいと高所、大所が分らなくなる。国連・世界全体の動きを知ることができよかった。
- ・ もう少し詳しく聞きたかったので、夜の時間での希望者対象で余裕のある時間帯で開催してほしい。
- ・ 国際的な女性の地位向上に向けた動向がよくわかった。
- ・ 世界の動きを知るとは、日々の活動に深い意味づけをしてくれるものだと感じた。
- ・ 自分には遠い存在だと思っていたCSWだったが、報告を聞き身近に感じられた。
- ・ 日頃接しない世界の動きが聞けて良かった。

【22日 講演「経済における女性活躍の促進～女性関連施設等に期待すること～」】

※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	合計	%	※合計	※%
非常に有用であった	74	66.0	13	59.1	87	64.9	87	70.2
有用であった	26	23.2	9	40.9	35	26.1	35	28.2
あまり有用でなかった	2	1.8	-	-	2	1.5	2	1.6
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
不参加	6	5.4	-	-	6	4.5		
無回答	4	3.6	-	-	4	3.0		
合計	112	100.0	22	100.0	134	100.0	124	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%	※合計	※%
非常に有用であった	42	68.9	30	73.1	15	46.8	87	64.9	87	70.2
有用であった	15	24.6	9	22.0	11	34.4	35	26.1	35	28.2
あまり有用でなかった	-	-	-	-	2	6.3	2	1.5	2	1.6
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不参加	3	4.9	-	-	3	9.4	6	4.5		
無回答	1	1.6	2	4.9	1	3.1	4	3.0		
合計	61	100.0	41	100.0	32	100.0	134	100.0	124	100.0

＜非常に有用であった理由＞

- ・女性の活躍のための二つの軸について、大変分かりやすく説明していただき参考になった。企業との連携を取り組みたい。
- ・大企業、上場企業の傾向と全く逆の貧困問題を対比して、どちらも必要な事だったのでとても勉強になった。あまり「貧困」というキーワードでは考えたことがなかったので新たな発見だった。
- ・日本のトップ企業の現状目指すべき方向が明確に示され分かりやすかった。
- ・お二人のお話を合わせることで複数の視点から考えることができた。キャリアアップ(主に正規)と非正規(女性の貧困)を両面から支援していくことが活躍推進につながると思う。
- ・女性が活躍するために必要な事がわかりやすかった。ただ、実際に取り組むことが難しいことも同時に感じた。多くの人が共感し動くことが大切だ。
- ・国の施策の裏側にある動向や考え方、背景について探ることができた。

＜有用であった理由＞

- ・国の男女共同参画を進める施策を企業側からの視点でお話しくださり非常に理解しやすかった。
- ・大企業を例示しての経済面からの女性活躍の方向性は、これはこれで施策の本筋なので理解できる。しかし、一方で貧困に苦しむ女性層が60%と高く今の労働法制や経済政策が機能していないという竹信さんの話もうなづける。イケイケドンドンの話と女性の実態をシビアに提示した両極の組み合わせは非常によかった。
- ・経済界における状況がとても分かりやすかった。
- ・制度、企業での形を学び理路整然としたお話にわかりやすく入り込むことができた。
- ・社会をリードするトップランナーの女性活躍の話、参考になった。資料のわかりやすさもさすがと思った。女性リーダーの活躍、参画の先の講義では取り残されてしまう。穴になってしまうと思う人たちのことが気になる。社会の実状を見つめたその立場の目線での講義でホットした。提案には頷くことが多かった。

【22日 講義「女性の活躍を進めるために～家事労働ハラスメントの視点から～」】

※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	合計	%	※合計	※%
非常に有用であった	76	67.9	17	77.3	93	69.5	93	76.9
有用であった	22	19.6	4	18.2	26	19.4	26	21.5
あまり有用でなかった	-	-	1	4.5	1	0.7	1	0.8
有用でなかった	1	0.9	-	-	1	0.7	1	0.8
不参加	6	5.4	-	-	6	4.5		
無回答	7	6.2	-	-	7	5.2		
合計	112	100.0	22	100.0	134	100.0	121	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%	※合計	※%
非常に有用であった	44	72.2	27	65.9	22	68.8	93	69.5	93	76.9
有用であった	11	18.0	10	24.4	5	15.6	26	19.4	26	21.5
あまり有用でなかった	—	—	1	2.4	—	—	1	0.7	1	0.8
有用でなかった	—	—	—	—	1	3.1	1	0.7	1	0.8
不参加	3	4.9	—	—	3	9.4	6	4.5		
無回答	3	4.9	3	7.3	1	3.1	7	5.2		
合計	61	100.0	41	100.0	32	100.0	134	100.0	121	100.0

＜非常に有用であった理由＞

- ・女性の貧困を可視化することの重要性を痛感した。
- ・ジャーナリストや大学で教鞭をとっている観点から、仕事と家庭を両立している立場も含め、考え方に説得力があった。
- ・女性が働くための仕組み作り、貧困の女性をなくしていくための取組に向けて、自分が今何ができるか、難しいと思えた。働く場所がないのに、ワークライフバランスも何もないというお話に衝撃を受けた。
- ・本当のニーズはどこにあるのか？センターのやっていることは真に必要なことか？改めて考え直した。
- ・身近に納得できる内容がよかった。女性の生活の場の割合の一番多い部分に課題があると思った。
- ・とてもよかった。特に岩田さんの話の中で感じたモヤモヤが晴れた。岩田さん→竹信さんという流れがよかった。

＜有用であった理由＞

- ・身近なお話に共感もてた一方で、「家事労働と仕事の両立」や「非正規雇用の女性貧困層への施策・事業展開」について話を聞く時間が足りず残念だった。
- ・同じ統計でもいろいろな見方ができること、家事ハラについて興味深い内容だった。

【22日 コース別ワークショップⅠ「男女共同参画の視点に立った女性活躍推進の課題と方策」】

※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	合計	%	※合計	※%
非常に有用であった	51	45.5	9	40.9	60	44.8	60	49.6
有用であった	45	40.2	11	50.0	56	41.8	56	46.3
あまり有用でなかった	5	4.5	—	—	5	3.7	5	4.1
有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
不参加	4	3.6	2	9.1	6	4.5		
無回答	7	6.2	—	—	7	5.2		
合計	112	100.0	22	100.0	134	100.0	121	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%	※合計	※%
非常に有用であった	33	54.1	15	36.6	12	37.5	60	44.8	60	49.6
有用であった	25	41.0	23	56.1	8	25.0	56	41.8	56	46.3
あまり有用でなかった	—	—	—	—	5	15.6	5	3.7	5	4.1
有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
不参加	2	3.3	—	—	4	12.5	6	4.5		
無回答	1	1.6	3	7.3	3	9.4	7	5.2		
合計	61	100.0	41	100.0	32	100.0	134	100.0	121	100.0

＜非常に有用であった理由＞

- ・長時間で大変だったが、その分充実した交流と議論ができたと思う。
- ・参加者の各々が課題として持っていることなどが具体的に話し合われ、男女共同参画に向けて何をすべきかの共通理解ができた。
- ・発題者からの課題提起が具体的で、特徴のあるもので興味深かった。
- ・事例発表は実践者の言葉一つ一つに重みもあり参考になった。グループワークにももう少し時間がほしかった。
- ・直接意見交換が他県の方とできて大変有意義だった。
- ・グループ分けの方法がとてもありがたかった。悩んでいるのが自分一人ではない、他市も同じなんだと分かった点は参加してとてもよかった。松江市の取組を昨日より詳しく説明していただけてとても参考になった。
- ・実践事例はとても参考になった。実践事例をもとに参加型話し合いを深めたかった。

＜有用であった理由＞

- ・ 現在、発題者と同じような悩みを抱えており、その取組が大変参考になった。
- ・ それぞれの方のこれまでの経験を踏まえた視点からの情報提供は素晴らしい。女性活躍推進に対するスタンスの違いに興味深くお聞きした。その上での、グループ討議で自分自身、課題の整理ができたように思う。
- ・ 事例発表はよかったが、時間が短く4つあったので2つくらいでもよかったかもしれない。
- ・ 県のグループとなっており、近い立場での討議ができ、話が広がりすぎず、しっかりと話し合う事ができた。
- ・ 様々な取組事例を聞くことができたが、本市でも実行できるかを早速上司と相談したい。
- ・ 市町村友達ができ、各問題を抱えているのが分かりよかった。
- ・ 地域課題をいかに解決していくか、参考になる事例を知ることが出来た。

【22日 情報提供「NVEC情報機能について」(希望者のみ)】

※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	合計	%	※合計	※%
非常に有用であった	16	14.3	3	13.6	19	14.2	19	30.2
有用であった	30	26.8	8	36.4	38	28.4	38	60.3
あまり有用でなかった	3	2.7	2	9.1	5	3.7	5	7.9
有用でなかった	1	0.9	-	-	1	0.7	1	1.6
不参加	39	34.8	5	22.7	44	32.9		
無回答	23	20.5	4	18.2	27	20.1		
合計	112	100.0	22	100.0	134	100.0	63	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%	※合計	※%
非常に有用であった	12	19.7	7	17.1	-	-	19	14.2	19	30.2
有用であった	17	27.8	14	34.2	7	21.9	38	28.4	38	60.3
あまり有用でなかった	2	3.3	3	7.3	-	-	5	3.7	5	7.9
有用でなかった	-	-	1	2.4	-	-	1	0.7	1	1.6
不参加	14	23.0	8	19.5	22	68.8	44	32.9		
無回答	16	26.2	8	19.5	3	9.3	27	20.1		
合計	61	100.0	41	100.0	32	100.0	134	100.0	63	100.0

＜非常に有用であった理由＞

- ・ 地域の公共図書館からの貸出可能、講師、データなどの情報を得ることができると分かった。
- ・ 大変分かりやすく、地方にいるがHPを活用しようと思う。
- ・ 新しいコンテンツも増えており、最近あまり活用しなかったのが今後は使っていきたいと思う。
- ・ 今までほとんどアクセスしたことがなかったが、当市が事業推進する上で活用できるデータベース(質・量)があることが知れてよかった。
- ・ 雑誌記事・新聞記事の検索に活用したい。

＜有用であった理由＞

- ・ 今後、情報機能の有効活用を図るとともに、適時適切な情報の提供を行っていききたい。
- ・ 情報センターを見学したが、実に多彩で女性問題の広さを改めて実感した。
- ・ 講師、統計など知りたかった情報を得られることがわかり、今後活用させていただきたいと思う。
- ・ ヌエックをもっと活用しなければ！！

【22日 自由交流】

※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	合計	%	※合計	※%
非常に有用であった	16	14.3	3	13.6	19	14.2	19	48.7
有用であった	17	15.2	2	9.1	19	14.2	19	48.7
あまり有用でなかった	1	0.9	-	-	1	0.7	1	2.6
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
不参加	46	41.0	7	31.8	53	39.6		
無回答	32	28.6	10	45.5	42	31.3		
合計	112	100.0	22	100.0	134	100.0	39	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%	※合計	※%
非常に有用であった	9	14.8	5	12.2	5	15.6	19	14.2	19	48.7
有用であった	9	14.8	6	14.6	4	12.5	19	14.2	19	48.7
あまり有用でなかった	1	1.6			-		1	0.7	1	2.6
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不参加	13	21.3	20	48.8	20	62.5	53	39.6		
無回答	29	47.5	10	24.4	3	9.4	42	31.3		
合計	61	100.0	41	100.0	32	100.0	134	100.0	39	100.0

<非常に有用であった理由>

- ・ 少人数で情報交換を行い、より深いネットワークにつながった。
- ・ 他のコースの方とも話ができてよい。
- ・ 「人集め」をテーマとしたグループに参加したが、西日本の方々の考え方に大いに共感を覚えた。
- ・ 同様の悩みの共有や新たな意見発見の場。大変よい。

<有用であった理由>

- ・ 参加者が少なかったような気がするが、それなりに情報収集できた。
- ・ 一つのテーマで話し合う事で、深く話す機会ができて他市の状況がよく分かった。
- ・ 遅れていったので希望グループに入り損なってしまったのが残念だった。
- ・ 情報交換会の補完ができた。やはり、ある程度の進行担当さんがいてくれるとより話しやすいと思う。最初は進めてくださったので助かった。
- ・ コースの違う方と交流がもてた。もっと時間があつたらなと感じた。

【23日 コース別ワークショップⅡ「男女共同参画の視点で課題を解決する事業」】

※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	合計	%	※合計	※%
非常に有用であった	55	49.1	10	45.5	65	48.6	65	60.2
有用であった	33	29.5	9	40.9	42	31.3	42	38.9
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
有用でなかった	1	0.9	-	-	1	0.7	1	0.9
不参加	9	8.0	2	9.1	11	8.2		
無回答	14	12.5	1	4.5	15	11.2		
合計	112	100.0	22	100.0	134	100.0	108	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%	※合計	※%
非常に有用であった	31	50.9	25	60.9	9	28.1	65	48.6	65	60.2
有用であった	21	34.4	10	24.4	11	34.4	42	31.3	42	38.9
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用でなかった	-	-	-	-	1	3.1	1	0.7	1	0.9
不参加	3	4.9	2	4.9	6	18.8	11	8.2		
無回答	6	9.8	4	9.8	5	15.6	15	11.2		
合計	61	100.0	41	100.0	32	100.0	134	100.0	108	100.0

<非常に有用であった理由>

- ・ 改めてセンターの役割、強みについて確認することができた。男女共同参画の強みは全国各地にセンターがあるところ。他施設の事例アイデアはどんどん参考にしていきたい。
- ・ 課題の把握の方法、そして自分たちがまず理解することが大事だと改めて感じる事ができた。
- ・ 事業を行う前に、課題と事業の必要性をしっかりと理解し、参加者に伝えなければならないことを確認した。
- ・ 県としての施策、市町村との連携のいかし方について話し合えた。グループワークに時間を長くとっていただいたのでより深く話し合う事ができ、よかった。
- ・ 他自治体の具体的な事例から今後の事業展開のヒントを得ることができた。
- ・ 「お勉強」で終わらず、もう行動あるのみ。

<有用であった理由>

- ・ 他センターの事例が参考になった。センターの役割の再認識の必要性が分かった。
- ・ 班が少人数になり、意見の深掘りができた。プレゼン3分は少し厳しかった。でも、こんな訓練も必要であると思う。
- ・ 施策としての事業という考え方ははっきりさせることが必要ではないかと思った。
- ・ どの市町村、都道府県も抱える問題は似ていた。しかし、目標は一緒なので協力していけたらと思った。

- ・事例を活かしてその課題も解決することをGディスカッションして我がことに結びつける。昨日よりはよかった。やはり話す、聴く。
- ・具体的な目標を実践することができそうな気持ちに到達した。人との関わりが続くことにやりがいを見つけられるようにする。

【23日 全体会「地域で男女共同参画を推進するために」】

※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	合計	%	※合計	※%
非常に有用であった	27	24.1	4	18.2	31	23.1	31	33.7
有用であった	45	40.1	11	50.0	56	41.8	56	60.9
あまり有用でなかった	4	3.6	1	4.5	5	3.7	5	5.4
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
不参加	15	13.4	2	9.1	17	12.7		
無回答	21	18.8	4	18.2	25	18.7		
合計	112	100.0	22	100.0	134	100.0	92	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%	※合計	※%
非常に有用であった	11	18.0	14	34.1	6	18.8	31	23.1	31	33.7
有用であった	31	50.8	16	39.0	9	28.1	56	41.8	56	60.9
あまり有用でなかった	3	4.9	2	4.9	-	-	5	3.7	5	5.4
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不参加	4	6.6	2	4.9	11	34.3	17	12.7		
無回答	12	19.7	7	17.1	6	18.8	25	18.7		
合計	61	100.0	41	100.0	32	100.0	134	100.0	92	100.0

＜非常に有用であった理由＞

- ・行政職員としての役割を改めて認識した。
- ・各コースとも現状把握と課題の確認、自己の認識を深めること、関係機関との連携の重要性を再認識した。
- ・端的にまとめてくださりスッキリと理解した。力強い言葉が印象的だ。
- ・自分事にすること！！生活のあらゆる場面で！！大きな切り口をいただいた。
- ・行政、管理職等の分野の話が聞けてよかった。「為すために学ぶ」これだ。

＜有用であった理由＞

- ・研修全体の成果を確認できた。
- ・いつも同じ内容のような気がする。問題は古くて新しいということか。
- ・それぞれの立場での違いと共通項目を改めて確認することができた。
- ・もう少し時間があり質疑応答もできればよかった。
- ・団体職員コースの課題は団体リーダーの課題と同じ。
- ・リーダー研修に参加していない県市町へのアプローチをどうするのか。

2. 研修全体は有用でしたか。

※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	合計	%	※合計	※%
非常に有用であった	70	63.1	14	60.9	84	62.7	84	64.6
有用であった	36	32.4	9	39.1	45	33.6	45	34.6
あまり有用でなかった	1	0.9	-	-	1	0.7	1	0.8
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	4	3.6	-	-	4	3.0		
合計	111	100.0	23	100.0	134	100.0	130	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%	※合計	※%
非常に有用であった	41	67.3	23	56.1	20	62.5	84	62.7	84	64.6
有用であった	19	31.1	16	39.0	10	31.3	45	33.6	45	34.6
あまり有用でなかった	-	-	-	-	1	3.1	1	0.7	1	0.8
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	1	1.6	2	4.9	1	3.1	4	3.0		
合計	61	100.0	41	100.0	32	100.0	134	100.0	130	100.0

＜非常に有用であった理由＞

- ・自分が所属する施設で今度何が必用か、現状では不足していると思われることは何かなどを考えてみると政府として施策を実施予定の点が合致していることを理解した。アンテナを広く高く掲げて様々な制度や機会を使っていきたいと思った。
- ・仕事に対するモチベーションが上がった。
- ・女性活躍推進と男女共同参画がテーマで国の施策や各講師から事業企画のヒントが得られた。
- ・男女共同参画に関する「今」を学ぶことができた。
- ・現在の職務に就任して間もないため、本研修のテーマ「女性活躍の推進と男女共同参画」に関する講演・講義等は大変有意義であり、時系列的に説明された内容が多かったので理解しやすかった。
- ・これまで疑問であったことを掘り下げて考えていくことで理解できた。(比較的若年層へのアプローチ)など。
- ・全国の方々と交流を深めることができ、様々な事業のヒント、アイデアを得ることができた。また、女性の活躍に向けた支援についても様々な立場からの取組や考え方を聞くことができ、個人的にも学びの場になった。
- ・現在取り組まなければならない課題がプログラムに反映されている。講師の選択が適切であった。
- ・データを基に現状、課題を知ることが出来た。多くの志の同じ方と会えた。連携できそう。普段知ることのできない行政の方々の意見、悩みを知ることができた。今後したいことが、道筋が見えてきた。

＜有用であった理由＞

- ・センターの今後について、啓発事業だけでは不十分で、ニーズをとらえ、課題解決型事業への移行が今後求められてくるという認識ができた。
- ・いろいろな取組事例が聞けて参考になった。なかなか聞く機会のない著名な方の講演を聞くことができた。
- ・交流と学習、両方ができ、今年度の事業で取り上げたい若者の就職についてヒントを得られた。
- ・4月から男女共同参画担当に異動になったが、全て分からず、まして管理者となると分かりませんばかり言っていられない。皆様にいろいろな言葉をいただいて方向が見えてきた感じた。
- ・地域によって格差があるにしても、国全体の現状や活動を通しての体験等もいくつか聞くことができたことは、とても有意義なことだと思う。
- ・国の施策から全国の実活動している関連施設の状況の把握等、幅広い情報が得られ、内容の充実した研修だった。

3. 研修全体の満足度はいかがでしたか。

※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	合計	%	※合計	※%
非常に満足した	55	49.6	12	52.2	67	50.0	67	51.9
満足した	45	40.5	9	39.1	54	40.4	54	41.9
少し物足りなかった	5	4.5	2	8.7	7	5.2	7	5.4
物足りなかった	1	0.9	-	-	1	0.7	1	0.8
無回答	5	4.5	-	-	5	3.7		
合計	111	100.0	23	100.0	134	100.0	129	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%	※合計	※%
非常に満足した	31	50.8	19	46.3	17	53.2	67	50.0	67	51.9
満足した	27	44.3	16	39.0	11	34.4	54	40.4	54	41.9
少し物足りなかった	3	4.9	2	4.9	2	6.2	7	5.2	7	5.4
物足りなかった	-	-	-	-	1	3.1	1	0.7	1	0.8
無回答	-	-	4	9.8	1	3.1	5	3.7		
合計	61	100.0	41	100.0	32	100.0	134	100.0	129	100.0

＜非常に満足した理由＞

- ・全国の思いを同じくする担当者との交流で得られることも多かった。
- ・省庁説明や講演などにより、実態把握と課題解決の方向性が分かった。
- ・就任間もない中で、国の施策、他地区の取組、同じ思いの熱い仲間に触れることができた。
- ・研修を通して男女共同参画に係る疑問と不安が解消した。
- ・全国のセンターの「今」を学ぶことができた。
- ・他の女性センターの代表者の方々が大変に熱く語っておられる姿に感動、感激し、今後のセンター活動に少しでも役立てられるよう努力したい。
- ・現状や課題を様々な統計資料をもとに非常に分かりやすくご説明いただいた。また、今まであまり重点的に考えてこなかった女性の貧困について改めて考える機会になった。
- ・きめ細かく多分野における課題解決に向けた内容となっており、これだけの人材の講演を短期間に受けることができるのは素晴らしいことと感激した。

- ・参加者、講師、双方の思いが伝わり、とてもいい刺激になった。又エックは遠いけれど、来る価値はある。
- ・一コマ一コマの内容がとても充実していて、学びが多く講座としてもとてもよくデザインされていた。

＜満足した理由＞

- ・研修プログラムが充実していた。近くても交流のない都内の女性センターの方と一緒にワークをし、話をすることができた。
- ・盛りだくさんだったが、各自治体職員との交流を含め、女性関連施設の管理者と意見交換ができた。
- ・同じ内容の話が多い。講師間で講演内容を調整した方がよい。男性の講師も必要と思う。
- ・国内の話や海外の話を聞けたり、自分とは立場が異なる方々の話が聞けて様々な角度から男女共同参画に触れられた。
- ・3方向に学ぶことができた。
- ・女性センターの抱える問題等、共通点があり参考になった。

2. この研修での達成度をご回答ください。

(1)男女共同参画についての視点、考え方を身につけることができた。

※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	合計	%	※合計	※%
十分できた	54	48.3	9	40.9	63	47.0	63	50.0
おおむねできた	50	44.6	13	59.1	63	47.0	63	50.0
あまりできなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	8	7.1	-	-	8	6.0	-	-
合計	112	100.0	22	100.0	134	100.0	126	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%	※合計	※%
十分できた	34	55.7	19	46.3	10	31.3	63	47.0	63	50.0
おおむねできた	27	44.3	19	46.3	17	53.1	63	47.0	63	50.0
あまりできなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	-	-	3	7.4	5	15.6	8	6.0	-	-
合計	61	100.0	41	100.0	32	100.0	134	100.0	126	100.0

(2)男女共同参画政策に関わる国の施策・動向を理解することができた。

※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	合計	%	※合計	※%
十分できた	37	33.0	7	31.8	44	32.8	44	34.6
おおむねできた	64	57.1	13	59.1	77	57.5	77	60.7
あまりできなかった	4	3.6	2	9.1	6	4.5	6	4.7
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	7	6.3	-	-	7	5.2	-	-
合計	112	100.0	22	100.0	134	100.0	127	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%	※合計	※%
十分できた	24	39.4	10	24.4	10	31.3	44	32.8	44	34.6
おおむねできた	34	55.7	26	63.4	17	53.1	77	57.5	77	60.7
あまりできなかった	3	4.9	2	4.9	1	3.1	6	4.5	6	4.7
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	-	-	3	7.3	4	12.5	7	5.2	-	-
合計	61	100.0	41	100.0	32	100.0	134	100.0	127	100.0

(3)地域で男女共同参画を推進するための自組織が抱える課題を把握することができた。

※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	合計	%	※合計	※%
十分できた	23	20.5	6	27.3	29	21.6	29	23.2
おおむねできた	71	63.4	13	59.1	84	62.7	84	67.2
あまりできなかった	11	9.8	1	4.5	12	9.0	12	9.6
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	7	6.3	2	9.1	9	6.7		
合計	112	100.0	22	100.0	134	100.0	125	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%	※合計	※%
十分できた	18	29.5	8	19.5	3	9.4	29	21.6	29	23.2
おおむねできた	39	64.0	27	65.9	18	56.2	84	62.7	84	67.2
あまりできなかった	3	4.9	3	7.3	6	18.8	12	9.0	12	9.6
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	1	1.6	3	7.3	5	15.6	9	6.7		
合計	61	100.0	41	100.0	32	100.0	134	100.0	125	100.0

(4)地域課題解決のための組織の在り方について、方向性や手立てを得ることができた。

※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	合計	%	※合計	※%
十分できた	17	15.2	2	9.1	19	14.2	19	15.2
おおむねできた	67	59.8	15	68.2	82	61.2	82	65.6
あまりできなかった	18	16.1	4	18.2	22	16.4	22	17.6
できなかった	2	1.8	-	-	2	1.5	2	1.6
無回答	8	7.1	1	4.5	9	6.7		
合計	112	100.0	22	100.0	134	100.0	125	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%	※合計	※%
十分できた	10	16.4	5	12.2	4	12.5	19	14.2	19	15.2
おおむねできた	42	68.9	25	60.9	15	46.8	82	61.2	82	65.6
あまりできなかった	8	13.1	7	17.1	7	21.9	22	16.4	22	17.6
できなかった	-	-	-	-	2	6.3	2	1.5	2	1.6
無回答	1	1.6	4	9.8	4	12.5	9	6.7		
合計	61	100.0	41	100.0	32	100.0	134	100.0	125	100.0

(5)地域課題解決のための事業や企画の在り方について、方向性や手立てを得ることができた。

※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	合計	%	※合計	※%
十分できた	16	14.3	5	22.7	21	15.6	21	16.9
おおむねできた	70	62.5	13	59.2	83	67.0	83	67.0
あまりできなかった	17	15.2	3	13.6	20	14.9	20	16.1
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	9	8.0	1	4.5	10	7.5		
合計	112	100.0	22	100.0	134	100.0	124	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%	※合計	※%
十分できた	14	23.0	5	12.2	2	6.3	21	15.6	21	16.9
おおむねできた	39	63.9	26	63.4	18	56.2	83	67.0	83	67.0
あまりできなかった	7	11.5	5	12.2	8	25.0	20	14.9	20	16.1
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	1	8.0	5	12.2	4	12.5	10	7.5		
合計	61	100.0	41	100.0	32	100.0	134	100.0	124	100.0

(6)地域で男女共同参画を推進するための連携・協働の在り方について、手がかりを得ることができた。

※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	合計	%	※合計	※%
十分できた	25	22.3	3	13.6	28	20.9	28	22.8
おおむねできた	64	57.2	14	63.7	78	58.3	78	63.4
あまりできなかった	13	11.6	3	13.6	16	11.9	16	13.0
できなかった	1	0.9	—	—	1	0.7	1	0.8
無回答	9	8.0	2	9.1	11	8.2		
合計	112	100.0	22	100.0	134	100.0	123	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%	※合計	※%
十分できた	19	31.1	5	12.2	4	12.5	28	20.9	28	22.8
おおむねできた	39	50.9	28	68.2	19	59.4	78	58.3	78	63.4
あまりできなかった	8	13.1	4	9.8	4	12.5	16	11.9	16	13.0
できなかった	—	—	—	—	1	3.1	1	0.7	1	0.8
無回答	3	4.9	4	9.8	4	12.5	11	8.2		
合計	61	100.0	41	100.0	32	100.0	134	100.0	123	100.0

(7)全国の各地域で男女共同参画を推進するリーダーの人々とのネットワークづくりのきっかけを得ることができた。

※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	合計	%	※合計	※%
十分できた	35	31.3	5	22.7	40	29.9	40	32.3
おおむねできた	57	50.9	13	59.2	70	52.1	70	56.4
あまりできなかった	9	8.0	3	13.6	12	9.0	12	9.7
できなかった	2	1.8	—	—	2	1.5	2	1.6
無回答	9	8.0	1	4.5	10	7.5		
合計	112	100.0	22	100.0	134	100.0	124	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%	※合計	※%
十分できた	20	32.8	14	34.1	6	18.8	40	29.9	40	32.3
おおむねできた	32	52.5	20	48.8	18	56.2	70	52.1	70	56.4
あまりできなかった	5	8.2	4	9.8	3	9.4	12	9.0	12	9.7
できなかった	1	1.6	—	—	1	3.1	2	1.5	2	1.6
無回答	3	4.9	3	7.3	4	12.5	10	7.5		
合計	61	100.0	41	100.0	32	100.0	134	100.0	124	100.0

5. 今後この研修で取り上げてほしいテーマ・内容・方法等について、ご自由にお書きください。

- ・ ①男女共同参画センターの存在(所在・役割等)そのものをよく知らない県民(市民)も少なくない。効果的なPRの方法や先進事例について。②今や、啓発だけではなく「男女共同参画」は進まない状況にある。では、これに代わる、または、これに加えてどのような事業が有効なのかについて
- ・ 企業へのアプローチの方策。
- ・ 事業を実施した後の有効なフォローアップ法
- ・ 今後の男女共同参画センターの在り方、男女共同参画の次の課題へのアプローチ、男女共同参画のミッション、多様化する社会への対応等
- ・ 男性を男女共同参画にどう取り込んでいくか、男性の意識改革について
- ・ NWECC出版データブックを活用した現状分析(過去との比較、先進国やアジア圏内での比較)を将来展望(よくなる、悪くなる)の講義
- ・ 国の第3次男女共同参画基本計画への取組結果と分析、第4次基本計画策定に向けての枠組みと内容について
- ・ とにかく最近の情報がほしい。他機関とのネットワークを広げたい。
- ・ 学生に焦点を当てた男女共同参画について
- ・ 内容はほぼ今のままでよいが、やはり「施設管理者」「団体リーダー」と「地方公共団体」では立場が違う。一緒にということも必要だと思うが、同じ立場の者のみでじっくり2泊3日やってみたい。
- ・ 成功経験だけを聞くのではなく、失敗談や挫折談、目標到達までの紆余曲折なども聞かせて欲しい。

- ・企業での取組など具体的に知ることができたが、私たちのように地域活動（公民館）レベルでの男女共同参画の推進を進めていく工夫などを具体的に知りたい。
- ・3つのセクターに分かれて話し合いをした。その3者が具体的にネットワークする（課題解決）が3者間でできていない。3つのセンターが一堂に会したネットワークを構築するための分科会がいないか。
- ・I.T.Sを活用した推進の方法、実践、臨時サイトを作ったり参加者の意見を自由に発信したらおもしろい。
- ・女性の貧困、非正規の問題、女性センターの相談支援等の待遇について
- ・開催時期の5月20日前後という好時期なので、行政職員向けの男女共同参画担当初心者向けの内容充実をはかり、行政職員の参加増をはかれる内容の検討を進める。

7. 研修開催の情報を何で知りましたか。（複数回答）

		管理職	% (61名中)	地方公 共団体	% (41名中)	団体 リーダー	% (32名中)	合計	% (134名 中)
行政から	男女共同参画課	16	26.2	15	36.6	9	28.1	40	29.9
	教育委員会	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他の行政	-	-	3	7.3	-	-	3	2.2
社会教育施設から	女性教育関連施設	7	11.5	2	4.9	1	3.1	10	7.5
	生涯学習センター・公民館	-	-	-	-	-	-	-	-
団体・組織から	女性団体・男女共同参画団体	5	8.2	-	-	3	9.4	8	6.0
	NPO上記以外の団体等から	1	1.6	-	-	1	3.1	2	1.5
国立女性教育 会館から	ホームページ・メールマガジン	18	29.5	12	29.3	10	31.3	40	29.9
	ダイレクトメール	24	39.3	14	34.1	5	15.6	43	32.1
	又エックニュース	13	21.3	4	9.8	-	-	17	12.7
その他		4	6.6	-	-	1	3.1	5	3.7

平成 26 年度「大学等における男女共同参画推進セミナー」開催要項

1. 趣 旨

男女共同参画社会の実現は、国、地方公共団体、国民すべてに課せられた責務であり、高等教育機関としての大学・短期大学・高等専門学校においても、その一翼を担うべきことが求められています。

しかし、学内全体への男女共同参画意識の浸透や男女共同参画の推進体制はいまだ十分とは言えません。また、大学の経営戦略の一つに「男女共同参画」を位置づけ、取り組んでいくことが求められています。

このような状況を踏まえ、本セミナーでは、大学・短期大学・高等専門学校における男女共同参画の推進に向けて、それに関わる教職員を対象として、専門的、実践的な研修を行います。

2. 主 催

独立行政法人国立女性教育会館

3. 後 援

一般社団法人国立大学協会、一般社団法人公立大学協会、
日本私立大学団体連合会、日本私立短期大学協会、
独立行政法人国立高等専門学校機構

4. 会 場

国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728 番地

5. 期 日

平成 26 年 12 月 4 日（木）～ 12 月 5 日（金） 1 泊 2 日

6. 参 加 者

大学・短期大学・高等専門学校における男女共同参画の推進に携わる教職員

7. 定 員 80 名

8. 日 程（各プログラムの間に 10～15 分程度の休憩が入ります）

12/4 (木)	13:15 13:30 15:15 16:45 17:15 18:30 20:00									
		受付	開会	基調講演	講義	情報提供		情報交換会		
12/5 (金)	9:00 10:00 11:30 12:30 14:15 14:45 15:00									
		情報提供	分科会	昼食	分科会	全体会	閉会			

- ・当事業は、「第3次男女共同参画基本計画」における「第11分野 男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実」「第12分野 科学技術・学術分野における男女共同参画」に位置付けられている事業です。

9. 内 容

第1日 12月4日（木）

（1）開会 13:15～13:25

- ①主催者あいさつ
- ②プログラムの趣旨説明

（2）基調講演「大学の使命と男女共同参画」 13:30～15:00

研究と教育という大学の使命を踏まえ、学内全体への男女共同参画意識の浸透や推進体制を構築することの必要性など、大学において男女共同参画の推進に取り組むことの意義を理解します。

講師：江原由美子 首都大学東京教授・副学長

（3）講義「大学経営戦略としての男女共同参画の推進」 15:15～16:30

大学間競争が高まる中で、教職員の意欲・能力こそ競争力の源泉です。ダイバーシティ、特に、女性の活躍促進、ワーク・ライフ・バランスの視点から大学の経営戦略を考えることの意義を理解します。

講師：吉武博通 筑波大学教授・大学研究センター長

（4）情報提供「国立女性教育会館の情報機能の活用」 16:45～17:15

（※希望者のみ）

大学等において、男女共同参画を推進する上で役に立つ国立女性教育会館「女性教育情報センター」が収集・提供する関連資料、女性情報ポータル Winet の活用などについて情報提供します。

説明：国立女性教育会館情報課

(5) 情報交換会 (*希望者のみ)

18:30～20:00

参加者それぞれが抱える課題の解決に向けた方策について情報を交換するとともに、参加者同士のネットワークづくりを行います。夕食を兼ねた立食形式で行います。(参加費 3,000 円、於：本館食堂)

第2日 12月5日 (金)

(6) 情報提供「大学における男女共同参画の現状」

9:00～ 9:50

国立女性教育会館が昨年度から実施している「大学等における男女共同参画に関する調査研究」の一環で作成中の「ガイドブック」について説明します。また、文部科学省の「女性研究者研究活動支援事業」についても紹介します。

説明：国立女性教育会館研究国際室

(7) 分科会

10:00～11:30

12:30～14:00

大学における男女共同参画推進の主要な課題について、事例報告をもとにディスカッションを行い、実践力を養います。

<分科会1>「男女共同参画推進のための基盤づくり」

大学をはじめとする高等教育機関において、男女共同参画の推進を長期的視野に立って継続していくためには、推進の拠点となる基盤が必要です。分科会1では、国立大学と地方公立大学の取り組み事例をもとに、大学等における男女共同参画推進のための基盤づくりやその継続および連携の仕方などについて考えます。

事例① 「東京農工大学における女性未来育成機構の取り組み」

報告者：星野明香 東京農工大学女性未来育成機構コーディネータ

事例② 「静岡県立大学における男女共同参画推進の取り組み」

報告者：犬塚協太 静岡県立大学教授・男女共同参画推進センター長

<分科会2>「男女ともに育児・介護との両立をめざした環境づくり」

学内全体で、ワーク・ライフ・バランスの取れた労働環境づくりに取り組むためには、女性だけでなく男性も、育児だけでなく介護も、と支援の対象を拡げていく必要があります。分科会2では、国立大学と私立大学の取り組み事例をもとに、ダイバーシティ促進の上でも不可欠な研究や仕事と育児・介護といったライフイベントとの両立をめざした環境づくりについて考えます。

事例①「高知大学男女共同参画推進室の両立支援の取り組み」

報告者：廣瀬淳一 高知大学特任講師・男女共同参画推進室長

事例②「東邦大学男女共同参画推進センターの両立支援の取り組み」

報告者：中野弘一 東邦大学教授・学長補佐

<分科会3>「戦略としての女子学生向けキャリア形成支援」

女性の活躍への期待が高まる中で、女子学生向けのキャリア形成を支援する取り組みは、少子化社会において、高等教育機関の生き残りをかけた戦略のひとつとして、女子大学のみならず、共学の場合も重要性を帯びています。分科会3では、私立女子大学と国立高等専門学校との取り組み事例をもとに、女子学生向けのキャリア形成支援の在り方について考えます。

事例①「昭和女子大学の全学共通キャリア教育・キャリア支援の取り組み」

報告者：森ます美 昭和女子大学教授・キャリア支援部長

事例②「国立高等専門学校の女子学生へのキャリア形成支援の取り組み」(仮)

報告者：藤田直幸 奈良工業高等専門学校電気工学科教授・国立高等専門学校機構男女共同参画推進室併任教授

(8) 全体会

14:15～14:45

各分科会の報告により、参加者の情報共有を行います。

コーディネーター：国立女性教育会館研究国際室

(9) アンケート記入・閉会

14:50～15:00

10. 申込方法・期限等

(1) 方 法

①Eメール：国立女性教育会館ホームページよりお申し込みください。

②郵送・FAX：国立女性教育会館事業課までお申し込みください。

※ 開催要項、参加申込書等の電子データをご希望の方は、国立女性教育会館ホームページよりダウンロードしてください。[\(http://www.nwec.jp/\)](http://www.nwec.jp/)

(2) 申込期限

平成26年11月28日(金)(先着順)

※ 期間内でも定員に達した場合は申込の受付を締め切らせていただきますので、ご了承ください。

(3) 提出書類

①「参加申込書」(別紙1)

②「大学・短期大学・高等専門学校における男女共同参画推進の実情・工夫について」(別紙2)

(4) 参加決定のお知らせ

ご本人宛に文書にてお知らせします。12月1日(月)までに連絡がない場合は、お手数ですが事業課(電話：0493-62-6724)までお問い合わせください。

11. 所要経費

(1) 参加費

無料

(2) 宿泊費

研修期間中は1泊2,670円(前・後泊も同額)

(3) 食費 1食あたり 700 円～1,000 円程度

★カフェテリア方式の食堂（本館 1 階）をご利用ください。

(4) 情報交換会費 3,000 円（12/4 18:30～20:00、立食形式、本館食堂）

12. 保 育（事前申込制、先着順）

研修期間中、おおむね 2 歳以上から学齢未満の幼児保育を実施します。ご希望の場合は「参加申込書」（別紙 1）に必要事項を記入の上、お申し込みください。

13. 情報交換コーナー（研修棟 2 階 大会議室前カウンター）

ご所属大学などのパンフレットやちらしなどを自由に交換するコーナーを設置しますのでご利用ください。

14. そ の 他

期間中、職員が撮影した写真を事業記録や広報のために使用することがあります。あらかじめご了承ください。

平成26年度 大学等における男女共同参画推進セミナー 参加者概況

平成26年12月5日現在

1. 性別

	合 計
女 性	57
男 性	22
無回答	—
合 計	79

定員 80 名
 申込者 81 名
 ※内キャンセル 2 名
 参加者 79 名
 応募倍率 101.3 %

2. 参加日別

	女 性	男 性	無回答	合 計
全日程	47	16	—	63
4日のみ	7	4	—	11
5日のみ	3	2	—	5
合 計	57	22	—	79

3. 年代

	女 性	男 性	無回答	合 計
20代	9	3	—	12
30代	8	3	—	11
40代	13	5	—	18
50代	15	9	—	24
60代以上	7	2	—	9
無回答	5	—	—	5
合 計	57	22	—	79

4. 情報提供参加

	合 計
女 性	41
男 性	12
不参加	26
合 計	79

5. 分科会 (5日参加者 79 名)

	女 性	男 性	無回答	合 計
分科会1 「男女共同参画推進のための基盤づくり」	11	9	—	20
分科会2 「男女ともに育児・介護との両立をめざした環境づくり」	23	2	—	25
分科会3 「戦略としての女子学生向けキャリア形成支援」	16	7	—	23
不参加	7	4	—	11
合 計	57	22	—	79

※所属別

	合 計
国公立大学	40
私立大学	15
高専(国公私立)	18
その他	6
合 計	79

※職種別

	合 計
教員系	28
職員系	48
その他(自営業等)	3
合 計	79

※地域ブロック別参加者内訳

	女 性	男 性	無回答	合 計
北海道・東北	7	6	—	13
関東・甲信越	24	6	—	30
北陸・東海	6	2	—	8
近畿	5	4	—	9
中国・四国	9	2	—	11
九州・沖縄	6	2	—	8
合 計	57	22	—	79

6. 都道府県別

※政令指定都市(カッコ内)は都道府県の内数に含む

		女 性	男 性	無回答	合 計
北海道・東北	北海道	2	1	—	3
	（札幌市）	（—）	（—）	（—）	（—）
	青森県	1	2	—	3
	岩手県	—	2	—	2
	宮城県	2	1	—	3
	（仙台市）	（1）	（—）	（—）	（1）
	秋田県	—	—	—	—
	山形県	2	—	—	2
福島県	—	—	—	—	
関東・甲信越	茨城県	2	—	—	2
	栃木県	—	—	—	—
	群馬県	2	—	—	2
	埼玉県	2	—	—	2
	（さいたま市）	（—）	（—）	（—）	（—）
	千葉県	—	2	—	2
	（千葉市）	（—）	（—）	（—）	（—）
	東京都	14	4	—	18
	神奈川県	2	—	—	2
	（横浜市）	（1）	（—）	（—）	（1）
	（川崎市）	（1）	（—）	（—）	（1）
	（相模原市）	（—）	（—）	（—）	（—）
	山梨県	1	—	—	1
	新潟県	1	—	—	1
（新潟市）	（—）	（—）	（—）	（—）	
長野県	—	—	—	—	
北陸・東海	富山県	3	—	—	3
	石川県	1	—	—	1
	福井県	—	—	—	—
	岐阜県	—	—	—	—
	静岡県	1	1	—	2
	（静岡市）	（1）	（1）	（—）	（2）
	（浜松市）	（—）	（—）	（—）	（—）
	愛知県	—	—	—	—
	（名古屋市）	（—）	（—）	（—）	（—）
	三重県	1	1	—	2
近畿	滋賀県	—	1	—	1
	京都府	2	—	—	2
	（京都市）	（2）	（—）	（—）	（2）
	大阪府	1	2	—	3
	（大阪市）	（—）	（—）	（—）	（—）
	（堺市）	（—）	（—）	（—）	（—）
	兵庫県	1	—	—	1
	（神戸市）	（—）	（—）	（—）	（—）
	奈良県	1	1	—	2
和歌山県	—	—	—	—	
中国・四国	鳥取県	1	—	—	1
	島根県	—	—	—	—
	岡山県	1	—	—	1
	（岡山市）	（—）	（—）	（—）	（—）
	広島県	1	1	—	2
	（広島市）	（—）	（—）	（—）	（—）
	山口県	—	—	—	—
	徳島県	2	—	—	2
	香川県	4	—	—	4
	愛媛県	—	—	—	—
高知県	—	1	—	1	
九州・沖縄	福岡県	3	1	—	4
	（北九州市）	（1）	（—）	（—）	（1）
	（福岡市）	（1）	（—）	（—）	（1）
	佐賀県	—	—	—	—
	長崎県	1	1	—	2
	熊本県	—	—	—	—
	（熊本市）	—	—	—	—
	大分県	1	—	—	1
	宮崎県	—	—	—	—
	鹿児島県	1	—	—	1
沖縄県	—	—	—	—	
合計		57	22	—	79

平成26年度「大学等における男女共同参画推進セミナー」 参加者アンケート 集計結果(確定版)

平成27年1月9日

参加者数	79 名
回答者	68 名 (無回答11名)
回答率	86.1 %

1. 1日目の基調講演・講義についてご意見をお聞かせください。

- 大学の使命という観点、経営という観点から男女共同参画を改めて見つめることができた。大学の理念に基づき、男女共同参画が定められている認識はあったが、大学が何ができるのかというだけでなく、それにより大学側、社会へ貢献されることを再認識できた。経営の観点からはあまり考えるきっかけがなかったため、今回非常に勉強になった。
- 両講演とも興味深く聞かせていただきました。これまで、大学、高専の「経営」「マネジメント」という観点はほとんど持ち合わせていなかったもので、とても有益でした。
- 男女共同参画を推進する上で大学を取り巻く現状など知ることができて大変良かった。「大学経営戦略としての男女共同参画の推進」は話も分かりやすく、今までとは異なった視点で考えることができた。
- 「大学の使命」としての男女共同参画の取り組み方、「大学経営戦略」としての男女共同参画の取り組み方と視点を変えてのお話は今後の男女共同参画室を運営する上で大きな参考になった。
- 組織のトップへのアプローチの方法が分かって大変参考になりました。
- 大学の使命や経営戦略など、男女共同参画を問わず、有益なお話でした。大学の使命として、男女共同参画を進めていけるとよいと思いました。

2. 2日目の分科会についてご意見をお聞かせください。

- 他大学の取組現状について多くの情報が得られ大変有益であった。
- グループワークの形でしたのでお互いの意見交換がし易かったです。規模もちょうどよい。お2人の先生もそれぞれ大変有用なお話でした。
- 分科会の講師の先生のお話や小グループでのディスカッション等、さまざまな学習形態で学ぶことができ時間が経つのが非常にはやく感じた。
- 他大学や高専の取り組みを知ることができ、情報共有を行うこともできて大変有意義でした。
- 大学における男女共同参画推進に積極的な事例、また整備されていない中で努力する事例を受け、各大学の共通課題、共通解決策を判明させたり解決のためのヒントを発見することができた。

◆ 研修全体についての有用度

	人数	%	※%	※%
非常に有用であった	32	47.1	48.5	98.5
有用であった	33	48.5	50.0	
あまり有用でなかった	1	1.5	1.5	1.5
有用ではなかった	－	－	－	
無回答	2	2.9		
合計	68	100.0	100.0	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

◆ 参考：平成25年度の有用度

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%	※%
非常に有用であった	29	54.7	8	61.5	2	33.3	39	54.2	39	56.5	98.6
有用であった	22	41.5	5	38.5	2	33.3	29	40.3	29	42.0	
あまり有用でなかった	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1.4
全く有用ではなかった	1	1.9	－	－	－	－	1	1.4	1	1.4	
無回答	1	1.9	－	－	2	33.3	3	4.2			
合計	53	100.0	13	100.0	6	100.0	72	100.0	69	100.0	100.0

(※は「無回答」を除いた場合)

〈意見・感想等〉

「非常に有用であった」理由

- ・多くの大学の機関の現状を知り、問題点の共有ができたこと
- ・女性研究者支援からスタートした取組を女性教員対象から、職員、学生、大学院生へと広げていく際の体制づくり、取り組み方などを考える上で大きなヒントをいただきました。
- ・同じ立場で悩みを共有できる仲間に年に一度会う貴重な機会で、大変勉強になりました。ありがとうございました。

「有用であった」理由

- ・最新の情報を得ることができたことと、他教育機関の方々との意見交換が効果的でした。また、管理者の立場から、本学の方向を決定するにあたり有用であった。
- ・具体的な取り組みにつながるヒントがいろいろとありました。
- ・学内での男女共同参画部署の立ち上げのために役立つ情報が多々あり、とてもよかったと思います。

◆ 研修全体での満足度

	合計	%	※%	※%
非常に満足した	30	44.1	46.2	95.4
満足した	32	47.1	49.2	
少し物足りなかった	3	4.4	4.6	4.6
物足りなかった	－	－	－	
無回答	3	4.4		
合計	68	100.0	100.0	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

◆ 参考：平成25年度の満足度

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%	※%
非常に満足した	23	43.4	5	38.5	2	33.3	30	41.7	30	43.5	97.1
満足した	27	50.9	8	61.5	2	33.3	37	51.4	37	53.6	
少し物足りなかった	1	1.9	－	－	－	－	1	1.4	1	1.4	2.9
物足りなかった	1	1.9	－	－	－	－	1	1.4	1	1.4	
無回答	1	1.9	－	－	2	33.3	1	4.2			
合計	53	100.0	13	100.0	6	100.0	70	100.0	69	100.0	100.0

(※は「無回答」を除いた場合)

〈意見・感想等〉

「非常に満足であった」理由

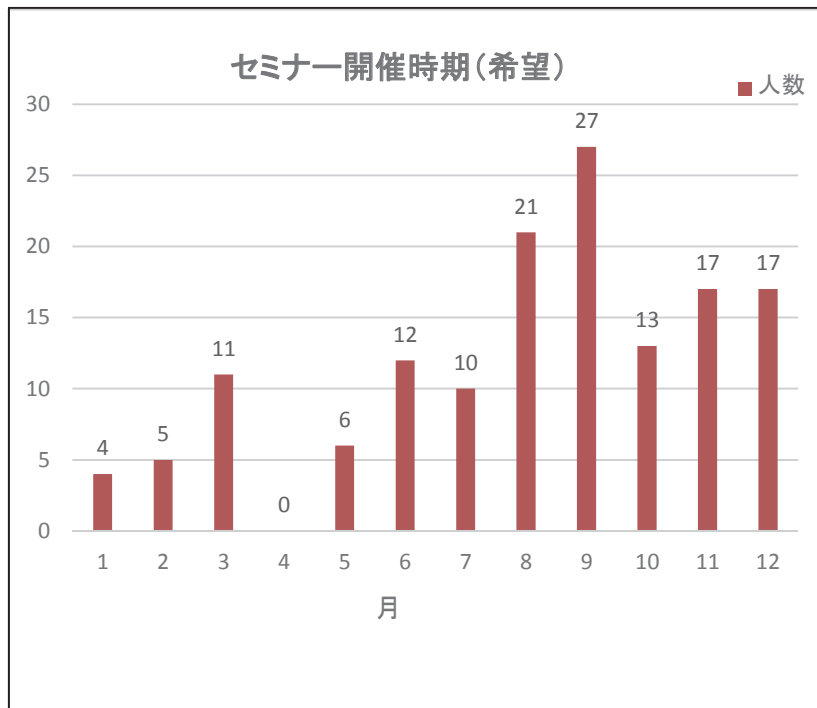
- ・ 女性研究者支援事業採択校を含む多様な機関(高専・女子大)の多様な職種の参加者とじっくりと話することが出来たことが良かったと思います。
- ・ 初めて参加したが、盛りだくさんのプログラムに加えて、参加者の交流の機会が多く取られており、とても充実したセミナーであった。

「満足であった」理由

- ・ 大学の使命や大学経営は、男女共同参画とあまりかわりがないと思っておりましたがお話を聞くと男女共同参画をしていくと大学経営も良くなるのではないかと思います。
- ・ プログラムがしっかりと練られており、円滑に進行が行われていたと思います。大変お世話になり、どうもありがとうございました。
- ・ 講演者がすばらしい。
- ・ 満足のいくセミナーでした。改めて、全国規模での交流、ネットワークの手ごたえを感じて、ハッピーでした。ありがとうございました。

◆ セミナーの開催時期(複数回答可)

月	人数	%
1	4	2.8
2	5	3.5
3	11	7.7
4	-	-
5	6	4.2
6	12	8.4
7	10	7.0
8	21	14.7
9	27	18.9
10	13	9.1
11	17	11.9
12	17	11.9
合計	143	100.0



平成26年度「男女共同参画推進フォーラム～ひとりひとりの活躍が社会を創る～」 実施要項

1. 趣旨

男女共同参画を推進する行政担当者、女性団体やNPOのリーダー及び大学や企業において組織内のダイバーシティ、女性の活躍を推進する担当者等が一堂に会し、課題の共有と課題解決のための方策を探る研修を実施します。同時に、組織分野を越え、連携・協働して男女共同参画を推進するためのネットワーク形成を図ります。

2. テーマ

「ひとりひとりの活躍が社会を創る」

3. 主催

独立行政法人 国立女性教育会館

4. 会場

国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728 番地

5. 期日

平成26年8月29日（金）～8月31日（日）

6. 参加者

男女共同参画に関心のある方（行政、企業、大学、NPO等の組織において男女共同参画の推進に携わる方、ならびに女性団体、女性／男女共同参画センター職員を含む） 1,000 名

7. 日程

	13:00	13:15	15:15	15:45	17:45			
8/29 (金)		開 会	女性リーダー 会議（講堂）		ワーク ショップ1			
8/30 (土)	10:00	12:00	13:15	14:45	15:30	17:30	18:30	20:00
	ワーク ショップ2	昼休み	特別講演 （講堂）		ワーク ショップ3		懇親会 （会費制、立食）	
8/31 (日)	10:00	12:00						
	ワーク ショップ4							

8. 内容

第1日 8月29日(金)(受付: 12:00~17:00 本館ロビー)

(1) 開会 主催者あいさつ(講堂) 13:00 ~ 13:10

(2) 女性リーダー会議「女性リーダーが社会をどう変えるか」(講堂)
13:15 ~ 15:15

企業、行政、NPO団体など、様々な分野で活躍している女性リーダーの方々にご登壇いただき、これからの女性リーダーのあり方や、様々な分野での女性の活躍を推進していく上での現状、課題などについて、パネルディスカッション形式で議論を深めます。

パネリスト

宗片恵美子 特定非営利活動法人イコールネット仙台代表理事

伊藤麻美 日本電鍍工業株式会社代表取締役

清原慶子 三鷹市長

コーディネーター

麓幸子 日経BPヒット総合研究所長・執行役員

(3) ワークショップ1 15:45 ~ 17:45
全国から募集したワークショップを行います。

第2日 8月30日(土)(受付: 9:00~17:00 本館ロビー)

(4) ワークショップ2 10:00 ~ 12:00
会館提供ワークショップと全国から募集したワークショップを行います。

【会館提供ワークショップ】第58回国連婦人の地位委員会(CSW) 報告会
(110 研修室)

国連婦人の地位委員会(以下、CSW)は昭和21年(1946)年に国連経済社会理事会の機能委員会のひとつとして設置されました。CSWの年次総会は、女性の地位向上に関連するテーマを決め、国連本部(ニューヨーク)で開催されています。CSWの成果である合意結論や決議は、日本を含む各国の男女共同参画政策に多大な影響を与えてきました。

第58回CSWは、2014年3月10日から21日まで「女性及び女兒に関するミレニアム開発目標の実施における課題と成果」を優先テーマとして開催されました。このワークショップでは、優先テーマに関する議論や、日本政府が共同提案した「自然災害におけるジェンダー平等と女性のエンパワーメント」の決議、NGOが実施したサイド・イベント等について、CSW参加者がわかりやすく解説します。

コーディネーター兼報告者

越智方美 国立女性教育会館研究国際室専門職員

報告者

田中正子 JAWW(日本女性監視機構)代表

織田由紀子 特定非営利活動法人北九州サステナビリティ研究所研究員

島田悦子 国立女性教育会館総務課専門官

(5) 特別講演「女性の活躍促進と社会の活性化」(講堂)

13:15 ～ 14:45

少子高齢化という社会構造の大きな変化が進み、既存の価値観や社会システムの見直しがせまれる中、成長の原動力として、女性の活躍への期待が高まっています。本プログラムでは、厚生労働省の村木厚子事務次官をお招きして、男女共同参画社会の実現に向けて、女性の活躍を促進し、活力のある社会を創出していく上で、何が求められているのかご講演いただきます。

講師 村木厚子 厚生労働事務次官

(6) ワークショップ3

15:30 ～ 17:30

会館提供ワークショップと全国から募集したワークショップを行います。

【会館提供ワークショップ】地域における男女共同参画の推進—実践事例に学ぶ—
(110 研修室)

このワークショップでは、NWE Cでの学習を生かし地域での実践につなげた事例や行政との協働、団体・組織の活性化など、地域における男女共同参画を推進するために日頃から実践活動を行っている団体による事例報告を、「交流学习会議」終了後に設立された「男女共同参画学習協議会」との協働で行います。

全国各地の先進的な活動報告を通して、地域における男女共同参画の課題解決に向けた具体的な方策を考えます。

報告者

伴辺久子	苫小牧男女平等参画推進協議会事務局長
桑田悦子	“きらめき Ritto” 実行委員会
小坂橋まさ子	“きらめき Ritto” 実行委員会
杉村洋子	一般社団法人大学女性協会岡山支部
大倉美恵	一般社団法人大学女性協会岡山支部

コメンテーター

高橋雅子	男女共同参画学習協議会共同代表
竹中佳子	男女共同参画学習協議会
真邊和美	男女共同参画学習協議会

コーディネーター

久門正子	男女共同参画学習協議会
------	-------------

進 行

小林千枝子 国立女性教育会館調整主幹

(7) 懇親会 (於：本館食堂)

18:30 ～ 20:00

(参加費 3,000 円、要事前申込、立食形式)

第3日 8月31日(日)(受付:9:00～11:30 本館ロビー)

(8) ワークショップ4

10:00 ～ 12:00

全国から募集したワークショップを行います。

★ポスター展示（場所：本館ロビー）

フォーラム期間中、全国から募集した団体・グループによる展示発表を行います。

9. ワークショップ・ポスター展示のテーマ

「第3次男女共同参画基本計画」に示されている施策を参考に、以下7つのテーマを設定し、ワークショップとポスター展示を募集しました。

- ①【女性のキャリア形成支援】
- ②【企業における女性の活躍推進】
- ③【大学における女性の活躍推進】
- ④【男性にとっての男女共同参画】
- ⑤【安全・安心と男女共同参画】
- ⑥【男女共同参画の地域づくり】
- ⑦【男女共同参画センターの役割】

10. 企画委員（五十音順・敬称略）

本フォーラムの企画などを会館と協働で行います。

- | | |
|---------|--------------------------|
| ・小山内世喜子 | アピオあおもり 青森県男女共同参画センター副館長 |
| ・根岸茂文 | 一般社団法人埼玉県経営者協会専務理事・事務局長 |
| ・森和江 | 埼玉県地域婦人会連合会 副会長 |
| ・矢澤澄子 | 元東京女子大学教授（企画委員長） |

11. 情報交換コーナー（場所：実技研修棟前通路）

参加者の皆さまが、ご所属団体のパンフレットやチラシなどの資料や書籍などを自由に交換・販売するコーナーを設置しますので、ご利用ください。

資料の運搬、陳列、金銭の取扱いなどは、各自の責任でお願いします。

12. 女性教育情報センター（本館2階）

男女共同参画および女性・家庭・家族に関する専門図書館です。全国各地のミニコミ誌など国立女性教育会館ならではの資料もそろえております。ぜひご利用ください。開室時間は以下のとおりです。

- 8月29日（金）9：00～18：30
8月30日（土）9：00～18：30
8月31日（日）9：00～17：00

13. 女性アーカイブセンター（本館1階）

女性アーカイブセンターでは、男女共同参画社会の形成に顕著な業績を残した女性・全国的な女性団体や女性教育・男女共同参画施策に関する史・資料を収集しています。

平成26年度企画展示「映画と歩む～チャレンジした女性たちからチャレンジする女性たちへ～」を開催中です。ぜひご観覧ください。

開室時間：9：00～19：00（3日間共に）

また、以下のとおり連動企画として、監督トーク付き映画上映会を行います。ぜひご来場ください（予約不要、先着順）。

★松井久子監督トーク：映画「レオニー」海外版上映会&新作予告編上映

日時：8月29日（金）18：30～21：00

会場：講堂（研修棟1階）

14. 送迎バス

期間中、国立女性教育会館本館前～東武東上線武蔵嵐山駅東口間で無料送迎バスをピストン運行しますのでご利用ください。

★運行間隔は、武蔵嵐山駅への電車の到着にあわせ、1時間3～4本程度です。

15. アンケート

今後の事業を企画する上での参考といたしますので、アンケートのご協力をお願いいたします。お帰りの際、ご記入いただいたアンケート用紙は、所定の箱にご提出ください。

16. その他

以下の点、あらかじめご了承ください。

①参加者同士の交流・情報交換の促進を目的とした場ですので、署名運動や行き過ぎた勧誘、募金等のご遠慮願います。

②期間中、職員が撮影した写真を事業記録や広報のために使用することがあります。

平成26年度「男女共同参画推進フォーラム」参加者概況

1. 参加区分別人数

(人)

一般参加者			WS・ポスター展示運営者			講師・会館運営者			合計		
	計	%		計	%		計	%		計	%
女性	746	85.9	女性	221	87.7	女性	40	88.9	女性	1,007	86.4
男性	122	14.1	男性	31	12.3	男性	5	11.1	男性	158	13.6
無回答	-	-	無回答	-	-	無回答	-	-	無回答	-	-
計	868	100.0	計	252	100.0	計	45	100.0	計	1,165	100.0

定員 1,000 名
充足率 116.5 %

平成25年度参加者 1,049名

【区分内訳】

一般参加者 事前申込者(宿泊)、当日申込者、協働連絡会メンバー、会館ボランティア
WS・ポスター展示運営者 募集ワークショップ及びポスター展示運営者
講師・会館関係者 企画委員、会館プログラム講師、来賓、実習生等

【一般参加者・区分別人数】 (人)

	宿泊	日帰り	合計
女性	141	605	746
男性	20	102	122
無回答	-	-	-
計	161	707	868

2. 参加日別(延べ人数)

(人)

	一般参加者				WS・ポスター展示運営者				講師・会館運営者				合計			
	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%
29日	312	71	383	34.5	91	9	100	27.3	29	1	30	36.6	432	81	513	32.9
30日	560	76	636	57.2	159	24	183	50.0	24	3	27	32.9	743	103	846	54.3
31日	78	14	92	8.3	79	4	83	22.7	23	2	25	30.5	180	20	200	12.8
計	950	161	1,111	100.0	329	37	366	100.0	76	6	82	100.0	1,355	204	1,559	100.0

3. 年代別

(人)

	一般参加者				WS・ポスター展示運営者				講師・会館運営者				合計			
	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%
10～19歳	1	1	2	0.2	1	-	1	0.4	6	3	9	20.0	8	4	12	1.0
20～29歳	42	12	54	6.2	4	1	5	2.0	5	-	5	11.1	51	13	64	5.5
30～39歳	49	18	67	7.7	8	2	10	4.0	2	-	2	4.4	59	20	79	6.8
40～49歳	83	27	110	12.7	21	2	23	9.1	1	-	1	2.2	105	29	134	11.5
50～59歳	144	24	168	19.4	35	5	40	15.9	5	1	6	13.3	184	30	214	18.4
60代以上	403	36	439	50.6	83	8	91	36.1	15	1	16	35.7	501	45	546	46.8
無回答	24	4	28	3.2	70	12	82	32.5	6	-	6	13.3	100	16	116	10.0
計	746	122	868	100.0	222	30	252	100.0	40	5	45	100.0	1,008	157	1,165	100.0

4. 職業形態別

(人)

	一般参加者				WS・ポスター展示運営者				講師・会館運営者				合計			
	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%
行政関係者	149	52	201	23.1	4	-	4	1.6	3	1	4	8.9	156	53	209	17.9
研究者・大学教員	16	2	18	2.1	14	3	17	6.7	2	-	2	4.4	32	5	37	3.2
小・中・高校教員	6	1	7	0.8	4	1	5	2.0	-	-	-	-	10	2	12	1.0
団体・グループ	354	28	382	44.1	98	13	111	44.1	13	1	14	31.2	465	42	507	43.7
施設関係者	44	9	53	6.1	23	-	23	9.1	1	-	1	2.2	68	9	77	6.6
会社員・企業関係者	25	4	29	3.3	21	5	26	10.3	2	-	2	4.4	48	9	57	4.9
議員	-	-	-	-	5	-	5	2.0	-	-	-	-	5	-	5	0.4
学生	16	4	20	2.3	7	1	8	3.2	5	-	5	11.1	28	5	33	2.8
その他	97	19	116	13.4	46	7	53	21.0	4	-	4	8.9	147	26	173	14.8
無回答	39	3	42	4.8	-	-	-	-	10	3	13	28.9	49	6	55	4.7
計	746	122	868	100.0	222	30	252	100.0	40	5	45	100.0	1,008	157	1,165	100.0

5. 都道府県別

(人)

	一般参加者				WS・ポスター展示運営者				講師・会館運営者				合計				地域別割合	
	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	計	%
北海道	28	3	31	3.6	-	-	-	-	2	-	2	4.4	30	3	33	2.8	北海道・東北	73 6.6
青森県	1	-	1	0.1	1	-	1	0.4	1	-	1	2.2	3	-	3	0.3		
岩手県	6	-	6	0.7	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	6	0.5		
宮城県	5	1	6	0.7	6	-	6	2.4	1	-	1	2.2	12	1	13	1.1		
秋田県	4	3	7	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	4	3	7	0.6		
山形県	2	-	2	0.2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	0.2		
福島県	7	2	9	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	7	2	9	0.8		
茨城県	40	6	46	5.3	1	-	1	0.4	-	-	-	-	41	6	47	4.0	関東	800 72.0
栃木県	72	9	81	9.3	-	-	-	-	-	-	-	-	72	9	81	7.0		
群馬県	49	2	51	5.9	1	-	1	0.4	-	-	-	-	50	2	52	4.5		
埼玉県	170	33	203	23.6	39	8	47	18.7	13	4	17	37.9	222	45	267	22.8		
千葉県	54	12	66	7.6	8	-	8	3.2	-	-	-	-	62	12	74	6.4		
東京都	133	25	158	18.4	79	12	91	35.9	8	1	9	20.0	220	38	258	22.1		
神奈川県	7	2	9	1.0	9	2	11	4.4	1	-	1	2.2	17	4	21	1.8		
山梨県	36	8	44	5.1	14	1	15	6.0	-	-	-	-	50	9	59	5.1	甲信越	110 9.9
新潟県	16	-	16	1.8	1	-	1	0.4	-	-	-	-	17	-	17	1.5		
長野県	32	2	34	3.9	-	-	-	-	-	-	-	-	32	2	34	2.9	北陸・東海	48 4.3
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
石川県	4	3	7	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	4	3	7	0.6		
福井県	3	1	4	0.5	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	4	0.3		
岐阜県	1	-	1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	0.1		
静岡県	10	4	14	1.6	4	-	4	1.6	-	-	-	-	13	4	17	1.5		
愛知県	11	-	11	1.3	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	11	0.9		
三重県	4	-	4	0.5	4	-	4	1.6	-	-	-	-	8	-	8	0.7	近畿	36 3.2
滋賀県	1	1	2	0.2	-	-	-	-	3	-	3	6.7	4	1	5	0.4		
京都府	2	-	2	0.2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	0.2		
大阪府	12	2	14	1.6	8	1	9	3.6	-	-	-	-	20	3	23	1.9		
兵庫県	3	-	3	0.3	2	1	3	1.2	-	-	-	-	5	1	6	0.5		
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
鳥取県	-	-	-	-	1	-	1	0.4	-	-	-	-	1	-	1	0.1	中国・四国	18 1.6
島根県	1	-	1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	0.1		
岡山県	1	2	3	0.3	-	-	-	-	3	-	3	6.7	4	2	6	0.5		
広島県	1	-	1	0.1	1	-	1	0.4	-	-	-	-	2	-	2	0.2		
山口県	4	-	4	0.5	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	4	0.3		
徳島県	1	-	1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	0.1		
香川県	1	-	1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	0.1		
愛媛県	1	-	1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	0.1	九州	27 2.4
高知県	1	-	1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	0.1		
福岡県	2	-	2	0.2	2	-	2	0.8	2	-	2	4.4	6	-	6	0.5		
佐賀県	2	-	2	0.2	4	1	5	2.0	-	-	-	-	6	1	7	0.6		
長崎県	-	-	-	-	3	-	3	1.2	-	-	-	-	3	-	3	0.3		
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
大分県	3	-	3	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3	0.3		
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	九州	27 2.4
鹿児島県	2	1	3	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	3	0.3		
沖縄県	3	2	5	0.6	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2	5	0.4		
不明・無回答	7	1	8	0.9	34	4	38	15.0	6	-	6	13.3	48	5	53	4.5	1,112	100.0
	743	125	868	100.0	222	30	252	100.0	40	5	45	100.0	1,005	160	1,165	100.0	* 不明・無回答除く	

平成26年度「男女共同参画推進フォーラム」

アンケート集計結果

参加者数:868名(講師、関係者を除く) アンケート回答数:239件 アンケート回答率:27.5%

1. 参加日に○をつけてください。(複数回答)

	女性	男性	不明	総計
8/29(金)	127	24	9	160
8/30(土)	136	21	11	168
8/31(日)	77	11	7	95

2. フォーラムについてうかがいます。あてはまるものに○をつけてください。

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
とてもよかった	106	56.4	15	45.5	8	44.4	129	54.0	56.6
よかった	69	36.7	14	42.4	4	22.2	87	36.4	38.2
少し物足りなかった	6	3.2	3	9.1	2	11.1	11	4.6	4.8
物足りなかった	1	0.5	—	—	—	—	1	0.4	0.4
無回答	6	3.2	1	3.0	4	22.2	11	4.6	
合 計	188	100.0	33	100.0	18	100.0	239	100.0	100.0

3. フォーラムへの感想・ご意見などご自由にお書きください。また、今後、フォーラムで取り上げてほしいテーマなどありましたら、ご記入ください。

(「2. フォーラムの評価別」の意見)

2. で「とてもよかった」と回答した人

- ・新しい出会いもあり、ワークショップ等充実していました。ありがとうございました。
- ・自分がまさに聞きたい、知りたい、会いたい人に出会えて、学べることができ、とても楽しく、3日間過ごすことができました。沢山の出会いができ、とても感謝しています。ありがとうございました。
- ・全国で取り組んでいる事例を知ることや、特別講演など、とても有意義な時間でした。
- ・各分野の女性リーダーの情熱あふれる話をたくさん聞くことができ、とても良かったです。

4. フォーラムの開催月についてうかがいます。どちらかに○をつけてください。

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
今のまま(8月開催)でよい	161	85.7	26	78.8	12	66.7	199	83.3	89.2
ほかの月がよい	13	6.9	7	21.2	4	22.2	24	10.0	10.8
無回答	14	7.4	—	—	2	11.1	16	6.7	
合 計	188	100.0	33	100.0	18	100.0	239	100.0	100.0

何月がよいですか。

※4. で「他の月がよい」を選択した方の総数を母数とする

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
4月	1	7.7	—	—	—	—	1	4.2	4.3
7月	—	—	1	14.3	1	25.0	2	8.3	8.7
9月	3	23.1	—	—	2	50.0	5	20.8	21.7
10月	4	30.7	3	42.8	1	25.0	8	33.3	34.9
11月	2	15.4	2	28.6	—	—	4	16.7	17.4
その他※	2	15.4	1	14.3	—	—	3	12.5	13.0
無回答	1	7.7	—	—	—	—	1	4.2	
合 計	13	100.0	7	100.0	4	100.0	24	100.0	100.0

*「その他」詳細

・ 10・11月

・ 9～10月

・ 5月・10月

5. 会館に宿泊した方にうかがいます。より多くの参加者の方に宿泊いただくために、フォーラムでは、一般参加者の方には相部屋での宿泊をお願いしております。あてはまるものに○をつけてください。

(※%は「無回答」を除いた割合)

複数に○は無回答とした

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
相部屋でもかまわなかった	41	21.8	7	21.2	4	22.2	52	21.8	59.8
相部屋はいやだった	20	10.6	1	3.0	2	11.1	23	9.6	26.4
どちらでもよかった	11	5.9	1	3.0	—	—	12	5.0	13.8
無回答	116	61.7	24	72.8	12	66.7	152	63.6	
合 計	188	100.0	33	100.0	18	100.0	239	100.0	100.0

6. 最後に、あなたご自身についてうかがいます。あてはまるものに○をつけてください。

◆ ①性別、②年齢

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
10代	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20代	16	8.5	4	12.1	—	—	20	8.4	8.5
30代	18	9.6	9	27.3	1	5.6	28	11.7	11.9
40代	23	12.2	9	27.3	2	11.1	34	14.2	14.5
50代	43	22.9	7	21.1	2	11.1	52	21.8	22.1
60代	56	29.7	2	6.1	4	22.2	62	25.9	26.4
70代	27	14.4	2	6.1	6	33.3	35	14.6	14.9
80代	3	1.6	—	—	1	5.6	4	1.7	1.7
無回答	2	1.1	—	—	2	11.1	4	1.7	
合 計	188	100.0	33	100.0	18	100.0	239	100.0	100.0

◆ ③地域

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
01北海道	10	5.3	1	3.1	—	—	11	4.6	5.2
02青森県	1	0.5	—	—	—	—	1	0.4	0.5
03岩手県	4	2.1	—	—	—	—	4	1.7	1.9
04宮城県	1	0.5	1	3.1	—	—	2	0.8	1.0
05秋田県	2	1.1	1	3.1	1	5.6	4	1.7	1.9
06山形県	1	0.5	—	—	—	—	1	0.4	0.5
07福島県	—	—	1	3.1	1	5.6	2	0.8	1.0
08茨城県	8	4.3	1	3.1	—	—	9	3.8	4.3
09栃木県	13	6.9	2	6.3	—	—	15	6.3	7.1
10群馬県	10	5.3	—	—	—	—	10	4.2	4.8
11埼玉県	17	9.0	5	15.6	4	22.0	26	11.1	12.0
12千葉県	12	6.4	5	15.6	1	5.6	18	7.5	8.6
13東京都	31	16.6	5	15.6	—	—	36	15.3	16.9
14神奈川県	3	1.6	2	6.3	—	—	5	2.1	2.4
15新潟県	5	2.7	—	—	—	—	5	2.1	2.4
17石川県	2	1.1	—	—	—	—	2	0.8	1.0
18福井県	2	1.1	—	—	—	—	2	0.8	1.0
19山梨県	9	4.8	3	9.4	1	5.6	13	5.4	6.2
22静岡県	6	3.2	2	6.3	—	—	8	3.3	3.8
23愛知県	6	3.2	—	—	1	5.6	7	2.9	3.3
24三重県	2	1.1	—	—	—	—	2	0.8	1.0
25滋賀県	1	0.5	—	—	—	—	1	0.4	0.5
26京都府	1	0.5	—	—	—	—	1	0.4	0.5
27大阪府	9	4.8	—	—	—	—	9	3.8	4.3
28兵庫県	3	1.6	—	—	—	—	3	1.3	1.4
31鳥取県	1	0.5	—	—	—	—	1	0.4	0.5
32島根県	1	0.5	—	—	—	—	1	0.4	0.5
33岡山県	1	0.5	1	3.1	—	—	2	0.8	1.0
35山口県	1	0.5	—	—	—	—	1	0.4	0.5
39高知県	1	0.5	—	—	—	—	1	0.4	0.5
40福岡県	2	1.1	—	—	—	—	2	0.8	1.0
42長崎県	2	1.1	—	—	—	—	2	0.8	1.0
44大分県	1	0.5	—	—	—	—	1	0.4	0.5
46鹿児島県	1	0.5	—	—	—	—	1	0.4	0.5
47沖縄県	—	—	—	—	—	—	1	0.4	0.5
無回答	18	9.6	2	6.3	9	50.0	29	12.1	
合 計	188	100.0	32	100.0	18	100.0	239	100.0	100.0

◆ ④所属

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
a行政関係者	33	17.5	16	44.4	1	5.6	50	20.9	21.8
b研究者・大学教員	6	3.2	1	2.8	1	5.6	8	3.3	3.5
c小・中・高校教員	1	0.5	1	2.8	—	—	2	0.8	0.9
d団体・グループ	90	47.8	5	13.9	7	38.8	102	42.7	44.6
e施設関係者(女性／男女共同参画)	21	11.2	4	11.1	3	16.7	28	11.7	12.2
f企業関係者	3	1.6	1	2.8	—	—	4	1.7	1.7
g学生	5	2.7	—	—	—	—	5	2.1	2.2
hその他※	21	11.2	5	13.9	4	22.2	30	12.6	13.1
無回答	8	4.3	3	8.3	2	11.1	10	4.2	
合 計	188	100.0	36	100.0	18	100.0	239	100.0	100.0

※「その他」詳細

- ・ 児童委員
- ・ 大学職員
- ・ あきたFF推進員
- ・ 委嘱
- ・ 社会福祉法人職員
- ・ 個人事業主
- ・ パート(郵便局員)
- ・ NWEC ボランティア
- ・ 会社員
- ・ 市男女共同参画推進委員
- ・ 元小・中・高教員
- ・ 元国会議員
- ・ NGO
- ・ 大学講師
- ・ 看護師
- ・ ボランティア
- ・ 元議員
- ・ 複数回答もその他とした(8件)

◆ ⑤フォーラムへの参加回数

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
初めて	96	51.0	21	63.5	3	16.7	120	50.4	53.0
2回	18	9.6	4	12.1	4	22.0	26	10.9	11.5
3回	16	8.5	1	3.0	1	5.6	18	7.5	8.0
4回	7	3.7	2	6.1	2	11.1	11	4.6	4.9
5回	12	6.4	1	3.0	—	—	13	5.4	5.8
6回	6	3.2	—	—	1	5.6	7	2.9	3.1
7回	3	1.6	2	6.1	1	5.6	6	2.5	2.7
8回	2	1.1	—	—	—	—	2	0.8	0.9
10回	12	6.4	1	3.0	2	11.1	15	6.3	6.6
11回	1	0.5	—	—	1	5.6	2	0.8	0.9
14回	1	0.5	—	—	—	—	1	0.4	0.4
15回	2	1.1	—	—	—	—	2	0.8	0.9
16回	2	1.1	—	—	1	5.6	3	1.3	1.3
無回答	10	5.3	1	3.0	2	11.1	13	5.4	
合 計	188	100.0	33	100.0	18	100.0	239	100.0	100.0

平成26年度「男女共同参画推進フォーラム」 ワークショップ運営者アンケート集計

2014年9月10日現在

ワークショップ実施 44 団体
アンケート提出 44 団体
回答率 100.0 %

1. 参加人数

	回答数	%
1～20名	12	27.3
21～40名	18	40.9
41～60名	9	20.5
61～80名	4	9.1
81～100名	1	2.3
101名以上	－	－
無回答	－	－
合計	44	100.0

2. ワークショップを実施してみていかがでしたか。

	回答数	%
とてもよかった	34	77.3
よかった	8	18.2
少し物足りなかった	2	4.5
物足りなかった	－	－
無回答	－	－
合計	44	100.0

3. 感想・ご意見など

- ・各地で活動している女性団体と知り合えた。よかった。今後の活動のためのヒントや人脈をたくさんもらった。
- ・多くの意見が出され、参加者ひとりひとりが自分の問題としてとらえて、次なる行動へとつながることが期待できる会となった。
- ・質問をたくさんいただけて、内容に興味を持っていただけて感激した。皆さん熱心で、こちらも学ばせていただけた。発表の場を与えていただきありがとうございました。

4. フォーラムワークショップ実施回数

	回答数	%
初めて	14	31.8
2回	6	13.6
3～5回	10	22.7
6回以上	10	22.7
無回答	4	9.1
合計	44	100.0

平成26年度「男女共同参画推進フォーラム」 ポスター展示運営者アンケート集計

2014年9月10日現在

ポスター展示実施 6 団体
アンケート提出 6 団体
回答率 100.0 %

1 ポスター展示をしてみて、いかがでしたか

	回答数	%
とてもよかった	3	50.0
よかった	2	33.3
少し物足りなかった	1	16.7
物足りなかった	－	－
無回答	－	－
合計	6	100.0

2 感想・意見

- ・「生協」ということで声をかけていただき、男女共同参画の取り組みも行っていることをアピールできてよかった。
- ・被災地の方々、またこれから防災・復興を考えていこうとされている団体・個人・行政の方々と直接情報を交換する機会ともなり、有意義だった。復興と男女共同参画の具体的な姿と必要性をご理解いただけたかと思う。今後ともこのような機会をとらえて、情報の受発信を通じて、男女共同参画視点からの復興を浸透させて参りたいと存じる。

3 ポスター展示実施回数

	回答数	%
初めて	3	50.0
2回	2	33.3
3～5回	－	－
6回以上	1	16.7
無回答	－	－
合計	6	100.0

平成26年度「男女共同参画推進フォーラム」

「女性リーダー会議」アンケート集計結果

参加者数:600名(講師、関係者を除く) アンケート回答数:252件 アンケート回答率:42.0%

1.「女性リーダー会議」についてうかがいます。あてはまるものに○をつけてください。

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
とてもよかった	130	61.9	23	60.6	2	50.0	155	61.4	64.6
よかった	59	28.1	11	28.9	2	50.0	72	28.6	30.0
少し物足りなかった	8	3.8	3	7.9	-	-	11	4.4	4.6
物足りなかった	2	1.0	-	-	-	-	2	0.8	0.8
無回答	11	5.2	1	2.6	-	-	12	4.8	
合 計	210	100.0	38	100.0	4	100.0	252	100.0	100.0

2.「女性リーダー会議」への感想・ご意見などご自由にお書きください。また、今後、「女性リーダー会議」で取り上げてほしいテーマなどありましたら、ご記入ください。

(「1.「女性リーダー会議の評価別」の意見)

1. で「とてもよかった」と回答した人

- ・ NPO、行政、企業、それぞれの分野のリーダーの生の声が聴けて、大変参考になりました。御三方のアドバイスをもとに、地域の課題解決に向けた足がかりとしたいと思います。
- ・ 3人3様の切り口で女性リーダーについて、わかりやすくお話を聞くことができました。3人が言われたキーワード、とても心に残りました。自分の取り組みに生かしていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・ NPO、企業、行政という多分野のリーダーが一堂に会し、それぞれの立場からの情報をいただけたことで、より根本的、本質的な重要ポイントが見えて来た気がします。

3. 最後に、あなたご自身についてうかがいます。あてはまるものに○をつけてください。

◆ ①性別、②年齢

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
10代	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20代	21	10.0	5	13.2	-	-	26	10.3	10.4
30代	21	10.0	8	21.1	-	-	29	11.5	11.6
40代	29	13.8	10	26.3	-	-	39	15.5	15.6
50代	34	16.2	6	15.8	-	-	40	15.9	16.0
60代	70	33.3	4	10.5	3	75.0	77	30.5	30.8
70代	32	15.2	4	10.5	-	-	36	14.3	14.4
80代	1	0.5	1	2.6	1	25.0	3	1.2	1.2
無回答	2	1.0	-	-	-	-	2	0.8	
合 計	210	100.0	38	100.0	4	100.0	252	100.0	100.0

◆ ③地域

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
01北海道	11	5.2	1	2.6	1	25.0	13	5.2	5.5
02青森県	3	1.4	—	—	—	—	3	1.2	1.3
03岩手県	4	1.9	—	—	—	—	4	1.6	1.7
04宮城県	1	0.5	—	—	—	—	1	0.4	0.4
05秋田県	4	1.9	2	5.3	—	—	6	2.4	2.6
06山形県	2	1.0	—	—	—	—	2	0.8	0.9
07福島県	4	1.9	1	2.6	—	—	5	2.0	2.1
08茨城県	—	—	1	2.6	—	—	1	0.4	0.4
09栃木県	15	7.1	5	13.2	—	—	20	7.9	8.5
10群馬県	14	6.7	—	—	—	—	14	5.6	6.0
11埼玉県	20	9.4	2	5.3	—	—	22	8.7	9.4
12千葉県	20	9.4	9	23.8	—	—	29	11.5	12.1
13東京都	27	12.7	7	18.4	1	25.0	35	13.7	14.7
14神奈川県	2	1.0	—	—	—	—	2	0.8	0.9
15新潟県	2	1.0	—	—	—	—	2	0.8	0.9
17石川県	3	1.4	—	—	—	—	3	1.2	1.3
18福井県	1	0.5	—	—	—	—	1	0.4	0.4
19山梨県	19	9.0	3	7.9	—	—	22	8.7	9.4
20長野県	3	1.4	—	—	—	—	3	1.2	1.3
22静岡県	6	2.9	1	2.6	—	—	7	2.8	3.0
23愛知県	3	1.4	—	—	—	—	3	1.2	1.3
24三重県	3	1.4	—	—	—	—	3	1.2	1.3
25滋賀県	1	0.5	—	—	—	—	1	0.4	0.4
26京都府	1	0.5	—	—	—	—	1	0.4	0.4
27大阪府	8	3.8	1	2.6	1	25.0	10	4.0	4.3
28兵庫県	3	1.4	—	—	—	—	3	1.2	1.3
31鳥取県	1	0.5	—	—	—	—	1	0.4	0.4
32島根県	1	0.5	—	—	—	—	1	0.4	0.4
33岡山県	1	0.5	1	2.6	—	—	2	0.8	0.9
34広島県	1	0.5	—	—	—	—	1	0.4	0.4
35山口県	2	1.0	—	—	—	—	2	0.8	0.9
36徳島県	1	0.5	—	—	—	—	1	0.4	0.4
39高知県	1	0.5	—	—	—	—	1	0.4	0.4
40福岡県	1	0.5	—	—	—	—	1	0.4	0.4
42長崎県	2	1.0	—	—	—	—	2	0.8	0.9
44大分県	2	1.0	—	—	—	—	2	0.8	0.9
46鹿児島県	1	0.5	1	2.6	—	—	2	0.8	0.9
47沖縄県	2	1.0	1	2.6	—	—	3	1.2	1.3
無回答	14	6.7	2	5.3	1	25.0	17	6.7	
合 計	210	100.0	38	100.0	4	100.0	252	100.0	100.0

◆ ④所属

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
a行政関係者	45	21.4	19	50.0	—	—	64	25.4	26.8
b研究者・大学教員	5	2.4	2	5.3	—	—	7	2.8	2.9
c小・中・高校教員	1	0.5	—	—	—	—	1	0.4	0.4
d団体・グループ	81	38.5	3	7.9	1	25.0	85	33.6	35.6
e施設関係者(女性／男女共同参画)	31	14.8	7	18.4	1	25.0	39	15.5	16.3
f企業関係者	3	1.4	1	2.6	—	—	4	1.6	1.7
g学生	6	2.9	1	2.6	—	—	7	2.8	2.9
hその他※	28	13.3	2	5.3	2	50.0	32	12.7	13.4
無回答	10	4.8	3	7.9	—	—	13	5.2	
合 計	210	100.0	38	100.0	4	100.0	252	100.0	100.0

※「その他」詳細

- ・あきたFF推進員
- ・NPOウィメンズウィルぐんま
- ・主婦
- ・保育士
- ・企画委員
- ・秋田県F・F推進員、市男女共同参画審議委員
- ・ボランティア参加
- ・委嘱
- ・社会福祉法人職員
- ・民生委員、児童委員
- ・児童委員
- ・議員
- ・個人事業主
- ・NPO、幼稚園
- ・男女共同参画推進員
- ・主婦、保育士
- ・介護職
- ・複数回答もその他とした(12件)

◆ ⑤フォーラムへの参加回数

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
初めて	109	51.8	31	81.6	2	50.0	142	56.2	59.1
2回	22	10.5	2	5.3	—	—	24	9.5	10.0
3回	24	11.4	2	5.3	—	—	26	10.3	10.8
4回	10	4.8	—	—	—	—	10	4.0	4.2
5回	9	4.3	1	2.6	—	—	10	4.0	4.2
6回	4	1.9	—	—	—	—	4	1.6	1.7
7回	3	1.4	1	2.6	—	—	4	1.6	1.7
8回	3	1.4	—	—	1	25.0	4	1.6	1.7
10回	13	6.2	—	—	—	—	13	5.2	5.4
15回	1	0.5	—	—	—	—	1	0.4	0.4
16回	2	1.0	—	—	—	—	2	0.8	0.8
無回答	10	4.8	1	2.6	1	25.0	12	4.8	
合 計	210	100.0	38	100.0	4	100.0	252	100.0	100.0

平成26年度「男女共同参画推進フォーラム」

「特別講演」アンケート集計結果

参加者数:600名(講師、関係者を除く) アンケート回答数:401件 アンケート回答率:66.8%

1.「特別講演」についてうかがいます。あてはまるものに○をつけてください。

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
とてもよかった	272	79.1	27	64.2	10	66.7	309	77.1	78.8
よかった	58	16.9	13	31.0	2	13.3	73	18.2	18.6
少し物足りなかった	8	2.3	1	2.4	1	6.7	10	2.5	2.6
物足りなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	6	1.7	1	2.4	2	13.3	9	2.2	
合 計	344	100.0	42	100.0	15	100.0	401	100.0	100.0

2.「特別講演」への感想・ご意見などご自由にお書きください。また、今後、フォーラムの講演で取り上げてほしいテーマなどありましたら、ご記入ください。

(「1.「特別講演の評価別」の意見)

1. で「とてもよかった」と回答した人

- ・ とても興味深い話で、勉強になりました。
- ・ 日本の現状のお話はとてもわかり易かった。おまけのご自身の辛い経験もユーモアをまじえ話され、人柄に魅せられた。働く女性へのアドバイスも的を得ていて、心に響く内容だった。全体的にすばらしいご講演だった。
- ・ 村木さんのご自分の体験を通して話されて、大変参考になり、よかったと思いました。
- ・ 女性の活躍に対する、今の社会状況や問題点、課題についてよく理解できた。女性として職業人として、これから生きていく上で、大変力強いエールをもらい、ありがとうございました。

3. 最後に、あなたご自身についてうかがいます。あてはまるものに○をつけてください。

◆ ①性別、②年齢

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
10代	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20代	15	4.4	2	4.8	—	—	17	4.2	4.3
30代	22	6.4	7	16.7	—	—	29	7.2	7.4
40代	39	11.3	11	26.2	1	6.7	51	12.7	12.9
50代	76	22.1	8	19.0	1	6.7	85	21.2	21.6
60代	123	35.7	6	14.3	6	39.9	135	33.8	34.2
70代	59	17.2	8	19.0	3	20.0	70	17.5	17.8
80代	6	1.7	—	—	1	6.7	7	1.7	1.8
無回答	4	1.2	—	—	3	20.0	7	1.7	
合 計	344	100.0	42	100.0	15	100.0	401	100.0	100.0

◆ ③地域

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
01北海道	11	3.2	1	2.4	—	—	12	3.0	3.3
03岩手県	3	0.9	—	—	—	—	3	0.7	0.8
04宮城県	1	0.3	—	—	—	—	1	0.2	0.3
05秋田県	3	0.9	2	4.8	—	—	5	1.2	1.4
06山形県	2	0.6	—	—	—	—	2	0.5	0.6
07福島県	5	1.5	1	2.4	—	—	6	1.5	1.7
08茨城県	17	4.9	3	7.1	—	—	20	5.0	5.5
09栃木県	34	9.9	1	2.4	2	13.3	37	9.2	10.2
10群馬県	17	4.9	1	2.4	2	13.3	20	5.0	5.5
11埼玉県	68	19.6	12	28.3	1	6.7	81	20.6	22.1
12千葉県	16	4.7	2	4.8	—	—	18	4.5	5.0
13東京都	50	14.5	9	21.4	1	6.7	60	15.3	16.4
14神奈川県	4	1.2	2	4.8	—	—	6	1.5	1.7
15新潟県	7	2.0	1	2.4	—	—	8	2.0	2.2
17石川県	3	0.9	—	—	—	—	3	0.7	0.8
18福井県	1	0.3	1	2.4	—	—	2	0.5	0.6
19山梨県	9	2.6	2	4.8	—	—	11	2.7	3.0
20長野県	11	3.2	—	—	—	—	11	2.7	3.0
21岐阜県	1	0.3	—	—	—	—	1	0.2	0.3
22静岡県	6	1.7	1	2.4	—	—	7	1.7	1.9
23愛知県	7	2.0	—	—	—	—	7	1.7	1.9
24三重県	6	1.7	—	—	—	—	6	1.5	1.7
25滋賀県	2	0.6	—	—	—	—	2	0.5	0.6
26京都府	1	0.3	—	—	—	—	1	0.2	0.3
27大阪府	11	3.2	1	2.4	1	6.7	13	3.2	3.6
28兵庫県	3	0.9	—	—	—	—	3	0.7	0.8
31鳥取県	1	0.3	—	—	—	—	1	0.2	0.3
33岡山県	1	0.3	1	2.4	—	—	2	0.5	0.6
34広島県	1	0.3	—	—	—	—	1	0.2	0.3
35山口県	2	0.6	—	—	—	—	2	0.5	0.6
36徳島県	1	0.3	—	—	—	—	1	0.2	0.3
39高知県	1	0.3	—	—	—	—	1	0.2	0.3
40福岡県	2	0.6	—	—	—	—	2	0.5	0.6
44大分県	2	0.6	—	—	—	—	2	0.5	0.6
46鹿児島県	2	0.6	—	—	—	—	2	0.5	0.6
47沖縄県	1	0.3	1	2.4	—	—	2	0.5	0.6
無回答	31	9.0	—	—	8	53.3	39	9.7	
合 計	344	100.0	42	100.0	15	100.0	401	100.0	100.0

◆ ④所属

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
a行政関係者	54	15.7	15	35.7	1	6.7	70	17.5	18.4
b研究者・大学教員	9	2.6	—	—	—	—	9	2.2	2.4
c小・中・高校教員	2	0.6	2	4.8	—	—	4	1.0	1.0
d団体・グループ	171	49.6	7	16.7	5	33.3	183	45.6	48.1
e施設関係者(女性／男女共同参画)	35	10.2	4	9.5	1	6.7	40	10.0	10.5
f企業関係者	7	2.0	3	7.1	—	—	10	2.5	2.6
g学生	4	1.2	1	2.4	—	—	5	1.2	1.3
hその他※	48	14.0	9	21.4	3	20.0	60	15.0	15.7
無回答	14	4.1	1	2.4	5	33.3	20	5.0	
合 計	344	100.0	42	100.0	15	100.0	401	100.0	100.0

※「その他」詳細

- ・ 主婦(4件)
- ・ ボランティア(2件)
- ・ 会社員(2件)
- ・ NGO
- ・ NPO
- ・ NPO四日市男女共同参画センター
- ・ NPO法人エセナおおた
- ・ あきたFF推進員
- ・ いきがいの大学
- ・ 自営業
- ・ 社会福祉法人
- ・ NWEBCボランティア
- ・ 委嘱
- ・ 学校法人職員
- ・ 企業
- ・ 議会議員
- ・ 元市役所職員
- ・ 個人事業主
- ・ 市のボランティア(地方行政委員)
- ・ 児童委員
- ・ 女性団体代表
- ・ 政策アドバイザー
- ・ 大学職員
- ・ 男女共同参画審議会
- ・ 男女共同参画推進委員
- ・ 男女共同参画推進委員(市)
- ・ 特別公務員
- ・ 無職
- ・ 複数回答もその他とした(9件)

◆ ⑤フォーラムへの参加回数

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
初めて	157	45.5	28	66.6	5	33.3	190	47.5	51.2
2回	42	12.2	4	9.5	2	13.3	48	12.0	12.9
3回	43	12.5	2	4.8	3	20.0	48	12.0	12.9
4回	14	4.1	4	9.5	—	—	18	4.5	4.8
5回	20	5.8	1	2.4	1	6.7	22	5.5	5.9
6回	8	2.3	1	2.4	—	—	9	2.2	2.4
7回	5	1.5	—	—	—	—	5	1.2	1.3
8回	4	1.2	—	—	—	—	4	1.0	1.1
10回	24	7.0	1	2.4	—	—	25	6.2	6.7
13回	1	0.3	1	2.4	—	—	2	0.5	0.5
16回	1	0.3	—	—	—	—	1	0.2	0.3
無回答	25	7.3	—	—	4	26.7	29	7.2	
合 計	344	100.0	42	100.0	15	100.0	401	100.0	100.0

平成26年度「男女共同参画推進フォーラム」ワークショップ・ポスター展示 フォローアップアンケート集計結果

参加ワークショップ数： 50

アンケート回答数： 50

アンケート回収率： 100.0 %

(参考：25年度回収率 79.2%)

1 フォーラムで実施したことは、その後の業務・活動に役立っていますか。

(※%は「無回答」を除く)

	件数	%	※%
a. 非常に役立った	25	50.0	52.1
b. 役立った	22	44.0	45.8
c. あまり役立たなかった	1	2.0	2.1
d. 役立たなかった	-	-	-
無回答	2	4.0	
合 計	50	100.0	100.0

2 ワークショップを実施したことによって得た成果をどのように活用・普及しましたか。

(複数回答可)

	件数 (50件中)	%
ホームページや広報資料への ワークショップ実施報告の執筆・公表	19	38.0
つながりのできた組織・団体や個人との連絡・情報交換	34	68.0
勉強会・研修会の開催	18	36.0
講師や報告者として他機関・団体の事業協力	19	38.0
その他	18	36.0

団体NO. 【その他(具体的に)】

- W3 映画「レッドマリア」の自主上映と「はたらく」を考える対話ワークショップは、その後、全国に広がりました。秋田、山形、沖縄、和歌山、大阪、兵庫、名古屋など、各地へ広がり、対話する機会がつけられました。
- W7 男女共同参画担当の職員が男女共同参画についての知識を殆どもっていないことが多く、市民は大変苦勞をしている。男女共同参画を進める国の施設として、男女共同参画に関わる行政職員の研修をしっかりとってほしい。
- W8 東日本大震災以降、全国の男女共同参画センターがどのような動きをし、それが現在どのようにつながっているかなど、当協議会の活動内容を多くの方に知っていただく機会となった。また、女性会館協議会会員館の「大規模災害時における相互支援システムの構築」に向け、役立っている。
- W10 ワークショップで行政とNPOそして地域(特に自治会)と連携した私たちNPOの活動報告が、その場で全国からの参加者や研究者に認められ賞賛されたことが、以後の活動のバネになりエネルギーになり、私たちの活動が加速しました。
- W11 大阪・堺市男女共同参画推進課で講演会をH27.1.19に行い、その時にフォーラムのことを発表しています。
- W12 今回の参加によって、私たちのプログラムが全国の方に受け入れてもらえることがわかり、その後の活動への自信になった。参加者の皆さんのアンケートの言葉は、私たちの活動の励みにもなりとてもありがたいものだった。自分たち同様に、防災について考えている人や自治体が多いこともわかり、被災地に住む私たちの経験がお役に立てたのであればいいなと感じた。
- W14 色々のハブニングがありましたが、この経験が次回に生きると 생각합니다。
(1)多くの方が参加してくれたので、資料が足りなくなったり、席が不足した。
(2)ワークショップ進行の仕方や、参加者とのコミュニケーションのとり方に反省点がある。
- W15 大学教育に活かす・・・ベアテさんの映画上映会をしたのですが、ベアテさんについての知識が深まり、昨年から教えている学生たちにも啓発的な講義ができました。
- W16 本ワークショップ「安全・安心と男女共同参画～『北京+20』に向けて」で話し合われた内容(女性の意思決定への参加、女児の安全・安心、雇用の安全・安心、災害リスク軽減と男女共同参画)をもとに、JAWWとして「北京+20」を機に日本における北京行動綱領実施の状況に関する報告書を作成した。この報告書は、「北京+20」のためのアジア太平洋地域政府間会合(2014年11月)でロビー活動に活用したほか、「北京+20」のレビューが行われる第59回国連婦人の地位委員会(CSW59、2015年3月)においても、各国NGOとの話し合いや政府間会議へのロビー活動に利用する予定である。さらに、2105年3月2日に城西国際大学で開催するJAWW「CSW59勉強会」の資料としても活用する。
- W17 スエックでつながった個人や団体・機関とは連携しています。

- W20 ワークショップでは、弊学(佐賀大学)学生が、学内のカップルを対象に実施したインタビューの結果にもとづき、現在の若者世代における恋愛観・結婚観のあり方について報告した。当日のワークショップでは多くの来場者に恵まれ、参加者各自の見解や、他地域の大学の状況について、さまざまなご教示ご示唆をたまわった。このとき報告した2名の女子学生のうち、2年生の学生は引きつづき継続してジェンダーの問題に関心をもって勉学を行なっているし、4年生の学生は、このたびワークショップでの報告内容を発展させて「専業主婦というリスク——佐大生カップル・インタビューにもとづいて」という卒業論文(卒論)をまとめた。
- W22 女性の地位向上や活動に直接活用できる女性差別撤廃条約だが、タイムリーな活動はとくに東京を中心に行われがちである。年に一度のこのフォーラムで、全国各地の活動家たちと膝を交えて情報を交換できる唯一の機会と我々は捉えて参加を続けている。条約の普及やタイムリーな情報提供だけでなく、各地の課題を知り得る機会としてフォーラムを考えてもいる。
- W23 学会誌(フェミニストカウンセリング学会)に論文として掲載予定(3月末)
- W24 当法人が実施しているアンケート調査への協力を呼びかけ、回答を得た。集計・分析中である。
- W26 参加者アンケート集計を添付いたします。
- W27 所属団体の会員約300名に報告書を作成配布。全国組織なので広く知らせることができた。
- W28 参加者とのワークショップや交流を通じ、全国の状況を知ることができ、今後の事業のヒントを得ることができた。担当メンバー各々が、退職後の男性が家庭の外で生きがいと居場所を見つけ活き活き過ごすためには、男女共同参画の意識が必要であることについて更に理解を深め、地域活動の場に反映するようになった。
- W29 今後の活動への励みになりました。
- W31 ワークショップの成果を3月15日開催の第3回国連防災世界会議「女性と防災」テーマ館主催シンポジウム「あるってだいじ〜災害時の男女共同参画センターの役割とは〜」につなげることができた。
- W32 ワークショップの前に数回勉強会を行い、学習することで問題点を共有できました。いろんな地域の違う立場の方のお話が聞けて、参考になりました。
- W33 定期講習会に反映させ、さらに内容の充実を図ることができた。
- W35 男女共同参画推進フォーラムのワークショップを実施したのは当会として初めてだったが、大変良い経験となった。また次回も応募したいという意欲が沸き、会の活動も活性化した。成果を普及させることにより、賛同団体の拡大にもつながった。
- W41 会館でのワークショップをもっと地域で活動の輪を広げていこうとWITH YOU さいたま フェスティバル(第13回)2015(平成27年)2月7日・8日のワークショップに初参加した。有意義だった。女性の社会活動キャリアの視点からビアトリクス・ボターの生き方を学ぶというテーマをもっともっと広げていきたい。
- W42 上記2番目[つながりのできた組織・団体や個人との連絡・情報交換]に該当する内容もありますが、概要をまとめて記入します。(1)8/30(土)10~12時のWS『個人の成長と企業価値向上を結びつけるダイバーシティの本質と魅力 ~ダイバーシティ先進企業の事例から学ぶ~』閉会後に、参加者(地方の男女共同参画センターや女性センター、中小企業の方々20名弱)と小一時間議論しました。地方ではダイバーシティに関する情報が得られにくく、まとまって学ぶ機会も持てずにいることが分かりました。以下の希望者からリクエストを頂き、(2)~(4)の対応をしました。(2)WSで使用したパワーポイント資料を印刷して郵送しました。(3)NWEC主催企業向けのダイバーシティ推進セミナー等から得られた企業での取組事例、知見などをメールにてご提供しました。鹿児島市の方は2月に成果を発表されたそうです。(4)お茶大の井上先生からはお招き頂いて、改めてWS内容をプレゼンして、女子大生のキャリア構築や企業人(女性)に対するエンパワーメントなどに関する情報交換を行いました。
- P2 これまで長年にわたって展示をさせていただいている関係で、全国各地のいくつかの自治体や団体から申込みをいただき、パネルの貸し出しをしています。また、自治体から各種のパネルセットを購入いただくようにもなっています。
- P5 実施報告は以下のHPに掲載しました。
「日本生協連 男女共同参画HP」
http://jccu.coop/gender/01info/info_2014_0910_02.html
(2014年9月12日揭示)

3 今後、会館で実施する交流事業に望むことなどを、自由にお書きください。

- 団体NO.
- W1 男女共同参画推進フォーラムの募集ワークショップには、NWECフォーラム時代の2009年から6年連続で参加させていただいております。毎年違ったテーマで「男女共同参画落語を含む講演」を提供し、延べ432人の皆さんに来場していただく一方、当会会員も他のワークショップに多く参加し、交流の輪が広がりました。その結果、2012年以降は全国の行政担当者、推進団体からの講演依頼が年20回を超えるようになり、昨年、通算の講演回数が100回に到達しました。募集ワークショップには、このように大きな効果があります。近年、30件、4コマに減少した募集数、実施時間帯を、かつての50件、6コマに回復し、さらなる拡充をお願いします。
- W2 ワークショップ実施報告をHPに公開しています。
http://www.playback-az.com/casestudy/2014/20140830_ranzan.html
- W3 エリートの女性の活躍推進だけではなく、育児、介護、家事などの無償労働も含めて、考えることのできる企画がほしいです。
- W4 講座企画塾 <http://ptokey.net/>
- W5 エリートの女性の活躍推進だけではなく、育児、介護、家事などの無償労働も含めて、考えることのできる企画がほしいです。
- W6 来年度が第3次男女共同参画基本計画の最終年度にあたりますので、この5年間を振り返る事業を計画してくださると嬉しいです。
- W8 ワークショップの数を増やし、このフォーラム自体がもっと盛り上がるように工夫してほしい。また、ワークショップ開催者の幅・分や広げること、また、男女共同参画に以前から取り組んできた老舗的な方々(ジェンダーの主流化に取り組んでいる方)にも、再度、参加を呼び掛けても良いのではないかと。
- W9 次年度も同様の発表機会がございましたら是非とも活用させていただきたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。
- W10 ・意思決定の場への女性の参画 ポジティブアクションの研究、世界の状況
・日本で今可能なポジティブアクション
・女性の貧困への政策提言

- W11 出来れば、グループ1名だけでよいので交通費を出して頂ければありがたい。無理であれば資料代を1グループ均一でもありがたいです。
- W12 今回初めて参加させていただきました。館内の掲示物等からさまざまな取り組みをされていることがわかり、「もっと近ければ・・・」と残念に思いました。ボランティアの方たちの温かいおもてなしも嬉しかったです。また機会があれば、是非参加したいと思います。同じ思いを持った人たちが集まるというのは、とても居心地のいいものでした。
- W13 参加者が年々少なくなっているのが残念です。若い人たちが企画したり参加したくなる事業をお願いします。
- W14 今回は、視聴覚室を使用するというので、大きなスクリーンに大きな画像を映して、ワークショップを進める計画で、事前にプロジェクターを手配していましたが、視聴覚室の担当の方だと思いましたが、「部屋に2面設置してある液晶画面に映像を流せば良い」、と考えられたようで、スクリーンもプロジェクターも借りられませんでした。液晶テレビの画面では、表示する映像も文字も小さくなってしまって、会場の奥の方には、良く見えなかったと思います。事前の打ち合わせも必要だったと思います。
- W15 女性と政治についてのセミナーや地方議会・国会に関する具体的な意見交換会(議員の仕事とは・女性議員が増えない理由・女性候補者の応援・・・)などワークショップ形式で行いたい。クオータとパリティについての勉強会も必要だと思う。
- W16 「NWEFフォーラム」は、日本各地の女性たちが一堂に会して交流できる貴重な機会です。今後もNWEFフォーラムの開催を続け、場所や活動内容もことなる団体やネットワークが互いの活動を知り、新たな視点をえるための場を設けていただきたいと思います。また、草の根の女性たちが参加しやすいよう配慮をお願いします。
- W17 起業やCSR、ワークライフバランスなどに事業内容が傾いているように感じます。ジェンダー平等教育など、以前に取り組んでおられたような教職員対象の講座など復活してほしいです。日本は国連からも勧告を受けており、ジェンダー平等を実現するために、又エックがリードしていくような取組を期待しています。以前、フォーラムでの報告書等の販売は研修棟の方で実施されていました。宿泊棟の方では人の配置ができませんので、以前のやり方に戻してほしいです。
- W20 すでに行なわれているかもしれませんが、全国各地の(男女共同参画やジェンダー／セクシュアリティの問題に関心をもち、あるいは当事者支援など各種の活動に取り組む)大学生どうしの交流機会などを企画していただけると、たいへん嬉しく存じます。
- W22 全国各地の方々との情報交換の場として、このフォーラムを今後も続けていただきたい。H27年は「女性が参政権を得て70年」「北京世界女性会議から20年」「女性差別撤廃条約批准から30年」という記念すべき年である。特に、日本女性が5000人以上も参加し、帰国した彼女たちの活躍によって日本女性の権利が大きく前進した北京女性会議から20年目を迎えた節目の年である。北京会議で獲得した「エンパワメント」というキーワードを若い世代に多様な内容でバトンタッチするような企画を検討していただきたい。
- W23 中年期以降の女性の経済的自立に関する事業をお願いします。
- W24 NWEFのフォーラムは、全国の仲間たちとつながり、情報収集や交流ができる絶好の機会だと思っています。これからも永く続けてくださるよう、お願いいたします。
- W25 又エックフォーラムではいつもお世話になっております。望むこととしては、ジェンダーをめぐる課題、テーマは広範囲にわたることから、又エックフォーラムでワークショップを応募する際には「その他」を設けていただきたいと思います。
- W26 農業女子のための大掛かりなマルシェ(農水省、経産省との協働事業)都内からシャトルバスを出すなどの足の確保もする。
- W27 フォーラムの日程をもう少し早く知らせていただくと助かります。
- W28 男女共同参画推進のための学習の機会として、今後も継続実施して下さいますようお願いいたします。ただ、同時時間帯に参加したいWSが重なって出られなかったものが多くありました。欲を言えば、同時時間帯の枠を増やして頂けると、より多くのWSに参加でき、更に学習が深まるとともに、全国の男女センターや団体と交流できるようになると思います。
- W30 自由な市民活動をサポートする体制が組まれることを望みます。ワークショップの枠が少なかったように思います。映画祭なども併せて開催するといったのではないのでしょうか。
- W32 村木厚子さんの特別講演が良かったです。
- W33 ワークショップの数を増やして頂ければと思います。
- W34 「女性の活用」と盛んに言われていますが、仕事の場に引き出すだけでなく、これまでの男女共同参画推進の中で獲得してきたことをきちんと定着、発展させるような事業も大切にしていけることが必要だと思います。そのような視点で、男女共同参画の推進に向けた事業をさらに推進していただきたいと思います。
- W35 クオータ制に関する講座、ジェンダー視点をもった女性の人材発掘と育成により、女性候補者選別に資する活動。女性有権者の政治意識の向上、投票行動を促す意識改革等の啓発活動。
- W36 各地の男女共同参画の推進状況や日常の取組や、研究成果などをネットでアナウンスしていただけるようになるとういのですが、いかがでしょうか？
- W37 初めて参加させていただきました。発表の機会を与えてくださったことに感謝申し上げます。素晴らしいイベント、参加されている方は毎年楽しみにして来ているとのこと。私は、たまたま開催の情報を得ましたが、まだまだ広報が地方の方に伝わってこないのが現状だと思います。どうぞよろしくお願いいたします。
- W38 ・時間を作って参加したが、受講者も少なく、あまり効果が無かった。受講者を増やすためには自分たちで宣伝するしかない、行ってみてはじめてわかりました。・IT講座は中高年の女性には、意識の高い人であっても全く人気がないということをあらためて感じました。情報も見つけられず、時代に取り残されていくと思います。・男女共同参画に関心のある色々な団体と交流できることも期待していましたが、懇親会も知り合い同士の同窓会のような雰囲気、新参加者は入っていきませんでした。何か工夫がほしかったです。・今後の参加予定はありません。特に要望はありません。
- W40 男女共同参画に関する活動を行っている大学生等の若者が学び合ったり交流する事業をしてほしい。
- W43 交流学習会議が以前ありましたが、そのような事業色をまた実施していただきたいと思います。
- P1 最近、女性の活躍が大きく取り上げられていますが、DVに苦しむ女性、産休すら取れない女性など、女性を取り囲む状況は依然厳しいです。そのことにも目を向けて頂きたいと思います。
- P2 この夏のイベントは全国各地の方々が集まり、情報交換できる場として定着しているので、今後も続けていただきたい。

- P3 参加者の集客動員数を増やしていただきたいです。毎回同じ団体が多いので、発展していく感じがしていません。年代も、様々な年代の方々と知り合いたいので、様々な年代の方々に告知などの周知を願います。
<http://www.bb-dance.com/baby/circle.html#workshop>
- P4 大学からのポスター展示は本学のみであった。また大学における男女共同参画推進に関わるフォーラム参加者は非常に少数であり、大学間の情報収集や情報提供としては大きな成果は得られなかった。しかし、大学以外の男女共同参画に関わる諸団体からの参加者とポスター展示を介して交流することができた。大学の特徴と、すべての分野に共通する問題の双方を理解するうえで有意義であった。大学とその構成員（学生、大学院生、研究員、教員、職員など）の男女共同参画やワークライフバランスは社会全体の変化と相互作用しながら進展していくと考えている。様々な分野で、様々な取り組みを行っている参加者との交流により、新しい知恵や元気をいただきました。
- P5 企業・組織とNPO（女性団体）等との全国規模のマッチングをしていただけるとありがたいです。

平成26年度「女子大学生キャリア形成セミナー」実施要項

1. 趣 旨

我が国の女性を取り巻く状況は、かつてよりはるかに改善されていますが、男女平等は未だに実現されていません。働く女性及び担当者レベルでの女性リーダーは増えてきましたが、組織における意思決定に関わる女性の割合は極めて低いままです。しかし、我が国が男女共同参画社会を実現するためには、女性が職業活動に参加するだけでなく、様々な組織において管理的地位に就き、その意思決定に関わるなど、組織活動へ参画することが必要です。

そこで国立女性教育会館では、自らのキャリアを模索する女子大学生を対象に、

①仕事をもち、自らの人生の選択権をもつことが豊かな人生設計に重要であること
(自主自立)

②女性の人生設計に関わる様々な出来事をあらかじめ知っておくこと
(ライフ・プランニング)

③キャリアの構築が単に個人の自己実現にとどまらず、よりよい社会づくりにつながるという視点を持つこと
(社会を変える・支える志)

の3つを学ぶ機会を提供することで、将来、社会や組織を支える女性リーダーを育成し、我が国の男女共同参画の推進を図ります。

2. 主 題

「キャリアを考えることは、人生を考えること」

3. 主 催

独立行政法人国立女性教育会館

4. 共 催

リーダーシップ111

★リーダーシップ111（ワンワンワン）は、各分野を代表する女性たちが、よりよい社会の実現を目指して、助け合い、学び合い、情報交換をするネットワークとして、1994年に設立されました。グローバル社会に向けて提言を発信し、自らも実践することをモットーとしています。

5. 会 場

国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728

電 話 0493-62-6724・6725

FAX 0493-62-6720

6. 期 日

平成27年2月21日（土）～2月22日（日） 1泊2日

7. 対象・定員

女子大学生 30名

8. 日 程（各プログラムの間に15分程度の休憩があります）

2/21 (土)	13:00 13:45 14:00 15:00 17:15 18:30 19:30 21:00									
			受付	開 会	講義	パネルディス カッション	グループ ワーク①	夕食 休憩	交流会	
2/22 (日)	9:00	10:00	12:00 13:00		15:00 15:20 16:00			17:00		
		情報 提供	グループワーク ②	昼 食	グループワーク ③	閉 会		懇親会 *希望者のみ		

- ・当事業は、「第3次男女共同参画基本計画」における「第1分野 男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実」に位置付けられている事業です。

9. 内 容

第1日 2月21日(土)

(1) 受付 13:00～13:30

本館ロビーにて受付後、研修棟へ移動をお願いします。

(2) 開会 13:45～14:00

主催者挨拶：内海 房子 国立女性教育会館理事長

趣旨説明：千装 将志 国立女性教育会館事業課専門職員

(3) 講義「働く女性を取り巻く環境～国際データ比較を通して～」

14:00～14:45

統計データを用いた国際比較を通じて、女性の活躍と男女共同参画の推進をわかりやすく解説します。

講師：中野 洋恵 国立女性教育会館研究国際室長

(4) パネルディスカッション「先輩の声を聞く」 15:00～17:00

十分に人生経験を積んだパネリストの話から、企業等で働く女性の現状や課題、女性の人生設計に関わるさまざまな出来事などについて知ることにより、キャリアの構築が社会の変革につながるという視点をもつ機会とします。

パネリスト：平野 こずえ EMGマーケティング合同会社

人事総務統括部総務部アドバイザー

パネリスト：横手 仁美

スマートインサイト株式会社

グローバルアドミニストレーショングループ

ゼネラルマネージャー

パネリスト：島 直子

国立女性教育会館研究国際室研究員

コーディネーター：猪俣 由美子

エンパワーマネジメント研究所代表

兼 人材育成コンサルタント

(5) グループワーク①

17:15～18:15

パネルディスカッションの感想や自己紹介も含めたグループワークを行い、参加者同士の交流を図ります。

講師：引間 紀江 国立女性教育会館事業課
ネットワーク構築・事業推進係長(併)専門職員

(6) 夕食・休憩

18:30～19:30

(7) パネリスト等との交流会

19:30～21:00

パネルディスカッションでは聞けなかったことなど、参加者がパネリスト等と個人的に会話することで、女性のキャリア形成に関する理解をさらに深めるとともに、参加者同士の情報交換を通じて、自身のネットワークを広げる機会とします。

第2日 2月22日(日)

(8) 情報提供「女性情報ポータル Winet の紹介と女性教育情報センター見学」

9:00～ 9:45

女性情報ポータル Winet (ウィネット) の活用方法の説明と女性教育情報センターの見学を通して、女性のキャリア形成に関する資料や情報の探し方を学びます。

講師：森 未知 国立女性教育会館情報課専門職員

(9) グループワーク②

10:00～12:00

先進的なコミュニケーションを通じたキャリアシートの作成を行い、真の自分を掘り出すとともに参加者同士のネットワークづくりを進めます。

講師：引間 紀江 国立女性教育会館事業課
ネットワーク構築・事業推進係長(併)専門職員

(10) 昼食・休憩

12:00～13:00

(11) グループワーク③

13:00～15:00

グループワーク②に引き続き、自分自身のキャリアデザインを行うとともに、参加者同士のキャリアデザインを共有します。討議内容の発表、パネリスト等によるコメントを通じ、翌日から具体的に行動できる方策を検討します。

講師：引間 紀江 国立女性教育会館事業課
ネットワーク構築・事業推進係長(併)専門職員

(12) 閉会

15:00～15:20

アンケートへの記入を行い、2日間の研修を振り返ります。最後に修了証を授与します。

修了証授与：内海 房子 国立女性教育会館理事長
主催者挨拶：櫻田 今日子 国立女性教育会館事業課長

(13) 懇親会（希望者のみ参加）

16:00～17:00

軽食をとりながら2日間の研修を振り返るとともに、参加者同士の交流をさらに深めます。

10. そ の 他

- (1) 期間中、職員が撮影した写真を事業記録や広報のために使用することがあります。
あらかじめご了承ください。
- (2) 修了生（希望者のみ）には、国立女性教育会館から定期的にメールマガジンを送付します。

平成26年度「女子大学生キャリア形成セミナー」参加者概況(2/22確定)

定員： 30 申込者： 24 参加者： 19
(キャンセル5)

応募倍率： 80.0%

10. 都道府県別

* 政令指定都市を含む都道府県は合算

1. 性別

	合 計
女 性	19

2. 講義

	女 性
参加	19
不参加	—
合 計	19

3. パネルディスカッション

	女 性
参加	19
不参加	—
合 計	19

4. グループワーク①

	女 性
参加	19
不参加	—
合 計	19

5. 交流会

	女 性
参加	18
不参加	1
合 計	19

6. 情報提供

	女 性
参加	18
不参加	1
合 計	19

7. グループワーク②

	女 性
参加	18
不参加	1
合 計	19

8. グループワーク③

	女 性
参加	18
不参加	1
合 計	19

9. 懇親会

	女 性
参加	15
不参加	4
合 計	19

		女 性
北海道・東北	北海道	—
	(札幌市)	—
	青森県	—
	岩手県	—
	宮城県	—
	(仙台市)	—
	秋田県	—
	山形県	—
福島県	—	
関東・甲信越	茨城県	1
	栃木県	—
	群馬県	—
	埼玉県	1
	(さいたま市)	—
	千葉県	1
	(千葉市)	—
	東京都	9
	神奈川県	3
	(横浜市)	1
	(川崎市)	1
	(相模原市)	—
	山梨県	3
	新潟県	—
	(新潟市)	—
長野県	—	
北陸・東海	富山県	—
	石川県	—
	福井県	—
	岐阜県	—
	静岡県	—
	(静岡市)	—
	(浜松市)	—
	愛知県	—
	(名古屋市)	—
	三重県	—
近畿	滋賀県	—
	京都府	—
	(京都市)	—
	大阪府	—
	(大阪市)	—
	(堺市)	—
	兵庫県	—
	(神戸市)	—
奈良県	—	
和歌山県	—	
中国・四国	鳥取県	—
	島根県	—
	岡山県	—
	(岡山市)	—
	広島県	—
	(広島市)	—
	山口県	—
	徳島県	—
	香川県	—
	愛媛県	—
高知県	—	
九州・沖縄	福岡県	—
	(北九州市)	—
	(福岡市)	—
	佐賀県	—
	長崎県	—
	熊本県	—
	(熊本市)	—
	大分県	—
	宮崎県	—
	鹿児島県	—
沖縄県	—	
	合 計	19

平成26年度「女子大学生キャリア形成セミナー」アンケート集計結果(最終報告) 平成27年2月27日

参加者数 19 名
アンケート回答数 19 件
アンケート回答率 100.0 %

1 都道府県、名前、大学・学部名、学年(割愛)

2 各プログラムについて

【21日 講義「働く女性を取り巻く環境～国際データ比較を通して～」】

	人数	%
非常に満足した	11	57.9
満足した	7	36.8
少し物足りなかった	-	-
物足りなかった	-	-
参加しなかった	1	5.3
無回答	-	-
合計	19	100.0

<非常に満足した理由>

- ・ 韓国のイメージからして女性の方が権力が強いのかなと思っていましたが、女性の就業率が日本と同じくらいで驚きました。
- ・ 実際のデータをもとに、日本が世界と比べてどういう状況なのかということを知ることができてよかった。
- ・ 日本の男女格差における国際的な位置を再確認した。
- ・ 国際データを見る機会はそうないので興味深いものでした。
- ・ 国際的に見て、日本がどの位置にいるのかを知れてよかった。あと、韓国と非常に似ているところが面白いと感じた。
- ・ 日本は他国と比較すると、まだ女性が管理職である割合は少ないことを実感しつつも、女性が活躍すれば利益も上がるというデータを知り、やる気が出ました。
- ・ グラフ等の統計資料を用いて講義していただき、視覚的にも理解しやすかったです。日本には改善すべき課題がたくさんあると感じました。
- ・ 統計データを読み解きながら、現在働く女性を取り巻く環境がどのように推移しているのかについて知ることができてよかった。とてもわかりやすかったです。
- ・ 具体的なデータを見ながら女性の働き方の現状を知れた。
- ・ 世界から見た日本の現状を知って、女性をもっと活躍する社会になるにはどうすればいいか、自身とも重なることなので考えていきたいと思った。
- ・ これまでに見たことのあるデータが多かったが、その読み解き方・意味を丁寧に説明していただき有意義でした。

<満足した理由>

- ・ 日本と韓国の水準がとても低いことに驚いた。
- ・ グラフなどを用いて説明してくださったので、非常に分かりやすかったです。
- ・ 表を用いたお話はとても分かりやすく、時代ごとの変動や世界と日本の比較が面白かったです。
- ・ 私はジェンダーに関する資料に触れる機会が今まで多くあったのでよい復習となってよかった。一部、今まで知らなかったデータもあり、新鮮な気持ちで聞くこともできた。
- ・ 一度大学の授業で聞いた話だったので復習になった。
- ・ 様々な統計データから、日本の現状を知ることができ、より深くそのデータの背景などを知りたいと思いました。
- ・ あまり知識として知らなかったデータを多く見せていただけて興味深かったです。このデータから更にディスカッションとか掘り下げてみたかったなあと思います。

【21日 パネルディスカッション「先輩の声を聞く」】

	人数	%
非常に満足した	15	78.9
満足した	4	21.1
少し物足りなかった	—	—
物足りなかった	—	—
参加しなかった	—	—
無回答	—	—
合計	19	100.0

＜非常に満足した理由＞

- ・ しっかり軸を持って将来を見ていかなければならないということを強く感じました。
- ・ 3名のパネリストの皆さんの貴重なお話が聞けて、とてもいい経験になった。一人一人のキャリアがそれぞれにあることが分かった。
- ・ 生の声を聞けて、とても参考になった。
- ・ いろいろな職、苦労を経験されている方のお話は有り難かった。
- ・ それぞれの生き方があるなと思いました。私も自分らしいライフスタイルができるようになりたいと感じた。
- ・ 実際に話を聞いて、仕事をやる上での気合いなどを身に感じた。キャリアって大切なんだと。産後も大変なんだと。
- ・ 普段ではなかなか関わる機会もなく、しかも自分が憧れるようなキャリアを築かれてきた方々のお話をじっくり聞くことができてよかった。
- ・ 実際に社会の第一線で働かれているキャリアウーマンの方々の話はとても力強く心に響きました。自分が働く時にやりたいことがあるなら、あきらめないようにしようと思いました。
- ・ 「働く女性」の姿を見ることができました。私も仕事で輝きたいと思えるようなお手本の先輩にお会いできてよかったです。
- ・ 様々なキャリアを積んだ人生の先輩が、何を悩み、どのように人生を歩んできたのかを知ることができ、とても刺激になった。
- ・ 様々な経験をされた方々と、いろいろな実体験を聞くことができてとても勉強になった。誰一人として同じような人生というのは全くなく、キャリアを考える上で、どのようなことを一番大事に考えていらっしゃるのかという共通点を見つけることができた。
- ・ 違うキャリアを歩いてきた人の話だったので、聞いていてとても楽しかったです。ためになることも多く、非常に有意義でした。
- ・ とても素晴らしい方ばかりで、よい話を聞いた。キャリア形成の参考となった。
- ・ いろいろなお話があったが、その中でも20代のうちに何をすればよいか、という話が印象深い。20代という選択肢が多くある今だからこそ、20代を無駄に過ごしたくないと思った。時間が限られてることを自覚できた。
- ・ 様々なバックグラウンドをお持ちのゲストの方の経験に基づいた生の声を伺えてよかったです。

＜満足した理由＞

- ・ 優秀すぎる方々の話だったためか、少し現実的に聞けなかった気がしました。
- ・ 「100人いれば100通りの人生がある」という言葉が印象的でした。先輩方の言葉・アドバイスに励まされました。質問タイムがもっと長いとよかったです。
- ・ キャリアを考えていく中で、先輩の実体験を聞くことができ、アドバイスも多くいただくことができた点がよかったです。
- ・ 3名とも違う生き方をしてきた方で、様々な視点からお話を聞けてよかったです。学生の質問の時間が短かったのが残念でした。

【21日 パネリスト等との交流会】

	人数	%
非常に満足した	15	78.9
満足した	2	10.5
少し物足りなかった	1	5.3
物足りなかった	—	—
参加しなかった	1	5.3
無回答	—	—
合計	19	100.0

＜非常に満足した理由＞

- ・細かい経験話を個人的に聞くことができたので、貴重な体験でした。もう少し個人的に話がしたかったです。
- ・パネルディスカッションでは聞けなかったことを聞くことができてよかった。本当にためになるお話だった。
- ・モチベーションがすごく上がった。個人的な不安や悩みにスポットライトを当てて相談できたのがよかった。
- ・交流会という和んだ雰囲気の中だからこそ話せることも多く、とてもよかった。
- ・たくさんいろいろなことを聞けてとてもためになった。もっとお話を聞きたかったです。
- ・自分に自信のない私を理解して、たくさんの勇気をいただいた。私の意志が強くなったと思いました。感動です。感謝です。
- ・パネルディスカッションの時には聞けなかった深いお話を聞くことができて、貴重な時間でした。
- ・特に夕食後の交流会はとても充実していた。大学の講義に講師として来られたとしてもあんなに少人数で近くであんなに質問できないし、突っ込んだことも聞けないだろうし。お菓子や飲み物があつたお陰で雰囲気が和んだというか話しやすい空気になったと思う。
- ・人生の先輩が多くのアドバイスを受けることができました。また、パネリストと自分以外の学生の話からも、人生設計のヒントを得られました。
- ・ディスカッションの時には伺うことができなかった様々なお話を伺うことができて楽しかったです。
- ・パネルディスカッションの時よりも、より濃いお話が伺えて有意義な時間となりました。
- ・聞いた質問に対し自分の意見を交えながら話してくださったので、非常に分かりやすく、また、話しやすい雰囲気でのよい会でした。
- ・パネルディスカッションの時間では聞けなかった話を聞くことができ、他の受講生の意見も知ることができ良かったです。
- ・パネルディスカッションでは聞けなかったことを聞けてよかった。パネリストの方々は本当に親身になって答えてくれて、多くの人生経験を聞けてよかった。
- ・自分の疑問や不安を個別に時間をかけて伺えたので良かったです。

＜満足した理由＞

- ・1時間半という限られた時間の中で、席が固定しがちで、限られた方しかお話できなかった、という反省があった。もちろん私から動くべきだったのだろうが、席のシャッフルタイム等もほしかった。
- ・昼間で足りなかったことをたくさんお話することができました。質問したいことを昼間挙げたのに反映されていないことが残念だったと思います。

＜少し物足りなかった理由＞

- ・緊張することなく、様々な質問を投げかけることができ有意義で楽しい時間となりました。ただ、席替えタイムが遅く、特定の方にしかお話をお聞きできませんでした。

【22日 情報提供「女性情報ポータルWinetの紹介と女性教育情報センター見学」】

	人数	%
非常に満足した	6	31.6
満足した	9	47.3
少し物足りなかった	1	5.3
物足りなかった	—	—
参加しなかった	1	5.3
無回答	2	10.5
合計	19	100.0

＜非常に満足した理由＞

- ・ 貴重な品揃えで読んでみたい資料もたくさんあったので、ぜひ利用したいです。
- ・ 女性に関する資料がすごく豊富で、ぜひ利用したいと思いました。こうしたセミナーの情報もあるということだったので、いろいろ探してみたいと思います。
- ・ 資料がととのっていて、ぜひ利用したいと思った。
- ・ 自宅でも無料で使えるWinetというデータベースの存在を知ることができてよかった。もっとたくさんの人に知られればいいのと思う。
- ・ 地方別に分かれていて、地域によるそれぞれの課題について知れることが分かりました。また、関連のある新聞の切り取りが細かくされていることに驚きました。
- ・ データベースの利用法などについて知ることができてよかった今後の情報収集に生かしていきたい。
- ・ 多くの資料があり、自分が調べ物をするときは活用したいと思いました。それと、しかたがないことだと思いますが、説明して下さる時に、人数が多くて話し手と聞き手の距離が開いてしまうことがあったことが残念でした。でも、聞き取りやすい声で話して頂いたので、内容は理解することができました。
- ・ このような施設があるのを初めて知りました。今後、機会があればWinetを利用したいと思いました。

＜満足した理由＞

- ・ たくさんの資料があってびっくりした。参考にしたい資料もある時はぜひ利用させていただきたい。
- ・ 図書館のことや情報データベースの使い方を詳しく教えていただき、これからどんどん積極的に活用してみたいと思いました。私はジェンダーに関する卒論（「女性専用車両に乘車する女性の心理」）を執筆しているので、是非統計データを活用させていただきたいと思いました。
- ・ ジェンダーや女性関連の資料は公立図書館では数が少なかったり、ひとまとまりになってしまっていたので、まず資料数の多さに感動しました。
- ・ 自分が今後研究に使用したい時に、活用させて頂きたいと思う。
- ・ 全ての女性にまつわる図書・新聞等が置いてあったので、ぜひ通うのは大変ですが、また利用させていただきたいと感じました。来なくても。
- ・ 使い方を丁寧に説明して下さり分かりやすかったです。受講生の中で、これからレポートや卒論で利用しようという声もあり、Winetを広めたいと思いました。

＜少し物足りなかつ

- ・ 施設を紹介してくださって、こういう場所があったのだと知ることができました。検索の説明は事細かにされなくても大体わかるので不要だったと思います。それよりは、資料の取り寄せ方とかを教えてくださいの方がよかったです。自由に閲覧できる時間がないことも残念でした。

＜無回答の理由＞

- ・ 女性教育に関する細かい情報をすべて集めるという作業を行っていることの大変さを感じました。たくさんの資料を分かりやすいように、見やすいように、職員の方々の整理によって利用される方がより充実した情報を得ることができるのだと感じました。
- ・ インターネットから文献を取り寄せできるとはビックリです！！自宅から離れているので滅多に來れない施設ではありますが、ぜひ、また機会があれば利用させて頂きたいと思いました。

【21／22日 グループワーク①②③】

	人数	%
非常に満足した	19	100.0
満足した	—	—
少し物足りなかった	—	—
物足りなかった	—	—
参加しなかった	—	—
無回答	—	—
合計	19	100.0

＜非常に満足した理由＞

- ・ 自分以外の考え方がたくさん聞け、とてもよかったです。新しい考えを持つことができました。
- ・ グループに分かれることで一人の人から深い考えや意見を聞くことができた。とてもよい活動で充実していた。
- ・ 言いたいことが言えて聞きたいことも聞けて、とてもためになった。違う学年の方からの声を聞けてよかった。
- ・ 人のお話を聞いて、同時に自分についても考えることができました。
- ・ 女性の社会進出について話し合っているいろいろな意見を共有できてよかった。
- ・ 働く上で大切なこと。たくさん意見が聞けて、私の考えがちっぽけだったように思えた。違う世界を知れてうれしい。
- ・ 同じような悩みを持っている人がたくさんいることが知れて安心しました。とても楽しかったです。
- ・ ゲーム的な要素を入れたことで、初見の人と関わりやすかった。軽く話すのを多人数、じっくり話すのを少人数と分けていたので、とても効率がよく密度の濃いものになったのではないかな。
- ・ 自分と同年代の学生が女性の社会参加や家庭の持ち方についてどう考えているかを知って、自分では思いつかなかった選択を見つけることができました。
- ・ 考えの違う仲間たちと活発に議論し、意見を交わすことができたのは大変貴重な時間でした。新たな気づきもあり、自分のことを前よりもっと好きになれたと思います。
- ・ 同世代の方のお話を聞く機会は今までであるようでなくて、真剣に話し合うことができてよかったです。
- ・ たくさんの方の考え方に触れ、自分の考えが変わりました。
- ・ 本当に様々な人々から意見を聞くことができ、本当によかった。特にパネリストの方々と最後話し合う機会があったのがとてもよかった。
- ・ 周りの人の意見を聞くことの大切さをすごく実感できました。素晴らしい意見を持っていた方々と交流できてよかったです。
- ・ 楽しく、みんなで深い話ができました。
- ・ パネリストの方や受講生と深い議論をすることができ、充実した時間を過ごすことができました。
- ・ セミナーの参加者と交流できる機会になり、よいきっかけづくりになった。そして、他者と話し合うことで、1つのことに対して多々な見方ができるのだと思った。
- ・ 2日目のラウンドテーブル、作戦づくりが特に充実していました。1日目の内容を整理して臨めたのでよかったです。
- ・ 自由に意見を出し合えてすごく有意義なディスカッションになりました。時間があっという間に感じました。楽しかったです。

3 全体の満足度

	人数	%
非常に満足した	19	100.0
満足した	—	—
少し物足りなかった	—	—
物足りなかった	—	—
無回答	—	—
合計	19	100.0

<非常に満足した理由>

- ・ キャリアに関して今まであまり考えてこなかったもので、これから就活をする上でとても役立つ経験になりました。参加してよかったです！！他大の人とも交流できて楽しかったです。
- ・ キャリア経験豊富な先輩方のお話はもちろん、自分と同世代の人の声が聞けて本当によい経験になった。思っていたよりも得ることが多くとても満足した。
- ・ 得るものがたくさんあった。来る前までは形のなかった自分の将来像に輪郭を与えることができた。
- ・ こんなに充実した時間になるとは思いませんでした。参加して本当によかったです。ワールド・カフェが特によかったです！！
- ・ 刺激をたくさん受けた。自分の気持ちを見つげられた。勇気を皆さんからいただいた。感謝でしかない。ありがとう。
- ・ 生き方は多様で、自分らしく失敗を恐れなくて行動することの大切さを知ることができ、今後の人生をどうするか考えるきっかけになった。
- ・ 自分と向き合うことができ、今頑張るべきことの確信が持てた。
- ・ 真面目な内容だがリラックスして楽しく取り組めるよう配慮があった。充実した2日間でした。ありがとうございました！
- ・ 普段あまり女性としてのキャリアを考えることがなかったので、このセミナーを通じて、女性として社会で活躍するためにキャリア形成をするきっかけになりました。
- ・ 細かい要望はあるものの、全体としては非常に満足です。様々な大学の同年代の方々と価値観・考え方を共有することができ、ディスカッションや交流を通して新しい考えに触れ、改めて自分のキャリアを見直すきっかけとなりました。本当に楽しかったです！！自分らしい人生を歩んでいこうと思えました。
- ・ 今まで「働く女性」の姿をあまり見たことがなく、今回すばらしいキャリアをお持ちの方にお会いできました。また、同性の方の話にとっても刺激を受けました。
- ・ 実際にキャリア実現をしている方のお話を聞いたり、他の学年の価値観に触れることで、様々な気付きのあった2日間でした。
- ・ 「仕事」「家庭」という2項対立ではなく、そもそもの「キャリア形成」には何が必要かということを考えることができた。男性中心社会という性格が抜けきれないであろう、他のキャリアセミナーとは異なり、女性に訪れるイベント、現状(女性を取り巻く)等を踏まえた上でのセミナーが形成されており、とても貴重な体験ができた。
- ・ すごく緊張して正直初めは不安でいっぱいでした。帰りたいと思わないとかですが、こういう人生像を歩みたいと思える先輩方のお話を聞けて、同世代の人の不安を聞いて、よい意味でポジティブで明るい未来が見えてくる気がしました。
- ・ 普段なかなか話せないことを同じ世代の子と共有できたことがよかったです。
- ・ 一人で考えていては思いつかなかった視点で議論をしていくことができ、新しい価値観を得ることができました。学生同士でこのような話し合いができる機会はなかなか貴重な時間でした。
- ・ 他大学の人と交流し意見交換ができる。社会で活躍している先輩から近くで話を聞けるので将来のビジョンを描くことができる。モチベーションの高い人たちに囲まれているので、自身により影響を与えてくれる。
- ・ 私の場合、4月から社会に出て、そこから自分のキャリアをどのように形成していくかという視点で自分の人生のこれからを見つめ考える機会になった。
- ・ 同じ女性でもいろいろな考えを持つ人がいて、そういった考えに触れながら自分のキャリアについて考えるきっかけになりました。普段女性が少ない環境にいたので、同世代の仲間と交流できたことも嬉しかったです。

4 セミナー開催月希望(複数回答)

	人数	% (19名中)
1月	2	10.5
2月	14	73.7
3月	12	63.2
4月	—	—
5月	1	5.3
6月	—	—
7月	2	10.5
8月	8	42.1
9月	10	52.6
10月	2	10.5
11月	1	5.3
12月	2	10.5

長期休暇希望: 1名

5 全体についての感想、改善点、要望など

- 個人的にグループワークがとても楽しかったです。自分と同じような不安を抱えている同世代の人の考えを聞いたり、共有したりすることで、今後の自分の生き方の参考になる考えを持つことができました。とてもよいセミナーだと思いました。もっと広めていくべきだと思います。(回数を増やすなど…)
- このセミナーに参加して、いろいろな考えを持った人が集まり、たくさんお話を聞くことができて、いい刺激になったと思う。このセミナーは続けていくべきだと思う。食事がとてもおいしくてよかったし、部屋の布団が暖かくてよいと思った。女子大学生を対象にしているが、話していると同世代の男子はどう考えているのだろうという意見が聞きたい場面があったので、男子大学生も交えるともっと話はふくらんでいくと思った。反面、女子だけなので気にすることなくいろんな話ができてよいと感じた。多くの学生にこのセミナーに参加してほしいと思った。
- 参加できたことを心から嬉しく思います。同世代の意見、社会人として先輩の方々からの意見がたくさん聞けて考えることが多く、新しい自分に出会えた気がしました。この2日間だけで終わってしまうことが本当に寂しいです。今この気持ち、モチベーションを今後も継続させていくことができるためにも、また集まれる機会がほしいと切実に思います。
- 一人部屋で施設もきれいで初めて訪問させて頂きましたが、最初からビックリしていました。私の母は専業主婦なので働く女性を身近に感じたのは初めてで、本当にありがたい経験となりました。ワールド・カフェが何よりもよい体験だったと思います。またやりたいです!!
- “友達とつるんで参加”という人がいなかったのも充実の理由の一つだと思います。みなさん、目標や意欲のある方で、やりやすかったです。
- こういうセミナーがあることはとてもよいと思います。先輩たちの意見などを直に聞けて参考になりました。定期的にもっとあれば嬉しいです。勉強会や企業についてのセミナーもあれば行きたいと思いました。アクションを起こして失敗を恐れない! やることはしっかりやる! そういう目標をもって大学生活を送って行きたいです。
- ディスカッションを聞くと難しいイメージでとても不安だったが、実際にワールド・カフェといった明るい気楽な空間で語り合うスタイルがとても新鮮で、どんどん本当の自分というか、自分が本当に求めているものが見えてきて、自分自身とても感動した。皆の意見を聞いて、他の価値観を感じることができて世界も広がった。1つの道じゃない多くの道が見えて、考えなくなかった未来のことに真剣に考えてみたくなった。自分の未来、自分の思うとおりにやりたくなった。願望が出てきた。
- 私自身が公務員志願だったためか、所々民間で働く方々に特化した話なのかな…と感じることがありました。しかし、“精神”の面でのお話は業種を問わず通ずるところがあると、大変参考になりました。これを機会に自分の将来ともう一度真剣に向き合いたいと思いました。2日間、お世話になりました。ありがとうございました。
- この2日間で建設的に将来を考える視点が加わったと思う。友人や後輩にも勧めたい。有意義なセミナーであったが、参加人数が定員に満たなかったのは残念である。自分もSNSを利用してこのセミナーの存在を知らせていきたい。私はこのセミナーの存在を大学図書館に貼ってあるポスターから知ったが、ポスターが堅かったのではないかなと思う。もちろん色合いとしては柔らかないが、スーツを着た女子学生の写真など、ガッツリ堅いことを1泊2日やるように思われたのではないかな。このセミナーも真面目な内容であったものの、ゲーム的な要素やお菓子や飲み物が用意されていることでリラックスして楽しく真面目に取り組むことができた。引間さんや千装さんが面白いことを言うてくださったというのもあると思う。ポスターではその良さが出ていなかったのが残念。
- 普段、他大学の学生と話をする機会がないので、1日泊まりがけで交流を深め、様々な意見を取り入れることができてよかったです。また、互いに少しの悩みなどの相談もできました。例えば就職に関することや、将来を予測できないことへの不安などです。話し合ったことで、同じようなことを考えている仲間がいて安心できたり、女性としてのキャリア形成に対する意識が高まったりしました。セミナーをきっかけに、これからは自分のキャリア形成を考え、日本の女性のキャリアアップに貢献できたらいいと思いました。

- ・本当に貴重な経験をさせていただきました。講義などの「情報のインプット」また、グループワーク、ディスカッション等の「情報のアウトプット」どちらもバランスよく組み込まれたプログラムになっていたと思います。しかし、個人的にはもっと「アウトプット」できたらよかったなと思います。「パネリスト等との交流会」では、女性会館の職員さんとパネリストの方との質問受け答えにばかりなってしまう場面があり、もっと学生とパネリストとのやりとりが多くできればよかったのかなと思います。しかし、普段聞けないようなお話をたくさん聞くことができて良かったです。昨年は12月にこのセミナーが開催されていたようですが、12月は定期テスト直前ということもあり、参加が難しいことも多いので、春休み期間である2、3月に開催して頂いたのは有り難かったです。また、就活の時期が3月～になったこともあり、この時期はキャリアに対する関心が高まっているように思います。とてもよいセミナーですので、せっかくなのでもっと大々的に宣伝をして30～35人くらいのセミナーにしてもよいかなと思います。また、セミナーに参加する方の大半は初めてこの会館に来る方ばかりだと思いますので(私を含めて)、この会館の案内や活用の仕方等、施設そのものについての講義(説明)がもっとあると嬉しいです。最後になりましたが、2日間、有意義で楽しい時間をありがとうございました。女性らしくではなく「私らしい」人生・キャリアを歩んでいきたいと思っています。
- ・ただ話を聞くだけでなく、実際に発言する場があることで、改めて自分の考えを整理できたのがよかった。また、他の方の意見を聞くことでとても刺激を受けた。これからの自分の人生を考える機会を与えて頂き嬉しかったです。ただ、とても素晴らしいセミナーなのでもっと宣伝をしてもよいのではないかと思います。
- ・学生同士の意見の交流だけでなく、パネリストの方々とお話しする機会も多く、とてもためになりました。特に横手さんからは的確なご指摘をいただき、ワークライフバランスのためだけに公務員を目指すのではなく、しっかりと目的意識を持つことの大切さに改めて気づきました。このセミナーをきっかけに、私がどのように社会に貢献していけるのかを改めて考えなくてはいけないと思いました。また、グループディスカッションの練習になったことも、とても有意義な経験になったと思います。2日間、ありがとうございました。
- ・この2日間、そもそもキャリアを考える上で何が大事なのかということを学ぶことができる、とてもよい機会を頂きました。「仕事か家庭か」という2項対立に話がとどまることなく、そもそも人生を生きていく上で必要なものは何か、それをもとに人生をプランニングするということが学べました。今まで社会人になるということに対する恐怖が先にありましたが、チャレンジ精神を忘れることなく立ち向かいたいと思います。ただ、男性側の意識について推測する域を出ない部分がありました。日本の今後のキャリアを考えるということで、男女共に参加するイベントがここで行われればよいなと思います。(多分もうあるであろうとは思いますが・・・)
- ・当初不安もすごく多かったです。就職して未来に対して自分が抱いている不安・心配事が解消されました。いつも考えるよりも行動してしまうので。今回もそうした直観的行動で自信がある人と触れ合うことでより自信をなくしてしまうことを怖がっていたのですが、本当にいろいろな方との交流を通してポジティブに物事をとらえることが少しですが出来ていくと確信ができました。あっという間の1泊2日間でしたが、人に誇りを持てる自分になるべくキャリアをきちんと考えたいと思いました。色濃くとても有意義でした。ありがとうございました。
- ・短い時間でしたが、とても楽しく有意義でした。ありがとうございました。4月から社会人になる学生として本当に参加してよかったと思いました！！
- ・セミナーを通じて様々な価値観を知り、議論をしていく中で自分の気持ちを見直し、整理していくことができました。これほど深くキャリアについて熟考したことはあまりなかったため、自分の芯となる考え方を持つ大切さを実感しました。特に、グループワークの時間が印象に残りました。自分の人生なので、主体的に考え、行動していくために軸をしっかり持っていきたいと思いました。宿泊形式のため、たっぷり時間をかけることができる点が良かったです。
- ・大学4年生の2月という時期にこのセミナーに参加したきっかけは「自分の将来を深く考える場がほしかった」ということと、「入社する前に身になることをやってみよう」と思ったからです。セミナーに参加してみると「女性がいかにしてキャリアを築いていけばいいか」「結婚・出産・育児と仕事の両立」のこと等、自分の将来に関わるお話を聞くことができて本当によかった。また、「自分は今何をしたらいいだろう(将来のために)」と最近考えることが多かった私には、猪俣様、島様、横手様、平野様の経験から言えるお話はとても有り難いものでした。なかなか年上の方々と話す機会も少なかったので、このセミナーに参加して、お話を聞けて良かったです。2日間ありがとうございました！！
- ・2日目のラウンド・テーブル、作戦づくりのワークがとても有意義でした。1日目の講義、パネルディスカッション。グループワーク①などの内容を、参加者のみなさんが自分の中でしっかり消化した上で、自分たちの考えを共有できたのが良かったです。1日目は個人的に頭の整理が追いつかずパンクまでは行かずとも、整理出来ない状態で交流会に臨んだので、もう少し時間のゆとりがほしかったと思います。2日間集中して一つの物事に他の人たちと向き合うことはなかなか出来ない体験ですので、有意義でした。
- ・3に表記した通り参加して非常に良かったです。より多くの女性に考えてもらうため、より広報活動ができればよいのではないのでしょうか。せっかく図書館や表示があってもプログラム進行の都合で自由に閲覧できる時間が全くなかったことが残念です。せっかく遠方から来ているので、そういった自由時間を取ってほしかったと思います。

＜参考＞このセミナーを知ったきっかけ(複数回答) * 申込書から集計(申込者は24名だったが、5名キャンセルで19名参加)

	人数	% (24名中)
チラシ	8	33.3
ポスター	5	20.8
会館ホームページ	3	12.5
大学の就職課	3	12.5
大学の先生	5	20.8
その他	2	8.3

その他: 社会教育実習に参加して職員に勧められたから2名

平成26年度「女性関連施設相談員研修」実施要項

1. 趣 旨 女性関連施設の相談員を対象に、女性のエンパワーメント支援と女性に対する暴力や貧困などの喫緊の課題解決を目指して、相談者への理解の深化や必要な知識・技能習得、関係機関との連携促進を図るための研修を行います。複雑・多様化する女性の悩みに適切に対応できる相談員の育成と業務の質の向上に向けた専門的・実践的研修です。
2. 主 催 独立行政法人 国立女性教育会館
3. 会 場 国立女性教育会館
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728
TEL 0493-62-6725
FAX 0493-62-6720
Eメールアドレス progdiv@nwec.jp
ホームページ URL http://www.nwec.jp/
4. 期 日 平成27年2月4日（水）～ 2月6日（金） 2泊3日
5. 参 加 者 公私立の女性会館・女性センター等の女性関連施設において、女性の悩みに関する相談業務に携わっている相談員
6. 定 員 80名
7. 日 程（各プログラムの間に10～15分の休憩があります。）

2/4 (水)	13:30		13:45		15:00		17:00		19:00	
				開 会	グループ 討議		講義		夕 食	※ 情報 交換会
2/5 (木)	9:00	10:00	12:00		13:30	14:30		17:00		19:00
	情報提供	講義		昼 食	情報提供		分科会 1		夕 食	※ 体験
2/6 (金)	9:00		11:20		12:20	12:30				
	分科会 2		全体会		開 会					

※印のついたプログラムは希望者のみのプログラムです。

8. 内 容

第1日 2月4日（水）

（1）開会

13:30～13:45

- ① 主催者あいさつ
- ② プログラム説明

（2）グループ討議

13:45～14:45

参加者同士の自己紹介と研修に対するニーズや課題などについて、グループワークと討議で整理し、共有します。

進 行 引間 紀江 国立女性教育会館事業課専門職員

（3）講義「女性関連施設における相談業務の意義と役割」

15:00～17:00

女性関連施設における相談業務の意義と役割について、女性が抱える問題解決と女性のエンパワーメントの視点から学びます。

講 師 戒能 民江 お茶の水女子大学名誉教授

●オプションプログラム（希望者のみ）

情報交換会

19:00～20:30

相談業務における課題などの情報交換と参加者同士のネットワークづくりを行います。

第2日 2月5日（木）

（4）情報提供「相談事業に役立つ国立女性教育会館の情報機能」

9:00～9:40

女性情報ポータル Winet（ウィネット）の活用方法の説明と女性教育情報センターの見学により、相談事業に役立つ情報の活用について情報提供します。

説 明 国立女性教育会館情報課

（5）講義「二次受傷の予防と対策」

10:00～12:00

二次受傷のもたらされる要因や症状等について正しく理解し、予防と対策、回復の方法を学びます。

講 師 木村 弓子 武蔵野大学心理臨床センター主任カウンセラー

（6）情報提供「ストーカーの概要と被害防止のポイント」

13:30～14:15

ストーカー事案の概要と被害防止のポイントについて情報を得ます。

講 師 埼玉県警察本部生活安全部子ども女性安全対策課

（7）分科会1「当事者の課題別ケース検討」

14:30～17:00

課題を抱える当事者に対して実際にどのように支援をしていったらよいのか、課題別コースに分かれて、講義とワークショップで学びます。

A：人間関係に関する相談者への支援

身近な人間関係に関する相談から見えてくる背景や課題から、人間関係を円滑に行えるようにするための支援について考えます。

講 師 海渡 捷子 フェミニストセラピー“なかま”代表

B：配偶者等からの暴力被害者への支援

配偶者等からの暴力被害について、その心理的背景や構造を踏まえ、自立支援に向けた実際の対応の留意点について学びます。

講 師 松本 和子 NP0 法人女性ネット Saya-Saya 代表理事

C：若年層へのデートDV 防止啓発

デートDVに関する相談や防止のための啓発活動について理解を深めるとともに、若者世代に対してどうアプローチをしたらよいのかを探ります。

講 師 西山 さつき NP0 法人レジリエンス副代表理事

●オプションプログラム（希望者のみ）

ドラムサークル体験

19:00～21:00

アフリカやブラジルなど、世界の太鼓や打楽器を即興的に叩きながら、楽しい打楽器アンサンブルを体験します。ストレスの解消や健康増進に効果が期待できます。初めて楽器にさわる方でも、楽譜が読めなくても大丈夫です。

講 師 清水 和美 ドラムサークルぐんま代表
鳥川 仁美 Otonowa 代表

第3日 2月6日（金）

（8）分科会2「新たなつながり方への対応」

9:00～11:00

個人と社会のつながり方から生まれる現代的な課題に対応するため、講義とワークを通してテーマに対する理解を深め、相談業務に役立つヒントを探ります。

A：ステップファミリーへの支援

ステップファミリー（子連れ再婚家族）における親子の課題把握や、実際の支援に役立つ情報などについて学びます。

講 師 緒倉 珠巳 S A J (stepfamily association of JAPAN) 代表

B：災害とジェンダー

災害時における男女の被災状況の違いや女性が直面しがちな困難、特に安全や暴力防止の課題について学びます。

講 師 池田 恵子 静岡大学教育学部教授

C：若年女性への支援

生きづらさを抱える若年女性への支援の現場から見えてくる、貧困や孤独などの社会的な課題とのつながりを探ります。

講 師 山口 恵子 東京学芸大学教育学部准教授

(9) 全体会

11:20～12:20

現代的な課題を解決に導く相談業務のあり方、相談者のエンパワーメントにつながる支援について意見交換と共有を行い、これからの相談業務の意義と役割を考えます。

報告者 分科会 2 「新たなつながり方への対応」講師

(10) 閉会・アンケート記入

12:20～12:30

9. その他

期間中、職員が撮影した写真を、事業記録や広報に使用することがあります。ご了承ください。

平成26年度「女性関連施設相談員研修」参加者概況

平成27年2月9日現在

定員：80

申込者数：85

キャンセル：4

応募倍率：106.3%

1. 性別

	合 計
女 性	80
男 性	1
合 計	81

2. 年代

	女 性	男 性	合 計
20代	9	—	9
30代	9	—	9
40代	18	—	18
50代	26	1	27
60代以上	17	—	17
無回答	1	—	1
合 計	80	1	81

3. 勤務形態

勤務形態	(専任・兼任)	女 性	男 性	合 計
常勤	(専任)	5	1	6
常勤	(兼任)	4	—	4
常勤	(無回答)	5	—	5
非常勤	(専任)	16	—	16
非常勤	(兼任)	—	—	—
非常勤	(無回答)	19	—	19
嘱託	(専任)	11	—	11
嘱託	(兼任)	1	—	1
嘱託	(無回答)	14	—	14
その他、無回答		5	—	5
合 計		80	1	81

4. 施設区分

	女 性	男 性	合 計
公設公営	65	1	66
公設民営	13	—	13
民設民営	2	—	2
その他	—	—	—
無回答	—	—	—
合 計	80	1	81

オプションプログラム参加

	女 性	男 性	合 計
①情報交換会	57	1	58
②講義・体験	47	—	47

2日目分科会

	女 性	男 性	合 計
A: 人間関係に関する相談者への支援	27	—	27
B: 配偶者等からの暴力被害者への支援	35	—	35
C: 若年層へのデートDV防止啓発	17	1	18
不参加	1	—	1
合計	80	1	81

3日目分科会

	女 性	男 性	合 計
A: ステップファミリーへの支援	32	—	32
B: 災害とジェンダー	17	1	18
C: 若年女性への支援	29	—	29
不参加	2	—	2
合計	80	1	81

※地域ブロック別参加者内訳

	女 性	男 性	合 計
北海道・東北	7	—	7
関東	19	—	19
甲信越	8	—	8
北陸・東海	15	—	15
近畿	3	1	4
中国・四国	11	—	11
九州・沖縄	17	—	17
合計	80	1	81

7. 都道府県別

※政令指定都市(カッコ内)は都道府県の内数に含む

	女 性	男 性	合 計
北海道・東北	北海道	—	—
	(札幌市)	(—)	(—)
	青森県	—	—
	岩手県	1	—
	宮城県	1	—
	(仙台市)	(—)	(—)
	秋田県	—	—
	山形県	—	—
	福島県	5	—
	茨城県	2	—
関東	栃木県	5	—
	群馬県	2	—
	埼玉県	4	—
	(さいたま市)	(—)	(—)
	千葉県	2	—
	(千葉市)	(—)	(—)
	東京都	3	—
	神奈川県	1	—
	(横浜市)	(—)	(—)
	(川崎市)	(—)	(—)
甲信越	(相模原市)	(—)	(—)
	山梨県	1	—
	新潟県	4	—
	(新潟市)	(1)	(1)
	長野県	3	—
北陸・東海	富山県	—	—
	石川県	1	—
	福井県	2	—
	岐阜県	—	—
	静岡県	5	—
	(静岡市)	(1)	(1)
	(浜松市)	(—)	(—)
	愛知県	7	—
	(名古屋市)	(1)	(1)
	三重県	—	—
近畿	滋賀県	—	—
	京都府	—	—
	(京都市)	(—)	(—)
	大阪府	2	1
	(大阪市)	(—)	(—)
	(堺市)	(1)	(1)
	兵庫県	1	—
	(神戸市)	(—)	(—)
	奈良県	—	—
	和歌山県	—	(—)
中国・四国	鳥取県	1	—
	島根県	1	—
	岡山県	2	—
	(岡山市)	(1)	(1)
	広島県	1	—
	(広島市)	(—)	(—)
	山口県	1	—
	徳島県	1	—
	香川県	1	—
	愛媛県	2	—
九州・沖縄	高知県	1	—
	福岡県	3	—
	(北九州市)	(1)	(1)
	(福岡市)	(1)	(1)
	佐賀県	1	—
	長崎県	1	—
	熊本県	—	—
	(熊本市)	(—)	(—)
	大分県	5	—
	宮崎県	4	—
	鹿児島県	3	—
	沖縄県	—	—
合計	80	1	81

平成26年度「女性関連施設相談員研修」参加者アンケート 集計結果

平成27年3月25日 現在

参加者 81 名

回答者 79 名

回答率 97.5 %

1 この研修の内容は、あなたの考えを深めたり、今後の業務を行う際に役立てたりするうえで、どの程度有用でしたか。

グループ討議

	女	%	男	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	22	28.2	1	100.0	23	29.1	23	29.9
有用だった	51	65.4	-	-	51	64.6	51	66.2
あまり有用でなかった	2	2.6	-	-	2	2.5	2	2.6
全く有用でなかった	1	1.3	-	-	1	1.3	1	1.3
不参加	-	-	-	-	-	-		
無回答	2	2.6	-	-	2	2.5		
合計	78	100.0	1	100.0	79	100.0	77	100.0

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

<主な意見・感想等>

「非常に有用だった」理由

- ・ 他相談員と話すきっかけになり、情報交換もできてよかった。課題も整理された。
- ・ 研修に参加するモチベーションが上がった。
- ・ お互いに日頃行っている業務内容が分かり、良かった。
- ・ 共通する課題についてお互い感じていることを共有できた。
- ・ 短い時間でも有意義な情報交換ができた。
- ・ 他県、異なる立場の方の情報(問題点も含めて)が有用だった。

「有用だった」理由

- ・ 初めての参加と実務経験が浅いので、席が都道府県ごとだったので、近隣地区の方との顔つなぎができて良かった。
- ・ 各自治体の共通点、相違点を知り、参加者とうちとける良い機会となった。
- ・ 情報交換を兼ねていると思うのでグループの分け方を他県の人と組めるようにしたらどうか。
- ・ 話が盛り上がり始めたところで、時間終了となってしまう、少し残念だった。
- ・ 研修に参加する前にどのようなことを学びたいか自分だけでなく周りの人と話ができ良かった。
- ・ 参加者の顔が見え、皆が何を課題としているかわかった。

講義「女性関連施設における相談業務の意義と役割」

	女	%	男	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	46	59.0	-	-	46	58.2	46	59.7
有用だった	30	38.5	1	100.0	31	39.2	31	40.3
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
不参加	-	-	-	-	-	-		
無回答	2	2.6	-	-	2	2.5		
合計	78	100.0	1	100.0	79	100.0	77	100.0

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

「非常に有用だった」理由

- ・ 社会的背景、生活困難からDVを受けやすい対象があることが学べた。制度の枠からもれてしまう人達をジェンダーの視点を持ちながら福祉でサポートする必要性を感じた。
- ・ 地元の研修では聞けない話、新しい情報、法に沿った考え方等とても参考になりました。
- ・ とてもわかりやすい講義で、相談業務の知識向上に役立った。
- ・ 制度の狭間からこぼれ落ちる女性の問題は深刻。実際に支援していて実感。
- ・ 近年の社会背景による問題が浮き彫りになりました。柔軟に対応していく体制を整える必要性を感じました。
- ・ 改めて、女性の問題は社会の問題であると確信することができた。

「有用だった」理由

- ・ 制度にばかりとらわれてしまうと、二次被害の加害者になりかねないという危機感をもちました。
- ・ 現場での業務が、制度に基づくものであることを実感し、さらなる制度の充実の必要性を感じた。
- ・ どこをどうやって支援していくか社会資源の開拓をする必要性を感じました。
- ・ 女性の人権を守るために相談業務の必要性を再確認できました。
- ・ 日頃仕事をしている中で、中々新しい情報を得ることが難しい。現状について話を聞きためになった。
- ・ 女性の権利(含DV)を取り戻すための歴史的な流れを知りました。

情報交換会

	女	%	男	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	26	33.3	—	—	26	32.9	26	44.8
有用だった	31	39.7	1	100.0	32	40.5	32	55.2
あまり有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
全く有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
不参加	16	20.5	—	—	16	20.3		
無回答	5	6.4	—	—	5	6.3		
合計	78	100.0	1	100.0	79	100.0	58	100.0

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

＜意見・感想等＞

「非常に有用だった」理由

- ・ 普段聞くことのできない相談員さんの本音や実態を聞くことができた。
- ・ 同じ志を持つ相談員同士、共有できることや都道府県によって違うこともシェアでき本当に有意義。
- ・ 交流ができ、楽しい時間を過ごすことができた。
- ・ 平素、離れている地域の方から伺えるのは(複数)よかった。
- ・ 立場が違う方の経験、情報交換もできエンパワーメント、リフレッシュできました。
- ・ 婦人相談所、役所と立場の違いならではの悩み、対応の困難さを聞いた。盛り上がった。

「有用だった」理由

- ・ 全国の相談体制を聴くことができました。
- ・ 業務の悩みからプライベートなお話まででき、楽しい時間を過ごせました。
- ・ 席が固定されてしまったので、もう少し自由に話したかった。
- ・ 各地で仕事をされている相談員より話を聞き有意義であった。
- ・ 立席で、少し時間を短くして全体会がほしかった。

情報提供「相談業務に役立つ国立女性教育会館の情報提供」

	女	%	男	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	22	28.2	1	100.0	23	29.1	23	29.1
有用だった	55	70.5	—	—	55	69.6	55	69.6
あまり有用でなかった	1	1.3	—	—	1	1.3	1	1.3
全く有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
不参加	—	—	—	—	—	—		
無回答	—	—	—	—	—	—		
合計	78	100.0	1	100.0	79	100.0	79	100.0

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

＜意見・感想等＞

「非常に有用だった」理由

- ・ 自分の職場へ帰って活用できそうなデータベースが充実しており、参考になりました。
- ・ 恥ずかしながら施設の中身は知らなかった。もっと早く知っていればネットサーフィンをしなくて済んだのに・・・
- ・ 貴重な資料をたくさん保存されていて驚きでした。活用方法も丁寧に教えていただいたので活用したいです。
- ・ ネット利用の情報取得について、実際の画面を使いながらで、とてもわかりやすかった。
- ・ 国立女性教育会館の存在理由の意義が理解できた気がする。
- ・ この目で現場を見るということはまさに「百聞は一見にしかず」です。

・「有用だった」理由

- ・特に図書情報が魅力的だった。新聞記事もデータベース化してあって、ぜひ今後利用させてもらいたい。
- ・初日に企画していただければ、より有効に利用できると思います。
- ・もう少し時間を設けてほしかった。
- ・男女共同参画の歴史を実感した。図書など、積極的に利用したい。
- ・荷物を持つての移動となるので講義と順番を入れかえるなどしてみてもいい。
- ・企画内容が参考になった。家計簿の企画はおもしろい思った。いつかやってみたい。

講義「二次受傷の予防と対策」

	女	%	男	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	56	71.8	-	-	56	70.9	56	70.9
有用だった	22	28.2	1	100.0	23	29.1	23	29.1
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
不参加	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	78	100.0	1	100.0	79	100.0	79	100.0

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

＜意見・感想等＞

「非常に有用だった」理由

- ・相談員の苦労に寄り添った内容で同じ立場として話をしてくれたので、聞きやすかった。
- ・二次受傷はあって当たり前前認識を持つことができ気持ち楽になった。
- ・相談員の心のケアの必要性を改めて感じた。上司等組織の理解を得たい。また相談員同士、お互い留意したい。
- ・相談員は相談者に二次被害を与えないようにとはよく言われるが、二次受傷しないようにとは言われることはなく、相談員のメンタルにも配慮することが大切だと思った。
- ・相談業務にあたり、燃え尽きない方法が学べた。講師に代弁していただけた感がある。
- ・知らず知らずに受傷していることがわかった。持ち帰って担当者と共有しなければと思った。

「有用だった」理由

- ・今後相談を受けていく中で知っておくべき知識だと思いました。
- ・講師の方のお話の仕方も学ぶ部分が多かったです。
- ・二次受傷を防ぐための項目は自分も活用していこうと思った。“笑い”も大事。
- ・被害者の気持ち、自分たちの支援について気をつけなければならないこと、職場の中でも皆と色々話し合うことが大切と感じた。
- ・具体的で参考にできそうに思えた。
- ・体験談も絡めて興味深く聞くことができた。

情報提供「ストーカーの概要と被害防止のポイント」

	女	%	男	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	28	35.9	-	-	28	35.4	28	35.4
有用だった	48	61.5	1	100.0	49	62.0	49	62.0
あまり有用でなかった	2	2.6	-	-	2	2.5	2	2.5
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
不参加	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	78	100.0	1	100.0	79	100.0	79	100.0

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

＜意見・感想等＞

「非常に有用だった」理由

- ・日頃から顔と顔を合わせての連携が大切だと感じた。
- ・具体的な数値も示してくださり分かりやすかった。
- ・埼玉県警の細やかな取組、市町担当者、他県警との連携がきけて良かったです。持ち帰ります。
- ・法の改正にともない可能な介入と現在の対策としての具体性が把握できて良かった。
- ・ストーカーの状況がよくわかりました。地域の生活安全課との連携が大切だと思いました。
- ・現場で働く警察官の対応事例感想も語られ、内容的に充実していました。

「有用だった」理由

- ・ ストーカー関連の相談が増えているので勉強になった。もう少し警察との連携についてくわしく聞きたかった。
- ・ 警察の方の話を組織、対応の説明を受けられることが少ないためよかったです。
- ・ 事例で市の担当が行方不明届けを出せると知りました。
- ・ 警察の取組を理解できた。ただ都道府県間で現場への浸透度合いが違うと感じた。
- ・ 警察との連携について躊躇は無用と安心できた。

分科会「当事者の課題別ケース検討」

	女	%	男	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	55	70.5	-	-	55	69.6	55	71.4
有用だった	18	23.1	1	100.0	19	24.1	19	24.7
あまり有用でなかった	3	3.8	-	-	3	3.8	3	3.9
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
不参加	1	1.3	-	-	1	1.3		
無回答	1	1.3	-	-	1	1.3		
合計	78	100.0	1	100.0	79	100.0	77	100.0

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

＜意見・感想等＞

「非常に有用だった」理由

- ・ 自分が携わっている業務に関する内容だったので、非常に為になるお話でした。「暴力の連鎖」という表現を安易に使っていたことを反省しました。
- ・ 理解しているつもりになっていたこと、特に被害者の心理や、暴力心のポイントなど大変勉強になりました。
- ・ 具体的な事例をもとにグループ討議があり、分かりやすく、現場に持ち帰り、生かしていきたいと思った。
- ・ 事例を元にグループで協議ができたて、考えかたの違いがわかって勉強になった。
- ・ 第一線で活躍されている方から直接的な支援法を教えていただけて良かった。

「有用だった」理由

- ・ 時間がもっと欲しかった。内容がとても濃かったので、一つずつをもっと学びたかった。
- ・ 他市、県での困難事例について具体的にお話が聞け、今後同じようなことがあるかも知れないと勉強になった。
- ・ 他の分科会の様子も知りたい。
- ・ 同じケースでも相談員の視点には違いがあることがわかった。よりよい支援をするために広く視野を持ち相談スキルを上げる重要性を感じた。
- ・ ジェンダーの視点を敏感に意識するように心がけていきます。こんなもんだと見逃していることがあるような気がしました。
- ・ 自分自身の中にもまだまだジェンダーにとらわれているところがあるのではと反省した。人間関係の相談は色々な要素がからみ合っていて難しい。

ドラムサークル体験

	女	%	男	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	26	33.3	-	-	26	32.9	26	63.4
有用だった	15	19.2	-	-	15	19.0	15	36.6
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
不参加	25	32.1	1	100.0	26	32.9		
無回答	12	15.4	-	-	12	15.2		
合計	78	100.0	1	100.0	79	100.0	41	100.0

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

＜意見・感想等＞

「非常に有用だった」理由

- ・ 一言でとても楽しかった。情報交換会とは違う形で近づけた感があり、自然に話せた。
- ・ 非言語コミュニケーションの学びになった。また、リズムの再認識という気づきの機会となった。
- ・ 時間を少し短く
- ・ ドラムを叩くこと、それだけの事で皆の心が徐々につながり、1つになっていく経験は貴重なものでした。自然に(多分)1列になって進んで行く時の皆の楽しそうな顔。ファシリテーターのお二人に感謝と拍手をおくります。

「有用だった」理由

- ・楽器に触れたこと、皆さんとの交流ができて楽しかったです。ちょっと時間が長くて疲れました。
- ・とても楽しかった。リフレッシュできた。自助グループとかにもいいなあ・・・
- ・夜だったので、昼間でできれば参加者が増えるのではないかな。

分科会Ⅱ「新たなつながり方への対応」

	女	%	男	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	55	70.5	—	—	55	69.6	55	72.4
有用だった	19	24.4	1	100.0	20	25.3	20	26.3
あまり有用でなかった	1	1.3	—	—	1	1.3	1	1.3
全く有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
不参加	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	3	3.8	—	—	3	3.8	—	—
合計	78	100.0	1	100.0	79	100.0	76	100.0

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

「非常に有用だった」理由

- ・ステップファミリーの相談事例が少なかったことで、質や特徴など基本から知ることができてよかった。ステップチャイルド体験等理解のヒントも得られた。行政に相談に来る人は、既にステップファミリーの関係が破綻して、離婚を決意して来る方が多いので、もっと早い時期のケアを考えたい。
- ・ステップファミリー事例研究だけでなく、にわかステップファミリー体験をすることで、子ども/新家族の気持ちを理解できた。
- ・災害とジェンダーについてはいろいろな講演を過去にも聞いていたが、起こっているDVの事象から特徴を分析したことは今までになく新たな気づきとなった。
- ・若年女性の貧困について、その社会背景や構造を詳細に解説いただき、大変理解できた。また、グループワークでの話し合いでより具体的な課題を把握することができた。
- ・若年女性の全般的な問題と背景をデータも踏まえて提示され、近年の特徴である色々な意味での貧困の問題は、私たち相談員にとっても大きな課題の1つということでも、大きな収穫と思いました。グループワークも有用でした。

「有用だった」理由

- ・自分が気にかかっている問題に論理的に、実践的にアプローチできて、考えを深めることができた。
- ・再婚家庭の抱える問題はよく理解できた。再婚相手からの虐待、その防止をどうすべきか話していただきたかった。
- ・防災にあたる人と男女共同参画センターとが、手を取り合う必要性を感じた。
- ・被災者たちの現状を知り、とても驚いた。
- ・若年女性の貧困の元となるものがよくわかった。又、様々な要因が入り混じり支援も難しい。しかし、せっかつながった関係を切ることなく続けていかななくては・・・とも思う。

全体会

	女	%	男	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	37	47.4	—	—	37	46.8	37	57.8
有用だった	26	33.3	1	100.0	27	34.2	27	42.2
あまり有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
全く有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
不参加	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	15	19.2	—	—	15	19.0	—	—
合計	78	100.0	1	100.0	79	100.0	64	100.0

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

「非常に有用だった」理由

- ・他分科会との背景でのつながりを学ぶことができありがたかったです。
- ・5日の分科会の全体会もしてほしかったです。それぞれの問題がつながっていると実感できました。相談者は社会問題の最前線にいるのですね。
- ・各分科会のテーマはそれぞれ興味深いものだったので、共有機会があって良かったです。
- ・女性に対する課題が多様にあることを学んだ。

「有用だった」理由

- ・ 相談・支援体制において一番重要なのは連携。
- ・ 他の分科会の内容(概況)が聞けたこと、3日間の集約ができたことがとてもよかったです。
- ・ まとめが聞けたので、自分でも確認になった。
- ・ 参加できなかった他の分科会の内容を聞いて良かったが、もっと更に聞きたいと欲求不満にもなり複雑。

2 研修全体は、有用でしたか。

	女性	%	男性	%	合計	%	※%	※%
非常に有用だった	53	67.9	—	—	53	67.1	67.1	98.7
有用だった	24	30.8	1	100.0	25	31.6	31.6	
あまり有用でなかった	1	1.3	—	—	1	1.3	1.3	1.3
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	
無回答	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	78	100.0	1	100.0	79	100.0	100.0	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

＜意見・感想等＞

「非常に有用だった」理由

- ・ 基本をきっちりと見直す機会となったこと、また、今まで事例の少なかったケースの対応も含めて情報交換ができて、今度の業務に役立てることができると思う。
- ・ 講義とグループワークがとてもバランスよく、あっという間の3日間でした。今までの自分を振り返り、今後の業務に生かす手法やヒントを皆様から学ばせていただきました。また、全国で自分と同じように悩みながら、支援されている方々がいることを心強く感じました。
- ・ 日々の業務では、ついつい忙しさに流されて、大事な視点を見失いそうになっていたり、新しい情報を整理しきれいしなかったりしがちだったが、とらえ直しや整理ができ、考えることができた。
- ・ 講師の先生方がどなたもスペシャリストであり、現場にも即した話であったことがよかった。又、全国の研修員のつながりを持って、同志がいることが本当に心強い。
- ・ 事業所内では他の相談員と会うことはなく、月一回の話し合いしかないため情報不足だと感じていたから貴重な時間でした。

「有用だった」理由

- ・ 普段の業務からかけ離れて、時間をかけて学習すること、考えることに集中することができました。
- ・ 今時のテーマ、多岐にわたったテーマの分科会あり、面白かったです。
- ・ 相談員の経験にあわせた研修を希望します。一年目なもので、もっと基本的な話や、支援の基礎を教えてください。
- ・ 女性関連施設のあり方について考えるようになってきているので、もう少し詳しく聴いてみたいと思いました。
- ・ 交流・情報交換の機会があることが最大のメリット。講義だけなら地元でも聞くことはできる。

3 研修全体の満足度はいかがでしたか。

	女性	%	男性	%	合計	%	※%	※%
非常に満足した	40	51.3	—	—	40	50.6	50.6	96.2
満足した	35	44.9	1	100	36	45.6	45.6	
少し物足りなかった	3	3.8	—	—	3	3.8	3.8	3.8
物足りなかった	—	—	—	—	—	—	—	
無回答	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	78	100.0	1	100	79	100.0	100.0	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

「非常に満足した」理由

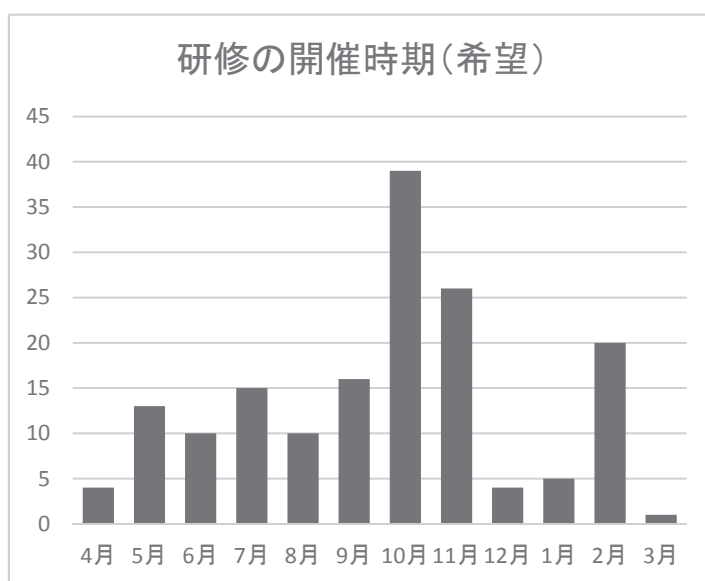
- ・多くのことを基礎から学ぶことができた。もう少し応用編などがあつたら嬉しかった。
- ・全体的に知識を広め、深めることを期待していたので、大いに役立った。この仕事に就いて間もない時期にこの研修を受けることができて、とてもタイミングが良かった。
- ・情報交換が出来たことは何よりも有益だった。環境の良さ、専門家の講義は言うまでもなく、大変有益でした。
- ・2泊3日というのは、なかなか時間がとりにくいが、反面、時間があるからこそ、じっくりと学べ、交流も深まった。テーマも興味のあることを選んでいただき、ありがたかった。
- ・テーマの設定、時間の配分ともに満足しています。講義のみでなく、話し合いの時間が設けられていることが大変良かったと思います。
- ・他地区の取り組み等、お話が聞けて良かったです。ネットワークもできました。

「満足した」理由

- ・NWECについてもう少し詳しく知りたかったが、全体的に、時間、質、量とも満足できた。
- ・もう少し研修時間があっても良いと思うくらいでした。せっかく仕事を休んで来ているので・・・。
- ・配慮された、ゆったりとしたすすめ方で負担にならない程度の課題、討議の仕方であったから。
- ・今回の研修で得られたこと職場に帰って伝えたいと思う。
- ・DV、性暴力に関係する研修は多いのでそれ以外のテーマでの話が今後も聴きたい。
- ・自分の仕事の社会的な意味づけを考えることができました。

4 研修の開催時期について(複数回答可)

月	人数	% (79名中)
4月	4	5.1
5月	13	16.5
6月	10	12.7
7月	15	19.0
8月	10	12.7
9月	16	20.3
10月	39	49.4
11月	26	32.9
12月	4	5.1
1月	5	6.3
2月	20	25.3
3月	1	1.3



開催時期・日程等についての意見

- ・年度当初に学び、その年の業務に生かしたい。
- ・年度が始まって半年くらいたった頃が新人にとっては学びが多いのではないかと思います。
- ・寒い時期は職場で風邪やインフルエンザでお休みする人があり人員が少なくなるので。
- ・冬季でない方がよい。台風時期も外して検討していただけるとよい。とにかく交通の心配のため。
- ・1～3月は他の研修や会議等が多くあり、3日間現場を離れるのは厳しい。6～12月位で開催していただけるとありがたい。
- ・新しい方などが少し慣れた頃の6月に研修を受けられてたら、支援に役立つ。10月、11月は他の研修が多く重なり職場に気を遣う。
- ・年度末前で、研修が一段落する月ですので、参加しやすい。但し、予算を他の研修で使い切ってる場合、自費参加となってしまう。
- ・冬季以外、新年度以外。
- ・寒いけれど、この時期なら研修会に出席しやすい。

平成26年度 女子中高生夏の学校 2014

～科学・技術・人との出会い～



1 趣 旨

女子中高生が「科学・技術にふれる」、科学・技術の世界で生き生きと活躍する女性たちと「つながる」、科学・技術に関心のある仲間や先輩とともに「将来を考える」ための機会として「女子中高生夏の学校2014～科学・技術・人との出会い～」を開催します。

このプログラムは、2泊3日の合宿研修を通じて、女子中高生と研究者・技術者、大学生・大学院生等が少人数を単位に親密に交流し、理系進路選択の魅力を伝えるものです。理系の分野も様々です。すでに理系の道を進んでいる女子中高生も、これから夢を追い求める人も、ちょっと不安な人も、より深くより広く自分たちの視野を広げてみませんか？

また、女子中高生の進路選択について、身近な支援者である保護者や教員向けのプログラムもそれぞれ設定しています。子どもの将来像が描けるよう、よきアドバイスができるように理系進路選択についての理解を深めます。

2 主 催

独立行政法人 国立女性教育会館

3 後 援

男女共同参画学協会連絡会

4 会 場

独立行政法人国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728 番地

電 話：0493-62-6724・6725

F A X：0493-62-6720

Eメールアドレス：progdiv@nwec.jp ホームページURL：<http://www.nwec.jp/>

5 期 日

平成26年8月7日（木）～8月9日（土）

6 参加者・定員

○科学・技術の分野に興味・関心のある女子

（中学校3年生、高校1～3年生、高等専門学校1～3年生） … 100名

○保護者・教員等 … 50名

7 日 程

【共通】…女子中高生、保護者、教員共通のプログラム

【女子中高生】…女子中高生用プログラム

【保護者】…保護者用プログラム

【教員】…教員用プログラム

<第1日 8月7日(木)>

【共通】開校式

13:00～13:30

開会宣言	湯浅 富久子	実行委員長(日本物理学会)
あいさつ	内海 房子	国立女性教育会館理事長
オリエンテーション	古澤 亜紀	茨城県立水戸農業高等学校教諭

【共通】サイエンスアンバサダーⅠ「自分の将来について考えよう」

13:30～14:00

夏学に参加するに当たり、合宿研修のオリエンテーションやグループ内での自己紹介、学生TA(ティーチングアシスタント)の講話などから、合宿研修のねらいや目的を理解したり、主体的に研修に参加する気持ちを高めたりします。

【共通】キャリア講演

14:15～15:45

過去の夏学卒業生でもあり、学生TAや夏学の企画運営に長く携わった女性や女子中高生にとって知名度のある企業で働く女性から、現在の生活や仕事のことなど理系進路の魅力についてお話を伺い、将来理系で学ぶこと、働くことの意義や多様な理系の進路について理解を深めます。

講師	松村 聡子	独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立那須甲子青少年自然の家事業推進係
	風間 頼子	株式会社日立製作所中央研究所 情報システム研究センター 社会情報システム研究部主任研究員

【女子中高生】学生企画「サイエンスバトル!？」

16:15～17:45

グループで協力し合い、学生スタッフが出題する課題やクイズに答えるスタンプラリーに挑戦しながら、グループの親交を深めます。

【保護者】【教員】夏の学校を知る

16:15～17:45

今までの夏学の様子をDVDで視聴したり、担当者から説明を受けたりすることにより、3日間の研修の流れや意義を理解するとともに、グループ討議等を通じてお互いの交流を深めます。

夕 食

18:00～19:00

【女子中高生】学生企画「i future～理系人生を体験しよう～」

19:15～20:45

はじめに女子中高生が興味関心のあるものや好きなことから将来の進路を考えられるようにマインドマップと呼ばれるイメージ図を作成します。その後ロールモデルとなる学生TAの人生を疑似体験できるゲームを行います。これらを通じて女子中高生が自分自身の将来をゲーム感覚で具体的に考えます。

【保護者】 【教員】サイエンスカフェⅠ

「日本学術会議、学会、大学、企業等の研究者・技術者との座談会」

19:15～20:45

学会、大学、企業等で活躍する研究者・技術者との対話やグループ討議などを通じて、理系の分野での女性の活躍や今後の期待に対する現状等を知り、女子中高生への支援の在り方について考えます。

講師 松尾 由賀利 日本学術会議連携会員（法政大学理工学部教授）
進行 森岡 由紀子 NEC（応用物理学会）
永合 由美子 東京大学工学部広報室、元ライオン（株）
（日本女性技術者フォーラム）
位野木 万理 工学院大学（日本女性技術者フォーラム）
為近 恵美 NTTアドバンステクノロジー株式会社

【共通】天体観望会＜希望者のみ参加＞

21:00～22:00

自然豊かな国立女性教育会館の夏の夜空を天体望遠鏡で観察します。

【女子中高生】国際交流「英語相談所」＜希望者のみ参加＞

21:00～22:00

翌日に行われる国際交流の時間に向けて、英語で話すことへの不安を取り除けるよう、女子中高生の相談に留学生TAが応じます。

＜第2日 8月8日（金）＞

【女子中高生】サイエンスアドベンチャーⅠ「ミニ科学者になろう」

9:00～11:30

理系の各分野における研究者・技術者と交流しながら、実験・実習にじっくりと取り組みます。進路を理系にするか文系にするか迷っている生徒向けの不思議体験コースと専門性の高いチャレンジコースの2種類の実験を用意します。

実験A 宇宙の星から学ぶエネルギー（Part3）福島から広がる科学の世界

B 金属の不思議

C バナナのDNA抽出実験と水をきれいにする実験

D 夢・化学ー21 楽しく、面白い化学実験を体験しましょう！

E 身近な川の水環境を調べよう

F 身近に生きる生物たちの生態

G 荒川を探検しよう！

H 地球惑星科学へようこそ

～Dr. ナダレンジャーの自然災害のサイエンスショー～

I LEDを光らせる

J 電子回路を組み立てよう！

LEDと光ファイバーで友達にメロディーを送ろう！

K コンピュータで探るバイオ分子の世界

L 線虫を使って知る遺伝子のしくみ

M 病気を科学しようー遺伝暗号に隠された秘密

N 作って・見て・測って知る、地球と宇宙の「波」のふしぎ

O 結び目のゲームを作って遊ぼう

P 見えない数？！複素数の世界で絵を描こう！

【保護者】【教員】実験・実習の参加・見学

9:00～11:30

女子中高生が取り組んでいるサイエンスアドベンチャーⅠ「ミニ科学者になろう」の実験や実習を実際に見学、参加することで、研修に取り組む女子中高生の姿を見たり、理系進路選択を応援する意識を高めたりします。

昼 食

11:30～12:45

集合写真の撮影（女子中高生のみ）

12:45～13:00

【女子中高生】サイエンスアドベンチャーⅡ「研究者・技術者と話そう」 13:00～15:40

女子中高生に理系進路選択の魅力を伝えるため、次の①～④のブースを設け、様々な人と交流します。様々な分野、世代の人と交流することで、理系進路選択への不安や悩み等の解決に近づける場とします。

①ポスター展示

36の展示ブースを設置し、協力学会、企業や大学等、様々な立場の研究者・技術者によるポスター展示や演示実験を行います。理系の世界で活躍する人たちや最先端の技術に触れる機会とします。

②キャリア相談

研究者・技術者や女子大学生・大学院生などが女子中高生の理系進路選択に関する相談に応じます。女子中高生の進路に関する不安や悩み等の解決や理系進路選択について明確な考えを持てるようにする機会とします。

③国際交流

海外から日本に来ている留学生や研究者・技術者に学校生活や日本での生活、研究内容や母国に帰ってからの夢などについて、英語を使ってインタビューします。女子中高生のコミュニケーション能力や語学力の向上に生かします。

④夏学卒業生 Home Coming Day

過去の「夏の学校」卒業生が会場に集まり、参加者である女子中高生に対して理系進路に関する相談活動を行います。女子中高生が理系への進路に対して明確な考えが持てるようにする機会とします。

【保護者】【教員】サイエンスカフェⅡ「ポスター展示・キャリア相談」 13:00～15:40

女子中高生の理系進路選択への支援に向けて、男女共同参画学協会連絡会や企業、大学等のポスターブースを回り、最先端の科学技術について知る機会とします。また理系の進路について相談することで我が子や生徒の進路に関する不安や悩み等の解決に近づける場とします。

【女子中高生】学生企画「Gate Way」

16:10～17:40

女子中高生が理系の進路についてさらに深く知るとともに、進路選択における悩みを相談できるよう、様々な分野や年代の人々とざっくばらんに話し合います。また、前日の学生企画「i future～理系人生を体験しよう」で作成したマインドマップの完成に向けて、研究者・技術者や学生TAからアドバイスを受ける時間を設けます。

【保護者】サイエンスカフェⅢ「研究者・技術者、大学生、新社会人との座談会」

16:10～17:40

女性の研究者・技術者、学生TA、新社会人との座談会を通じて、理系進路選択の現状やその魅力について知る機会とします。

【教員】サイエンスカフェⅢ「中学、高校、大学の教員の連携」 16:10～17:40

中学、高校、大学の教員による連携を促進するために、理科や数学など、理系科目の授業展開などについて、講義やグループワークを行います。

【共通】交流会 18:00～19:00

夕食をとりながら、参加者同士、講師や実行委員、女子大学生・大学院生との交流を深めます。

【女子中高生】学生企画「キャリア・プランニング」 19:15～20:45

これまでの女子中高生と研究者・技術者、学生TAなどの交流を踏まえ、各グループでの自分たちの具体的な進路についての話し合いや研究者・技術者へのインタビューなどを通じて、オリジナルの「マインドマップ」を完成させます。

【保護者】【教員】サイエンスカフェⅣ「保護者・教員と留学生との国際交流」

19:15～20:45

海外からの留学生と保護者・教員が交流する場を設けます。それぞれの国の生活、文化、科学・技術など、諸外国の状況について理解を深めるとともに我が国の現状について再確認する機会とします。

【共通】研究者・技術者やTAへのキャリア・進学懇談会＜希望者のみ参加＞

21:00～22:00

女子中高生の理系進路選択に向けて、研究者・技術者や学生TAとさらに話をしたいという参加者のために、進学や就職など、将来のことに関する懇談会を行います。

【女子中高生】国際交流「もっと話そう英語」＜希望者のみ参加＞ 21:00～22:00

国際交流の時間だけでは英語を話すことが物足りなかった女子中高生のために、留学生TAが英語での会話や質問に応じます。

＜第3日 8月9日（土）＞

【女子中高生】一体感型実験 9:00～11:00

科学的に視野を広げる経験を大人数で共有できるような実験を行います。参加者一同が同じテーマのもと、製作から完成までの過程を経験し、一体感を味わいます。

【保護者】夏の学校を振り返る 9:00～10:00

女子中高生の理系進路に関する保護者同士の忌憚のない意見交換を行い、3日間の研修を振り返ります。

【教員】夏の学校を振り返る 9:00～10:00

それぞれの学校に戻った時にこの合宿研修の経験をどう生かすかについて考える機会として、教員同士の忌憚のない意見交換を行って3日間の研修を振り返ります。

【保護者】【教員】一体感型実験の参加・見学 10:00～11:00

女子中高生が取り組む一体感型実験に保護者や教員も参加や見学を行います。

【共通】学生企画「夏学振り返りと表彰式」

11:15～12:00

参加者が一堂に会し、3日間の振り返りを学生スタッフの企画により行います。

【共通】サイエンスアンバサダー任命式・閉校式

12:00～12:45

女子中高生の参加者全員をサイエンスアンバサダーとして任命します。自分の学校や地域に戻った後、アンバサダーとして夏学の体験を伝えます。

任命 湯浅 富久子 実行委員長（日本物理学会）

平成26年度 女子中高生夏の学校2014参加者概況

2015年9月25日 現在

1. 学年

中学生	3年	42	42
高校生	1年	37	70
	2年	29	
	3年	4	
合計		112	

2-1. 教員、保護者等

	教員	保護者	合計
女性	5	15	20
男性	6	3	9
合計	11	18	29

5. 都道府県別

※政令指定都市(カッコ内)は都道府県の内数に含む。

※学校の所在地と居住地が違う場合、学校の所在地による。

		中学生	高校生	中高生合計	教員	保護者
北海道・東北	北海道	1	—	1	—	1
	（札幌市）	（—）	—	（—）	（—）	（—）
	青森県	—	2	2	—	—
	岩手県	—	—	—	—	—
	宮城県	3	1	4	—	1
	（仙台市）	（1）	（1）	（2）	（—）	（1）
	秋田県	—	2	2	—	1
	山形県	1	2	3	—	—
	福島県	5	2	7	—	3
関東	茨城県	3	1	4	—	2
	栃木県	2	6	8	1	—
	群馬県	2	2	4	—	—
	埼玉県	1	3	4	1	—
	（さいたま市）	（1）	—	（1）	（—）	（—）
	千葉県	1	2	3	3	1
	（千葉市）	（—）	（2）	（2）	（1）	（—）
	東京都	5	13	18	—	1
	神奈川県	—	2	2	1	—
	（横浜市）	（—）	—	（—）	（—）	（—）
	（川崎市）	（—）	（1）	（1）	（1）	（—）
（相模原市）	（—）	（—）	（—）	（—）	（—）	
甲信越	山梨県	—	2	2	—	—
	新潟県	—	—	—	—	—
	（新潟市）	（—）	—	（—）	（—）	（—）
	長野県	—	2	2	1	—
北陸・東海	富山県	1	—	1	—	—
	石川県	—	—	—	—	—
	福井県	—	—	—	—	—
	岐阜県	1	—	1	—	—
	静岡県	4	6	10	1	1
	（静岡市）	（—）	（1）	（1）	（—）	（1）
	（浜松市）	（—）	—	（—）	（—）	（—）
	愛知県	1	2	3	1	1
	（名古屋市）	（—）	（2）	（2）	（1）	（—）
	三重県	2	—	2	—	—
近畿	滋賀県	—	—	—	—	—
	京都府	—	—	—	—	—
	（京都市）	（—）	（—）	（—）	（—）	（—）
	大阪府	—	—	—	—	—
	（大阪市）	（—）	（—）	（—）	（—）	（—）
	（堺市）	（—）	（—）	（—）	（—）	（—）
	兵庫県	—	3	3	—	—
	（神戸市）	（—）	（2）	（2）	（—）	（—）
	奈良県	—	—	—	—	—
和歌山県	—	—	—	—	—	
中国・四国	鳥取県	—	—	—	—	—
	島根県	—	—	—	—	—
	岡山県	2	—	2	—	—
	（岡山市）	（2）	（—）	（2）	（—）	（—）
	広島県	2	1	3	—	1
	（広島市）	（—）	（1）	（1）	（—）	（1）
	山口県	1	2	3	—	1
	徳島県	—	—	—	—	—
	香川県	—	2	2	—	2
	愛媛県	—	3	3	—	—
高知県	—	—	—	1	—	
九州・沖縄	福岡県	—	3	3	—	—
	（北九州市）	（—）	（—）	（—）	（—）	（—）
	（福岡市）	（—）	（2）	（2）	（—）	（—）
	佐賀県	—	1	1	—	—
	長崎県	1	—	1	—	—
	熊本県	1	3	4	—	—
	（熊本市）	（—）	（1）	（1）	（—）	（—）
	大分県	—	—	—	—	—
	宮崎県	1	1	2	—	1
	鹿児島県	1	—	1	1	1
沖縄県	—	1	1	—	—	
合計		42	70	112	11	18

※地域ブロック別内訳

	中学生	高校生	教員	保護者	合計
北海道・東北	10	9	—	6	25
関東	14	29	6	4	53
甲信越	—	4	1	—	5
北陸・東海	9	8	2	2	21
近畿	—	3	—	—	3
中国・四国	5	8	1	4	18
九州・沖縄	4	9	1	2	16
合計	42	70	11	18	141

「女子中高生夏の学校2014～科学・技術・人との出会い～」 アンケート集計結果(女子中高生用)

参加者 112 名
アンケート回答数 104 件
アンケート回答率 92.9 %

1. あなた自身についてお聞かせください。

◆都道府県

	人数	%		人数	%		人数	%
北海道	1	1.0	石川県	-	-	岡山県	2	1.9
青森県	2	1.9	福井県	-	-	広島県	3	2.9
岩手県	-	-	山梨県	2	1.9	山口県	2	1.9
宮城県	4	3.8	長野県	1	1.0	徳島県	-	-
秋田県	2	1.9	岐阜県	-	-	香川県	2	1.9
山形県	3	2.9	静岡県	9	8.7	愛媛県	3	2.9
福島県	7	6.7	愛知県	3	2.9	高知県	-	-
茨城県	4	3.8	三重県	2	1.9	福岡県	2	1.9
栃木県	8	7.7	滋賀県	-	-	佐賀県	-	-
群馬県	4	3.8	京都府	-	-	長崎県	1	1.0
埼玉県	4	3.8	大阪府	-	-	熊本県	3	2.9
千葉県	4	3.8	兵庫県	1	1.0	大分県	-	-
東京都	16	15.5	奈良県	-	-	宮崎県	2	1.9
神奈川県	2	1.9	和歌山県	-	-	鹿児島県	1	1.0
新潟県	-	-	鳥取県	-	-	沖縄県	1	1.0
富山県	1	1.0	島根県	-	-	無回答	2	1.9
						合計	104	100.0

◆今後の具体的な進路

(※は「無回答」を除いた割合)

	人数	%	※%
理系	73	70.2	71.6
文系	5	4.8	4.9
まだ決めていない	24	23.1	23.5
無回答	2	1.9	
合計	104	100.0	100.0

2. 今回の企画を何で知りましたか?該当するものすべてに○をつけてください(複数回答)。

	人数	% (104名中)
①学校・先生から	72	69.2
②国立女性教育会館の広報(HP、メルマガ等)で見て	7	6.7
③新聞の記事	-	-
④親、家族、親戚から	29	27.9
⑤その他	3	2.9

<その他の内容>

- ・ 関西化学塾で知った
- ・ 友達の紹介を受けて
- ・ お茶大のAO推薦基準のHPを見て

3. あなたが「女子中高生夏の学校2014」に参加した理由は何ですか（複数回答）。

	人数	% (104名中)
①科学・技術分野に興味があるから	55	52.9
②将来の進路を考える参考にするから	68	65.4
③講師の先生に関心があるから	5	4.8
④おもしろそうなプログラムがあるから	47	45.2
⑤他校の生徒と話をしてみたかったから	19	18.3
⑥大学生と話をしてみたかったから	14	13.5
⑦先生に勧められたから	33	31.7
⑧親等に勧められたから	22	21.2
⑨その他	5	4.8

＜その他の内容＞

- ・女子大への進学は自分に合ってるのかを考える為
- ・友達に誘われたから
- ・いっぱい実験できると思ったから
- ・人を好きになるため
- ・理科が嫌いなので、好きになりたいと思ったから

4. 各プログラムの内容について

【1日目】

サイエンスアンバサダーⅠ

（※は「参加していない」「無回答」を除いた割合）

	人数	%	※%
非常に有用だった	24	23.1	24.2
有用だった	71	68.3	71.8
あまり有用ではなかった	4	3.8	4.0
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	2	1.9	
無回答	3	2.9	
合計	104	100.0	100.0

＜感想＞

- ・これからの3日間のことを考え、とてもワクワクした
- ・夏学がさらに楽しみになりました。理系について理解したいと思います
- ・周りの人と仲良くなれたし将来について、考える機会になれたので、良かったです

キャリア講演① 松村 聡子さん

	人数	%	※%
非常に有用だった	78	75.0	76.5
有用だった	24	23.1	23.5
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	2	1.9	
無回答	-	-	
合計	104	100.0	100.0

＜感想＞

- ・理系について悩んでいたの、すごく参考になりました。人生は何があるか分からないと思った
- ・松村さんのように私もいつか夏学にcome back出来たらいいなと思います
- ・人生を決めるのは自分！自分の好きなことなども含め進路を決めるようにしたいです

キャリア講演② 風間 頼子さん

	人数	%	※%
非常に有用だった	68	65.4	66.6
有用だった	32	30.8	31.4
あまり有用ではなかった	2	1.9	2.0
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	2	1.9	
無回答	-	-	
合計	104	100.0	100.0

＜感想＞

- ・ 研究者になってからのことが分かったので、とても詳しく研究者の生活について分かった
- ・ 企業の研究所という選択もあること、その良さを知ることができ、非常に参考になりました
- ・ 自分の人生は自分で決めないといけないと思った。異分野との交流も大切だと思った

学生企画「サイエンスバトル！？」

	人数	%	※%
非常に有用だった	66	63.4	64.1
有用だった	34	32.7	33.0
あまり有用ではなかった	2	1.9	1.9
有用ではなかった	1	1.0	1.0
参加していない	1	1.0	
無回答	-	-	
合計	104	100.0	100.0

＜感想＞

- ・ グループの中で知っていること得意なことが皆違っていておもしろいと思った。魔女のインパクトが強かった
- ・ 同じ班の人と仲良くなる為には、すごくいいと思いました。あと、みんなと楽しめました
- ・ 楽しい企画ばかりだった。班の人とうちとけられた。

学生企画「i future～理系人生を体験しよう」

	人数	%	※%
非常に有用だった	55	52.9	53.9
有用だった	42	40.4	41.2
あまり有用ではなかった	4	3.8	3.9
有用ではなかった	1	1.0	1.0
参加していない	-	-	
無回答	2	1.9	
合計	104	100.0	100.0

＜感想＞

- ・ 自分と似たような人の人生を知ることによって自分の人生を想像することが出来ました
- ・ 色々な先輩方の人生や大学生活を知ることが出来、参考になった
- ・ 自分と同じタイプのTAさんの話やアドバイスを聞くことが出来て良かったです

天体観望会

	人数	%	※%
非常に有用だった	22	21.2	34.4
有用だった	27	26.0	42.1
あまり有用ではなかった	11	10.6	17.2
有用ではなかった	4	3.8	6.3
参加していない	33	31.7	
無回答	7	6.7	
合計	104	100.0	100.0

＜感想＞

- ・ 天気が良かったらなあとは思ってたけど楽しかった
- ・ 雲が出ていて、月しか見えなかったけど、また機会があれば星を見てみたいです
- ・ 月のクレーターを見ることができたので嬉しかった。なかなか見れないので良かった

国際交流「英語相談所」

	人数	%	※%
非常に有用だった	21	20.2	77.8
有用だった	4	3.8	14.8
あまり有用ではなかった	2	1.9	7.4
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	65	62.6	
無回答	12	11.5	
合計	104	100.0	100.0

＜感想＞

- ・ 生の英語で話せてよかったです
- ・ もっともっと英語を話せるようになりたいという意味が高まりました

- ・自分の英語力のなさを痛感しました

【2日目】

サイエンスアドベンチャーⅠ「ミニ科学者になろう」

	人数	%	※%
非常に有用だった	70	67.3	67.3
有用だった	29	27.9	27.9
あまり有用ではなかった	4	3.8	3.8
有用ではなかった	1	1.0	1.0
参加していない	—	—	
無回答	—	—	
合計	104	100.0	100.0

＜感想＞

- ・自分の興味がある分野について詳しく学ぶことが出来て楽しかったです
- ・物理の実験とっても楽しかったです。学校の授業も、あんなにだったらいいのになと思います
- ・じっくりと専門的な実験をすることが出来て良かったと思います

サイエンスアドベンチャーⅡ「研究者・技術者と話そう」

	人数	%	※%
非常に有用だった	86	82.7	82.7
有用だった	15	14.4	14.4
あまり有用ではなかった	3	2.9	2.9
有用ではなかった	—	—	—
参加していない	—	—	
無回答	—	—	
合計	104	100.0	100.0

＜感想＞

- ・興味はあるけど、よく分からなかった分野について知ることが出来て良かった
- ・実際に職業についている方の話を聞くことで具体的なことを知ることができました
- ・自分の知らなかった分野の職を知ることができ、職業選択の参考になった

学生企画「Gate Way」

	人数	%	※%
非常に有用だった	81	77.9	77.9
有用だった	18	17.3	17.3
あまり有用ではなかった	5	4.8	4.8
有用ではなかった	—	—	—
参加していない	—	—	
無回答	—	—	
合計	104	100.0	100.0

＜感想＞

- ・TAさんからリアルな話を聞くことが出来た
- ・自分が持っている悩みなどが少し楽になり、とても視野が広がった
- ・真剣にTAさんが話を聞いてくださったので、こっちもちゃんと話が出来て良かったです

交流会

	人数	%	※%
非常に有用だった	50	48.1	48.6
有用だった	43	41.3	41.7
あまり有用ではなかった	10	9.6	9.7
有用ではなかった	—	—	—
参加していない	—	—	
無回答	1	1.0	
合計	104	100.0	100.0

＜感想＞

- ・自分が話した人ではなく周りからも面白い話が聞こえてきて、もっといろいろな分野のことを知りたくなった
- ・留学生の方と話すことによって国際的な視野を持つことが出来ました
- ・他の班の子とも仲良くなれました。色々な人と顔を会わせることが出来ました

学生企画「キャリア・プランニング」

	人数	%	※%
非常に有用だった	60	57.6	58.2
有用だった	42	40.4	40.8
あまり有用ではなかった	1	1.0	1.0
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	-
無回答	1	1.0	-
合計	104	100.0	100.0

<感想>

- ・ 曖昧だった将来について、しっかり考えることが出来て良かった
- ・ 結構、自分の将来を想像するのは難しかったです。理想通りになるように努力したいです。
- ・ 人生を考えるのは楽しい

研究者・技術者やTAへのキャリア・進学懇談会

	人数	%	※%
非常に有用だった	22	21.2	64.7
有用だった	11	10.6	32.4
あまり有用ではなかった	1	1.0	2.9
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	57	54.7	-
無回答	13	12.5	-
合計	104	100.0	100.0

<感想>

- ・ 分からないことだらけだったけど優しく教えてもらってよかった。
- ・ 将来のことに不安がある人は私も含めて、いっぱいいると思うのでいいことだと思います。
- ・ 工学部への興味がわいてきた。機械工学について知れて良かった。

国際交流「もっと話そう英語」

	人数	%	※%
非常に有用だった	18	17.3	75.0
有用だった	4	3.8	16.7
あまり有用ではなかった	2	1.9	8.3
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	66	63.5	-
無回答	14	13.5	-
合計	104	100.0	100.0

<感想>

- ・ 英語を話す機会があるのは嬉しい
- ・ 自分の将来についての考えを共有出来た
- ・ 全然話せなかったけどジェスチャーや単語で伝わって楽しかった

【3日目】

一体感型実験

	人数	%	※%
非常に有用だった	22	21.2	28.2
有用だった	31	29.7	39.8
あまり有用ではなかった	22	21.2	28.2
有用ではなかった	3	2.9	3.8
参加していない	-	-	-
無回答	26	25.0	-
合計	104	100.0	100.0

<感想>

- ・ 難しくて分からないところがあったけど皆で協力することが出来ました
- ・ 内容が、かなり難しかったです。最後なんとなくで終わってしまっって…もっとバーンと最後キメてみたかったです
- ・ コンピューターの中の数字の仕組みが分かり不思議だと思いました。人間で表すのは難しいです

学生企画「夏学振り返りと表彰式」

	人数	%	※%
非常に有用だった	13	12.5	86.7
有用だった	2	1.9	13.3
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	12	11.5	
無回答	77	74.1	
合計	104	100.0	100.0

<感想>

- ・ やりたかった。台風には負けます。
- ・ やりたかった。
- ・ 3日間の活動を振り返ることが出来ました

サイエンスアンバサダー任命式・閉校式

	人数	%	※%
非常に有用だった	13	12.5	76.5
有用だった	4	3.8	23.5
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	12	11.5	
無回答	75	72.2	
合計	104	100.0	100.0

<感想>

- ・ 3日間とても楽しかったです
- ・ これからアンバサダーになれるよう頑張りたいと思います

5. 「女子中高生夏の学校2014」全体についてお聞きします。

(※は「無回答」を除いた割合)

	人数	%	※%
非常に満足した	80	77.0	80.0
満足した	18	17.3	18.0
少し物足りなかった	2	1.9	2.0
物足りなかった	-	-	-
無回答	4	3.8	
合計	104	100.0	100.0

6. 理系への進路や科学・技術分野の職業選択について、「女子中高生夏の学校」に参加して感じたこと

- ・ 私の知らない分野の人の話を聞いて自分の考えてなかった将来を色々想像出来て良かったです。視野を広げて、いろんなことにチャレンジして自分の道をしっかり決めていこうと思いました。今度はTAになって戻ってきたいです。
- ・ 元々、理系に進むつもりでいたが、さらに興味を持ちました。理系の中で迷っていた私は色々な方々から話を聞いて、やはり自分が本当に一番やりたいことやるべきことを、やるべきだと思いました。この「夏学」に参加したことにより今まではあまり知らなかった分野や具体的な内容についても知ることができました。また多くの同世代の理系女子と会うことが出来たことは、とても良い刺激になりました。
- ・ 理系の職業の紹介や個別相談、講演会など理系を目指すにあたっては、とっても丁寧で手厚いプログラムで充実していた。常に忙しかった分あとから思うと、とても楽しかったし理系に対する理解、興味はふくらんだ。でも、文系とも迷っている私にとっては少し理系を強くすすめられ過ぎている気がした。文系の視点の理解者も夏学に来てもらってフラットな見方で進路を考えたかった
- ・ 理系に進むことが難しそうでテストの点もあまり良くなり不安があったけど、今日夏学に参加させていたでいて少し自分に自信を持つことが出来ました。また、私の地元では私と似たような職業に就きたいと思っている人がいなかったけど、夏学で同じ夢を持っている人が見つかって語ることが出来たので良かったです。その友達と励ましあいながら、これからも医者という夢に向かって頑張ります。そして出来れば来年も参加して、もっともっと友達を見つけたいです。今回は貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

- ・夏の学校に参加してみて一口に理系といっても様々な分野があることが分かりました。特にポスターセッションの時には具体的に「こんな研究をやってるんだ」と初めて知ったり話を聞いて面白いと思った分野もありました。自分が知らなかった知識を沢山得られたし、沢山話が出来て不安に思っていたことを相談できたことが、とても良かったです。まだまだ、もっとやりたかった！早く終わってしまって、とても残念です。また夏学に来たいです
- ・一つの道に絞らず、色んな道を考えてみようと思いました。今年は受験。悩むことも多いですが、今回の事を生かし自分に合う進路を考えていきたいと思います。また、色んなことを教えてくださったTAの皆さん、ありがとうございました。すごく励みになりました。「理系は無理」と思っていた私も、少し理系の方も考えようと思います。本当にありがとうございました！夏学！
- ・最初は、どちらかというと文系よりだったけど、GATEWAYなどで話をして、やっぱり理系にいかうと思いました。リケジョが沢山いて、とてもいい刺激になったし、様々な仲間に出会えて本当に参加して良かったです。これからは理系分野を中心に沢山勉強したいです。
- ・元々、進路は決まっていたけれど3日間を通して色んな職業を知り、進路は沢山あるんだなと思いました。また、帰ってから、ゆっくり進路については考えたいと思います。TAやスタッフの皆さんは、とても優しく友達も出来て企画も充実していて、とても楽しい3日間を過ごすことが出来ました。本当に来て良かったです。
- ・まだ文系か理系か、決められていませんが参加する前よりは心が楽になりました。沢山の方々にアドバイスをいただいたり相談にのってくださったので、とても嬉しかったです
- ・最初は不安でしたが楽しい企画のお陰で沢山の友達を作ることが出来ました。日本各地から来た、中高生と話せたことは、とても刺激的でした。今回できた新しい友達を大切にして、これから勉強とか色々頑張りたいと思います

「女子中高生夏の学校2014～科学・技術・人との出会い～」 アンケート集計結果(教員用)

参加者 11 名
アンケート回答数 9 件
アンケート回答率 81.8 %

1. あなた自身についてお聞かせください。

◆都道府県

	人数	%		人数	%		人数	%
北海道	-	-	石川県	-	-	岡山県	-	-
青森県	-	-	福井県	-	-	広島県	-	-
岩手県	-	-	山梨県	-	-	山口県	-	-
宮城県	-	-	長野県	-	-	徳島県	-	-
秋田県	-	-	岐阜県	-	-	香川県	-	-
山形県	-	-	静岡県	1	11.1	愛媛県	-	-
福島県	-	-	愛知県	1	11.1	高知県	1	11.1
茨城県	-	-	三重県	-	-	福岡県	-	-
栃木県	1	11.1	滋賀県	-	-	佐賀県	-	-
群馬県	-	-	京都府	-	-	長崎県	-	-
埼玉県	1	11.1	大阪府	-	-	熊本県	-	-
千葉県	2	22.3	兵庫県	-	-	大分県	-	-
東京都	-	-	奈良県	-	-	宮崎県	-	-
神奈川県	1	11.1	和歌山県	-	-	鹿児島県	1	11.1
新潟県	-	-	鳥取県	-	-	沖縄県	-	-
富山県	-	-	島根県	-	-	無回答	-	-
						合計	9	100.0

2. 今回の企画を何で知りましたか?該当するものすべてに○をつけてください(複数回答)。

	人数	% (9名中)
①学校・先生から	7	77.8
②国立女性教育会館の広報(HP、メルマガ等)で見て	5	55.6
③新聞の記事	-	-
④生徒、子ども、家族、親戚から	-	-
⑤その他	1	11.1

<その他の内容>

- ・ 内閣府メールマガジン

3. あなたが「女子中高生夏の学校2014」に参加した理由を教えてください(複数回答)。

	人数	% (9名中)
①理系進路選択の知識を得るため	7	77.8
②生徒の進路について悩んでいるため	2	22.2
③理系進路選択事業に関心があるため	4	44.4
④実験やポスター展示等に関心があるため	4	44.4
⑤講師に感心があるため	2	22.2
⑥情報交換のため	5	55.6
⑦その他	-	-

4. 各プログラムの内容はいかがでしたか？

【1日目】

サイエンスアンバサダーⅠ

(※は「参加していない」「無回答」を除いた割合：以下同じ)

	人数	%	※%
非常に有用だった	1	11.1	12.5
有用だった	4	44.5	50.0
あまり有用ではなかった	3	33.3	37.5
有用ではなかった	—	—	—
参加していない	1	11.1	
無回答	—	—	
合計	9	100.0	100.0

<感想>

- ・もう少し卒業生の体験談を開く機会を増やし、夏学への期待感をあおりアシスタントを身近に感じられるようにした方がよい

キャリア講演① 松村 聡子さん

	人数	%	※%
非常に有用だった	5	55.6	55.6
有用だった	3	33.3	33.3
あまり有用ではなかった	1	11.1	11.1
有用ではなかった	—	—	—
参加していない	—	—	
無回答	—	—	
合計	9	100.0	100.0

<感想>

- ・進路選択で悩みながらも夢を追及していく情熱が感じられた
- ・進路について色々な視点から考えられるよう参加者の道が開けたと思う。共通の悩みや目標を感じ合えたのではないかな
- ・本研修の導入に最適の人選でした

キャリア講演② 風間 頼子さん

	人数	%	※%
非常に有用だった	4	44.4	44.4
有用だった	4	44.4	44.4
あまり有用ではなかった	1	11.2	11.2
有用ではなかった	—	—	—
参加していない	—	—	
無回答	—	—	
合計	9	100.0	100.0

<感想>

- ・女性研究者としての具体的な姿が分かり魅力的だった
- ・女性のキャリア進出に対して期待感がもてたと思う。研究者に対して具体的に理解が深まったのではないかな
- ・理系女子の実生活が、良く分かった。

夏の学校を知る

	人数	%	※%
非常に有用だった	1	11.1	14.3
有用だった	5	55.6	71.4
あまり有用ではなかった	1	11.1	14.3
有用ではなかった	—	—	—
参加していない	—	—	
無回答	2	22.2	
合計	9	100.0	100.0

<感想>

- ・何の知識も持たずに参加した私にとっては夏学の意味や魅力について知る、より良いオリエンテーションでした
- ・スライドを使って日程説明してもいいのでは。教員や保護者の別プログラムの必要性は分かったが、もう少し学生達の様子を何をしているのかをしっかりと見たかった。キャリア講演した講師の話がもっと聞きたかった

サイエンスカフェⅠ

	人数	%	※%
非常に有用だった	2	22.2	22.2
有用だった	7	77.8	77.8
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	
無回答	-	-	
合計	9	100.0	100.0

＜感想＞

- ・多くの参加者とグループ討議することで、いろいろな意見や考え方を共有できた
- ・保護者の理系のイメージを知ることが出来た
- ・もっと時間があると良かった

天体観望会

	人数	%	※%
非常に有用だった	-	-	-
有用だった	4	44.4	100.0
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	4	44.4	
無回答	1	11.2	
合計	9	100.0	100.0

＜感想＞

- ・月って、あんなに明るく見えるものなんですね。びっくりしました
- ・もっと天気が良ければ・・・。
- ・月しか見られなくて残念

【2日目】

実験・実習の参加、見学

	人数	%	※%
非常に有用だった	8	88.9	88.9
有用だった	1	11.1	11.1
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	
無回答	-	-	
合計	9	100.0	100.0

＜感想＞

- ・子供が関心を持つ実験ばかりで、見ている私も楽しかったです。
- ・地学の現象は目の前で再現してみせることができたのだと目からウロコの授業だった。
- ・2コマあってもいいかも！1つだけでは足りない、おもしろかった。

サイエンスカフェⅡ ポスター展示・キャリア相談

	人数	%	※%
非常に有用だった	7	77.8	87.5
有用だった	1	11.1	12.5
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	
無回答	1	11.1	
合計	9	100.0	100.0

＜感想＞

- ・ポスターセッション形式で様々な分野や領域のことができてよかった
- ・日頃の学会より女性が多く生徒が話しかけやすい状況がつくられていたように思われる。ポスター展示におおらず興味があることをもってきていたので学会への垣根を下げて入口が広がっている
- ・輝く女性研究者の姿に至る所で見られる部分で参加者にも好印象でした

サイエンスカフェⅢ 中学、高校、大学の教員の連携

	人数	%	※%
非常に有用だった	4	44.5	50.0
有用だった	3	33.3	37.5
あまり有用ではなかった	1	11.1	12.5
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	-
無回答	1	11.1	-
合計	9	100.0	100.0

<感想>

- ・ 教員として田中先生の講話は大変勉強になった。大学等の先生ともっと交流できれば、なおよかった
- ・ ポスターに関する感想を发表するのではなく、理科に柔らかなイメージを持っている人が多いので理系への道を広げるためなどのテーマで話してみたかった
- ・ 連携というテーマには迫れていない感じです

交流会

	人数	%	※%
非常に有用だった	4	44.4	50.0
有用だった	4	44.4	50.0
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	-
無回答	1	11.2	-
合計	9	100.0	100.0

<感想>

- ・ おいしい料理を囲んで多くの人と交流できた
- ・ サイエンスカフェⅢで話を聞きに来てくれた方との話ができた。
- ・ フリーに話が出来るといい機会でした。

サイエンスカフェⅣ 保護者・教員と留学生との国際交流

	人数	%	※%
非常に有用だった	3	33.3	42.9
有用だった	4	44.5	57.1
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	-
無回答	2	22.2	-
合計	9	100.0	100.0

<感想>

- ・ 国が変われば教育状況も変わるのだと改めて実感できた。韓国はいろいろな意味ですごい……。
- ・ 外国の教育状況や制度は知らなかったのがためになった。
- ・ 海外の現状を知ることができた

研究者・技術者やTAへのキャリア・進学懇談会

	人数	%	※%
非常に有用だった	1	11.1	50.0
有用だった	1	11.1	50.0
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	4	44.5	-
無回答	3	33.3	-
合計	9	100.0	100.0

<感想>

- ・ 教員として理系をでた、いち先輩として生徒の話を聞いてみたかった

【3日目】

夏の学校を振り返る

	人数	%	※%
非常に有用だった	3	33.3	42.9
有用だった	4	44.5	57.1
あまり有用ではなかった	—	—	—
有用ではなかった	—	—	—
参加していない	—	—	—
無回答	2	22.2	—
合計	9	100.0	100.0

＜感想＞

- ・多くの先生と話しあえてよかったです。
- ・参加した先生方とディスカッションでき良かった
- ・時間が足りなかったが、振り返る大切な時間はもてました

一体型実験の参加・見学

	人数	%	※%
非常に有用だった	—	—	—
有用だった	3	33.3	75.0
あまり有用ではなかった	—	—	—
有用ではなかった	1	11.1	25.0
参加していない	2	22.3	—
無回答	3	33.3	—
合計	9	100.0	100.0

＜感想＞

- ・生徒達への伝わりが悪く内容が難しすぎたかもしれない。一生懸命話し合う様子はあったが何をやっているか分からない子たちの方が多かったように感じる。成功した時の感動も共感も少なかった。試みとしては良かった。全体で何か理科のことを再現や体験する試みはありだと思う。
- ・今回の課題は少し難しかったかもしれませんが、でも、このような実験とてもいいと思います。

学生企画 夏学振り返りと表彰式

	人数	%	※%
非常に有用だった	—	—	—
有用だった	1	11.1	100.0
あまり有用ではなかった	—	—	—
有用ではなかった	—	—	—
参加していない	1	11.1	—
無回答	7	77.8	—
合計	9	100.0	100.0

サイエンスアンバサダー任命式・閉校式

	人数	%	※%
非常に有用だった	—	—	—
有用だった	1	11.1	100.0
あまり有用ではなかった	—	—	—
有用ではなかった	—	—	—
参加していない	1	11.1	—
無回答	7	77.8	—
合計	9	100.0	100.0

5. 「女子中高生夏の学校2014」全体についてお聞きします。

(※は「無回答」を除いた割合)

	人数	%	※%
非常に満足した	5	55.6	62.5
満足した	3	33.3	37.5
少し物足りなかった	—	—	—
物足りなかった	—	—	—
無回答	1	11.1	
合計	9	100.0	100.0

6. 理系への進路や科学・技術分野の職業選択について、参加して感じたことを自由にご記入下さい。

- ・ 女子中高生が非常にキラキラした目で参加してしているのがとにかく印象的でした。理系女子(リケジョ)という言葉だけが一人歩きしているようですが、夏学を通して少しでも理系進学する女子が増えてくれるとよいと思います。
- ・ 大学生という身近な先輩から、職についている社会人まで色々な魅力ある相談相手を見つけることが出来て理系への道が開け、よりビジョンがしっかりしてくるいい機会だと感じた。夏学参加者がそれだけで終わらず「アンバサダー」として次や周りにつなげるしくみがあって、ハガキで事後の様子を、またTAとしてその後の活動を支える側にたつことも、より充実したものになるよう感じた。学会や教員のみならずTAが生徒目線で、今生徒にほしいプログラムを提供しているのが素晴らしかった。ポスター等の学会とのつながりも、日頃の生活ではなかなか1歩踏み出せない子にとって、より身近に垣根の低いかたちで技術者と触れ合う機会ができて良かった気がする。
- ・ 中高生がとても輝いて見えた。私が中高生として参加したかったくらいです。ただ、中学校の教員としては中3生をつれてくるにあたって、数学や理科に興味のある生徒に声をかける事はできますが「どっちも、まあまあできるよ」という生徒には声をかけることができていません。中1～中3生、本当にまだ自分のキャリアなどを考えはじめる位の頃に行うことができればもっと窓口が広がるかなと感じました。高校生には十分すぎるくらい良い内容だったと思います。
- ・ NWECでの夏学(2泊3日の夏開催)の周知、広報またエッセンスを知ってもらうために、日帰りの地方開催などやっていくと良いのではないかな。やはりNWEC(埼玉嵐山)だけの開催ではもったいないです。ポスターセッションとロールモデル2人の半日プログラムでも、ぜひ地方で。教員コース参加してみたいです。同じ立場の人がお互いの課題や理想を語る、つながりをつくる。これらができることを考えさせられる3日間でした。ありがとうございました。
- ・ 「いかに勉強させるか」「いかに進路を真剣に考えさせるか」の前に「興味をもたせる」「先輩の姿を見せる」が必要。1回2回の指導ではなく年単位での段階をふんだ計画的な働きかけをしなければならないと思った。

**「女子中高生夏の学校2014～科学・技術・人との出会い～」
アンケート集計結果(保護者用)**

参加者 18 名
アンケート回答数 13 件
アンケート回答率 72.2 %

1. あなた自身についてお聞かせください。

◆都道府県

	人数	%		人数	%		人数	%
北海道	1	7.7	石川県	-	-	岡山県	-	-
青森県	-	-	福井県	-	-	広島県	1	7.7
岩手県	-	-	山梨県	-	-	山口県	1	7.7
宮城県	1	7.7	長野県	-	-	徳島県	-	-
秋田県	1	7.7	岐阜県	-	-	香川県	1	7.7
山形県	-	-	静岡県	1	7.7	愛媛県	-	-
福島県	1	7.7	愛知県	1	7.7	高知県	-	-
茨城県	2	15.3	三重県	-	-	福岡県	-	-
栃木県	-	-	滋賀県	-	-	佐賀県	-	-
群馬県	-	-	京都府	-	-	長崎県	-	-
埼玉県	-	-	大阪府	-	-	熊本県	-	-
千葉県	-	-	兵庫県	-	-	大分県	-	-
東京都	-	-	奈良県	-	-	宮崎県	1	7.7
神奈川県	-	-	和歌山県	-	-	鹿児島県	1	7.7
新潟県	-	-	鳥取県	-	-	沖縄県	-	-
富山県	-	-	島根県	-	-	無回答	-	-
合計							13	100.0

2. 今回の企画を何で知りましたか?該当するものすべてに○をつけてください(複数回答)。

	人数	% (13名中)
①学校・先生から	8	61.5
②国立女性教育会館の広報(HP、メルマガ等)で見て	1	7.7
③新聞の記事	-	-
④子ども、家族、親戚から	2	15.4
⑤その他	2	15.4

＜その他の内容＞

- ・ 去年、関西科学塾に参加し夏学のことを教えてもらった(相馬先生から)
- ・ 知人(研究者)から

3. あなたが「女子中高生夏の学校2014」に参加した理由を教えてください(複数回答)。

	人数	% (13名中)
①理系進路選択の知識を得るため	11	84.6
②子どもの進路について悩んでいるため	8	61.5
③理系進路選択事業に関心があるため	3	23.1
④実験やポスター展示等に関心があるため	5	38.5
⑤講師に感心があるため	2	15.4
⑥情報交換のため	4	30.8
⑦その他	2	15.4

＜その他の内容＞

- ・ 自分が文系なので漠然としか理系の事が分からないので娘は理系を望むので。
- ・ 子供が初めて自分から積極的に行きたい！と申し出たので

4. 各プログラムの内容はいかがでしたか？

【1日目】

サイエンスアンバサダーⅠ

(※は「参加していない」「無回答」を除いた割合：以下同じ)

	人数	%	※%
非常に有用だった	3	23.1	23.1
有用だった	10	76.9	76.9
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	-
無回答	-	-	-
合計	13	100.0	100.0

<感想>

- ・初対面の人との接し方が楽しそうだった
- ・最初に子供達同士の交流をさせてもらってるのが良かったです
- ・全体を見てリラックスできた

キャリア講演① 松村 聡子さん

	人数	%	※%
非常に有用だった	9	69.2	69.2
有用だった	4	30.8	30.8
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	-
無回答	-	-	-
合計	13	100.0	100.0

<感想>

- ・夏学の卒業生で娘達に近い存在の方の生の声は刺激になった
- ・理系進路で活躍しておられる方のお話を聞くことで、より具体性が増えました
- ・学生に近く子供達は身近で興味を持って話を聞けたと思います。理系の進路も(職業選択)いろいろあるのだと思いました

キャリア講演② 風間 頼子さん

	人数	%	※%
非常に有用だった	8	61.5	61.5
有用だった	5	38.5	38.5
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	-
無回答	-	-	-
合計	13	100.0	100.0

<感想>

- ・生き生きと今を生きてらっしゃる姿は素敵で「自分の力で選択できる力を身につける」言われた言葉は心に響いた
- ・女性が家庭を持ち働くことも実際にしている人の話でよかった
- ・その後の生活結婚出産等を含めた実際の生活スタイルを聞けてとても為になりました

夏の学校を知る

	人数	%	※%
非常に有用だった	6	46.2	46.2
有用だった	7	53.8	53.8
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	-
無回答	-	-	-
合計	13	100.0	100.0

<感想>

- ・これから夏学を始めるにあたり3日間の過ごし方を再確認できた
- ・主旨を説明して頂き保護者も学ばなければと思いました。
- ・子供達・親・教師みんなで参加し講師の方々やTAの方々など、みんなで作りあげていくということが、とても素敵だと思いました。ぜひ帰ったら皆に伝えたいです。

サイエンスカフェⅠ

	人数	%	※%
非常に有用だった	9	69.2	75.0
有用だった	3	23.1	25.0
あまり有用ではなかった	—	—	—
有用ではなかった	—	—	—
参加していない	—	—	—
無回答	1	7.7	—
合計	13	100.0	100.0

<感想>

- ・アイスブレイクとしてちょうどいい、もう少し話をしたかった
- ・同じ悩みを持つ保護者と話が出来、先生たちからも話が聞けて良かったです
- ・理系といっても、色々な仕事があるんだなと思いました。他のお母さん、中学校の先生で理系出身の方の話など聞けて、とても良かったです

天体観望会

	人数	%	※%
非常に有用だった	—	—	—
有用だった	5	38.4	62.5
あまり有用ではなかった	2	15.4	25.0
有用ではなかった	1	7.7	12.5
参加していない	3	23.1	—
無回答	2	15.4	—
合計	13	100.0	100.0

<感想>

- ・雲がでてしまって残念でした。でも自然とはそういうものですね。
- ・星についての説明等あるのかな？と思っていましたが全体での説明が特になかったので、もっといろいろ聞きたかったです

【2日目】

実験・実習の参加、見学

	人数	%	※%
非常に有用だった	11	84.6	84.6
有用だった	2	15.4	15.4
あまり有用ではなかった	—	—	—
有用ではなかった	—	—	—
参加していない	—	—	—
無回答	—	—	—
合計	13	100.0	100.0

<感想>

- ・見学にしたのだが、どこか1つの実験に参加した方がよかったかなと思った
- ・全て(色々)見学するつもりが楽しく興味深く1カ所にいてしまいました
- ・それぞれが興味をそそられ楽しいものでありました

サイエンスカフェⅡ ポスター展示・キャリア相談

	人数	%	※%
非常に有用だった	6	46.2	46.2
有用だった	7	53.8	53.8
あまり有用ではなかった	—	—	—
有用ではなかった	—	—	—
参加していない	—	—	—
無回答	—	—	—
合計	13	100.0	100.0

<感想>

- ・どの分野の人にも自信を持ち輝いていた。1度に多分野のことを知られてよかった
- ・理系の分野の多様さがわかりました
- ・情報量と質の高さに、びっくりしました

サイエンスカフェⅢ 研究者・技術者、大学生、新社会人との座談会

	人数	%	※%
非常に有用だった	13	100.0	100.0
有用だった	-	-	-
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	-
無回答	-	-	-
合計	13	100.0	100.0

<感想>

- ・とにかく現場の方々の生の声が聞け参考になりました
- ・理系出身でいろいろな仕事をされている方々の生の声を沢山聞けて、とてもためになりました
- ・具体的なモデル体験を知り良かった

交流会

	人数	%	※%
非常に有用だった	8	61.5	61.5
有用だった	5	38.5	38.5
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	-
無回答	-	-	-
合計	13	100.0	100.0

<感想>

- ・他の保護者の方々と親しくなれてよかった
- ・もう少し、いろいろな方と積極的にお話出来たらよかったです。各テーブルにもっとたくさん先生方に入っていたらいいお話が聞きたかったです。
- ・もっと時間があれば沢山の人と触れ合いたかった

サイエンスカフェⅣ 保護者・教員と留学生との国際交流

	人数	%	※%
非常に有用だった	10	76.9	76.9
有用だった	3	23.1	23.1
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	-
無回答	-	-	-
合計	13	100.0	100.0

<感想>

- ・他国の現状を知れて面白かった。もう少し留学生に質問できる時間があればうれしかった
- ・留学生の方々の熱心な姿に刺激を受けました
- ・他国の状況を知り、日本は幸福だと思った

研究者・技術者やTAへのキャリア・進学懇談会

	人数	%	※%
非常に有用だった	3	23.1	50.0
有用だった	3	23.1	50.0
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	4	30.7	-
無回答	3	23.1	-
合計	13	100.0	100.0

<感想>

- ・子供達が一生懸命、話を聞いているのが見られてよかった
- ・フリーで色々なことを、ゆっくりお話できるというのは本当に良いと思います

【3日目】

夏の学校を振り返る

	人数	%	※%
非常に有用だった	6	46.2	50.0
有用だった	6	46.2	50.0
あまり有用ではなかった	—	—	—
有用ではなかった	—	—	—
参加していない	—	—	—
無回答	1	7.6	—
合計	13	100.0	100.0

<感想>

- 各保護者の感想が聞けて同じだなあと感じた、保護者として必要かどうか？←(アンケートに感想を書くので)他のプログラムでもよいのでは。
なぜ先生と分けるのか？学校側と実際の保護者の気持ち、意見の交流会の方が意義深いと思う。
- 他の保護者の方からの生の話が聞けて参考になりました。

一体型実験の参加・見学

	人数	%	※%
非常に有用だった	2	15.4	18.2
有用だった	6	46.1	54.5
あまり有用ではなかった	3	23.1	27.3
有用ではなかった	—	—	—
参加していない	—	—	—
無回答	2	15.4	—
合計	13	100.0	100.0

<感想>

- 内容は分からなかったが、子供の状況が見れてうれしかった
- 勉強にはなったが少しレベルが高すぎたのではないかと思います
- 子供達たちの表情を見て合宿が楽しかったことを実感した

学生企画 夏学振り返りと表彰式

	人数	%	※%
非常に有用だった	—	—	—
有用だった	2	15.4	100.0
あまり有用ではなかった	—	—	—
有用ではなかった	—	—	—
参加していない	1	7.7	—
無回答	10	76.9	—
合計	13	100.0	100.0

<感想>

- 台風の為、予定変更で残念ですが子供達の安全を気遣ってくださりありがとうございます

サイエンスアンバサダー任命式・閉校式

	人数	%	※%
非常に有用だった	—	—	—
有用だった	3	23.1	100.0
あまり有用ではなかった	—	—	—
有用ではなかった	—	—	—
参加していない	—	—	—
無回答	10	76.9	—
合計	13	100.0	100.0

<感想>

- 地元に戻ったら夏学の素晴らしさを語りたいです

5. 「女子中高生夏の学校2014」全体についてお聞きします。

(※は「無回答」を除いた割合)

	人数	%	※%
非常に満足した	13	100.0	100.0
満足した	—	—	—
少し物足りなかった	—	—	—
物足りなかった	—	—	—
無回答	—	—	—
合計	13	100.0	100.0

6. 理系への進路や科学・技術分野の職業選択について、参加して感じたことを自由にご記入下さい。

- ・ 理系に進み研究者になりたいという夢を持ち努力している娘に対して、親としては未知の分野で不安がありましたが、夏学で多くの女性研究員の方に出会って彼女達が輝いておられる姿を見て私も是非娘を応援してやりたいという気持ちになりました。今まで、ぼんやりとしか描けなかった研究者の姿も具体的になりました。また、同じようなタイプの娘さんがおられる、お母さんとも出会え共感したり、アドバイスをもらったりすることができました。参加して良かったです。充実した3日間をありがとうございました。
- ・ 今日まで、理系へ進み、就職への不安、社会人としての不安がありましたが、夏の学校へ参加して多くの窓口が開けているのだなあと安心しました。父親の参加でしたが楽しく過ごさせていただきました。人との出会いとタイミングで道が開けていくんだと教えられました。この企画の人材と情報量に感動しました。ありがとうございました。急な台風への対応ありがとうございました。子供達も保護者も安心できると思います。
- ・ とても充実した3日間でした。刺激を受け、とても勉強になりました。情報を知ることが出来て、子供にもプラスになったと思います。この場でいろいろな人との出会いがあり感謝の気持ちでいっぱいです。この経験を今後の生活に生かしながら、又地元に戻ってから、この企画を広めたいと思います。参加させていただいてありがとうございました。
- ・ 輝いてる女性の皆さんに出会えたことは娘にも私にも大変貴重な時間でした。勉強が好きというと学校でも「変な子」と思われるようですが純粋に学ぶことの楽しさを実感した時間になったと思います。この経験は娘の人生の宝だと思います。以前、私は精神科に勤務し親の愛情を実感せず、社会からリタイアしてしまった思春期の女の子達と多く出会いました。私は人は「人と周囲の環境が育てる」と思っています。この素晴らしい環境と素敵な大人達に出会えた娘は本当に幸せだと思います。ありがとうございました。
- ・ 参加する前は理系に対するイメージは特別な人が一握りの飛びぬけて優秀な人達が知らない世界で難しい事をしているくらいな別世界の感じがしていました。実際に参加して親もいろいろな方々の話を聞いてみて初めて理系の世界がとても身近で楽しくてワクワクするようなどころなんだなと思いました。お話をされているどの方も本当にキラキラしていて、とても素敵でした。私も学生時代にこういう出会いがあれば人生変わっていたかもしれないなと思いました。うちには、もう1人、中1の娘がいます。彼女にも是非体験させてあげたいと心から思います。一生のうちで、こんなに沢山の素敵な方々に、いっぺんに出会える機会はそうそうないなと思います。本当に貴重な体験をさせていただいてありがとうございました。
※保護者の方々との出会いも本当に刺激になりました。素敵なお母さん達のお話も聞くことが出来て自分自身もこれから、いろいろな事にチャレンジしていこうと思えました。

平成 26 年度「学習オーガナイザー養成研修」開催要項
～男女共同参画の視点をもったキャリア開発プログラムのために～

1. 趣旨

男女共同参画社会を推進するためには、学習者に対し効果的な研修を企画・実施する必要がありますが、男女共同参画の視点に立った研修プログラムの企画・運営について十分な力量をもった人材は限られており、その養成が課題となっています。

国立女性教育会館では、このたび、これまでに実施した多くの研修や調査研究の成果を踏まえ、「男女共同参画の視点をもったキャリア開発」をテーマとした体系化された学習プログラムを企画・実施する「学習オーガナイザー」を養成する研修を開催します。

男女共同参画をテーマとした学習プログラムの企画実績を持つ方を主たる対象として、男女共同参画の基本理念や取り組みの意義、社会状況や現代的課題について整理するとともに、学習方法や評価の視点など事業実施上のノウハウについての学びの機会を提供することで、経験者の知見・技能のブラッシュアップを図り、このような人材養成をもって男女共同参画の推進を図ります。

2. 目的

- (1) 男女共同参画意識の醸成、キャリア開発についての基礎的理解、背景としての実態・課題の把握を通じ、課題解決に結びつくプログラムの企画・実践力を形成します。
- (2) 「男女共同参画」と「キャリア開発」の二つの視点をもった学習プログラムを企画・実施できる人材の育成を通じ、男女共同参画社会の形成を推進します。

3. 主催 独立行政法人国立女性教育会館

4. 会場 国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728
TEL 0493-62-6724・6725
FAX 0493-62-6720

5. 期日 平成27年1月14日（水）～1月16日（金）2泊3日

6. 対象

研修・学習事業、女性のキャリア開発、女性の活躍推進に係る事業等の経験を有するとともに、エンパワーメントを図りたい方（経験年数おおむね3年以上）

7. 定員 30名

8. 日程・内容

1/14 (水)	13:00		13:15		15:00		16:30		19:00		20:30	
			開 会	講 義		講 義				ワ ー ク シ ョ ッ プ 1		
1/15 (木)	9:00	10:00	11:10		14:30		15:45		17:15		19:00	20:00
	講 義	講 義	ワ ー ク シ ョ ッ プ 2			講 義・ 情 報 提 供		ワ ー ク シ ョ ッ プ 3		情 報 交 流 会		
1/16 (金)	9:00		10:10		12:45							
	講 義		ワ ー ク シ ョ ッ プ 4	閉 会								

第1日 1月14日(水)

(1) 開会 13:00～13:15

- ①主催者あいさつ 内海房子 国立女性教育会館理事長
②オリエンテーション 石崎裕子 国立女性教育会館事業課専門職員

(2) 講義「男女共同参画の基礎的理解を深めるために」 13:15～14:45

男女共同参画の歴史的経緯や、個としての女性と社会との関係などを踏まえつつ男女共同参画の今日的な理解について講義を行います。

また、併せて、国立女性教育会館が考える男女共同参画の視点をもったキャリア開発学習オーガナイザーの意義と役割について学びます。

講師：神田道子 国立女性教育会館客員研究員

(3) 講義「キャリア開発の基礎的理解を深めるために」 15:00～16:30

キャリア開発の基礎的理解およびその現代的意味についての理解を深めるための講義を行います。キャリアの持つ個人的側面と社会的側面について学習します。

講師：亀田温子 十文字学園女子大学人間生活学部教授

(4) ワークショップ1「アイスブレイク」 19:00～20:30

午後の講義内容を踏まえ、キャリア開発に関連づけた自己紹介ワークやアイスブレイクを体験します。

講師：引間紀江 国立女性教育会館事業課専門職員

第2日 1月15日(木)

(5) 講義「統計から考える男女共同参画の現状」 9:00～9:50

意識調査、国際比較調査などの豊富な統計データについての解説を交えながら、我が国の男女共同参画の現状を読み解きます。

講師：渡辺美穂 国立女性教育会館研究国際室研究員

- (6) 講義「学びあいの支援方法について」 10:00～11:00
学習方法の理論的基礎について学びます。

講師：佐々木英和 宇都宮大学地域連携教育研究センター准教授

- (7) ワークショップ2「キャリア開発の視点に立った事例分析」 11:10～14:20
女性のキャリア開発を進める要因は何か、また、キャリアを開発した人に共通する視点・項目について、事例に基づき具体的に把握します。

(昼食休憩: 12:10～13:30)

講師：西山恵美子 国立女性教育会館客員研究員

- (8) 講義「ブレない企画を作成するための基本」 14:30～15:00
NWE Cが開発したプログラムデザインの考え方について解説します。

講師：中野洋恵 国立女性教育会館研究国際室長

- (9) 情報提供「事業実施における準備・運営実践のポイント」 15:00～15:30
学習オーガナイザーとして、実際に企画を作る際に考慮しなければならないポイントについて学びます。

講師：石崎裕子 国立女性教育会館事業課専門職員

- (10) ワークショップ3「企画のリ・デザイン」 15:45～17:15
ここまでの講義やワークショップで学んだ内容を踏まえ、参加者が持ってきた事例（企画）を検証します。さらに、課題を立て、課題別グループでプログラムデザイン作成の作業を行います。

講師：松下光恵 NPO 法人男女共同参画フォーラムしずおか代表理事

- (11) 情報交流会 19:00～20:00
全国からの参加者同士のネットワークづくりを図り、交流を深めます。

第3日 1月16日（金）

- (12) 講義「事業評価力を身につける」 9:00～10:00
事業評価やアウトプット、アウトカムの考え方について学びます。

講師：桜田今日子 国立女性教育会館事業課長

- (13) ワークショップ4「まとめと成果の共有」 10:10～12:30
これまでの学習をふまえ、学習オーガナイザーの役割を再認識します。その上で、実施するセミナーの企画案をグループ毎に作成します。最後に、グループ毎に発表を行い、出来上がったプログラムを検証します。

コメンテーター：神田道子 国立女性教育会館客員研究員

西山恵美子 国立女性教育会館客員研究員

- (14) 閉会 12:30～12:45

9. 参加申込について

(1) 方法

別紙「参加申込書」に必要事項を入力または記入の上、郵送、FAX、Eメール（progdiv@nwec.jp）のいずれかの方法で、国立女性教育会館事業課までお送り下さい。

＊開催要項および参加申込書の電子データをご希望の方は、国立女性教育会館ホームページよりダウンロードしてください。（<http://www.nwec.jp/>）

(2) 申込期限：平成27年1月7日（水）（先着順）

＊期間内でも定員に達した場合はお申込みを締め切らせていただきます。

(3) 参加のお知らせ

ご本人宛に郵送にてお知らせします。平成27年1月9日（金）までに文書が届かない場合は、事業課（電話：0493-62-6724）までお問い合わせください。

＊平成26年12月27日（土）から平成27年1月4日（日）は年末年始休業のため、お問い合わせをお受けできません。あしからずご了承ください。

10. 所要経費

(1) 参加費：無料

(2) 宿泊費：研修期間中は、1泊1,000円（前・後泊も1泊1,000円）

(3) 情報交流会費：3,000円（15日夕食を兼ねた立食パーティー形式）

(4) 食費：1食あたり700円～1,000円程度

＊会館内のカフェテリア方式の食堂（本館1階）をご利用ください。

11. その他

研修期間中、職員が撮影した写真を事業記録や広報のために使用することがあります。あらかじめご了承ください。

埼玉県私立短期大学協会・国立女性教育会館連携
平成26年度「短期大学生のためのキャリア形成講座」実施要項

1. 趣旨

埼玉県私立短期大学協会に加盟する短期大学と国立女性教育会館（NWEC）が連携し、学生と教職員の交流を図りながら進める「キャリア教育」の一環として、「男女共同参画の視点に基づくキャリア教育プログラム」を実施する。

2. テーマ及びねらい

テーマ：「キャリアを考える～これからの人生を意義あるものとするために～」

本講座は、男女共同参画型社会における生涯（ライフキャリア）形成の考え方を学び、人間と人間の関わり合いとその方法の基礎を学ぶ（関係力の育成）とともに、他大学の学生と交流することなどにより、多様性（ダイバーシティ）をお互いに認め、他の文化や人などを尊重する態度を養うことをねらいとする。

3. 主催

埼玉県私立短期大学協会、独立行政法人国立女性教育会館（NWEC）

4. 会場

国立女性教育会館

〒355-0292

埼玉県比企郡嵐山町菅谷728

TEL 0493-62-6724（事業課直通）

FAX 0493-62-6720

URL <http://www.nwec.jp/>

5. 期日

平成26年9月16日（火）～9月18日（木）2泊3日

6. 参加者

埼玉県私立短期大学協会会員校学生38名

7. 科目名及び単位数

各短期大学の該当科目（「キャリアデザイン」等）において単位認定を行う。
講義・演習科目として2単位とする。

8. 日程

別添のとおり

埼玉県私立短期大学協会・国立女性教育会館連携プログラム

「短期大学生のためのキャリア形成講座」日程表

2014年9月16日（火）～9月18日（木）

期日	時間	コマ数	実施場所	授 業 内 容	担 当 者 (敬称略)
9月16日（火）	13:00		101研修室	開会挨拶	大野会長（埼短協） 内海理事長（NVEC）
	13:15 14:00	1	101研修室	プログラムオリエンテーション（事前アンケート）	引間専門職員 (NVEC事業課)
	14:10 15:10	2	101研修室	講義「もっと素敵にワーキングライフ」	内海理事長（NVEC）
	15:20 16:20	3	101研修室	これからのキャリアを考えてみよう	大野会長（埼短協） 楯沢学長（埼玉女子短大）
	16:35 17:15	4	本館	情報収集の手段を学ぶ (女性教育情報センター・女性アーカイブセンター)	NVEC情報課
	18:00		レストラン	夕 食	自由に館内散策
	19:00 20:30	5	101研修室	自己紹介・レクリエーション 友達を作ろう	安倍講師（埼玉純真短大）
9月17日（水）	7:30 8:30		レストラン	朝 食	
	9:00 10:00	6	101研修室	講義・ディスカッション 「女性のキャリアを考える」	中野室長 (NVEC研究国際室)
	10:15 14:30	7	101研修室	グループワーク 「女性のキャリアパスの事例分析」 (グループごとに適宜昼食) グループ発表	引間専門職員 (NVEC事業課) アシスト：埼短協教員 NVEC職員
	14:40 15:40	8	101研修室	講義・グループワーク 「男女共同参画統計から女性のキャリアを考える」	森専門職員 (NVEC情報課)
	15:50 17:20	9	101研修室	卒業生からのアドバイス（キャリア講座）	家政：野原講師(国際学院埼玉短期大学) ビジネス：金子講師(埼玉女子短期大学) 保育：木下講師(秋草学園短期大学)
	18:00 19:00		レストラン	夕 食	自由に館内散策
	19:00 20:30	10	101研修室	「社会人（ビジネス）マナー」の基本	細田先生 (埼玉女子短大)
	7:30 8:30		レストラン	朝 食	
	9:00 10:00	11	101研修室	講義「キャリアに学ぶ」	埼短協教員
9月18日（木）	10:10 11:10	12	101研修室	討議・まとめ「自分自身のキャリアを考える」 まとめ、振り返り（事後アンケート）	引間専門職員（NVEC） コメント：埼短協教員、NVEC
	11:20	13	101研修室	各先生からの言葉、学生の一言感想	藤田副会長（埼短協）
				修了証の授与	
	12:00			閉講の挨拶	

埼玉大学・国立女性教育会館連携授業
平成26年度「男女共同参画社会を考える」について

1. 趣 旨

現在の日本は性別を問わずにさまざまな人々が対等に協力できる男女共同参画社会をつくることが求められているにもかかわらず、ジェンダー格差が非常に大きく残されている部分が多々あり、国連女性差別撤廃委員会などからもその是正に対する勧告を受けている。また私たち個人もすでに「男らしさ」「女らしさ」を内面化している。

本授業では、男女共同参画社会をつくるにあたって、現在どのような課題があり、そのことに私たちがどのようにかわり、社会を変えていくことができるのかということを、調べ学習（文献、聞き取り、訪問観察等）およびグループディスカッション、プレゼンテーション等を通して学ぶ。

本授業は埼玉大学男女共同参画室と国立女性教育会館（NWEC）との連携プログラムであり、会館の女性アーカイブセンター資料等の情報、調査研究の資料および人的資源、その他の機関の資源をも活用しながら進める。

2. 開講学期 同様の授業を前期・後期に実施 金 3 限（13:00～14:30）

3. 単位数 2

4. 対象年次 1～4年次（全学共通）

5. 授業スケジュール 15 コマのうち、2 コマの講義を国立女性教育会館が担当。

第 1 回 ガイダンスおよび導入アクティビティ

第 2 回 講義：ジェンダーとは何か（ジェンダー概念の歴史、ジェンダーと男女共同参画社会）

第 3 回 講義：発達とジェンダー（ライフステージとジェンダー問題）

第 4 回 講義：男女共同参画とは（NWEC 担当）

第 5 回 講義：NWEC の統計情報の利用について（NWEC 担当）

第 6 回 『男女共同参画白書』を読む（1）

第 7 回 『男女共同参画白書』を読む（2）

第 8 回 テーマ選定とグループ分け、調査計画立案

第 9 回 グループディスカッション（調査計画）

第10回 調査計画プレゼンテーションおよびディスカッション

第11回 グループディスカッション

第12回 グループディスカッション（発表準備）

第13回 プレゼンテーション、ディスカッション（1）

第14回 プレゼンテーション、ディスカッション（2）

第15回 まとめ・報告書づくり

女性教育情報センターの運営

収集資料統計（平成 27 年 3 月末現在）

項目		和		洋		計	
		年度受入	累計	年度受入	累計	年度受入	累計
図書	図書	1,950 除籍△837	77,758	407 除籍△490	24,293	2,357 除籍△1,327	103,164
	地方行政資料	245	26,351	0	8	245	26,359
	計（冊数）	1,358	105,222	△83	24,301	1,275	129,523
逐次 刊行物	雑誌	34 中止 5	3,271	1 中止 8	735 (62か国)	35	4,006
	新聞	0	74	0	1	0	75
その他	新聞切り抜き	22,657	387,471	-	-	22,657	387,471
	AV資料※	29	226	0	4	29	230
	研修貸出用資料※	0	17	0	0	0	17

※毎年見直しを実施

利用状況統計：平成 25 年度・平成 26 年度（平成 27 年 3 月 31 日現在）

	平成 25 年度	平成 26 年度
資料等利用者数	8,051	9,384
貸出資料総数（冊）	11,109	10,579
図書資料	10,120	9,111
地方行政資料	5	14
雑誌類	457	794
新聞記事	77	120
研修貸出（冊数）	150	200
その他	300	340
レファレンスサービス件数	470	443
内 情報検索利用件数	129	142
文献複写サービス（件数）	829	764
情報研修プログラム（件数）	3	5
情報研修プログラム（人数）	28	47
相互貸借貸出件数	310	294
内 パッケージ貸出件数	75	77

展示実施状況一覧

	期間	テーマ・目的	冊数	会場
テーマ展示	4～6月	家庭科の男女必修から 20 年	92	本館1階 ロビー
	7～9月	女性と仕事の現在	79	
	10～12月	女性と映画	84	
	H27 年 1～3 月	女子と就活	72	

女性情報ポータルの整備充実

＜文献情報データベース データ件数＞ （平成 27 年 3 月末現在）

	26 年度増加件数	累計
図書	2,343	86,843
雑誌	51	3,875
地方行政資料	124	21,555
和雑誌記事	1,281	67,640
新聞記事インデックス	22,657	387,471
AV 資料	25	225
計	26,567	567,409

＜その他のデータベースのデータ件数＞ （平成 27 年 3 月末現在）

	26 年度増加件数	累計
女性関連施設 DB	2,797	33,754
女性情報レファレンス事例集	16	280
男女共同参画人材 DB	-1	765
女性と男性に関する統計 DB	※	551
国立女性教育会館リポジトリ*1	6,687	6,687
国立大学における男女共同参画状況 DB*2	—	86
女性学・ジェンダー論関連科目 DB*3	—	28,168
計	9,499	70,291

※「女性と男性に関する統計 DB」（551 件（表））は、既存の表にデータを追加しているため、件数は変化しない。

*1「国立女性教育会館リポジトリ」は平成 26 年 4 月公開した。

*2「国立大学における男女共同参画状況 DB」は 2010 年調査結果をデータベース化したもの。

*3「女性学・ジェンダー論関連科目 DB」は 2000～2008 年調査結果をデータベース化したもの。

平成26年度「女性情報アーキビスト養成研修（基礎コース）＋（実技コース）」開催要項

独立行政法人国立女性教育会館では、女性の歴史を今に生かし、未来につないでいくために、女性に関わる原資料（女性アーカイブ）の保存と活用に取り組んでいます。

その活動の一環として、アーカイブの保存や整理について新しい情報をお求めの方や、これから業務にとりくむ方のために、平成21年度からアーキビスト養成研修を実施しています。

平成26年度は、昨年度に引き続き、アーカイブの基礎的な保存技術や整理方法をご紹介します基礎コースと、実習を通してより実践的に学んでいただく実技コースを開催します。

女性アーカイブの保存・提供に携わる実務者の方、大学・機関等の図書館職員の方のご参加をお待ちしております。

1. 期 日 平成26年12月10日（水）～12月12日（金）
 - ①基礎コース：12月10日（水）～12月11日（木） 1泊2日（どちらか一日だけの参加も可）
 - ②実技コース：12月11日（木）～12月12日（金） 1泊2日
2. 主 催 独立行政法人 国立女性教育会館
3. 会 場 国立女性教育会館
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728 番地 （東武東上線武蔵嵐山駅下車徒歩 12 分）
URL: <http://www.nwec.jp/>
4. 募集人員 女性関連施設職員、図書館の実務担当者、地域女性史編纂関係者
 - ① 基礎コース：30名 ただし、以下の方は受講できません。
 - ・平成21-22年度「女性情報アーキビスト入門講座」または平成23-25年度「女性情報アーキビスト養成研修(入門)」を受講済
 - ② 実技コース：10名 ただし、いずれかの条件を満たす方を対象とします。
 - ・①基礎コースと同時受講が可能
 - ・平成21-22年度「女性情報アーキビスト入門講座」または平成23-25年度「女性情報アーキビスト養成研修(入門)」を受講済
 また、過去に実技コースを受講済の方は受講できません。

5. 日程・内容

12月10日（水）

<基礎コース 第1日>

12:15～12:45	受付	
12:45～12:55	開会 挨拶	国立女性教育会館理事長 内海房子
12:55～13:00	オリエンテーション	
13:00～14:00	女性アーカイブ概論 女性に関する原資料の基礎的な知識を学びます。	立教大学共生社会研究センター 学術調査員 平野泉
14:10～15:20	アーカイブと著作権 著作権の基礎知識や、デジタルアーカイブ構築時に役立つポイントについて学びます。	のぞみ総合法律事務所 弁護士 竹内千春
15:40～17:00	アーカイブの実践 アーカイブ機関における実践事例について学びます。 ① レファレンスの事例	①東洋英和女学院史料室

	～村岡花子母校の史料室として ② 資料公開の例 ～展示・冊子刊行・データベース	酒井ふみよ ②聖路加国際大学学術情報センター大学史編纂・資料室 新沼久美
17:10～17:50	アーカイブの広報 アーカイブの効果的な広報について学びます。	エル・ライブラリー（大阪産業労働資料館）館長 谷合佳代子
18:05～18:35	女性教育情報センター、女性アーカイブセンター見学 （希望者のみ） 国立女性教育会館におけるアーカイブ構築事例を中心にをご紹介します。	
19:30～20:30	情報交換会 （希望者のみ） 参加者相互の情報交換やネットワークづくりの場を提供します。	

12月11日（木）

<基礎コース 第2日>

8:45～ 9:45	アーカイブの制作 アーカイブ作成の必要性や制作のプロセスを学びます。	(株)NTTデータ第三公共システム事業部 大場厚志
9:55～11:05	資料の保存・管理方法（フィルム・映像編） フィルム・映像の保存について、基礎的な知識と具体的な方法を学びます。	東京国立近代美術館フィルムセンター主任研究員 岡田秀則
11:15～12:25	資料の保存・管理方法（紙資料編） 紙資料の保存について、基礎的な知識と具体的な方法を学びます。	日本図書館協会資料保存委員会委員長 眞野節雄
12:25～12:30	閉会	

<実技コース 第1日>

13:45～14:00	受付	
14:00～14:15	開会 オリエンテーション	
14:15～17:00	アーカイブ展示の手法 資料展示のポイントや展示スペースデザインなどについて、ワークショップや事例紹介を通じて学びます。	(株)乃村工藝社 CC事業本部クリエイティブ局 日本展示学会理事 亀山裕市

12月12日（金）

<実技コース 第2日>

9:00～12:00	紙資料の修復関連実習① 実技を通して紙資料の保存・修復方法の基礎を学びます。	日本図書館協会資料保存委員会委員長・委員 眞野節雄・佐々木紫乃
12:00～13:00	昼休み	
13:00～15:00	紙資料の修復関連実習② 午前の実習の続きを行います。	日本図書館協会資料保存委員会委員長・委員 眞野節雄・佐々木紫乃
15:00～15:05	閉会	

6. 所要経費

- (1) 参加費 ①基礎コース：無料、②実技コース：実習用材料費 約 3,000 円
- (2) 宿泊費 1泊 1,000 円（前・後泊とも同額）
- (3) 食費 1食あたり 800 円程度（カフェテリア方式）
- (4) 情報交換会費 500 円（軽い飲食物をご用意します）

7. 申込み手続

- (1) 方法 下記①または②のいずれかにてお申し込みください：
 - ①電子メール：ホームページ（<http://www.nwec.jp/jp/archive/archivist2014.html>）掲載の申込書様式に入力のうえファイル添付にて送信（必要事項をメール本文に入力のうえ送信しても可）
 - ②FAX：ホームページ掲載の申込書様式に記入の上送信（様式がなければ必要事項を記入した紙でも可）
- (2) 期限 平成26年11月21日（金）
定員を超えた場合は、期限前に締め切ることもあります。

8. 申込み・問い合わせ先

国立女性教育会館情報課 山崎、森、星野

TEL: 0493-62-6728 FAX: 0493-62-6721 電子メール: infodiv@nwec.jp

H26年度アーキビスト養成研修(基礎)アンケート(2014.12.10-12.12) 集計結果

今回の研修を何でお知りになりましたか。(複数回答)

国立女性教育会館の広報（ホームページ、チラシなど）	12
他団体の広報（ホームページ、ブログなど）	6
所属している団体・グループからの呼びかけ	7
友人・知人からの誘い	1
その他	1
無回答	—

研修の内容について

	女性アーカイブ 概論	アーカイブと著 作権	アーカイブの実 践①	アーカイブの実 践②	アーカイブの広 報	女性教育情報セ ンター、女性 アーカイブセン ター見学(希望者 のみ)	情報交換会(希 望者のみ)	アーカイブの作 成	資料の保存・管 理方法(フィル ム・映像編)	資料の保存・管 理方法(紙資料 編)
非常に有用だった	18	10	21	21	20	10	15	16	20	18
概ね有用だった	6	11	3	3	3	7	1	8	4	5
あまり有用でなかった	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—
有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加していない	1	1	1	1	2	4	5	—	—	—
無回答	—	—	—	—	—	4	4	1	1	2
計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25

* 講座の内容(%)

	女性アーカイブ 概論	アーカイブと著 作権	アーカイブの実 践①	アーカイブの実 践②	アーカイブの広 報	女性教育情報セ ンター、女性 アーカイブセン ター見学(希望者 のみ)	情報交換会(希 望者のみ)	アーカイブの作 成	資料の保存・管 理方法(フィル ム・映像編)	資料の保存・管 理方法(紙資料 編)
非常に有用だった	72.0	40.0	84.0	84.0	80.0	40.0	60.0	64.0	80.0	72.0
概ね有用だった	24.0	44.0	12.0	12.0	12.0	28.0	4.0	32.0	16.0	20.0
あまり有用でなかった	—	12.0	—	—	—	—	—	—	—	—
有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加していない	4.0	4.0	4.0	4.0	8.0	16.0	20.0	—	—	—
無回答	—	—	—	—	—	16.0	16.0	4.0	4.0	8.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

参加した全体の感想

	回答数	%	% (無回答を除いた割合)	満足度
非常に満足した	19	76.0	76.0	100.0
概ね満足した	6	24.0	24.0	
少し物足りなかった	—	—	—	
物足りなかった	—	—	—	
無回答	—	—	—	
計	25	100.0	100.0	

望ましいと思われる日程(複数回答)

1泊2日が適当	20
もっと長い日程がよい	2
春の時期がよい	1
夏の時期がよい	6
秋の時期がよい	4
冬の時期がよい	2
その他	2
無回答	—

あなた自身について

(1) 所属

女性・男女共同参画センター	7
図書館	8
文書館・文学館	2
女性史グループ	1
その他	7
無回答	—
計	25

(2) 性別

女性	23
男性	2
無回答	—
計	25

(3) 年齢

20歳代	5
30歳代	4
40歳代	9
50歳代	6
60歳代以上	1
無回答	—
計	25

(4) 国立女性教育会館女性アーカイブセンターをご存知でしたか。

知っていて、利用したことがある	8
利用したことはないが知っていた	8
知らなかった	9
無回答	—
計	25

H26年度アーキビスト養成研修(実技コース)アンケート(2014.12.10-12.12) 集計結果

1. 今回の講座を何でお知りになりましたか。(複数回答)

国立女性教育会館の広報(ホームページ、チラシなど)	3
所属している団体・グループからの呼びかけ	3
友人・知人からの誘い	3
その他	1
無回答	—
計	10

2. 講座の内容はいかがでしたか。

	アーカイブ展示の手法		紙資料修復の実践		有用度
	回答数	%	回答数	%	
非常に有用だった	7	77.8	6	66.7	100.0
概ね有用だった	2	22.2	3	33.3	
あまり有用でなかった	—	—	—	—	
有用でなかった	—	—	—	—	
参加していない	—	—	—	—	
無回答	—	—	—	—	
計	9	100.0	9	100.0	

4. 参加した全体の感想

	回答数	%	満足度
非常に満足した	7	77.8	100.0
概ね満足した	2	22.2	
少し物足りなかった	—	—	
物足りなかった	—	—	
無回答	—	—	
計	9	100.0	

5. 望ましいと思われる日程(複数回答)

1泊2日が適当	6
もっと長い日程がよい	1
春の時期がよい	—
夏の時期がよい	3
秋の時期がよい	—
冬の時期がよい	—
その他	—
無回答	—
計	10

6. あなた自身について

(1) 所属

女性・男女共同参画センター	1
図書館	4
文書館・文学館	1
女性史グループ	—
その他	3
無回答	—
計	9

(2) 性別

女性	9
男性	—
計	9

(3) 年齢

20歳代	2
30歳代	2
40歳代	2
50歳代	3
60歳代以上	—
無回答	—
計	9

(4) 国立女性教育会館女性アーカイブセンターをご存知でしたか。

知っていて、利用したことがある	1
利用したことはないが知っていた	6
知らなかった	2
無回答	—
計	9

1 今回の研修を何でお知りになりましたか。

- もんじょブログ箱（特殊な用紙の販売会社によるブログ）（その他、女性、60歳代）

2-1 【アーカイブ展示の手法(亀山裕市)】研修の内容はいかがでしたか。(ご意見・ご感想等)

- 大変参考になりました。職場での展示に活かしたいです。（文書館・文学館、女性、20歳代）
- 手探りで作業をしていましたが、基本的な作法と実際に課題に取り組むことで具体化でき、実践に活かせると思いました。多くの方と意見を交えることができ有意義でした。（その他、女性、50歳代）
- 実際に自分たちで案を出し合うことができたので、先生のお話を体験したことにより自分の中で深く落とし込むことができたと感じました。普段こういった現場（プロ）の方の話を聞くことが出来ないのも、大変ためになりました。（図書館、女性、20歳代）
- 展示づくりの5つのプロセスなど、企画・作成する際のポイントを学ぶことができ、他の方のアイデアも聞きながらグルーブワークもできて、大変有意義でした。（図書館、女性、40歳代）
- 活発に意見交換が出来てよかった。キミコさん世代をターゲットとした親子4世代（5世代？）の体験型イベントがあると盛り上がるかもと、後で思いました。（図書館、女性、30歳代）
- 他の方々の見方が色々で、大変勉強になった。（その他、女性、50歳代）

2-2 【紙資料修復の実践(眞野節雄)】研修の内容はいかがでしたか。(ご意見・ご感想等)

- 今回教わった方法を実践してみたいと思います。材料もいただけて嬉しかったです。（文書館・文学館、女性、20歳代）
- きれいに仕上げるコツ、やってはいけない点などポイントを抑えた講義で参考になりました。紙ヤスリに感動！（その他、女性、50歳代）
- 実際に修復ができ、内容も濃く、非常にためになりました。難しかったですが、自館でもやろうと思います。あと、道具をいただけたのが非常に嬉しく、助かりました。（図書館、女性、20歳代）
- パンフレット製本など初めて実習することができて良かった。（図書館、女性、40歳代）
- おもしろかったです。もう少し上級編も希望したいです。レッドロットHPC対応もしたかったです。（図書館、女性、30歳代）
- 実際に体験できてよく理解が出来た。（その他、女性、50歳代）

5 今後、同様の研修が実施される場合、どんな内容のものに参加したいと思われますか。

- 「デジタルアーカイブをつくろう」連携のしかた（その他、女性、60歳代）
- 紙資料の修復、目録作成など（文書館・文学館、女性、20歳代）
- 古典籍保存の方法、劣化予防の保存等（その他、女性、50歳代）
- 事前に案を検討、提出のちのWGも良いなと思いました（展示）。（図書館、女性、20歳代）
- 入門コースをお願いします。もしくは、同テーマで詳しくじっくりお話を聞きたいと思います。（その他、女性、50歳代）
- デジタル化の実習（図書館、女性、30歳代）

6 国立女性教育会館の施設、宿泊、お食事等についてご自由にご意見をお書きください。

- おにぎり等の軽食、きちんとした食事、両方の機会があるといいと思います。（その他、女性、60歳代）
- 疲れて9時前に横になっていたら、ベルが鳴ってびっくりした。夜はなくてもいいのでは…。（図書館、女性、30歳代）
- 宿泊の建物と研修の建物が同じだと思いました。（図書館、女性、30歳代）

7-6 国立女性教育会館女性アーカイブセンターに期待すること等、自由にお書きください

- アーキビスト研修に感謝申し上げます。発展的内容、基本的内容どちらも期待しています。（その他、女性、60歳代）
- 大変お世話になり、有難うございました。（図書館、女性、40歳代）
- 3日間、きめこまやかな対応をしてくださり有難うございました。楽しく学ぶことができました。（図書館、女性、30歳代）

平成26年度アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー開催要項

1. 趣 旨 「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」は、会館の第三期中期目標・中期計画において、開発途上国において男女共同参画の政策策定・政策提言を行う立場にある女性行政・教育担当者、NGOのリーダーを対象に、女性の能力開発を目的としている集団研修である。
平成26年度のリーダーセミナーでは、「ICTが拓く女性のエンパワーメント」をテーマとして設定し研修を行う。
2. 主 題 ICTが拓く女性のエンパワーメント
3. 開催期日 平成26年9月29日(月)～10月3日(金)
4. 主 催 独立行政法人国立女性教育会館
5. 参加者数 9名(女性9名)
6. 参 加 国 カンボジア、インド、フィリピン、タイ、ベトナム
7. 研修日程 別紙参照

平成26年度「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」日程
テーマ:ICTが拓く女性のエンパワーメント

平成26年9月29日(月)～10月3日(金) (受け入れ期間 9月28日～10月4日)

2014.9.26.現在

月	日	曜日	時間	研修項目	研修内容	講師（敬称略）	開催地	宿泊	
9月	28日	日		日本到着				都内	
29日	月	8:00-9:45	会館へ移動					国立女性教育会館 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728 TEL:0493-62-6437	NWEC
		10:00-10:45	開会挨拶・職員紹介			内海 房子 NWEC理事長			
		11:00-12:00	プログラムオリエンテーション & アイスブレイク	研修のねらい、目的、スケジュール説明	越智 方美 NWEC研究国際室専門職員				
		12:00-14:00	昼食&チェックイン						
		14:00-15:00	会館概要説明	国立女性教育会館について	中野 洋恵 NWEC研究国際室室長・主任研究員				
		15:15-16:00	講義 女性情報をつくる	男女共同参画の視点にたった情報発信	青木 玲子 日本女性監視機構事務局長				
		16:15-16:45	視察 女性教育情報センターと女性アーカイブセンター	「女性教育情報センター」と「女性アーカイブセンター」の見学	森 未知 NWEC情報課専門職員				
		30日	火	9:00-17:00	カントリーレポートの発表	研修生による事例の発表と討議	ファシリテーター 越智 方美 NWEC研究国際室専門職員		
10月	1日	水	10:00-12:00	講義と意見交換 安全・安心につながるメディア活用とは	サイバー空間での女性に対する暴力の防止について、人身取引の専門家による講義	七島 亜耶 人身取引被害者サポートセンター ライトハウス	東京ウィメンズプラザ 第1会議室AB 渋谷区神宮前5-53-67 TEL:03-5467-1711	都内	
		14:00-16:00	視察と講義 ジェンダーの視点から見たICT	日本女性学習財団の視察と多様なメディアが女性のエンパワーメントに与える影響等についての講義	村松 泰子 日本女性学習財団 理事長 黒澤 あずさ 学習事業課課長	日本女性学習財団 東京都港区芝公園2-6-8 日本女子会館 5F TEL:03-3434-7575			
		16:00-17:00	研修の振り返り	研修前半の振り返り	研修生・会館職員				
2日	木	10:00-12:00	講義 メディアとジェンダー	ジャーナリズムにおける男女共同参画推進に係る課題等に関する講義	谷岡 理香 東海大学文学部広報メディア学科教授	東京ウィメンズプラザ 第1会議室AB 渋谷区神宮前5-53-67 TEL:03-5467-1711	都内		
		12:00-12:30	視察 東京ウィメンズプラザ		東京ウィメンズプラザ 事業推進係長				
		14:00-17:00	視察と講義 埼玉県立川越女子高等学校の視察	川越女子高等学校の概要と、SSHの取組みに関する講義	西野 博 埼玉県立川越女子高等学校教頭	埼玉県立川越女子高等学校 川越市六軒町1-23 Tel:049-222-3511			
3日	金	10:00-12:00	講義 ICTとジェンダー:企業における事例	ICTを活用した女性の在宅就業支援の取組	小林 洋子 NTTコミュニケーションズ(株) 常勤監査役	NTTコミュニケーションズ株式会社 千代田区内幸町1-1-6 日比谷ビル4階 TEL:03-6700-4515	都内		
		14:00-15:00	評価会	研修内容についての評価	研修生・会館職員	東京ウィメンズプラザ 第1会議室A 渋谷区神宮前5-53-67 TEL:03-5467-1711			
		15:00-15:30	閉講式	修了書の授与	内海 房子 NWEC理事長				
4日	土		帰国						

「平成 26 年度アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」アンケート集計結果

1. 研修の参加動機

Why did you apply for this seminar? (Please circle as many as you like.)

1	9 人	男女共同参画の推進に資する知識と技能の向上のため Enhance your knowledge and practical skills for promoting gender equality
2	6 人	男女共同参画の推進に従事する女性リーダーとしての能力向上のため Capacity development as a women's leader for promoting gender equality
3	9 人	研修で得た知識・能力を時刻で活用するため Enhance your ability to implement what you have learned from this seminar in your country
4	8 人	会館職員や研修参加者とのネットワーク構築のため Build a collaborative network with NWEC and the seminar participants
5	2 人	その他 Others (please specify: Understand how system work in other countries Learn about how other countries promote Gender Equality)

2. 研修の満足度

How satisfied were you with the program in general? Please provide details.

← Satisfied		Unsatisfied →	
4	3	2	1
8 人	1 人	0 人	0 人
満足度 =		88.9%	

3. 研修の有用度

Will you be able to apply information and knowledge gained through this program at work upon returning to your country? What part of the training program was most beneficial to you?

returning to your country. What part of the training program was most beneficial to you?

← Satisfied		Unsatisfied→	
4	3	2	1
5 人	4	0	0

有用度 = 55.6%

- サイバースペースにおいての女性と子供に対する性的搾取
- ジェンダーの視点/女性とメディアからの ICT
- すべての内容が自分自身の組織で有益だと思った
- カントリーレポートは目からうろこが落ちた
- NTTのCAVAセッションの講義によって、自分自身アイディアが浮かんた
- メディアとジェンダーの法律、それに関連した性的搾取は、とてもいいセッションだった
- 様々なポリシーとプログラムを学ぶことができ、それらをどのように補うかということも学べた
- カントリーレポートのプレゼンテーションはもう少し改善できると思う
- 他国のイニシアチブをフィリピンの参考にしたい
- 日本の女性はとても有益な情報や私たちとは違った視点を与えてくれた。日本や他国の情報を自国で試してみたい
- 今回のセミナーはとても満足できた。特にジェンダーの視点からの ICT はすべての情報がとても有益だった。
- NTTの取組はとても有益だった。

4. 研修内容等に関する質問

What did you think of the textbooks, training equipment and lecture facilities used for the program?

Program:

	←Very Good			Very Poor→	Other
テキストブック Textbook	4	3	2	1	
	7 人	1 人	0	0	1 人（無回答）
	満足度 77.8%				
研修機材 Training Equipment	4	3	2	1	
	8 人	1 人			
	満足度 88.9%				
研修環境 Lecture facilities	4	3	2	1	
	8 人	1 人			
	満足度 88.9%				
宿泊 Accommodation	4	3	2	1	
	8 人				1 人（3.5）
	満足度 88.9%				
担当職員 Staff	4	3	2	1	
	9				
	満足度 100%				
満足度 = 88.9%					

5. 研修の管理運営方法について

What did you think of the general administration and management of the training program?
Please provide details.

←Very Good				Very Poor→	Other
4	3	2	1		
8 人					1 人(無回答)
満足度 = 88.9%					

6. 追加した方がよい内容

If any topics were to be added to the program, what should they be?

- ・ アドボカシー
- ・ 女性と子供に対する安全なインターネット環境
- ・ トピックに合ったもので行政によって運営されているプログラムやテーマなどの発表
- ・ 福祉の良い点と悪い点
- ・ 貧困の人口率
- ・ メディアとICTでの女性のエンパワーメントについて、行政とNGOの取組のバランスを取り入れると、もっと良いプログラムになるだろう。加えて、日本の取組も見てみると良い
- ・ 日本での女性や子供に対するICTのインパクト
- ・ 不利になる福祉手当（福祉手当を受けている人々からの体験談を聞く）
- ・ インターネットでのプライバシーと保護の問題、そしてそれらが女性と子供の問題にどのように取り組むか
- ・ ポリシーについて行政からのゲストスピーカー
- ・ 行政とNGOのジェンダー主流化の取組
- ・ ジェンダーの集約データを継続的に寄贈する
- ・ 日本の農山村地域の貧困女性のためのICTトレーニングについて知りたい。そこから集約データを集めたい。
- ・ ほかのセクターからのジェンダー主流化
- ・ ジェンダー主流化の取組み
- ・ 日本女性のメンツの大変さ
- ・ 日本の行政の女性とICTのポリシー

平成26年度 課題別研修「アジア諸国における人身取引対策協力促進セミナー実施要項

1. 趣 旨
国際協力機構(JICA)がアジア太平洋地域において実施する「人身取引被害者保護・自立支援促進プロジェクト」の一環として、プロジェクトのカウンターパート及び近隣地域の人身取引対策に携わる関係者を対象としたワークショップ型研修を実施する3年計画の第3年次。
人身取引撲滅と被害者保護は一国のみで対応できる課題ではなく、国境を越えた広域的課題として対応するためにも、アジア地域におけるネットワーク形成が重要である。参加者が日本を含め、互いの国の人身取引対策に関する取組について相互理解を深めることが重要である。特に予防、被害者の保護と自立支援に携わる関係機関の役割や協力体制等について把握し、参加者間で人身取引対策に取り組む機関の機能強化や連携、国を越えたネットワークの強化に資する方策を検討することを目的として行われる。
2. 主 催 独立行政法人国際協力機構(JICA)
3. 実施機関 独立行政法人国立女性教育会館
4. 協 力 内閣官房、外務省、厚生労働省、警察庁、法務省、東京都、埼玉県、静岡県、静岡県浜松市、浜松国際交流協会、国際移住機関(IOM)、人身売買禁止ネットワーク(JNATIP)、一般社団法人社会包摂センターほか
5. 期 日 平成26年10月20日～10月31日
6. 対 象 12名(女性8名、男性4名)
カンボジア、ベトナム、フィリピン、ラオス、ミャンマーの人身取引対策の予防と保護の分野に携わる中央・地方政府機関職員
7. 研修項目
(1) 日本政府の人身取引対策及び日本の人身取引被害者保護支援策について理解する。
(2) 日本・参加国における人身取引予防・被害者保護・帰還・社会復帰の一連のプロセス及び関連機関の関係を把握し、グッドプラクティスを学び、課題について検討する。
(3) 日本における在住外国人支援団体の取組みについて学ぶ。
(4) アジア地域における人身取引対策のネットワーク強化に向けて各国の状況やアプローチを理解し、改善策やネットワーク連携・強化に資する方策を検討し、成果発表を行う。
8. 使用言語 英語
9. 研修日程 別紙参照

平成26年度課題別研修「アジア諸国における人身取引対策協力促進セミナー」研修日程

	月日	曜日	時間	研修項目	研修内容	講師	研修場所	宿泊先
集団研修	10月19日	日			来日 移動 成田国際空港 → 幡ヶ谷(TIC)			TIC
	20日	月	9:30-12:00	ブリーフィング	JICAブリーフィング	山田 真理(国際協力機構(JICA))	TIC	TIC
		13:30-13:45	オリエンテーション	オリエンテーション、関係者紹介	山田 真理(国際協力機構(JICA))			
		13:45-14:00	プログラム説明	プログラム説明	渡辺 美穂(国立女性教育会館研究国際室研究員)			
		14:00-14:20	講義	国立女性教育会館の役割	内海 房子(国立女性教育会館理事長)			
		14:20-14:50	講義	人身取引問題とアジア: JICAの取組(導入)	田中由美子(国際協力機構専門家)			
		15:00-15:50	各国紹介	各国紹介	研修員自己紹介			
		16:00-17:00	講義	研修課題に関する基礎講義	渡辺 美穂(国立女性教育会館研究国際室研究員)			
	21日	火	10:00-11:30	講義・意見交換	日本政府の人身取引対策: 内閣官房 日本政府の人身取引対策: 内閣官房	高塚 洋志(内閣官房参事官 参事官補佐) 鈴木 雄介(内閣官房副長官補(外政担当)付 参事官補佐)	内閣府合同庁舎8号館5階共用会議室C	TIC
		11:30-12:00	講義・意見交換	日本政府の人身取引対策: 外務省	直江 泰輝(外務省)			
		13:30-14:45	講義・意見交換	日本政府の人身取引対策: 法務省	濱田 裕嗣(法務省刑事局公安課 局付)			
		15:00-16:15	講義・意見交換	日本政府の人身取引対策: 警察庁	島尻 哲也(警察庁生活安全局保安課警視庁警視)			
		16:30-17:45	講義・意見交換	日本政府の人身取引対策: 厚生労働省	小林 昌彦(厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課 母子家庭等自立支援室女性保護専門官)			
		17:45-18:00	基礎講義・振り返り	日本の人身取引対策まとめ	渡辺 美穂(国立女性教育会館研究国際室研究員)			
	22日	水	10:00-12:00	講義・見学	日本の人身取引対策: 法務省	浅井 祥子(東京入国管理局総務課渉外調整官)	東京入国管理局	TIC
		14:00-16:30	講義・見学	日本の人身取引対策(自治体): 女性相談所の被害者保護	竹内 景子(東京都女性相談センター所長)	東京都女性相談センター		
		17:00-18:00	講義・意見交換	日本の人身取引対策(国際機関): 被害者帰国支援	森田カリーナ(国際移住機関(IOM)チーフ・ケースワーカー)	JICA研究所2階大会議室		
	23日	木	9:30-15:00	講義・視察・意見交換	民間の取組: 社会福祉法人による地域の外国人支援	花崎みさを(社会福祉法人一粒会理事長・統括施設長) 砥上 正樹(社会福祉法人一粒会「野の花の家」施設長) 小林 晶子(社会福祉法人一粒会「FAHこすもす」センター長) フランク・オカンボス(社会福祉法人一粒会「ファミリーセンター・ヴィオラ」外国人ソーシャルワーカー) 鳥海 典子(社会福祉法人一粒会「FAHこすもす」センター主任・母子指導員)	社会福祉法人一粒会	国立女性教育会館(NWEC)
	24日	金	9:00-9:20	挨拶・職員紹介	挨拶・職員紹介	中野 洋恵(国立女性教育会館研究国際室長)	事務局棟2階会議室・大	NWE C
		9:15-9:30	講義・意見交換	国立女性教育会館の役割と機能	島田 悦子(国立女性教育会館総務課専門官)			
		9:30-11:00	講義・意見交換	日本における男女共同参画の現状と課題	越智 方美(国立女性教育会館研究国際室専門職員)			
		11:00-12:30	講義・意見交換	在住外国人支援者の活動紹介	新倉 久乃(女性の家サラー理事) 武田ヴィーリン(TNJタイネットワークINジャパン代表) フィリピン人ソーシャルワーカー			
		13:30-17:00	事例発表と意見交換	ロールプレイ、グループディスカッション、カントリーレポート発表ほか	コメンテーター: 新倉、武田 ファシリテーター: 百生(JICA専門家)、渡辺(NWEC)	宿泊棟A棟2階ミーティングルーム		
	25日	土	10:00-11:00	振り返り・整理	学習支援者: 女性教育・男女共同参画	渡辺 美穂(国立女性教育会館研究国際室研究員)		
		14:30-17:10	講義・視察・事例検討・意見交換	民間の取組: 全国的電話相談支援	遠藤 智子(一般社団法人社会的包摂サポートセンター事務局長) 和久井みちる(一般社団法人社会的包摂サポートセンター全国コーディネーター) 原 ミナ汰(一般社団法人社会的包摂サポートセンター全国相談員)	一般社団法人社会的包摂センター		
	26日	日			自由研究			TIC
	27日	月	15:30-17:00	講義・視察・意見交換	日本の在住外国人支援(自治体)	太田 俊樹(浜松市外国人学習支援センター所長)	浜松市外国人学習支援センター	浜松

平成26年度課題別研修「アジア諸国における人身取引対策協力促進セミナー」研修日程

	月日	曜日	時間	研修項目	研修内容	講師	研修場所	宿泊先	
	28日	火	9:00-11:00	講義・意見交換	日本の在住外国人支援(自治体):国際交流協会の取組(1ストップセンター、災害、子ども、学習、メンタルヘルス、労働)	松岡真理恵(公益財団法人浜松国際交流協会(HICE)主任・多文化共生コーディネーター)	浜松国際交流協会(HICE)	静岡県	
						キクヤマ・リサ(浜松国際交流協会(HICE)多文化共生コーディネーター)			
			15:00-17:00	講義・視察・意見交換	日本の在住外国人支援(自治体:民間)	金城アイコ(NPO法人アラッセ代表理事)	NPO法人N'PocketNPO法人アラッセ		
						大澤 富枝(NPO法人アラッセ事務局長)			
	29日	水	9:15-9:45	施策説明	日本の女性相談(自治体):静岡県の概要	田中 清子(静岡県くらし・環境部県民生活局男女共同参画課)	静岡県男女共同参画センター あざれあ 3階 生活関連実習室	TIC	
			9:45-10:30	施設見学・説明	静岡県男女共同参画センターアザレア見学(相談室含む)	三輪 明彦(静岡県くらし・環境部県民生活局男女共同参画課)			
			10:30-11:15	講義・意見交換	日本の在住外国人支援(自治体):女性相談研修	横山由佳子(特定非営利活動法人Safety First静岡代表)			
			11:15-12:00	講義・意見交換	日本の在住外国人支援(自治体):女性相談研修	加山 勤子(公益財団法人静岡県国際交流協会総務課長)			
			13:20-14:30	講義・意見交換	日本の人身取引(自治体):女性に対する暴力	吉田 容子(弁護士・立命館大学教授)	JR静岡駅ビルパルシェ会議室 D会議室		
			14:30-16:00	ディスカッション	日本の在住外国人支援	全体			
	30日	木	13:00-17:15	発表・意見交換	各国の取組の発表と意見交換会(シンポジウム)	関係省庁(外務省、警察庁、法務省刑事局公安課、東京入国管理局、厚生労働省、フィリピン大使館、カンボジア大使館、ラオス大使館、国際移住期間(IOM)駐日代表、(一財)社会的包摂センター事務局長) 鳥海 典子((社福)一粒会FAHこすもすセンター主任)、野口 美幸(東京都女性相談センター事業係長)、武田ヴィーリン(TNJタイネットワークINジャパン代表)、新倉 久乃(女性の家サーラー理事)、大曲由紀子(移住労働者と連帯する全国ネットワーク事務局長)、ほか有識者数名 JICA辻野副室長、田中由美子専門員、山田真理調査役、ほかJICA職員 司会進行:渡辺美穂(国立女性教育会館)	TIC セミナールーム 411	TIC	
	31日	金	10:00-11:00	評価	評価会	国立女性教育会館、国際協力機構、研修参加者	TIC	TIC	
			11:00-11:30	閉講式	JICA挨拶、NWEC挨拶、研修員代表挨拶、修了証書授与	国立女性教育会館、国際協力機構			
		11月1日	土		帰国	帰国			

「アジア諸国における人身取引対策協力促進セミナー」アンケート集計結果

アンケート回答

研修目標について

完全に達成	かなり達成	達成	未達成
4	7	1	0
33.3%	58.3%	8.3%	0

記述回答（一部抜粋）

研修達成度について

- ・研修を通じて、特に日本また参加国の研修員からも、新しい知識、スキル、経験、好事例を学ぶことができた。（カンボジア、男性）
- ・日本の人身取引対策における女性に対するカウンセリングや児童虐待への対処、関係機関の連携について学んだ（ラオス、男性）
- ・人身取引の問題について理解を深めることができたとともに、女性たちが被害者にならないように防止について学ぶことができた（ラオス、女性）
- ・日本の人身取引対策やその他参加諸外国の取組みについて深く学ぶことができた。特に、さまざまな見学や施設訪問などが役にたった（ミャンマー、男性）
- ・全国規模の電話相談や地域の官民の連携（ミャンマー、女性）
- ・日本の人身取引対策について学ぶとともに、今後より関係諸国が連携を深める必要があることも理解することができた（フィリピン、女性）
- ・日本や関係諸国の取組みを学ぶことができた。今後人身取引対策のための良いネットワークを構築できる（ベトナム、女性）

プログラムで有益であった内容について

- ・日本の人身取引対策、女性被害者の保護内容、被害者の帰国支援、全国規模の電話相談、関係機関等への視察・見学などすべてのプログラムが有用であった（参加国全員）

平成26年度NWE C国際シンポジウム開催要項

1. 趣 旨
「NWE C 国際シンポジウム」は、女性の人権、女性の能力開発・人材育成等地球規模の課題をテーマに海外専門家を招へいし、アジア太平洋地域の課題分析を行い、研究者や行政関係者・女性団体等指導者間のネットワーク構築を目的として、国立女性教育会館が毎年実施している事業です。
平成26年度の国際シンポジウムでは、「ダイバーシティ推進と女性のリーダーシップ」をテーマとしてとりあげます。日本政府も「女性が輝く社会」を成長戦略の柱のひとつと掲げていますが、我が国の男女共同参画の水準は、世界社会フォーラムが毎年公表している、「グローバル・ジェンダー・ギャップ指数」では136カ国中105位と、いまだ多くの課題を抱えています。本シンポジウムは、ニュージーランドで男女共同参画の推進を牽引されてきた専門家の方を招へいし、議論をおこなうことを目的としています。
2. 主 題
ダイバーシティ推進と女性のリーダーシップ
3. 開催期日
平成26年11月21日（金） 13：30－17：00
4. 主 催
独立行政法人国立女性教育会館
5. 会 場
霞が関ナレッジスクエア 霞が関コモンゲート
東京都千代田区霞が関3-2-1
6. 使用言語
日本語、英語 （同時通訳付き）
7. 募集人員
研究者、男女共同参画の行政担当者、女性関連施設職員、駐日大使館職員、女性団体等の等 50名程度

8. プログラム

開会 13:30－13:45 主催者挨拶・イントロダクション

第一部 基調講演 13:45－14:45

・ジュディ・マクレガー博士 オークランド工科大学教授、前ニュージーランド
人権委員会雇用均等コミッショナー

「ジェンダー平等に向けた変革－ニュージーランド人権委員会の取組み」(仮)

2012年までニュージーランド人権委員会雇用均等コミッショナーをつとめられていたマクレガー教授が、同国での女性の政治、経済分野での参画がどのように推進されてきたのか、その背景を分析するとともに、男女共同参画政策の最新局面と今後の課題について講演いただきます。

第二部 パネルディスカッション 15:00－16:55

「男女共同参画の推進のために今すべきこと－GGGI（グローバル・ジェンダー・ギャップ指数）」(仮)

男女共同参画の先進国であるニュージーランドから日本は何を学ぶことができるのか、国内のジェンダー専門家とともに議論をおこないます。

パネリスト：

・ジュディ・マクレガー博士 オークランド工科大学教授、前ニュージーランド
人権委員会雇用均等コミッショナー

・熊谷 圭知 お茶の水女子大学文教育学部 グローバル文化学環教授

・浅倉むつ子 早稲田大学大学院法務研究科教授

ファシリテーター

・菅野 琴 国立女性教育会館客員研究員、前 UNESCO ネパール事務所長

閉会 16:55－17:00

平成26年度「NWEC国際シンポジウム」アンケート
Questionnaire on "FY2014 NWEC International Symposium"

回答率	参加者	回収率
35件	53名	66%

本シンポジウムにご参加いただき、誠にありがとうございました。
今後の事業の充実を図るため、アンケートへのご協力をお願い申し上げます。

Thank you for your participation to the International Symposium. Please feedback your comments and suggestions.

1. このシンポジウムに参加された動機は何ですか。最もあてはまるもの1つに○をつけてください。

What do you expect from the symposium? Please choose 1 reason from below which best matches your interest.

①ダイバーシティや女性の社会参画を推進するための取組や課題について知るため To learn the initiatives to promote diversity and women's socio-economic participation.	16票	30%
②このテーマに関連する研究・仕事・活動に関わっているため Am involved in research and/or activities related to the symposium topic, or work in the related field.	11票	21%
③ニュージーランドや日本の男女平等政策に関する取組について知るため To acquire information and knowledge about gender equality policies in New Zealand and Japan.	8票	15%
④その他 Other Others (Please specify: 自分の考えを幅広く豊かにするため	1票	2%

※3名記入無・複数回答あり N/A 3people/multiple answered

2. このシンポジウムの内容をご自身の研究や活動に有用でしょうか。

2-a. 次の各項目について最も近いものに○をつけ、その理由もお書き下さい。

How do you evaluate the symposium in relation to your research, work or activities? Please check the below.

	とても有用 Very useful	少し有用 Useful to some extent	あまり 有用でない Not so useful	全く 有用でない Useless	参加 しなかった Did not attend	無回答 N/A
第Ⅰ部 基調講演 Part I Keynote Speech	20	12	0	0	3	0
第Ⅱ部 パネルディスカッション Part II Panel Discussion	20	9	0	0	0	6

2-b. 有用だった点を具体的にお書きください。

Please specify how you could reflect the outcomes of the symposium to your research, work or activities in future.

①基調講演 Keynote Address

聞き取り調査は効果的だった

プレゼンテーションの作り方を学べた点

同一労働、同一賃金の実施はニュージーランドでも課題の一つであるということがわかりました

ニュージーランドの先進的な取組みがわかった。ケア労働者の賃金に関心あるので参考になった

ニュージーランドでの人権委員会の具体的な活動を知ることができた

ニュージーランドがこのように女性への意識の高いことを知らなかった

ニュージーランドでもジェンダーについての厳しい現実ある事。しかし、制度・政策・以前にとっても積極的に、またプロ意識を持って真剣に取り組んでいる事

ニュージーランドのこれからの問題点がうかがえた事

ニュージーランドの現状について理解できた

人権委員会がいかに市民の声をすくい上げる組織になったかの過程を話されたのが良かった。そして、女性のための変革を加速させるという話も良かった。

性別賃金格差ケアラーの移動時間賃金化の提訴の事例内容について

女性ที่ไม่平等を訴えるステージが確約されている事実を知り、市民レベルから声を上げることが必要

レベルの高い国のスタンダードに驚き日本の課題を痛感した

ニュージーランドの実践的な取り組みについて学ぶことができた

これほどジェンダーエデュケーションの進んでいると思われたニュージーランドのお国にも、まだ改善点があることで、努力していらっしやることを知ったことで勇気をもてました

考える材料は沢山あるし、解決すべき課題はまだある。未だ答えはない。これから消化したい

ダイバーシティ推進には、同一賃金、同一労働問題がとても重要である；雇用分野の具体的アプローチが必要だということを再認識された

魚肉加工工場の話が具体的で分かり易かった。高齢介護の問題は日本も同じにある。人権意識、日本が低いのだろうか、声を上げていくためにはと考えた

ニュージーランドの情報が知れた。ジェンダー平等達成推進リーダー国であることも

② パネルディスカッション Panel Discussion

女性と男性が共に活かしたのが良かった

熊谷先生の紹介されたChart & Gatmann 2000、Kinmmrel 2003の事を知れたため。この傾向について気になっていたので

メイドカフェ・ディズニーくらい有名なのに、行ったことがある人がほとんどいないことを知れた点（逆を考えれば、つまりディズニーに行ったことがない人を見ると、えっ？変った人と思うと思うのですが）

経済成長中心の女性政策についての発言が興味深かった

男性居場所も厳しい、男性の育児や家事参加が社会的に認められにくい事への不満も増えている

大学の先生のパネラーだが、専門によって視点の違う意見もあり、とても有意義だった

パネルディスカッションの途中からの参加でしたので、前の内容と関連した内容が理解できませんでした

パネリストの各自の立場から多面的に議論が行われたこと

短い時間で本質をつかむことができました

性別役割分業意識は、私も最大の問題点だと思っています

コーディネーターの趣旨説明がとてもよかった

多様性の意味合い自体を問いただすところから、地域に掘り下げる浸透させることが必要だと思う

男性の問題に着目した講演は大変興味深かった

有益な論点や新しい視点があり勉強になった

女性の経済力が高まれば、男性の家事参加が高まることには共感できるが、女性の経済力を高めるための具体的な取り組みは何が必要なのかをもう少し掘り下げてほしいかった

問題が広がったと感じたが、関連している事、人権を正しく理解することが大切と思いました

改めて、多様の生き方が認められる社会を作っていくことが重要であると考えた

考える材料は沢山あるし、解決すべき課題はまだある。いまだ答えはない。これから消化したい

3. 参加した全体の感想について、最も近いものに○をつけ、その理由もお書きください。

What is your overall impression about the symposium? Please tell us the reason.

① 非常に満足した Very satisfied	20人 57%	② 満足した Satisfied	11人 31%	③ 満足しなかった Unsatisfied	2人 6%
④ 無回答 N/A	2人 6%				

4. その他お気づきの点があれば、ご記入ください。（内容、会場、時間配分、日時など）

Please give us your suggestions to improve the symposium.

会場案内等とても親切にいただき感謝です（このような場が初めてなので）

多様化を考えると、お話にあった二極化のエリートといわれる類の人々の話題になることが多いと思う。このようなシンポジウムも中央圏でされることが多い。地域格差の大きい中、少数派の意見を盛り込んでいかないとジェンダーギャップ・固定化したジェンダーバイアマの社会の踏しゅうでしかないと思う。

自分がそれだけの時間を作ることができなかったのかんじなのですが、長すぎました... 2時間程度でしたら少し関心のある程度のテーマでも参加しやすいと思います。

企業におけるダイバーシティ推進・リーダーシップを発揮しているニュージーランドの事例など伺いたかった。テーマとしてはジェンダーの方が濃い内容だと思いました。

5. 差支えない範囲で、教えてください。

Please tell us about yourself.

I 年 齢	① 19歳以下	② 20歳代	③ 30歳代	④ 40歳代	⑤ 50歳代	⑥ 60歳以上	⑦ 無回答
Age	Under 19 year-old	20's	30's	40's	50's	over 60 year-old	N/A
	0人	2人	5人	8人	6人	5人	9人
	0%	6%	14%	23%	17%	14%	26%
II 性 別	① 女性	19人	② 男性	7人	③ セクシャルマイノリティ	1人	
Gender	Female	54%	Male	20%	Sexual Minority	3%	
	④ 無回答	8人					
	N/A	23%					
III お住まいの都道府県	東京都	埼玉県	愛知県	広島県	岩手県	大分県	無回答
Place of your residence (prefecture)	9人	5人	1人	1人	1人	1人	17名
IV 所 属	Affiliation						
① 女性関連施設	1人	Women's Center	⑤ 企業	Private Sector	5人		
② 行政	3人	Government	⑥ 学 生	Student	3人		
③ NPO/NGO	3人	Civil Society Organization	⑦ その他	Other	9人		
④ 教育機関	3人	Educational Institution		(Please specify:			)
			⑧ 記入無	N/A	8人		

V. 本シンポジウムをお知りになったきっかけ How did you know this symposium?

① 国立女性教育会館ホームページ NWEC Website/ フェイスブックページ Facebook page	5人				
② メールマガジン Mailing List	NWEC, JIL, JICA, その他				10人
③ 新聞 Newspaper	1人	④ ポスター・チラシ Flyer Poster	5人	⑤ その他 Other	() 4人
⑥ 記入無	10人				

♪ ♪ ご協力ありがとうございました ♪ ♪
Thank you for your cooperation.

*お書きいただいたご意見は、本事業の改善のためのみに使わせていただきます

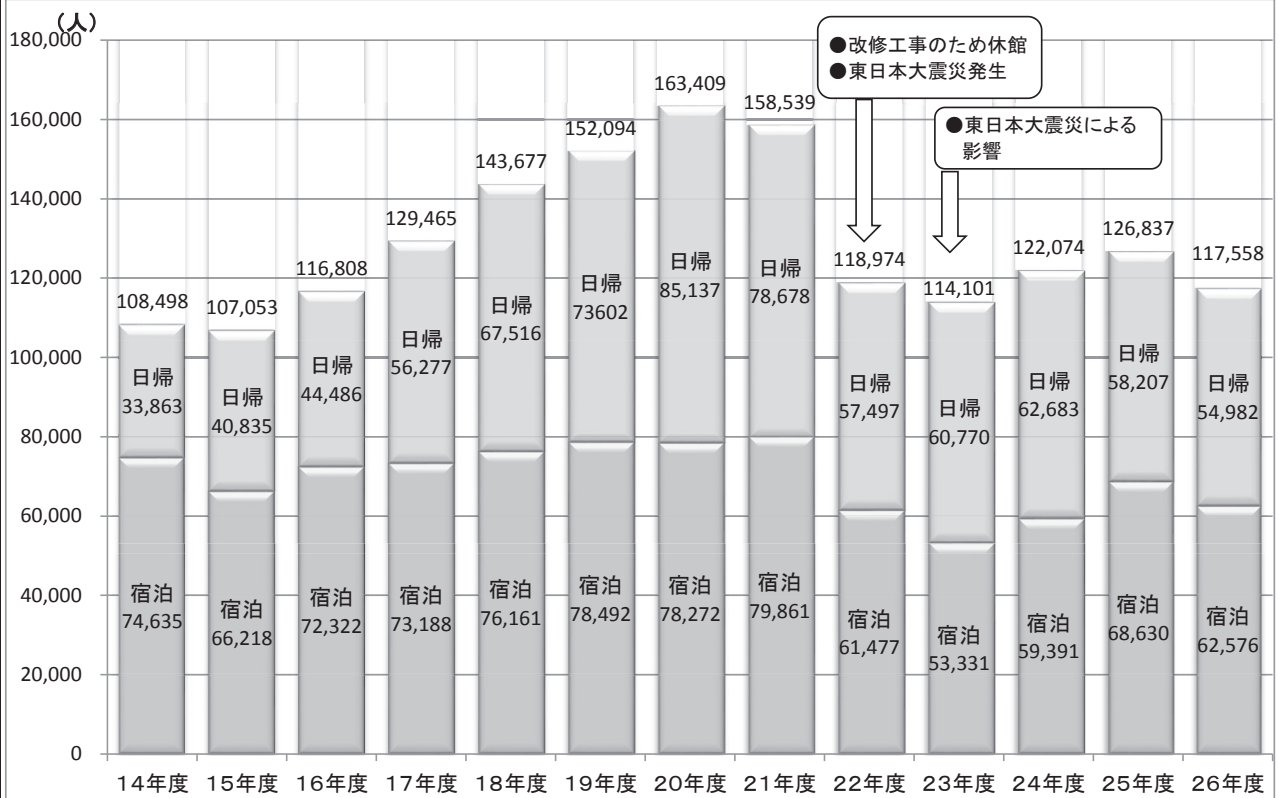
*NWEC will refer to your comments and suggestions solely for the purpose of improving the symposium program.

平成 26 年 度 国 立 女 性 教 育 会 館 利 用 状 況

(平成27年4月17日現在)

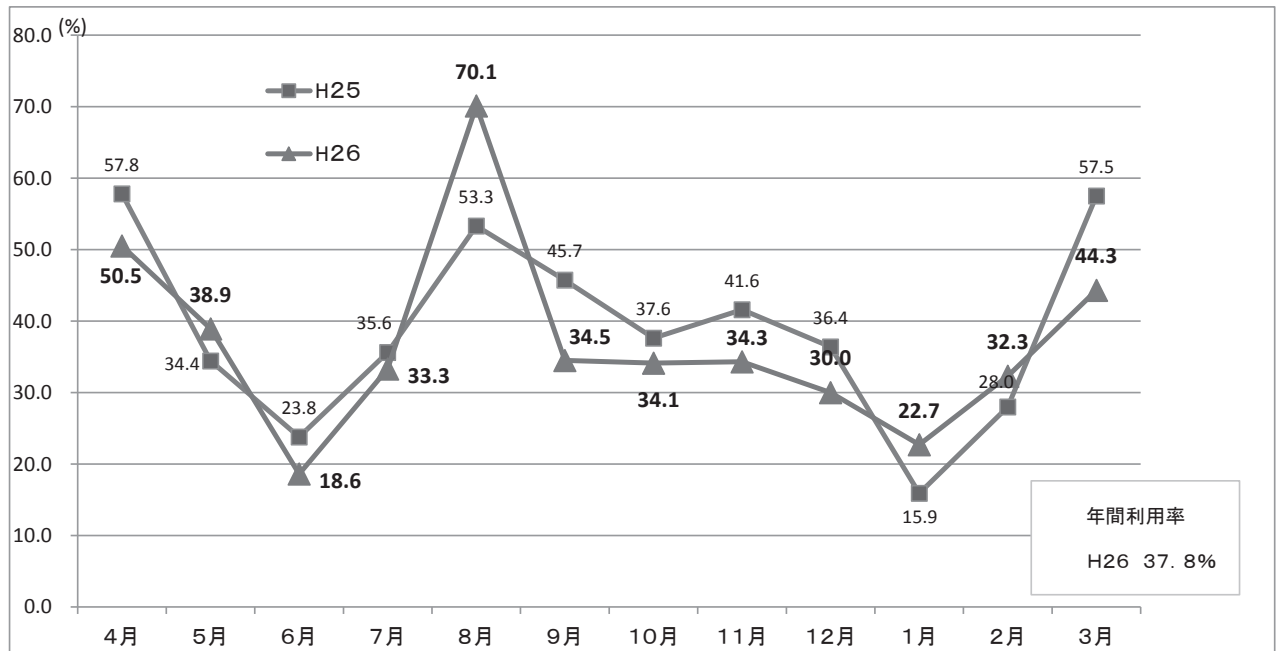
		(4月～3月)												(4月～3月)	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	26年度実績 合計	対前年度 増減
利用団体数	宿泊 日帰り 計	98 177 275	91 160 251	54 182 236	88 175 263	133 107 240	105 187 292	106 187 279	92 187 268	87 181 268	41 145 186	49 155 204	67 166 233	946 1,950 2,896	901 1,917 2,818
	女性	3,485 (11)	1,253 (18)	748 (9)	1,428 (8)	3,373 (3)	1,396 (4)	1,294 (8)	1,342 (8)	740 (6)	495 (4)	1,248 (12)	2,080 (15)	18,882 (106)	20,457 (105)
	男性	1,000 (8)	627 (13)	466 (5)	1,158 (5)	1,492 (3)	1,000 (7)	796 (3)	1,166 (3)	594 (7)	431 (5)	710 (3)	1,157 (13)	10,597 (79)	10,910 (71)
	計	4,485 (19)	1,880 (31)	1,214 (14)	2,586 (13)	4,865 (6)	2,396 (11)	2,090 (11)	2,508 (13)	1,334 (9)	926 (15)	1,968 (15)	3,237 (28)	29,479 (185)	31,367 (176)
	目的利用 (個人)	4,241	1,666	1,124	2,410	4,771	2,275	1,701	2,402	1,003	700	1,653	2,852	26,798	26,886
	女性	2,046 (15)	2,068 (25)	2,175 (41)	1,632 (66)	961 (96)	1,864 (43)	2,944 (27)	9,387 (54)	1,741 (23)	1,291 (19)	1,663 (52)	1,715 (40)	29,477 (486)	31,951 (420)
	男性	1,635 (56)	1,876 (58)	1,851 (59)	1,374 (65)	994 (65)	1,706 (42)	2,847 (18)	8,199 (44)	1,174 (22)	888 (31)	1,702 (27)	1,259 (40)	25,505 (549)	26,266 (626)
	計	3,681 (71)	3,944 (83)	4,026 (100)	3,006 (131)	1,945 (190)	3,570 (85)	5,791 (45)	17,586 (91)	2,915 (45)	2,179 (50)	3,365 (79)	2,974 (65)	54,982 (1,035)	58,207 (1,046)
	目的利用 (個人)	1048	1338	1142	824	600	1,054	1,869	1,296	1,236	579	916	916	12,739	8,080
	女性	5,531 (26)	3,321 (43)	2,923 (50)	3,060 (74)	4,324 (99)	3,260 (47)	4,238 (35)	10,729 (60)	4,238 (27)	1,786 (27)	2,911 (64)	3,795 (40)	48,359 (592)	52,408 (625)
	男性	2,635 (64)	2,503 (71)	2,317 (64)	2,532 (70)	2,486 (97)	2,706 (49)	3,643 (56)	9,365 (44)	1,768 (104)	1,319 (65)	2,412 (94)	2,416 (93)	36,102 (1,220)	37,166 (1,222)
宿泊者数 [B] (延べ)	計	8,166 (90)	5,824 (114)	5,240 (114)	5,592 (144)	6,810 (196)	5,966 (96)	7,881 (66)	20,094 (104)	4,249 (54)	3,105 (65)	5,323 (94)	6,211 (94)	84,461 (1,220)	89,574 (1,222)
	目的利用 (個人)	5,289 7,407	3,004 5,218	2,266 5,842	3,234 5,689	5,371 6,210	3,329 6,480	3,570 7,472	3,698 25,651	2,239 4,951	1,279 3,639	2,490 5,208	3,768 6,045	39,537 89,812	34,966 88,768
	女性	4,056 1,179	1,557 834	783 523	1,562 1,437	3,970 2,271	1,642 1,048	1,541 1,018	1,026 754	865 732	540 394	970 449	2,524 1,422	21,036 12,061	24,110 13,153
	男性	5,235 2,391	2,391 1,306	1,306 1,306	2,999 1,306	6,241 2,559	2,690 2,559	1,780 2,559	1,780 2,559	1,597 1,780	934 1,419	1,419 3,365	3,365 2,974	33,097 54,982	37,263 68,630
	目的利用 (個人)	4,924	2,149	1,181	2,832	6,159	2,605	1,799	1,681	1,477	863	1,353	3,259	30,272	33,323
	女性	7,541	2,810	1,531	2,990	7,343	3,038	2,835	2,368	1,605	1,035	2,218	4,604	39,918	44,567
	男性	2,179	1,461	989	2,595	3,763	2,048	1,814	1,920	1,326	825	1,159	2,579	22,658	24,063
	計	9,720	4,271	2,520	5,585	11,106	5,086	4,649	4,288	2,931	1,860	3,377	7,183	62,576	68,630
	目的利用 (個人)	9,165	3,815	2,305	5,242	10,930	4,880	3,500	4,083	2,480	1,553	3,006	6,111	57,070	60,209
	女性	2,046	2,068	2,175	1,632	951	1,864	2,944	9,387	1,741	1,291	1,663	1,715	29,477	31,951
延泊者数 [A+B]	男性	1,635	1,876	1,851	1,374	994	1,706	2,847	8,199	1,174	888	1,702	1,259	25,505	26,266
	計	3,681	3,944	4,026	3,006	1,945	3,570	5,791	17,586	2,915	2,179	3,365	2,974	54,982	58,207
	目的利用 (個人)	1,048	1,338	1,142	824	600	1,054	1,869	1,296	1,236	579	916	916	12,739	8,080
	女性	9,587	4,878	3,706	4,622	8,294	4,902	5,779	11,755	3,346	2,326	3,881	6,319	69,395	76,518
	男性	3,814	3,337	2,840	3,969	3,754	3,961	4,661	10,119	2,500	1,713	3,838	4,616	48,163	50,319
	計	13,401	8,215	6,546	8,591	13,051	8,856	10,440	21,874	5,846	4,039	6,742	10,157	117,558	126,837
	目的利用 (個人)	10,213	5,153	3,447	6,066	11,530	5,934	5,369	5,379	3,716	2,132	3,843	7,027	69,809	68,289
	過去3年平均*	11,979	6,862	7,393	9,240	10,854	9,744	9,977	27,808	6,240	4,395	6,179	10,315	120,985	118,386
	月 計	30	29	29	30	31	29	29	28	23	20	21	30	329	331
	1日当たりの利用者数	446	283	225	286	421	298	360	781	254	201	321	338	357	383
宿泊施設 利用 率 (%)	宿泊者利用 率	54.1	27.4	14.5	32.0	65.9	30.5	30.1	21.7	24.1	16.0	23.9	43.2	33.4	36.7
	宿泊者平均利用 率*	47.1	21.2	19.4	39.8	50.2	36.5	32.7	28.5	25.7	15.1	18.9	46.2	34.1	35.0
	宿泊室利用 率	50.5	38.9	17.9	33.3	70.1	34.5	34.1	34.3	30.0	22.7	32.3	44.3	37.8	40.3
	宿泊施設 研修施設	14,931,180	6,484,400	3,698,750	8,522,120	15,338,480	7,423,050	8,072,040	5,136,880	4,546,030	2,533,390	3,877,100	11,740,740	92,302,160	99,755,800
収入額(円)	研修施設	1,298,775	1,045,085	796,260	1,077,865	1,174,735	973,980	986,415	1,245,890	596,810	544,710	678,680	1,185,180	11,604,375	11,518,025
	月 計	16,229,955	7,529,495	4,493,010	9,599,985	16,513,215	8,397,030	9,058,455	6,382,770	5,142,840	3,078,100	4,555,760	12,925,920	103,906,535	111,273,825

国立女性教育会館延利用者数の推移（平成14年度～平成26年度）



(注) 1 22年度11月15日～2月28日まで改修工事のため休館(前年度実績31,119人)
2 東日本大震災によるキャンセル:22年度7,218人、23年度14,879人

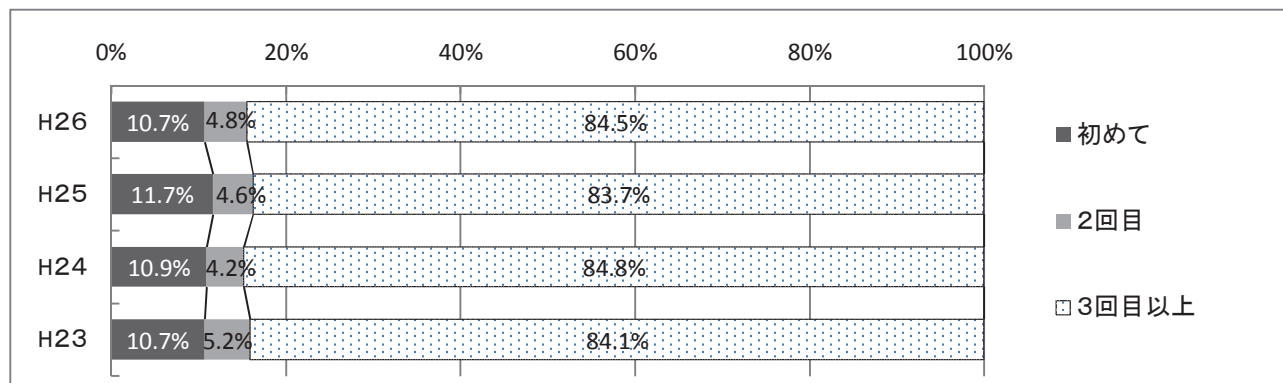
宿泊室利用率の推移（平成25年度～平成26年度）



利用回数別利用状況

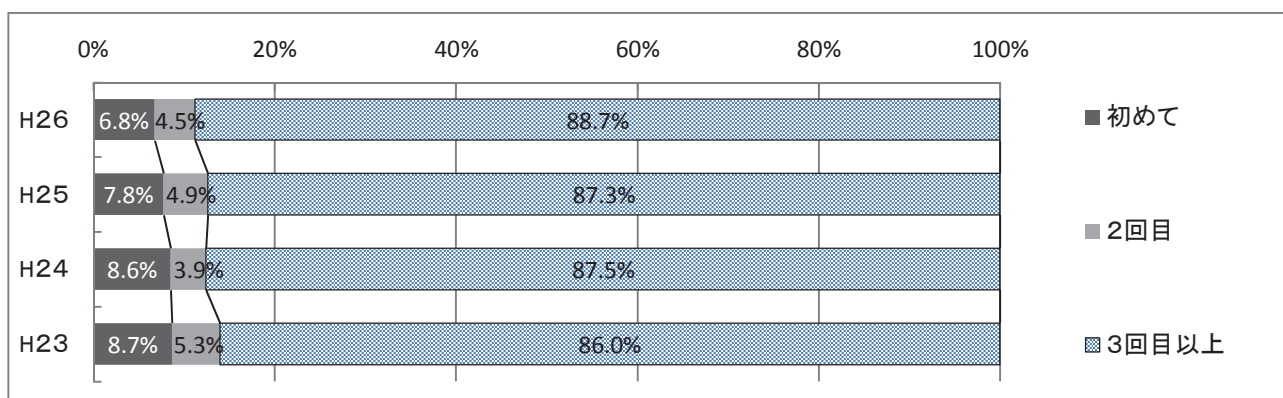
(1) 団体数にみる利用回数別利用状況

年度	初めて		2回目		3回目以上		団体数	
H26	310	10.7%	140	4.8%	2,446	84.5%	2,896	100.0%
H25	329	11.7%	129	4.6%	2,360	83.7%	2,818	100.0%
H24	306	10.9%	118	4.2%	2,371	84.8%	2,795	100.0%
H23	325	10.7%	159	5.2%	2,556	84.1%	3,040	100.0%



(2) 実利用者数にみる利用回数別利用状況

年度	初めて		2回目		3回目以上		利用者数	
H26	5,742	6.8%	3,765	4.5%	74,954	88.7%	84,461	100.0%
H25	6,962	7.8%	4,386	4.9%	78,226	87.3%	89,574	100.0%
H24	7,824	8.6%	3,545	3.9%	79,897	87.5%	91,266	100.0%
H23	7,599	8.7%	4,596	5.3%	74,979	86.0%	87,174	100.0%



平成26年度目的別利用状況

		目的利用		一般利用		合計
		利用者数	割合	利用者数	割合	
宿泊	実利用者	26,798	90.9%	2,681	9.1%	29,479
	延利用者	30,272	91.5%	2,825	8.5%	33,097
日帰り	実利用者	12,739	23.2%	42,243	76.8%	54,982
合計	実利用者	39,537	46.8%	44,924	53.2%	84,461
	延利用者	69,809	59.4%	47,749	40.6%	117,558

平成 26 年度利用拡大戦略

I 基本方針

- (1) 平成 26 年度にあつては、宿泊室利用率を 45 %とする。
- (2) 時宜を失することがないように、事業課だけでなく、本来の所掌業務にかかわらず、適宜、他の課室も負担を分担し、計画的に行う。
- (3) 費用・時間対効果や、昨年度の実績を踏まえ、効果があるかどうかよく考え、選択と集中を旨とし、やると決めたことは確実に行う。

II 活動内容

1 新規に行うこと

- (1) 中学校及び高等学校の利用を呼び込むため、近隣の文化施設も活用した総合的学習の時間など宿泊型校外学習における利用を促す資料を作成し、いわゆる勉強合宿や部活動による利用を促す資料や近隣文化施設を紹介する資料とともに、関東の教育委員会に送付する。
- (2) 参与により関東近県の大学及び近隣にある企業への訪問活動を行う。
- (3) 企業の人事部あてに、10月実施予定の企業セミナーの情報等を送付する。

2 昨年度に引き続き実施すること

- (1) 埼玉県立高等学校長会総会等において、会館の紹介及び学校単位での利用を促進させていきたいことを説明する。
- (2) 会館役職員が講師となる講演会において、リーフレット「国立女性教育会館施設利用のご案内」を配布する。

3 既存利用団体の継続利用の確保

- (1) 以前利用があつたが現在利用のない団体（利用人数 50 人以上）を抽出し、利用再開を依頼する。
- (2) 大口実績にある学校等の利用を確保するため、申込みが他の団体と重複しないよう調整する。

独立行政法人国立女性教育会館運営会議規程

平成13年 7 月30日理事長裁定
平成14年 4 月 1 日一部改正
平成14年11月 1 日一部改正
平成17年 4 月 1 日一部改正
平成20年10月 1 日一部改正

1 趣旨

独立行政法人国立女性教育会館（以下「会館」という。）の業務の遂行に関する重要事項について、連絡及び協議するため、会館に独立行政法人国立女性教育会館運営会議を（以下「運営会議」という。）を置く

2 組織等

- （1）運営会議は、理事長、理事、事務局長、各課長及び研究国際室長をもって組織する
- （2）理事長は、必要に応じ構成員以外の者を説明のために運営会議に出席させることができる。

3 開催日時

運営会議は、原則として毎週火曜日の午前10時00分から開催する。

4 運営会議の司会は、総務課長が行う。

5 庶務

運営会議の庶務は、総務課総務係において処理し、毎回議事録（要旨）を作成するものとする。

独立行政法人国立女性教育会館役員会の開催について

平成 14 年 4 月 1 日一部改正

平成 13 年 4 月 1 日理事長裁定

1 趣旨

独立行政法人国立女性教育会館（以下「会館」という。）の業務運営及び評価に関する重要事項を審議するため、会館に独立行政法人国立女性教育会館役員会（以下「役員会」という。）を開催する。

2 組織等

（１）役員会は、理事長、理事及び監事をもって組織する。

（２）理事長は、必要に応じ構成員以外の者を出席させることができる。

（３）理事長（理事長に事故のあるときは理事）は、役員会を召集し、その議長となる。

3 会議の開催

役員会は、原則として毎年度偶数月に開催する。

4 庶務

役員会の庶務は、総務課において処理する。

5 この裁定は、平成 13 年 4 月 1 日から実施する。

独立行政法人国立女性教育会館運営委員会規程

(設置)

第1条 独立行政法人国立女性教育会館（以下「会館」という。）に、独立行政法人国立女性教育会館運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(協議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項について協議し、理事長に助言を行う。

- 一 会館の事業運営に関する基本的な事項
- 二 その他会館の事業運営に関し必要な事項

(委員)

第3条 委員会は、会館の運営に関し広くかつ高い見識を有するもののうちから、理事長が委嘱をする20名以内の委員で構成する。

(委嘱期間)

第4条 前条に規定する委員の委嘱期間は、2年とし、再任を妨げない。

2 委員に欠員を生じた場合の補欠委員の委嘱期間は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に会長を置く。

2 会長は、第3条の委員のうちから、委員の互選により選出する。

3 会長は、委員会を招集し、その議長となる。

4 会長に事故があるときは、会長があらかじめ指名した委員が、その職務を代理する。

(関係者の出席)

第6条 委員会は、必要があるときは関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会に関する事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成13年7月1日から施行する。
- 2 この規程施行後最初及び会長が置かれていないときに招集される委員会の会議は、第5条第3項の規定にかかわらず、理事長が召集する。

附 則

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年8月1日から施行する。

独立行政法人国立女性教育会館運営委員会委員名簿(第7期)

〔五十音順(敬称略)〕

平成26年4月1日現在

	氏 名	現 職
1	あつみ な おき 渥 美 由 喜	厚生労働省政策評価に関する有識者会議 委員 (東レ経営研究所 研究部長)
2	いとう き み お 伊 藤 公 雄	京都大学大学院文学研究科教授
3	いわくま ま き 岩 熊 真 起	特定非営利活動法人女性技術士の会顧問
4	おおたけ み ど り 大 竹 美 登 利	東京学芸大学理事・副学長
5	おさない せ き こ 小山内 世 喜 子	アピオあおもり青森県男女共同参画センター副館長／特定非営利活動法人全国女性会館協議会常任理事
6	かきぬま ト ミ こ 柿 沼 ト ミ 子	全国地域婦人団体連絡協議会会長
7	くるしま の り こ 久 留 島 典 子	東京大学史料編纂所長
8	さとう か ず と 佐 藤 和 人	日本女子大学学長・理事長
9	しら い あや 白 井 文	グンゼ株式会社取締役
10	たかまつ か ず こ 高 松 和 子	公益財団法人21世紀職業財団理事・事務局長
11	つきの み ほ こ 月 野 美 帆 子	株式会社読売新聞東京本社生活部
12	ねぎし しげふみ 根 岸 茂 文	一般社団法人埼玉県経営者協会専務理事・事務局長
※ 13	はにゅう さ わ こ 羽 入 佐 和 子	お茶の水女子大学学長
14	ひらの ま さ み 平 野 正 美	埼玉県立浦和第一女子高等学校長
15	ふくだ き み こ 福 田 公 子	首都大学東京大学院理工学研究科生命科学専攻 准教授
16	みやけ み ず え 三 宅 瑞 絵	埼玉県男女共同参画推進センター所長
17	やまぐち み つ こ 山 口 み つ 子	国際婦人年連絡会世話人／公益財団法人市川房枝記念会女性と政治センター理事
18	やまだ まさひろ 山 田 昌 弘	中央大学文学部教授

※印…会長

国立女性教育会館契約監視委員会規則

理 事 長 裁 定

平成 21 年 11 月 30 日

1 規則の目的

本規則は、「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」（平成 21 年 11 月 17 日閣議決定）に基づき、契約監視委員会（以下「委員会」という。）の設置等に関して必要な事項を定めることを目的とする。

2 委員会の所掌事務

国立女性教育会館において発注した物品、役務、建設工事及び設計・コンサルティング業務等に係る契約について、報告を受け、審査を行い、契約の適正化に関し、理事長に対して意見の具申を行う。

3 委員会の構成

- (1) 委員会は、監事 1 名以上及び外部有識者 2 名以上をもって組織する。
- (2) 委員は、監事及び物品・役務等に係る契約の過程及び内容等について学歴経験の有る者のうちから、文部科学大臣の了解を得た上で、理事長が委嘱する。委員の氏名及び職業は、公表するものとする。
- (3) 委員の任期は、1 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。委員は再任されることができる。
- (4) 委員会に、委員長及び委員長代理を置き、委員の互選により選任する。委員長は、委員会の議事を整理する。

4 会議の開催等

- (1) 委員会は、原則として、年 2 回会議を開催する。
- (2) 会議は、非公開とする。
- (3) 委員会の議事の概要及び意見具申の内容は、公表するものとする。

5 委員会の庶務

委員会の庶務は、総務課会計係において処理する。

6 その他

- (1) 委員は、自己又は 3 親等以内の親族の利害に関係のある事項については、その議事に加わることができない。
- (2) 委員は、委員会において知り得た秘密を他に漏らしてはならない。委員でなくなった後においても、同様とする。
- (3) 委員会に対して行う物品・役務等に係る契約の報告の様式は、別に定めるところによる。

独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて

平成 21 年 11 月 17 日
閣 議 決 定

独立行政法人（独立行政法人通則法（平成 11 年法律第 103 号）第 2 条第 1 項に規定する独立行政法人をいう。以下同じ。）の契約については、原則として一般競争入札等（競争入札及び企画競争・公募をいい、競争性のない随意契約は含まない。以下同じ。）とすることとしているが、競争性のない随意契約に対する厳しい批判に加え、一般競争入札等に移行しても一者応札・応募となっており、実質的な競争性が確保されていないのではないかといった指摘も引き続き存在する。このため、競争性のない随意契約の見直しを更に徹底して行うとともに、一般競争入札等についても真に競争性が確保されているか、以下の取組を行うことにより、点検、見直しを行うこととする。

1. 点検・見直しを行うに当たっての主な観点

独立行政法人の契約について厳格に見直しが行われるよう、各独立行政法人及び各府省は、以下の観点等により点検し、見直しを行う。

- (1) 競争性のない随意契約を継続しているものについて、随意契約事由が妥当であるか、契約価格が他の取引実例等に照らして妥当となっているか。
- (2) 競争性のない随意契約から一般競争入札等への移行を予定しているものの前倒しが検討できないか。
- (3) 契約が一般競争入札等による場合であっても、真に競争性が確保されているといえるか（一者応札・応募となっている案件については、一者応札・応募の改善方策が適当か、国や他の法人の取組も参考に更に検証する。特に、仕様書の内容など具体的な条件の設定については、真に競争性を確保する観点から具体的かつゼロベースで検証を行う。）。

（注） 一者応札・応募の改善に向け、例えば、以下のような観点から十分な改善が行われているかを検証する。

- 仕様書内容の見直し
- 入札参加要件の緩和
- 公告期間の十分な確保
- 業務等準備期間の確保
- 契約情報提供の充実
- 電子入札システムの導入
- 一者応札・一者応募案件の事後点検体制の整備

2. 点検・監視体制と作業の手順

(1) 各独立行政法人における監視体制の整備と点検及び見直し

主務大臣は、各独立行政法人に対し、監事及び外部有識者によって構成する「契約監視委員会」を設置し、上記1.の観点に沿って契約の点検及び見直しを行い、その結果を主務省に提出するよう要請する。その際、「契約監視委員会」を構成する外部有識者を各独立行政法人が指名するにあたっては主務大臣の了解を得ることとし、また、「契約監視委員会」の審議概要を公表するよう要請する。

(2) 主務大臣による点検

主務大臣は、各独立行政法人の「契約監視委員会」で行われた点検及び見直しの結果について点検を行う。また、主務大臣はその点検結果を反映した見直しを行うよう各独立行政法人に要請する。

(3) 主務大臣から総務大臣への報告

主務大臣は、主務大臣による点検結果を反映した各独立行政法人における点検及び見直しの結果を総務大臣に報告する。各府省及び各法人は、総務大臣に報告した結果をウェブサイト公表することとし、総務省はそれらを取りまとめ、公表する。

3. 点検対象とスケジュール

(1) 計画的に独立行政法人の随意契約の見直しを行っていくため、主務大臣及び各法人は、20年度に締結した競争性のない随意契約及び一者応札・応募となった契約について、上記1.の観点に沿って点検、見直しを行い、各法人は新たな随意契約等見直し計画を策定する。また、20年度末時点で継続している19年度以前に締結された複数年契約についても同様の点検、見直しを行う。各府省及び各法人はこれらの結果を22年4月末日途に公表する。

(2) 3.(1)の作業と同時に、今回の点検、見直しの趣旨を速やかに反映するため、主務大臣及び各法人は、21年度末までに契約締結が予定されている調達案件についても、真に競争性を確保できるよう、新規案件を含めて1.の観点に沿って事前に点検し、各法人は点検結果を受けて見直しを行う。各府省及び各法人はその結果を22年4月末日途に公表する。

4. フォローアップ

主務大臣及び各法人（契約監視委員会）は、上記点検、見直し後においても、各法人において締結された契約についての改善状況をフォローアップし、毎年公表する。総務省は、その結果を取りまとめ、公表する。

平成26年度監事監査計画

第1 監査の基本方針

独立行政法人国立女性教育会館監事監査規程（以下「監査規程」という。）第6条の規定に基づき定期監査（業務の監査及び会計の監査）を実施する。

なお、定期監査の実施に当たっては、監査規程及び独立行政法人国立女性教育会館監事監査実施基準の定めるところにより実施する。

また、監査に当たっては、ガバナンスの保持及び内部統制の充実など法人運営体制の充実について留意するものとする。

第2 定期監査の項目

（1）業務の監査

- ① 関係諸法令及び規則等の実施状況並びに内規等の整備状況
- ② 組織運営状況（内部統制の状況）
- ③ 人事管理状況（給与水準の状況）
- ④ 事業についての企画、実施及び自己評価の実施状況
- ⑤ 情報開示状況

（2）会計の監査

- ① 決算（年次及び月次）の状況
- ② 予算の執行及び資金運用の状況
- ③ 収入、支出の状況
- ④ 固定資産の管理状況
- ⑤ 入札・契約の状況（随意契約の適正化等）

第3 定期監査の対象部門等

- （1）業務の監査……総務課、事業課、情報課及び研究国際室
- （2）会計の監査……総務課

第4 定期監査の方法及び時期

- （1）業務の監査……書面監査、実地監査及びその他適当な方法により、適時行う。
- （2）会計の監査

- ◆四半期監査……第1四半期分を9月、第2四半期分を12月、第3四半期分を3月に書面監査により実施し、第4四半期分については、決算監査と併せて年度終了後に実施する。その他、適時行う。
- ◆決算監査……年度決算終了後速やかに、書面監査、実地監査及びその他適当な方法により実施する。

第5 総務課人事・企画係の職員に監査に関する事務を補助させるものとする。